

2021年度 後期

2単位

異文化理解論

出水 孝典

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

・この授業は教職課程における人文学部人文学科教科に関する科目（英語）に属し、人文学部人文学科のディプロマ・ポリシーである2「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけていく」、5「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7「多様な他者と共に存して、異なる価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関連しています。

・異文化の人と接していると、同じ文化の人と接する時には経験しないような不可解な言動に出会うことがあります。その時に相手のことを「変な人だな」とか「嫌なやつだな」と思うかもしれません。時には「あの文化の人たちは本当にいやな人たちだ」とか「あの文化の人たちは皆常識がない」というようにその文化の人たち全体を非難することにもなりかねません。また、自分の言動が自分の意図したこととは全く違った意味にとられて当惑することもあります。そのままにしていれば、お互いの関係はそこで止まってしまいます。しかし、多くの場合、この原因は、相手の人や文化に問題があるからではなくて、お互いの文化における考え方、ものの見方が違う点にあると思われます。異文化と言いましたが、このようなことが時には男女の間で起こったりもします。

・そこでこの授業では社会言語学において、男女のコミュニケーションパターンの違いについて書かれた論文の抜粋と一緒に精読し、英語力をつけながら、上記の問題に関する理解を深めていきます。

<到達目標>

1. 文化の違い、男女のコミュニケーションパターンの違いについて理解できる。
2. 英語で論文が読めるようになる。
3. 中学・高校で学習する英語の基礎語彙・文法事項についての理解が深まる。

<授業のキーワード>

異文化コミュニケーション、わかりあえない理由、地位 重視の文化、和合 重視の文化

<授業の進め方>

毎回、少しづつ英文を精読しながら、英語の文法事項、発音、単語の意味などについて確認していきます。そのため、英文に関するきっちりとした予習が前提となります。

<履修するにあたって>

・英語の教職科目ですので、英語力の増進にも大きな比重をおきます。英語文献を理解する際の基本を習得することも大きな目標の1つです。

・授業では頻繁に英語の辞典を使用しますので、英和辞典または英英辞典(電子辞書可)を持参して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

・毎回入念に予習をし、疑問点があれば常に辞書、文法書などで調べる(1時間)

・計画をたてて、毎日積極的に英語に触れるようにつとめ、英語力の向上をはかる(2時間)

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加 50%、確認プリント1 25%

確認プリント2 25%

<授業計画>

第1回 導入

英文を配布し、どのように進めていくのかを説明します。

第2回 英文の読解1

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に主語にはどのようなもののがなるのか、述語動詞をどのようにして発見するのかに重きを置きます。

第3回 英文の読解2

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に目的語にはどのようなもののがなるのか、修飾語の部分をどのようにして発見するのかに重きを置きます。

第4回 英文の読解3

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に文頭にはどのような要素が来るのか、後の文構造をどのようにして理解するのかに重きを置きます。

第5回 英文の読解4

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に主語と動詞の間にはどのような要素が来るのかに重きを置きます。

第6回 英文の読解5

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に日本語にはない後置修飾をどのように理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます。

第7回 英文の読解6

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に動詞の目的語となっている長い節をどう理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます。

第8回 確認プリント1

これまで学んだ内容を振り返った上で、確認プリントの1回目を実施します。

第9回 英文の読解7

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に動詞の目的語を修飾する長い関係詞節をどう理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます

第10回 英文の読解8

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に接続詞が連続するような構造をどのように理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます

第11回 英文の読解9

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特にthatのさまざまな用法をどのように理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます

第12回 英文の読解10

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に情報構造をどのように理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます

第13回 英文の読解11

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に倒置構文をどのように理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます

第14回 英文の読解12

英文を、発音・単語の意味・文法事項に注意しながら精読します。この回では特に無生物主語をどのように理解し、どのような日本語に訳すのかに重きを置きます

第15回 確認プリント2

これまで学んだ内容を振り返った上で、確認プリントの2回目を実施します。

2021年度 前期～後期

1単位

栄養教育実習

小林 麻貴

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、教職に関する講義、栄養教諭の専門科目の講義、事前指導を受講した後に、栄養教諭の配置されている小学校、中学校等で栄養教育実習を行う。実習校においては、指導教諭等からの説明、児童及び生徒への個別的な相談・指導の実習、児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習、食に関する指導の連携・調整の実習を受ける。

<到達目標>

栄養教諭の職務内容が理解できる。

効果的な授業展開について理解できる。

児童・生徒とのコミュニケーションがとれる。

<授業のキーワード>

栄養教諭、食に関する指導、小学校、中学校、給食

<授業の進め方>

教育委員会と協議した小学校で栄養教育実習を行う。

<履修するにあたって>

栄養教諭概論 、 、 教育実習事前・事後指導で学修した内容を十分に復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

実習前に模擬授業テーマについて実習先の先生と綿密な打ち合わせをし、媒体、指導案、シナリオを準備する(10時間)

大学の担当教員とも十分な打ち合わせを行い、実習前に模擬授業の練習をする(5時間)

<提出課題など>

授業終了後、実習ノートを提出すること。

実習ノートは確認後、返却を行う。

<成績評価方法・基準>

実習先での評価80%、実習前の準備状況・実習ノートの内容・実習報告の内容・仕方20%で評価を行う。

<授業計画>

第1回 栄養教育実習第1日目

第1日目 実習についてのオリエンテーションを受け、教育実習について理解を深める。

第2回 栄養教育実習第1日目

第1日目 実習についてのオリエンテーションを受け、教育実習について理解を深める。

第3回 栄養教育実習第1日目

第1日目 実習についてのオリエンテーションを受け、教育実習について理解を深める。

第4回 栄養教育実習第2日目

第2日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第5回 栄養教育実習第2日目

第2日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第6回 栄養教育実習第2日目

第2日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第7回 栄養教育実習第3日目

第3日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第8回 栄養教育実習第3日目

第3日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第9回 栄養教育実習第3日目

第3日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第10回 栄養教育実習第4日目

第4日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第11回 栄養教育実習第4日目

第4日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第12回 栄養教育実習第4日目

第4日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第13回 栄養教育実習第5日目

第5日目 模擬授業・授業見学・児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第14回 栄養教育実習第5日目

第5日目 模擬授業・授業見学・児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第15回 栄養教育実習第5日目

第5日目 模擬授業・授業見学・児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

2021年度 前期

2単位

栄養教諭概論

小林 麻貴、大林 稔、藏前 隆広、曾我 正子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、栄養教諭の重要性・意義、学校給食の重要性、食育の重要性を学ぶ。

<到達目標>

栄養教諭の制度と役割について理解する。

学校組織の中の栄養教諭の役割を理解する。

学校給食と日本人の食生活について理解する。

子供の発達と食生活について理解する。

学習指導要領の意義と食育の在り方について理解する。

食に関する指導の全体計画について理解する。

食に関する指導の展開について理解する。

<授業のキーワード>

栄養教諭 学校給食 食に関する指導 食育

<授業の進め方>

講義を中心に進める。

<履修するにあたって>

栄養教育論、栄養教育論、教職教養科目で学修した知識を復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容について自分でまとめておく(1時間)

授業内容をヒントに、自分自身が模擬授業をする際のテーマを考えておく(30分)

<提出課題など>

授業内容についてのレポートを課題を出す。

レポート課題のフィードバックは集中講義期間中、オフ

ィスアワーに行う。

<成績評価方法・基準>

授業への積極性50%、レポート50%、合計100%として評価を行う。

<テキスト>

金田雅代編著 『栄養教諭論－理論と実際－(四訂版)』

建帛社 2019年 2800円+税

<参考図書>

文科省「小学校学習指導要領解説」

<授業計画>

第1回 栄養教諭制度と役割

栄養教諭創設の経緯、栄養教諭の資質能力の確保、栄養教諭の配置、栄養教諭の身分について理解する。

第2回 栄養教諭制度と役割

栄養教諭の職務、学校給食の歴史、学校給食法、食育基本法の施行、食育推進基本計画の決定について理解する。

第3回 学校組織と栄養教諭

学校組織と栄養教諭の位置づけ、委員会活動等における栄養教諭の役割について理解する。

第4回 学校給食と日本人の食生活

学校給食の食事内容の推移について理解する。

第5回 学校給食と日本人の食生活

地場産物の活用と郷土食について理解する。

第6回 子どもの発達と食生活

体位と健康、食習慣と健康、調査から見える食生活の課題、学校給食でのエネルギー及び栄養素の摂取量について理解する。

第7回 学習指導要領の意義と食育の在り方

学習指導要領改訂の趣旨、学校における体育・健康に関する指導と食育の推進について理解する。

第8回 学習指導要領の意義と食育の在り方

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、カリキュラム・マネジメント、栄養教諭に求められるものについて理解する。

第9回 食に関する指導の全体計画

食に関する指導の全体計画の作成の必要性について理解する。

食に関する指導の目標と内容について理解する。

第10回 食に関する指導の全体計画

全体計画作成の手順及び内容について理解する。

第11回 食に関する指導の全体計画

食育推進の評価について理解する。

第12回 食に関する指導の展開

指導内容の整理と指導計画について理解する。

第13回 食に関する指導の展開

年間指導計画に基づいた指導の成果について理解する。

学習指導の評価について理解する。

第14回 食に関する指導の展開

特別支援学校における食に関する指導について理解する。

第15回 まとめ

栄養教諭概論 で学修した内容について総まとめをし、理解を深める。

2021年度 前期

2単位

栄養教諭概論

小林 麻貴

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、栄養教諭の重要性・意義、学校給食の重要性、食育の重要性を学ぶ。

<到達目標>

給食の時間における食に関する指導を理解する。

教科等における食に関する指導を理解する。

個別栄養相談指導の意義と方法を理解する。

家庭・地域社会との連携を理解する。

<授業のキーワード>

食育 生活科 家庭科 特別活動

<授業の進め方>

講義・演習を中心に進める。

<履修するにあたって>

栄養教育論、栄養教育論、教職教養科目で学修した内容を十分に復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容について自分でまとめておく(1時間)

授業内容をヒントに、自分自身が模擬授業をする際のテーマを考えておく(30分)

<提出課題など>

教科等における食に関する指導部分で、自分で考えた内容で模擬授業を行う。模擬授業に使用する、学習指導案、媒体、シナリオ、ワークシートは提出すること。また、フィードバックは最終回の授業で行う。

<成績評価方法・基準>

授業への積極性70%、模擬授業に関わる提出物30%で評価を行う。

<テキスト>

金田雅代編著 『栄養教諭論－理論と実際－(四訂版)』
建帛社 2019年 2800円+税

<参考図書>

文科省「小学校学習指導要領解説」

<授業計画>

第1回 給食の時間における食に関する指導

給食の時間における食に関する指導について理解する。

第2回 給食の時間における食に関する指導

指導における留意点について理解する。

第3回 教科等における食に関する指導

生活科における食に関する指導について理解する。

第4回 教科等における食に関する指導

家庭科・技術・家庭科(家庭分野)における食に関する指導について理解する。

第5回 教科等における食に関する指導

体育科、保健体育科における食に関する指導について理解する。

第6回 教科等における食に関する指導

総合的な学習の時間における食に関する指導について理解する。

第7回 教科等における食に関する指導

総合的な学習の時間における食に関する指導について理解する。

第8回 教科等における食に関する指導

特別活動における食に関する指導について理解する。

第9回 教科等における食に関する指導

社会科における食に関する指導について理解する。

第10回 教科等における食に関する指導

理科における食に関する指導について理解する。

第11回 教科等における食に関する指導

特別教科 道徳における食に関する指導について理解する。

第12回 個別栄養相談指導の意義と方法

個別栄養相談の意義、個別栄養相談の方法について理解する。

第13回 個別栄養相談指導の意義と方法

個別栄養相談指導の実際について理解する。

第14回 家庭・地域社会と連携

家庭・地域社会との連携について理解する。

第15回 まとめ

栄養教諭概論、で学修した内容をまとめ、栄養教諭について理解を深める。

2021年度 後期

2単位

英会話

長谷川 弘基

<授業の方法>

演習

covid-19による感染症拡大の際の授業の方式については、dotCampusを使って連絡する。

<授業の目的>

この科目は教職課程(英語)の資格科目である。DPに示された、専門的知識と技能を身につけ、表現力を獲得することを目的とする。

英語による適切なコミュニケーションを主に口頭で取れるようになるために、

1) 英語の音声を正しく聞き取れる

2) 英文を正しく構成するための構文的知識を持つ

3) 相手が聞き取れる程度に正確な発音で話すことができる

以上3つの能力の獲得を目指す。

<到達目標>

1) 明快でゆっくりとした発話で、馴染みの話題に関する事であれば主たる内容が理解できる

2) 短い文であれば正確に構成できる

3) 馴染みの話題について簡単なコミュニケーションが英語ができる

<授業の進め方>

毎回短い英語の文章を聴き、要旨を理解する。その後、各自その要旨を簡単な英語で表現し、口頭で発表する。その際に構文の確認、発音の確認を行う。

その後、What I did this weekというタイトルで5分ほどのスピーチを行い、クラス全体で英語で質疑応答する。なお、授業は全て英語で行う。

<履修するにあたって>

毎回の授業前にWhat I did this weekというタイトルのプレゼンテーションの準備をしておくこと。

授業はすべて英語で行われる。

英語の辞書を持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

What I did this weekというタイトルで毎回口頭発表をしてもらうので、その準備をするために2時間程度の学習時間を想定している。

<成績評価方法・基準>

授業ごとの聞き取り要旨とプレゼンテーションを毎回評価し、その合計を成績評価とする。

<テキスト>

毎回の授業での聞き取り用の英文を後日プリントアウトして配布する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

英語教員として必要な語学力について

第2回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #1

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第3回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #2

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第4回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #3

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第5回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #4

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第6回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #5

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第7回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #6

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第8回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #7

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第9回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #8

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第10回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #9

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第11回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #10

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第12回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #11

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第13回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #12

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第14回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #13

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

第15回 聞き取り練習

作文練習

What I did this week #14

英文聞き取り、要旨解説及び問題点の整理

英語でのプレゼンテーションと質疑応答

2021年度 前期

2単位

英語コミュニケーション論/英語コミュニケーション論

藏菌 和也

<授業の方法>

遠隔授業（オンデマンド授業） 第1回目から全て各自で教科書を読み、補助資料を確認しながら課題に取り組む授業です。

<授業の目的>

この科目は、言語文化領域の専門科目に属し、学部のDPに示す 1.「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7.「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係します。

異文化に属する人を理解する方法の一つとして、相手の考え方やものの見方、その国ごとに形成された制度や文化の背景を理解するという方法があります。現代の日本にも根付いている西洋から取り入れられた制度や文化にも目を向け、その制度や文化が成立した背景について歴史や宗教、民族など様々な観点から異文化に属する人や社会とのよりよい付き合い方を考えていきます。

<到達目標>

1. 中学、高校で学んだ語彙、語法、文法をより深く理解できる。
2. 日本と西洋の国々の文化や価値観の違いを理解することができる。
3. 日本と西洋の国々の文化や価値観の違いについてわかりやすく説明することができる。

<授業のキーワード>

culture, way of thinking, language, society, religion, death, body, labor, Japan, the West

<授業の進め方>

日英文化について書かれたテキストを精読しながら、日本と西洋との間に存在する文化的な違いとその背景について理解を深めます。授業では、テキストを各自で読み進めてもらい、内容理解度の確認のための課題を完成させてもらいます。その後、質問などを書き込んだものをdotCampusに提出してもらいます。

<履修するにあたって>

授業中に単語の意味が分からぬ場合にその都度調べられるように、英和辞典もしくは英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学ぶ内容について概要を把握できるよう、授業計画を参考に、わからない用語や概念等について調べてから授業に臨んでください（30分）。配布した課題をみて講義で学んだ内容を復習し、分からぬ部分は参考書を読んだり質問して理解できるようにしてください（30分）。

<提出課題など>

毎回授業時に学んだ内容について小テストをします。また、第8回と第16回にはレポートを作成してもらいます。

<成績評価方法・基準>

中間レポート15%、まとめレポート15%、授業毎の小テスト60%、授業への積極的な参加10%

<テキスト>

石井隆之、喜多尊史、Joe Ciunci、Lance Burrows、馬渡秀孝著『日英おもしろ文化比較：Step UP to Better English』朝日出版社

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 導入

（OneDriveで配布する資料を確認してください。）第1回目は授業の進め方や評価の方法について説明します。

第2回 Differences in Greetings between Japan and the West

日本と西洋との発想の違いについて「挨拶」の観点から考えていきます。

第3回 Different Ways of Thinking

西洋と日本の発想の違いについて「アイデンティティー」という観点から考えます。

第4回 Mysteries of Alphabet and Kanji

「アルファベット」と「漢字」を通して見える文化的な特徴について考えます。

第5回 Laughing in Culture and Science

文化によって理解しにくい、もしくは誤解を招くこともある「笑い」について考えます。

第6回 Different Americans and the Same Japanese

日本人が重視する「間」と西洋人が重視する「個」という観点から日本と西洋の文化的な違いについて考えます。

第7回 Japanese Outlook on Religions

日本文化に影響を与えてきた仏教、神道、儒教などについて触れながら、日本人の宗教観について考えます。

第8回 中間レポート

日本と西洋の国々の文化や価値観の違いについて調べ、レポートにまとめてもらいます。

第9回 Compact Culture in Japan

コンパクト文化と言われ、例えば、小さいものに美を認める日本文化の特徴について考えます。

第10回 Life after Death

キリスト教と仏教といった信仰する神の違いからくる西

洋人と日本人のもつ「死後の世界観」について考えます。
第11回 Aging Society with the Declining Birthrate
日本と西洋とを比較しながら、少子高齢化が進む社会に対する考え方の違いについて考えます。
第12回 Right Culture and Left Culture
日本と西洋とで「右」と「左」ということばの裏に隠されたイメージの違いについて考えます。
第13回 Foot Culture and Hand Culture
日本に代表される手の文化、西洋にみられる足の文化という文化的な違いについて考えます。
第14回 What Labor Means in Japan and the West
労働に対する価値観という観点から西洋と日本のものの考え方の違いについて考えます。
第15回 まとめ発表
日本と西洋の国々の文化や価値観の違いについて調べ、レポートにまとめてもらいます。

2021年度 前期

2単位

英語音声学
服部 亮祐

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部専門科目の言語・文学科目群の一つ科目並びに教職（英語）の資格科目に属している。人文学部DPのひとつである、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」能力を養うことを目的とする。英語音声に関する正しい知識や技能を修得し、英語を正しく聞き取り、発音することを目指す。

<到達目標>

日本語と英語の音の体系の違いを正しく認識できる。正しいイントネーションとリズムを用いて英語の発音ができる。実践的な英語の発音指導法を身に付ける。

<授業のキーワード>

音声学、音素、アクセント、イントネーション

<授業の進め方>

各テーマについて、解説及び例示をする。その後、演習、ペアワーク等を通して実践的に学ぶ。また、学修した内容について口頭で試験を行い、理解を確認する。

<履修するにあたって>

演習やペアワーク等を通して実際に練習することが重要なことで、積極的に授業に参加することが不可欠です。

<授業時間外に必要な学修>

復習として、各回で学んだことについて、発話練習を欠かさないこと。（30分～程度）

<提出課題など>

その都度、授業中に指示します。

<成績評価方法・基準>

授業内の取り組み：20%、口頭試験（中間：40%、最終：40%）

<テキスト>

深沢俊昭（2015）『改訂版 英語の発音パーフェクト学習事典』アルク、2,600円+税

<授業計画>

第1回 イントロダクション

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 英語の音の基本

音素と発音記号の必要性について、解説する。

第3回 母音

英語に使われる音素（母音）について学び、練習する。

第4回 子音

英語に使われる音素（子音）について学び、練習する。

第5回 英語のリズム

ストレスアクセントの強弱の差が英語独自のリズムを生むことを理解し、練習する。

第6回 英語のイントネーション

日本語にはない複雑なピッチの変化やイントネーションの使い方を理解し、練習する。

第7回 中間口頭試験

これまで学んだことを踏まえて、音素の読み取り、音読のテストを行う。

第8回 音の連結

単語が滑らかにつながっていく現象を理論的に理解し、練習する。

第9回 音の同化

単語と単語が隣合わせることで音が変わる現象を理解し、練習する。

第10回 短縮形

短縮形になった単語の発音について確認し、練習する。

第11回 破裂音の消失

破裂音があっても、実際には発音されない事例を理解し、練習する。

第12回 脱落

母音や子音の発音が省略される現象について理解し、練習する。

第13回 子音連結

日本語と異なり、母音が入らずに子音だけが続く場合の発音を理解し、練習する。

第14回 これまでのまとめ

これまで学んだことを復習し、練習する。

第15回 最終口答試験

これまで学んだことについて、口頭試験を行う。

2021年度 後期

2単位

英語科教育法

深田 将揮

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この科目は、以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

4. (英語コース) 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる
この授業科目は教員の免許状取得のための必修科目である。この授業を通して、英語教員として必要な専門的知識および生徒と関わる姿勢を身に付けることが目的である。外国語習得理論、外国語教授法、コミュニケーション能力の育成、文法・語彙指導などについての講義から知識を得るだけでなく、これらの理論や教授法を日本の英語教育現場でどのように活かし得るかについて、グループワークや模擬授業等を通して、受講者が主体的に考え、理解を深める。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

(1) 英語教育学における基本的知識の理解を深め、その知識を授業構築において活用できる。

(2) 模擬授業を通して、実践的指導力を養い、自信を持って指導できる。

(3) 学習者視点の指導ができる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

英語教育学全般について理論から実践的内容までを扱い、学習者に適した英語教育環境を提供できる、また、学習者の能力を最大限に伸ばすことができる指導者を目指す。取り扱う内容は、英語教育における理論や教授法の歴史、今後の英語教育の動向、中学校、高等学校で英語教育を理解、発展させる上で不可欠な学習指導要領、教科書、小学校・中学校・高等学校の連携の在り方等を扱う。また、模擬授業などを通して、実践的指導力を養うとともに、教材活用（発展的な学習内容の探求と学習指導への位置づけ）や評価方法、情報機器の活用なども体験的に学ぶ。さらに、生徒の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた学習者視点の授業設計をするため、学習者要因や学習方略など学習者中心の授業展開についても幅広く学び、次世代にふさわしい英語教員を育成する。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

「英語教育」って一体何なのでしょうか。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備（指導案の作成に約90分程度）をしっかりとすること。

<提出課題など>

レッスンプランの作成及び授業後のリフレクションシートを隨時課し、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

試験(60%)、マイクロティーチング及びレッスンプラン(30%)、授業中の質疑・発表(10%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で隨時紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

英語教育学とは

第2回 概要（1）

英語教育の歴史とこれから - 日本の英語教育と様々な教授法 -

第3回 概要（2）

学習指導要領と小・中・高の連携

第4回 概要（3）

教材研究と学習指導案の作成

第5回 概要（4）

学習者要因と学習方略

第6回 4技能（1）

リーディング（読むこと）の指導と教材

第7回 4技能（2）

ライティング（書くこと）の指導と教材

第8回 4技能（3）

スピーキング（やり取り、発表）の指導と教材

第9回 4技能（4）

リスニング（聞くこと）の指導と教材

第10回 評価

評価とテスト

第11回 授業構成とインタラクション

授業を組み立てるために

第12回 マイクロティーチング(1)

受講生による模擬授業：

教材活用(発展的な学習内容)の観点から

第13回 マイクロティーチング(2)

受講生による模擬授業：

学習内容(語彙、表現、文法)の観点から

第14回 マイクロティーチング(3)

受講生による模擬授業：

チーム・ティーチングの観点から

第15回 マイクロティーチング(4)

受講生による模擬授業：異文化理解の観点から

2021年度 前期～後期

4単位

英語科教育法

出水 孝典

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業では、英語をきちんと教えるために何が必要かを追究する。一言で言うと、自分できちんとテキストを予習して、学生に正しい英語の知識を習得させることのできる、一人前の教員になるためには、何を知っておくべきかということを、一緒に考えていく。辞書の引き方、文法書(今日では『総合英語…』という参考書として出版されていることが多い)の参照の仕方、英語が読めているかどうか検証するやり方を、『速読英単語』(必修編)の英文1～50とその日本語訳を参照しながら、実際に訓練していく。また、英文を音読したCDと一緒にリピートすることで、英文を正しい発音で読めるようになることも目標とする。

<到達目標>

1. 大学入試レベルまでの英文をきちんと理解し、その文法・語法・内容について学習者に説明することができるようになる。

2. 総合英語として出版されている文法書、および英和辞典・英英辞典などの内容を理解し、実際の英文に当てはめる形で学習者に説明することができる。

3. 英語の単語だけでなく、文も含めて、正しく発音することができる。

4. ある英文を題材にして、長文総合問題を作成することができる。

<授業の進め方>

毎回の授業で、『速読英単語』のReadingパートの英文を2つずつ取り上げる。受講者は2つの英文に関して、まず、自分で読んで意味を取ってみた上で構文の解説や日本語訳を参照して、自分自身がその英文を正しく理解できているのか確認する。その後、本文に出てきた文法

事項・構文などを『総合英語able』で調べ、それを学習者に授業で教える場合にどのように説明すれば有効なのかを考えてくる。毎回、2つの英文に含まれる文のいくつかについて、受講者に説明してもらうのできちんと予習してくることが前提となる。また、毎回の授業の開始時に、その日に読む英文のVocabularyパートに関して、本文の日本語訳から頭文字が与えられた状態で元の英単語を書く形の単語テストを行い、平常点に含めるので、勉強した上で遅刻しないように来ること。

<履修するにあたって>

単位取得の要件として、英検2級またはTOEIC500点以上の取得を課します。最終授業か後期期末テストの際に、担当教員にその証明書を提示すること。あと、テキストの引いた箇所に付箋をつけるので、付箋を買ってテキストと共に毎回持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

毎回授業開始時に単語テストをするので、しっかり勉強してくること(45分)。授業後は、その日に取り上げた英文を10回は音読するようになる(45分)。

<提出課題など>

夏休みに『速読英単語』の英文51～70について自習してもらう。後期一回目の授業で、VocabularyパートとReadingパートに関して、確認テストを行い、評価に加える。

<成績評価方法・基準>

授業中の受け答え45%、期末テスト40%(20%×2)、模擬授業15%

<テキスト>

1. 風早寛(2019)『分冊 速読英単語(1)必修編 [改訂第7版]』Z会出版、ISBN978-4865312287

2. 赤野一郎(監修)(2014)『総合英語able』第一学習社、ISBN978-4-8040-1567-5、1500円、毎回授業に持参し、英語を読みながら、文法の知識で疑問となった点と一緒に参照し、そこに日付を書いた付箋をつけるという作業をする。なお、これは本来、高校採用専用の参考書なので、町の本屋やアマゾンでは扱っていない。学内の書店(学院書店)に注文をお願いしてあるので、そこで買うようにして下さい。

<参考図書>

安河内哲也(監修)(2017)『CD付 TOEIC L&R TEST ベーシックアプローチ』三修社、2,484円、ISBN 978-4384058499 著者の一人によると「これまでにないほど、英語が苦手な学習者の視点に立った本になってます」とのこと。300点しか取れない人がどう勉強すれば500点まで行くかを書いた参考書なので、TOEIC500点を取っていない人は買ってやってみるとよいと思う。

<授業計画>

第1回 前期の導入

英語を教えて生徒に理解させる場合、教員の側にどのような知識が必要なのかを担当者が説明する。その後、授業で用いるテキスト『総合英語able』を紹介し、このよ

うな総合英語の文法書はそもそもどのように使うべきなのか話をする。その後、受講者同士の自己紹介を行う。

第2回 英語の学習と教え方の研究1

『速読英単語』の英文1.オオカミの子育て、2.お茶の種類を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第3回 英語の学習と教え方の研究2

『速読英単語』の英文3.ジェスチャーの違い、4.ビタミンCの働きを取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第4回 英語の学習と教え方の研究3

『速読英単語』の英文5.drugの定義、6.皮膚の役割を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第5回 英語の学習と教え方の研究4

『速読英単語』の英文7.紳士服と婦人服でボタンが違う理由、8.紫色のもとを取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第6回 英語の学習と教え方の研究5

『速読英単語』の英文9.本当のほほえみと偽りのほほえみ、10.「熱い」か「辛い」かを取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第7回 英語の学習と教え方の研究6

『速読英単語』の英文11.12.食の安全と有機農業(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第8回 英語の学習と教え方の研究7

『速読英単語』の英文13.数学の歴史(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第9回 英語の学習と教え方の研究8

『速読英単語』の英文15.遺伝子と行動、16.風邪に関する常識を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第10回 英語の学習と教え方の研究9

『速読英単語』の英文17.18.英単語はいくつあるか(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第11回 英語の学習と教え方の研究10

『速読英単語』の英文19.20.結婚式の慣習(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第12回 英語の学習と教え方の研究11

『速読英単語』の英文21.22.遊びを通して学ぶこと(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第13回 英語の学習と教え方の研究12

『速読英単語』の英文23.24.サッカーの起源(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第14回 英語の学習と教え方の研究13

『速読英単語』の英文25.26.ハ工の超能力(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第15回 英語の学習と教え方の研究14

『速読英単語』の英文27.28.アレルギーが増加する背景(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第16回 夏休みの宿題の確認テスト

夏休みに宿題として課した『速読英単語』の英文51～70について、VocabularyパートとReadingパートの確認テストを行う。

第17回 英語の学習と教え方の研究15

『速読英単語』の英文29.30.外国語を学ぶ際に必要なもの(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第18回 英語の学習と教え方の研究16

『速読英単語』の英文31.32.ディズニーの大きな決断(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第19回 英語の学習と教え方の研究17

『速読英単語』の英文33.ディズニーの大きな決断(3)、34.ネコの習性を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第20回 英語の学習と教え方の研究18

『速読英単語』の英文35.36.「触ること」の作用(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第21回 英語の学習と教え方の研究19

『速読英単語』の英文37.38.インターネット時代の印刷物の役割(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第22回 英語の学習と教え方の研究20

『速読英単語』の英文39.40.つらい経験について書くことの効用(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第23回 英語の学習と教え方の研究21

『速読英単語』の英文41.42.テレビゲームの影響力(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第24回 英語の学習と教え方の研究22

『速読英単語』の英文43.44.真実を使ったうそ(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第25回 英語の学習と教え方の研究23

『速読英単語』の英文45.個人主義と協調主義、46.テクノロジーは人間の職を奪うか(1)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第26回 英語の学習と教え方の研究24

『速読英単語』の英文47.テクノロジーは人間の職を奪うか(2)、48.群集心理(1)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第27回 英語の学習と教え方の研究25

『速読英単語』の英文49.50.群集心理(2)(3)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、

Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第28回～第30回 模擬授業

『速読英単語』の英文1～20の比較的平易な英文を用いて、模擬授業をしてもらい、ピアレビューを行う。

2021年度 前期

2単位

英語科教育法

深田 将揮

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この科目は、以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

4. (英語コース) 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる英語教員として必要な専門的知識と、他者と関わる際の姿勢を身に付ける。授業の構成、教材・教具、4技能の指導法などについての講義から知識を得るだけでなく、これらの理論や教授法を日本の英語教育現場でどのように活かし得るかについて、グループワークや模擬授業等を通して、受講者が主体的に考え、理解を深める。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

(1) 模擬授業を通して、実践的指導力を養い、理論的裏付けを持って指導できる。
(2) 学習者視点の指導ができる。
(3) 発展的な学習内容を探究し、学習指導へ応用できる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

各技能の指導法研究としてリスニング(聞くこと)の指導法、スピーチング(やり取り、発表)の指導法について学び、学習者の技能を学習者に合わせた手法で向上させることのできる実践力を持った指導者を育成する。取り扱う内容は、それぞれの指導法の理論的背景や、現場で活用できる効果的な指導手法を幅広く学び、授業指導案の作成や模擬授業を通して確かな授業力を磨く。また、英語教育学における実践研究の動向を知り、授業設計のより良い進展を図る。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

英語指導に必要な英語力（英検2級以上、TOEIC600点以上）を有していることが望ましい。

「英語教育」って一体何なのでしょうか。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備（指導案の作成に約90分程度）をしっかりとすること。

<提出課題など>

レッスンプランの作成及び授業後のリフレクションシートを随時課し、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

試験(60%)、

マイクロティーチング及びレッスンプラン(40%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で随時紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

イントロダクション

第2回 基礎

リスニングとスピーキング指導の基礎

第3回 リスニングの指導法研究 理論編

聞くことの科学

第4回 リスニングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第5回 マイクロティーチング（リスニング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心に

第6回 マイクロティーチング（リスニング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心に

第7回 振り返り（1）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第8回 スピーキングの指導法研究 理論編

話すことの科学

第9回 スピーキングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第10回 マイクロティーチング（スピーキング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心に

第11回 マイクロティーチング（スピーキング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心に

第12回 振り返り（2）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第13回 現場の先生から学ぶ（1）

実践事例から授業設計を学ぶ

第14回 現場の先生から学ぶ（2）

現場の先生の模擬授業・授業観察

第15回 評価方法

聞くこと、やり取り・発表の評価について

2021年度 前期～後期

4単位

英語科教育法

杉本 喜孝

<授業の方法>

講義、実技【遠隔授業】

<授業の目的>

この科目は、学部のDPの一つである「学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、知識や技能の伸長を図る社会人として活躍することができる」人材の育成を目指しています。具体的には、中学校（高校）での授業場面を常に意識し、授業を進めるにあたって必要な英語コミュニケーション力と指導法を身につけ、生徒の発話を引き出し、英語を使って教師と生徒、生徒同士のやり取りを進めることができるようになることを目的とします。

なお、この授業の担当者は、昨年まで、高校・中学の現場で教えてきた教員です。学会（国内・海外）や研究会で実践発表を重ね、2022年度より高等学校で実施される新学習指導要領向けの、文部科学省検定教科書の執筆にも携わっている実務経験のある教員ですので、より実践的な内容を含む授業を展開します。

<到達目標>

1. 教員として必要な、自分の言動を常に問い直す「倫理観」を養うことができる。

2. 小中高連携と、中学校における外国語学習の役割について理解することができる。

3. ICT教材を作成し、それらを用いた授業構成力を身につけることができる。

4. CLIL型授業やSTEAM教育等、Society5.0に対応した教育の在り方を学べる。

5. 模擬授業を通して、教育現場に必要な授業実践力の基礎を養うことができる。

<授業のキーワード>

4技能5領域、CLIL型授業、STEAM教育

<授業の進め方>

1. 後期の授業では、教科書（中学・高校）を使用した模擬授業を複数回行います。

<履修するにあたって>

1. 【重要】第1回の授業が始まるまでに、必ず教員宛に受講生である旨のメールを送信してください。授業までに伝えておくべき重要な情報があります。連絡先メールアドレスは遠隔授業情報欄に掲載しています。
2. 教職に就くという高い目標と自覚を持って履修してください。
3. 講義を実際の中高の授業に見立て、常識と節度ある態度で受講してください。
4. 1月末までに、英検2級、TOEIC 500点以上のいずれかを取得し、その証明書（必ず原本）を教員に提示することが単位取得の要件となるので、期日までに計画的に受験してください。コロナ禍の影響により、昨年から受験機会が制限される場合が続いているので、早目に受験するよう心がけてください。

<授業時間外に必要な学修>

1. 定期試験に備え、毎回の講義の予習・復習を行ってください。予習については、前回の講義終了時に指示します。予習・復習は文献の講読も含め、それぞれ90分程度を必要とします。
2. 模擬授業等を行う際には、指定された日時までに指導案を提出した上で、講義に臨んでください。
3. 参考書（『チャート式シリーズ 基礎からの新総合英語』（数研出版）、『総合英語FACTBOOK』（桐原書店）等）を活用し高校レベルの英語力を身につけることを心がけてください。
4. 英語関連の月刊誌（『英語教育』（大修館書店）、『多聴多読マガジン』（コスモピア）等）を講読し、特に初等・中等教育現場における英語教育の現状をアップデートしてください。
5. 教職に就いた時に実際の授業に活かせるように、学会・研究会に主体的に参加し、最新の研究や現職教員の実践を学び、内容をレポートにより提出してください。レポートは担当教員がコメントした上で返却し、成績に加味します。

<提出課題など>

模擬授業の指導案や、夏期・冬期休業中の課題等は期限を守って提出してください。

<成績評価方法・基準>

1. 授業で提示された課題のレポート提出（前期）35%
2. 模擬授業などの活動状況と出席状況（後期）35%
3. テスト問題の作成と提出（後期）30%

<テキスト>

令和3(2021)年度用 中学校英語教科書 『BLUE SKY 1～3』 61啓林館 英語 706 / 806 / 906
(田尻 悟郎 他、令和3年発行、啓林館、各冊 339円)

<参考図書>

中学校学習指導要領解説 外国語編、高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編

『学びのための指導理論 4技能の指導方法とカリキュラム設計の提案』 中森 誉之 著 ひつじ書房

『学びのための学習理論 つまずきの克服と指導への提案』 中森 誉之 著 ひつじ書房

<授業計画>

第1回 受講に関するガイダンス

学生自身の英語学習履歴の振り返りとディスカッションを行います。 中学校、高校の現場における英語教育の実態を紹介します。

第2回 学習指導要領に関する講義

学習指導要領で知っておくべき最低限の項目に関する講義および、中・高の英語科目と小学校外国語活動及び外国語との連携に関する講義を行います。

新学習指導要領では、6年生終了時には現在の中1～中2前半程度の内容を学ぶようになることから、小学校の学習内容を知り中学との連携を考えます。

第3回 言語習得理論に関する講義

第二言語習得における主な教授法を知り、それぞれの教授法の長所・短所に関してのディスカッションを行います。

第4回 「聞くこと・話すこと」に関する指導

校種別にそれぞれの指導方法を学んだ上で、模擬実演を行います。

第5回 「読むこと・書くこと」に関する指導

校種別にそれぞれの指導方法を学んだ上で、模擬実演を行います。

第6回 文法および文構造の知識と指導法

中学1～3年生で学ぶ文法・語法を実際の言語活動を通して学びます。

第7回 文法および文構造の知識と指導法

高校1年生で学ぶ文法・語法を実際の言語活動を通して学びます。

第8回 ICT教材作成の基礎的な知識と作成および指導法

パワーポイントを活用した教材作成と、それを用いた実際の活動や注意点などを学びます。

第9回 ICT教材作成の基礎的な知識と作成および指導法

作成したICT教材で模擬実演を行い、実演に対するピア評価を行います。

第10回 映像授業の視聴

指定された映像を視聴した上で、レポートを提出してもらいます。

第11回 CLIL型授業とSTEAM教育に関する講義

内容言語統合型授業とSTEAM教育に関する講義を行います。

第12回 英米の絵本と文化・生活に関する知識と指導法

Oxford Reading Tree(ORT)やオンライン多読教材(e-ステ多読の森)等を活用した実践を行います。それらを通して、4技能を1つの活動内で行う技能統合型指導法を

学びます。

第13回 教科書及び周辺教材の分析と効果的な活用に関する講義とディスカッション

複数の教科書（教材）を取り上げ、内容分析とそれぞれの教科書（教材）の特徴を活かすための活用法の講義と模擬実演を行います。

第14回 年間指導計画と学習指導案

年間指導計画と学習指導案の書き方についての講義と、教科書を使った模擬授業に向けての指導案を作成します。

第15回 学習状況の評価方法（パフォーマンス評価を含む）に関する講義

観点別評価の評価基準の作成、評価方法と評価のための着眼点を学びます。

第16回 夏季休業中の課題に関するプレゼンテーション

夏季休業中に1冊の本を読み、それについて要約文の作成と内容に関するプレゼンテーションを行います。本のジャンルは問いませんが、雑誌（例：Number、POPEYE等）は不可とします。

第17回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

中学1～2年の教科書を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第18回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

中学1～2年の教科書を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第19回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

中学2～3年の教科書を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第20回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

中学2～3年の教科書を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第21回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

中学2～3年の教科書を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第22回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

高校1年の教科書（コミュニケーション英語）を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第23回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

高校1年の教科書（コミュニケーション英語）を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第24回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

高校1年の教科書（英語表現）を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第25回 模擬授業とそれに対するピア評価、ディスカッション

高校1年の教科書（英語表現）を使った模擬授業を行い、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第26回 ALTとのチームティーチングに関する講義
チームティーチングの役割を理解した上で指導案を作成し、模擬授業を行います。それに対するピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第27回 ALTとのチームティーチングに関する講義
チームティーチングの役割を理解した上で指導案を作成し、模擬授業を行います。それに対するピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第28回 テストと評価

中学の教科書からテスト問題を作成し、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第29回 テストと評価

高校の教科書からテスト問題を作成し、ピア評価と教員のアドバイスを受けます。

第30回 講義のまとめ

講義の全過程を振り返りながらピア評価を行い、教壇に立つ意欲を高めます。

2021年度 後期

2単位

英語科教育法

深田 將揮

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この科目は ディプロマポリシーの「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語科教育法に引き続き、英語教員として必要な専門的知識および技術を身に付けることを目的とする。講義は英語教育理論と手法についての知識を深め、習得した知識を実際の授業に活用するべく模擬授業を実施する。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

(1) 模擬授業を通して、実践的指導力を養い、理論的裏付けを持って指導できる。

(2) 学習者視点の指導ができる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

各技能の指導法研究としてリーディング（読むこと）の指導法、ライティング（書くこと）の指導法について学び、学習指導要領の3つの資質・能力を元に、また、学習者の技能を学習者に合わせた手法で向上させることのできる実践力を持った指導者を育成する。取り扱う内容は、それぞれの指導法の理論的背景や、現場で活用できる効果的な指導手法を幅広く学び、授業指導案の作成や模擬授業を通して確かな授業力を磨く。

また、英語教育学における実践研究の動向を知り、授業設計のより良い進展を図る。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

英語指導に必要な英語力（英検2級以上、TOEIC600点以上）を有していることが望ましい。

「英語教育」って一体何なのでしょうか。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備(指導案の作成に約90分程度)をしっかりとすること。

<提出課題など>

レッスンプランの作成及び授業後のリフレクションシートを随時課し、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

課題(60%)、

マイクロティーチング及びレッスンプラン(40%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で随時紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

イントロダクション

第2回 基礎

リーディングとライティング指導の基礎

第3回 リーディングの指導法研究 理論編

読むことの科学

第4回 リーディングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第5回 マイクロティーチング（リーディング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心

第6回 マイクロティーチング（リーディング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心

第7回 振り返り（1）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第8回 ライティングの指導法研究 理論編

書くことの科学

第9回 ライティングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第10回 マイクロティーチング（ライティング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心

第11回 マイクロティーチング（ライティング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心

第12回 振り返り（2）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第13回 現場の先生から学ぶ（1）

実践事例から授業設計を学ぶ

第14回 現場の先生から学ぶ（2）

現場の先生の模擬授業・授業観察

第15回 評価

読むこと、書くことの評価について

2021年度 後期

2単位

英語科教育法

深田 將揮

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この科目は ディプロマポリシーの「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語科教育法に引き続き、英語教員として必要な専門的知識および技術を身に付けることを目的とする。講義は英語教育理論と手法についての知識を深め、習得した知識を実際の授業に活用するべく模擬授業を実施する。

[教員の実務経験]

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

（1）教材作成、模擬授業を通して、実践的指導力を養い、理論的裏付けを持って指導できる。

（2）ICTを駆使した英語教材を作成及び利活用ができる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

リスニング（聞くこと）、スピーキング（やり取り、発表）、リーディング（読むこと）、ライティング（書くこと）、それぞれの指導時に活用できる教材作成能力を育成する。授業では、学習指導案の作成や模擬授業を通して確かな授業力を磨き、教材を利活用しながら、複数の領域を有機的に統合できる言語活動の指導についても考える。さらに、近年のICT利活用の重要性の観点から、デジタル教材の利点と問題点を考察し、次世代に即した新しいメディア活用能力を持った英語教員を目指す。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

英語指導に必要な英語力（英検2級以上、TOEIC600点以上）を有していることが望ましい。

「英語教育」って一体何なのでしょうか。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備（指導案の作成に約90分程度）をしっかりとすること。

<提出課題など>

教材作成（デジタル教材、アナログ教材等）の成果物、また、それを活用した模擬授業（ビデオ撮り）したものを作成する。提出されたものは、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

レポート及び課題(50%)、マイクロティーチング(50%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

以下は、授業内で指示する。

各実習先で使用する英語の教科書を各自で購入すること。

<参考図書>

講義内で隨時紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

教材の利活用と中学校・高等学校での英語教育

第2回 リスニング教材とその指導 基礎編

デジタル音声の基礎とその活用

第3回 リスニング教材とその指導 実践編

デジタル音声を使った教材作成

第4回 マイクロティーチング（1）

受講生による模擬授業：デジタル音声の活用を中心に

第5回 スピーキング教材とその指導 基礎編

デジタル動画の基礎とその活用

第6回 デジタル動画の基礎とその活用

デジタル動画を使った教材作成

第7回 マイクロティーチング（2）

受講生による模擬授業：デジタル動画の活用を中心に

第8回 リーディング教材とその指導 基礎編

ハンドアウト教材の基礎とその活用

第9回 リーディング教材とその指導 実践編

ハンドアウト教材作成

第10回 マイクロティーチング（3）

受講生による模擬授業：

ハンドアウト教材の活用を中心に

第11回 ライティング教材とその指導 基礎編

ライティング教材の基礎とその活用

第12回 ライティング教材とその指導 実践編

ライティング用教材の作成

第13回 マイクロティーチング（4）

受講生による模擬授業：

ライティング教材の活用を中心に

第14回 現場の先生から学ぶ教材活用

中学校または、高等学校教師の出張講義

第15回 教育環境について

電子黒板、校内LAN、e-Learning、LMSについて考える

2021年度 後期

2単位

英語表現法/英語表現法

藏菌 和也

<授業の方法>

遠隔授業（オンデマンド授業）

教科書を読みながら課題に取り組んでみてください。

毎回の課題はdotCampusに直接提出してもらいます。

<授業の目的>

この科目は、人文学部人文学科の専門教育科目に属します。人文学部人文学科のDPのうち 2.「自然と人間にに関する専門知識や人間の社会的・文化的活動に関する専門知識を総合的、体系的に身につけ、異なる分野の知識が相互に関連することを理解している」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章での確に表現することができる」、9.「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」に関係します。英語学の知見を利用して今までに学んできた英語に対する理解をさらに深め、有用な語彙を活用して自分の考えを表現する力を高めることを目的としています。書くた

めのいわゆる堅い英語だけでなく、身近な日常表現でよく使われる口語英語を学ぶことで、より幅広い語彙や構文の活用方法に慣れ、伝えたい内容を表現するための適切な語彙や構文を選択できるようになります。

<到達目標>

1. 英語の語彙や構文などの意味と働きを理解することができる。

2. 英語の語彙や構文などの特徴を理解し、活用することができる。

3. 授業期間を通して、課題の解決のために辞書や関連する文献を調べて自立的な学習に努めることができる。

<授業のキーワード>

verb pattern、tense、aspect、voice、mood、narration、non-finite verb、noun、adjective、relative、adverb、comparison

<授業の進め方>

指定されたテキストの英作文の問題を解いてもらいます。テキストに沿って英語を読み書きするための英文法や語彙の知識について整理した後に理解度確認用課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

英語を苦手とする人の中には、文法用語は暗記したもののかの意味や使い方を十分理解できず嫌になってしまった人もいるのではないかでしょうか。

そういう人であっても、この授業で5文型の意義やどのように活用するとよいのかについて日英語対照的に、さらに言語学的な視点から考えることは英語を外国語として学ぶ日本語母語話者にとって有意義なことだと思います。身近な場面で使う表現を学ぶことで、どのような意図で「動名詞」「to不定詞」などが使われているのかといった日本語母語話者にはないネイティブの感覚を理解し説明できるようになります。英語が苦手な人でも参加してもらい英語を言語学的に分析していくことで新たな発見をしてもらいたいと思います。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの英作文は毎回入念に予習し、疑問点があれば辞書や文法書で調べる(1時間)。復習以外にも毎日英語に触れて、英語力の向上をはかる(1時間)。

<提出課題など>

毎回、指示した課題を授業後に提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

確認プリント12%、課題提出78%、コメント等授業への積極的な参加10%

<テキスト>

八木克正.『文法活用の日常英語表現』英宝社

<参考図書>

江川泰一郎. (1991)『英文法解説』東京:金子書房.

柏野健次. (1999)『テンスとアスペクト』東京:開拓社.

友繁義典. (2016)『英語の意味を極める - 名詞・形容詞・副詞編 -』東京:開拓社.

2021年度 後期

2単位

英文法/英文法

服部 亮祐

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部専門科目の言語・文学科目群の一つ科目並びに教職(英語)の資格科目に属している。人文学部DP2「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」こと、およびDP5「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」能力を養うことを目的とする。言語学や英語学に基づいた理論を通して、英文法を科学的見地から分析する能力を養い、同時に英文を読む能力を養うことを目指す。また、小テストや課題を通して、自分の考えを口頭や文章で的確に表現する能力を身に付けることをを目指す。

<到達目標>

英文法に関して理論的に解説し、具体例を提示しながら説明できる。英文法に関する問題に解答し、その過程について適切に説明することができる。英文法の重要性を理解し、指導することができる。

<授業のキーワード>

英語学、生成文法、統語論

<授業の進め方>

各事項について説明したのちに、クラス全体あるいはグループで課題を解き、解説を加える。また、各回の授業後に、学んだ内容について小テストを課す。

<履修するにあたって>

3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り、単位認定されない。

<授業時間外に必要な学修>

予習を行うこと。また、小テストに備え、各回で学んだことについて、復習を欠かさないこと。(1時間程度)

<提出課題など>

小テストについては授業内で解答を提示する。また、課題については添削して返却する。

<成績評価方法・基準>

課題40%、授業中の取り組み20%、小テスト40%

<テキスト>

なし

<参考図書>

阿部潤 (2008)『問題を通して学ぶ生成文法』ひつじ書房 1600円+税、

北川善久、上山あゆみ (2004)『生成文法の考え方』研究社 2800円+税

<授業計画>

第1回 イントロダクション

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 「文法」とは

生成文法における「文法」とその変遷について

第3回 「文法」とは

人間の言語習得の観点から「文法」とは何かを説明する

第4回 句構造

統語構造における規則について概観する

第5回 句構造

構造的同音異義について

第6回 句構造

句構造規則の限界について説明する

第7回 音と意味の分離

名詞、文の派生における音と意味の分離について説明する

第8回 変形規則

深層構造と変形規則

第9回 変形規則

変形規則に関わる一般的条件

第10回 意味解釈規則

代名詞の意味解釈に関する規則について

第11回 意味解釈規則

「作用域」について

第12回 「主語」とは何か

「文法上の主語」と「意味上の主語」について説明する

第13回 「主語」とは何か

「主語」の移動について説明する

第14回 生成文法研究が目指すもの

生成文法の研究対象について説明する

第15回 生成文法研究の目指すもの

生成文法の研究方法について説明する

2021年度 後期

2単位

英米文学研究

長谷川 弘基

<授業の方法>

講義

Covid-19による感染症が拡大し、対面の授業が不可能になった場合はZOOMによる授業を行います。

<授業の目的>

この科目は資格に関する科目（英語・中学校一種、英語・高等学校一種）にも指定されており、英米文学の中でも最も充実していた時代とも言われているロマン派の詩の読解を通して、西洋近代の自我意識の特徴を確認することを目指している。この点において、人文学科のDPに示されている専門知識の獲得と、異なる分野の知識が相互に関連していることを実践的に理解することをも視野

において授業を進めることになる。

[主題]

19世紀ロマン派詩人（Blake, Wordsworth, Shelley, Keats）、及びそれ以後の若干の詩人の作品を、日本語の翻訳を参考にしつつ鑑賞し、ロマン主義及び近代西洋文学の特性について学ぶ。

[目標]

1) 個々の翻訳詩及び原詩の意味を理解し、詩の楽しみを理解する。

2) 細かい表現に注目し、そこから批評的解釈を試みる。

3) それぞれの詩人を比較し、その相違点を理解する。

<到達目標>

1) 19世紀の英語の詩が持つ形式的特徴を知る。

2) ロマン派の特質を理解する。

3) ロマン派第一世代（ブレイク、ワーズワース）と第二世代（シェリー、キーツ）の比較を通して、両者の違いを認識する。

<授業のキーワード>

ロマン派、西洋近代、自我、egotisitic sublime、女性性

<授業の進め方>

個々の作品の読解・解説を中心とした講義。一回の講義で1～2編の詩を読むことになる。

<授業時間外に必要な学修>

翻訳を利用するとはいって、英語の詩を読むことになるので、英語の語彙や表現などに関しては、気になることはこまめに辞書で調べることが必要である。また、19世紀のイギリスの社会・歴史的背景に関する知識があることが望ましいことは言うまでもない。おおむね1～2時間の予習・復習が求められる。

<提出課題など>

学期末に作品解釈に関するレポートを書いてもらう。レポートは要請があればコメント・評価を記した上で返却する。

<成績評価方法・基準>

毎授業の小さなレポート（200字未満）の合算が50%。

残りの50%は学期末のレポート課題による。

<テキスト>

初回の授業にプリントを配布する。

<参考図書>

特に指定はしないが、それぞれの詩人の作品には多くの翻訳があるので、手元にあると便利であろう。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業の概要及び目標の説明（リアルタイムのZOOMで行います）

『イギリスロマン派』の文学史的意義

第2回 ブレイク # 1

ブレイクの『無垢の歌、経験の歌』から複数の作品を選び、ロマン派の作品の特徴を、18世紀の作品と比べて確

認する。

第3回 ブレイク # 2

引き続きブレイクの『無垢の歌、経験の歌』から複数の作品を選び、ロマン派の作品の特徴を、18世紀の作品と比べて確認する。

第4回 ワーズワース # 1

WordsworthのいわゆるLucy Poemsを読み、イギリスの抒情詩の特徴に触れ、理解を深める。

第5回 ワーズワース # 2

WordsworthのDaffodilsを読み、ロマン派に特徴的な自我的表象について考察する。

第6回 ワーズワース # 3

WordsworthのThe Solitary Reaperを読み、いわゆるEgotistic Sublimeの本質を理解すると同時に、ロマン派第二世代への導入を図る。

第7回 ワーズワース # 4

引き続きWordsworthのThe Solitary Reaperを読み、いわゆるEgotistic Sublimeの理解を深める。

第8回 キーツ # 1

John KeatsのLa Belle Dame sans Merciを、The Solitary Reaperと比較しつつ読解し、KeatsのWordsworth批判の意味を確認する。

第9回 キーツ # 2

引き続きJohn KeatsのLa Belle Dame sans Merciを、The Solitary Reaperと比較しつつ読解し、KeatsのWordsworth批判の意味を確認する。

第10回 キーツ # 3

Ode on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第11回 キーツ # 4

引き続きOde on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第12回 キーツ # 5

引き続きOde on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第13回 キーツ # 6

The Negative Capabilityの意義について確認する。

第14回 ロマン派からモダニズムへ # 1

エズラ・パウンド(Ezra Pound)とT.S.エリオット(Eliot)の作品を読み、20世紀初頭の、いわゆるモダニズムとロマン派の違いについて考察する。

第15回 ロマン派からモダニズムへ # 2

引き続きエズラ・パウンド(Ezra Pound)とT.S.エリオット(Eliot)の作品を読み、20世紀初頭の、いわゆるモダニズムとロマン派の違いについて考察する。

2021年度 前期

2単位

学校心理学

竹田 剛

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

学校心理学（資格）は、心理学部2年次生以降を対象に開講される専門科目群の講義科目です。また、教職に関する科目（選択科目）でもあります。本講義は心理学部のDP1, 2の獲得を目指しています。

現在、通常の学級に在籍するLD等の特別な支援を必要とする児童生徒の増加や、学級崩壊、いじめ、不登校など、教育現場は多様な課題を抱えています。本講義では、学校心理学における心理教育的援助サービスの理論や技法、子どもの行動や学習、教師や保護者などの関わりについて学びます。なお、学校心理学は心理学と学校教育が統合した応用領域であるため、特別支援教育の変化など、最新の教育事情に焦点を絞って解説します。特別支援教育とは、障害のある児童生徒の自立や社会的参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うものです。教職に関する科目でもあるため、教師としての姿勢、必要となる知識など、幅広く理解を深めましょう。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児童生徒および教職員に対する5年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を続けている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

<到達目標>

学校心理学とは何か（概要）を説明できる。

学校教育の心理学的な諸問題、心理学による支援方法などについて意見を述べることができる。

教師が行うべき心理学的援助について興味を持つ。

<授業のキーワード>

学校心理学・特別支援教育・発達障害・いじめ・不登校・学級崩壊など

<授業の進め方>

講義形式で行います。

<履修するにあたって>

毎回、授業に関する資料を配付します。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。

試験の前にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと（目安として3~4時間）。

<提出課題など>

毎回の授業の内容に関する小テストもしくは小レポートの提出。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。次回以降の講義にて解答を示すとともに補足の解説を行います。

<成績評価方法・基準>

小テスト・小レポート課題等50% 定期試験50%
なお課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

はじめに、授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明します。

第2回 学校心理学とは

学校心理学とは何かについて、学校心理学における研究テーマについて概説します。

第3回 最新の教育事情

学級崩壊、いじめ、不登校などの心理教育的問題や特別支援教育、学校支援体制の変化などの学校教育の現状について解説します。

第4回 教育の制度・法律

教育に関する権利と義務、公認心理師と関連する学校教育制度、社会教育制度について解説します。

第5回 通常の学級に在籍する多様な子ども達 自閉症スペクトラム障害という発達障害についてDVD映像やチェックリスト等を紹介しながら解説します。

第6回 通常の学級に在籍する多様な子ども達 ADHD（注意欠如多動性障害）という発達障害について解説します。

第7回 通常の学級に在籍する多様な子ども達 SLD（限局性学習障害）という発達障害について解説し、学習支援について学びます。

第8回 心理教育的アセスメント

知能検査、子どもの学力を測る検査、自己効力感尺度などの心理教育尺度、行動観察法について解説します。

第9回 心理教育的アセスメント

知能検査、子どもの学力を測る検査、自己効力感尺度などの心理教育尺度、行動観察法について解説します。

第10回 思春期を取り巻く心理教育的問題

中学生、高校生が抱える不安やうつ、つまづき、トラブル、非行・暴力行為等について解説します。

第11回 思春期を取り巻く心理教育的問題

最新のいじめ問題について、スクールカウンセリングの話を交えながら、解説します。

第12回 思春期を取り巻く心理教育的問題

最新の不登校事情について、スクールカウンセリングの話を交えながら、解説します。

第13回 授業を見直す

学級崩壊、通常学級における学級経営、ユニバーサルデザインなど、教育の視点からの課題を考えます。あわせて、情報倫理にも触れます。

第14回 教育関係者へのコンサルテーション

教師、保護者等の教育関係者に対するコンサルテーション、チーム学校について解説します。

第15回 まとめ

本講義の全般的なまとめを行います。

2021年度 前期

2単位

漢文学概論

藤井 宏

<授業の方法>

対面授業（実習）

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

緊急事態が発生した場合の取扱い

教務センター所長の判断により措置するものとし、その内容を速やかに大学ホームページ（学内情報サービス）に掲示することで、周知するものとします。

<授業の目的>

簡単な例文や練習問題、短い物語や論説文などを教材にして、漢文の語法の基礎を学び、あわせて必要な基礎知識を学ぶ。

この授業を通して、複数の分野の基礎知識を身につけ、獲得した知識を活用して自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して、解決・解明へと導くことができるようになることを目指す。

<到達目標>

大学生として身につけておくべき漢文の基礎を身につけ、一般教養程度の漢文が読めるようになります。

<授業の進め方>

例文を解説しながら、皆さんに意見を聞き、答えてもらいます。

<履修するにあたって>

毎回きちんと予習をしてきてください。

<授業時間外に必要な学修>

封建時代の中国に関する本を、どんな本でもいいので読んでみてください。1時間程度の予習・復習をしてください。

<提出課題など>

授業中に指示する。

<成績評価方法・基準>

平常の発表点とまとめテストによる。

<テキスト>

プリント使用。

<参考図書>

特になし。

<授業計画>

第1回 教材プリント(1)の配布とガイダンス。
この授業についての説明と漢文の学習の仕方についての説明など。

第2回 基礎的な漢文の語法の説明。
教材文を使っての文法解説。

第3回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。
教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第4回 教材プリント(2)の配布と教材文を使っての文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第5回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第6回 教材プリント(3)の配布と教材文を使っての文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第7回 教材プリント(4)の配布と教材文を使っての文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第8回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第9回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第10回 教材プリント(5)の配布と教材文を使っての文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第11回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第12回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第13回 前期のまとめ

前期のまとめと質疑応答。

2021年度 前期

2単位

漢文学講読

藤井 宏

<授業の方法>

(対面授業) 講義と実習の組み合わせ。

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

緊急事態が発生した場合の取扱い

教務センター所長の判断により措置するものとし、その内容を速やかに大学ホームページ(学内情報サービス)に掲示することで、周知するものとします。

<授業の目的>

漢文学概論で得た知識をもとに、まとめた長さの漢文の講読を行なう。教材としては当代传奇小説や中国人のものの考え方を理解する上で参考になる唐宋八家文などを予定している。

この授業を通して、複数の分野の基礎知識を身につけ、獲得した知識を活用して自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して、解決・解明へと導くことができるようになることを目指す。

<到達目標>

国語の授業の中の漢文教材がよくわかり生徒に説明できる力をつける。

<授業の進め方>

例文を解説しながら、皆さんに意見を聞き、答えてもらいます。

<履修するにあたって>

毎回きちんと予習をしてきてください。

<授業時間外に必要な学修>

特に指定はしませんが各自漢文に関する読書をしてみてください。1時間程度の時間をかけて予習・復習をしてください。

<提出課題など>

授業中に指示する。

<成績評価方法・基準>

平常の発表とまとめテストによる。

<テキスト>

プリント使用。

<参考図書>

特になし。

<授業計画>

第1回 プリントの配布とガイダンス。

教材プリント（前半分）の配布とこの授業についての説明、教材文についての説明。

第2回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第3回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第4回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第5回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第6回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第7回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第8回 プリント（後半部）の配布と教材の読解。

教材プリント（後半分）の配布と教材文の読み進め。

第9回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第10回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第11回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第12回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第13回 まとめ

この授業のまとめと質疑応答。

2021年度 後期

2単位

教育課程論

安藤 福光

<授業の方法>

・講義形式を基本とする。

・受講生への連絡、講義資料（第2回以降）の配布はmanabaにて行う。

<授業の目的>

変化の著しい現代社会では、教育課程に求められる内容

もまた著しい変化を余儀なくされている。本講義においては、先の変化に対応した教育課程編成を実行できるようにするため、教育課程に関する基本的な知識、これまでの学習指導要領の変遷を扱いながら、教育課程の現代的な課題について、受講生の理解を深めることを目的とする。あわせてそれを実際の編成に生かすための考え方、方法について受講生と検討する。

<到達目標>

- ・教育課程の基本的な知識について、理解することができる。
- ・学習指導要領の変遷を理解することができる。
- ・教育課程の現代的な課題を理解し、実践に生かすことができる。

<授業の進め方>

- ・講義形式を基本とする。
- ・講義終了後に感想をGoogleフォームにて提出してもらうが、成績には反映しない。

これは受講生の声を聞くためのコミュニケーションツールとしての機能しかない。

<履修するにあたって>

- ・自身の小・中・高の教育経験を振り返りながら受講すること。
- ・テキストは購入すること。

<授業時間外に必要な学修>

- ・事前学習：前回の講義資料を再読して、次の講義に臨むこと
- ・事後学習：講義終了後は講義資料を用いた復習を行うこと

<成績評価方法・基準>

- ・到達目標に関わる期末試験（100%）で評価する、

<テキスト>

根津朋実・樋口直宏編著（2019）『教育内容・方法 [改訂版]』培風館

<参考図書>

- ・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』

<授業計画>

第1回 教育課程とカリキュラム

それぞれの概念の整理

第2回 教育課程と学習指導要領

学習指導要領について

第3回 教育課程行政

文部科学省と教育委員会の役割

第4回 アメリカのカリキュラム改革

アメリカのカリキュラム改革の歴史

第5回 戦前の教育課程の歴史

明治期から終戦直後まで

第6回 学習指導要領の歴史的展開（1）

昭和22年版、昭和26年版学習指導要領

第7回 学習指導要領の歴史的展開（2）

昭和33年版、昭和43年版、昭和52年版学習指導要領
第8回 学習指導要領の歴史的展開（3）
平成元年版、平成10年版（平成15年一部改正含む）学習指導要領
第9回 21世紀の学習指導要領
：平成20年版学習指導要領、平成29年学習指導要領
第10回 教育課程の編成と評価
教育課程の編成と評価の方法、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価
第11回 教科と教科外の教育課程
教科と教科外活動の教育課程の内容
第12回 各校種の教育課程
小学校、中学校、高等学校の教育課程の構成
第13回 学習指導要領と教科書
教科書の定義、教科書検定と教科書採択制度
第14回 総合的な学習の時間
創設の趣旨、教科・領域横断学習の意義と必要性、特色ある取り組み
第15回 教育課程の現代的な課題
一貫教育の教育課程、学力と教育課程、地域とともにある学校の教育課程、カリキュラム評価、教科・領域・学年を越境する学習活動など

2021年度 後期

2単位

教育課程論
水谷 勇

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

教育の本質を理解し、教育を生活の中に活かしていく知恵と手法を習得させることを目的としている。より具体的には、教育課程に関する諸概念を理解し、教育課程作成の意義、学習指導要領との関係を正しく理解させる。また、教育課程編成及び評価の手法を理解し習得させる。教育課程への理解を深めることで、一市民として学校教育に対する理解を深め、学校教育の良き支援者へと育てるとともに、学生自身が自己の人生や生活の良く設計者・運営者になる一助となることを目的とする。こうして学部DP全般に関わってその達成の一助となる授業である。

学校教育の質を決定的に左右するのは、どれだけ生徒の発達や関心、地域の実態に即した教育課程を編成できたのか、それを最適に実施に移すことができたのか、適切な評価が行われているのかである。つまり、教育目標についての適切かつ明確な理解と、生徒の発達段階の正確な理解が必要であるし、子どもたちはどのような事柄に関心を持っているのか、どのようにすれば、子どもたちの興味関心を探り当て、それを引き出すことができるのかについて教師は常に心がけておかなければならぬ。

また、子どもたちの日常生活空間は学校だけでなく、地域社会にもある。学校の所在する、あるいは子どもたちの居住する地域は様々であり、それらの地域の多様な特色を生かした教育が行われてこそ、子どもたちの日常生活に引き付けた、興味関心に即した教育実践が可能となる。たとえ立派な教育課程ができたとしても、その理念を実行する教師の力量が問われるを得ないし、教師の授業実践の有効性も検証されなければならない。授業と教育課程の相互作用についての評価の重要性が常に求められる根拠はここにある。また、教育課程は日本の学校教育の特性を多分に反映しているが、国際的に見れば、特異性も理解できよう。教育課程の比較研究も必須である。さらには、学習指導要領の変遷をたどるとともにこの授業では、学校教育活動の中核的な位置にある教育課程について、その概要と今日的課題について明らかにすることを目的とする。また、新学習指導要領で必須となったカリキュラム・マネジメントについて正しく理解し、実践する力を培う。

この授業は、積極的に参画することで、人文学部DP（ディプロマ・ポリシー）すべてに関わってその基礎を形成するものである。

<到達目標>

1. 教育課程に関する諸概念を理解し、教育課程作成の意義、学習指導要領との関係を正しく理解する。また、教育課程編成及び評価の手法を理解し習得する。
2. 上記成果を期末試験において答案として書き上げることができる。
3. 上記成果を、実際の教育課程を作成し、レポートとして提出することができる。
4. これらの作業を通して教育への深い理解を形成するとともに、文献を読み込み理解する力、自らの経験を省察し、それを文章にまとめて他人に伝える力、自分が書いた文章を読み返して、論理構成や記述を見直し、レポートや答案としてまとめる力につける。

<授業のキーワード>

教育課程に関する諸概念

学習指導要領の歴史と現行の特徴

中学、高校の教育課程

教育課程編成及び評価の手法

諸外国の教育課程

<授業の進め方>

事前に配付した講義資料を受講生が事前学習してきていることを前提に、資料の補足と受講生からの疑問に答える形で授業を進める。これゆえ、受講生は学習成果（質問・疑問を含む）を毎回小レポートで提出することが求められる。

受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進める。

<授業時間外に必要な学修>

配布された授業資料の熟読・理解や関連図書の読み込み

として、最低でも毎回1~3時間の予復習をして臨んでください。

<提出課題など>

毎授業ごとに聴講の証となる学びの記録(出席カードに記入)の提出を求めるほか、授業終了時までにレポートの提出(実際に教育課程を作成してレポートする)を求める。

提出された課題に対しては、原則、次回の授業で、採点・コメントして返却するなど、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

<成績評価方法・基準>

ミニレポート(15%)、大レポート(45%)、

定期試験(40%)。

毎回の小レポート(1点×15)の提出が3分の2にあたる合計10未満の場合、評価なしになります。

レポートは、講義を踏まえて、各自でどれだけ学習して深めたかを評価の尺度とします。定期試験は、講義内容の総まとめとしての筆記試験です。しっかりと、講義資料を読み込むとともに、図書館利用や文献読破による事前・事後の深め学習に精励してください。

教職履修者に対しては大レポートは総合学習の指導案の作成提出(20時間以上分)になります。

<テキスト>

現行及び2018年に公表された新学習指導要領(総則及び、自分の取得教科の部分)

メイン：柴田義松編『教育課程論』学文社。

サブ：山崎準二編『教育課程論』学文社

<参考図書>

新学習指導要領とその解説文書

詳細については授業中に指示します。

<授業計画>

第1回 本講義のガイダンス

本講義の概要を述べるとともに、教育課程、カリキュラムといった基本用語の解説を行う。

第2回 カリキュラムの思想・理論

カリキュラムの基本問題について解説するとともに、その思想・理論の諸系譜を整理・解説する。

第3回 カリキュラムの編成原理

カリキュラムの編成原理について説明し、各自がカリキュラムを作成するための実践的なスキームの形成をめざす。レポートとして実際にカリキュラムを作成するという課題(本講義終了時が締め切り)と関連している。

第4回 教育目的・目標と学力問題

教育目的・目標の意義と学力問題について、学習指導要領、カリキュラムと教育方法、それぞれの関連について述べる。

第5回 学習指導要領とカリキュラム

今日の我が国における教育課程行政とその仕組みについて述べる。学習指導要領とカリキュラムとの関係について概説し、現行学習指導要領の特質を明らかにし、その

下での教育課程編成、カリキュラム作りの工夫などを紹介する。

第6回 カリキュラムの変遷と改革動向

前時の補足をしつつ、カリキュラムの歴史と改革動向について簡潔に説明し、受講生の基本的な理解と探求のための枠組み作りをめざす。

第7回 カリキュラムの開発と評価

カリキュラム開発と評価の原理と様々な手法について解説する。

第8回 中間テスト

これまでの授業の理解度を確認する。

第9回 テスト返し

テスト返却・解説を通してこれまでの再学習を行い、弱点を克服し、理解の精度は上げる。このための補足的な講義・解説を行う。

第10回 中学・高校教育と教育課程

中学、高等学校教育の特質とその教育課程のそれぞれの特質について述べる。

第11回 道徳・特別活動とカリキュラム

教科外教育とカリキュラムについて、とりわけ、道徳、特別活動に焦点を当てて述べる。

第12回 総合的な学習、設置趣旨

総合的な学習についてその設置趣旨等を踏まえ、また、先進的事例などを紹介しながら、その基本的理解を図る。

第13回 総合的な学習、先進事例、など

前時の続きとして、先進事例を列挙・検討し、総合的な学習の時間の運用について理論的・実践的な理解を深めることをめざす。併せて、レポート課題について詳しく解説し、レポート作成上の注意・解説を行う。

第14回 諸外国のカリキュラム

諸外国のカリキュラムについて、先進国とアジアの近隣の国々などを紹介し、我が国の特質とあり方を探る。

第15回 21世紀のカリキュラム(カリキュラム研究の課題)

上記講義のまとめを行うとともに、カリキュラム研究の課題を列挙し、今後のさらなる学習に向けた課題と方法論を提示したい。

2021年度 後期

2単位

教育原論

水谷 勇

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

教員養成課程の資格科目の中核をなす科目の一つとして、日本国における教育課程行政とその仕組みについて述べる。カリキュラムと教育方法、それらの関連について概説し、現行学習指導要領の特質を明らかにし、その

教育及び子育て・人間形成に関する人類の叡智を整理し、教育とは何か、最新の教育学の成果に依拠しながら、教職に必要な基礎的知識を概説する。

教職コアカリキュラムで指定された、教育の基本概念の修得と教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係理解を目的とする。また、教育に関する諸思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することを目的としている。

マスコミで取り上げられない日はないほどに、教育問題は人々の関心を集め、また事実深刻である。また、教育については専門的な学者の意見に耳を傾けるよりは、市井の企業家、親、他分野の学者、スポーツ等の達人・名人、それぞれの分野で成功を収めた人士たちが、自らの教育経験を元に、教育に関する重要な発言を繰り返し、教育の実践や政策に大きな影響を与えていた。こうした事実をふまえ、各界・各分野で活躍している人々の成功談や発言に注目しつつ、同時に、教育学(心理学・生理学を含む)という専門科学を学ぶことの必要性をも示す形で、教育の本質・特質を明らかにしていく。さらに、発達と教育の関係、教育学諸概念の整理、学校教育の特質と課題、教育目的・教育評価の意義、いじめ・体罰の根絶、生涯学習・社会教育、家庭・地域社会における教育について講義し、基本的な知識と教育学的思考の形成をはかる。講義に当たっては、その都度、できる限り関連する現実問題を取り上げ、考察を深めるとともに、受講学生が自らの問題としてとらえ、主体的に解決する姿勢と態度、思考様式を身につけることを目的とする。

この授業は、積極的に参画することで、全学DP(ディプロマ・ポリシー)すべてに関わってその基礎を形成するものである。

＜到達目標＞

1. 教育の本質及び目標を理解するとともに、教育学の諸概念に精通する。
2. 子ども・教員・家庭・学校など、教育を成り立てる要素とそれらの相互関係を理解している。
3. 家庭や子どもに關わる教育の思想を理解している。
4. 学校や学修に關わる今日言う思想を理解している。
5. 上記の学修成果を踏まえ、教育への深い理解を形成するとともに、文献を読み込み理解する力、自らの経験を省察し、それを文章にまとめて他人に伝える力、自分が書いた文章を読み返して、論理構成や記述を見直し、レポートとしてまとめる力をつける。

＜授業のキーワード＞

教育及び子育て・人間形成に関する人類の叡智
最新の教育学の成果
学校教育の現状と課題
自己や他者の経験の省察

対面で、初回を除き、毎回事前に資料を配付するのでそれに事前に目を通して、わからないことがあれば、事前に辞書等で調べた上で、質問内容を絞って講義中に質問することを前提として、通常の講義としてポイントを説明し、疑問点に答えるという形で講義を進める。非登学生のためdotCampusにレジュメおよび主要資料をpdfでアップするので、なくした資料などは全学生が利用されたい。

資料・レジメを熟読し、授業を聴いた上で、学習成果(質問・疑問を含む)を毎回小レポート(出席カードを兼ねる)で提出してもらいます。受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めます。

＜履修するにあたって＞

教師になる気があり、どんな難しいことにも意欲を持って取り組み、積極的に授業に臨むことを期待する。

＜授業時間外に必要な学修＞

配布された資料・レジメの熟読と関連する調べ学習として、概ね1時間以上の予・復習を求める。

＜提出課題など＞

毎回、出席カード(もしくは、dotcampusのアンケート)に授業内容での気づき・学びの報告(意見・質問を含む)を求め、毎授業終了時に提出してもらう。提出された課題に対しては、次回の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

また、期間中に課題について調査、研究しレポートにまとめる課題を4題出しますので、そのレポートの提出を求める(4題とも)。

＜成績評価方法・基準＞

毎回の小レポート(学びの記録): 15%、4題ある課題レポート(40%)、定期試験(45%)による。

学びの記録では、講義内容の理解度(正確に理解し、自分の言葉で語れているか)を評価し、4つの課題レポートにおいては、それぞれの課題について適切に答えたレポートになっているか、講義を踏まえつつも、独自に学習・調査してどれだけ教育の本質について自己の見解を広げ、深めたか(学習の質と量)、さらには、文章構成や論理展開力をも評価します。しっかり学修してください。また、定期試験においては、講義内容を振り返り、論述試験として3,4問の設問にそれぞれ答える筆記試験として行います。

＜テキスト＞

特に指定はしない(講義の都度、詳細なレジュメ・資料を配付し、それをもとに授業していく)

＜参考図書＞

『解説教育六法2020』三省堂

『中学校学習指導要領 総則編』2017年

『高等学校学習指導要領 総則編』2018年

広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター

＜授業の進め方＞

『2008年学習指導要領を読む視点』白澤社

広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、
木村元ほか『教育学をつかむ』有斐閣
教育科学研究会『現代教育のキーワード』大月書店
相馬伸一『教育的思考のトレーニング』東信堂
ほか、その講義中に適宜追加提示する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション（教育の語義）

本講義のオリエンテーションとして、講義の概要・評価について述べるとともに、導入として、教育についての学生諸君の既成観念を洗い出し、教育の語義などから、その修正を図る。

第2回 人間にとっての教育とは

資料を基に、人間にとって教育とは必要かつ不可欠なものであること、また、人間が教育が可能な唯一ともいえる存在であることを示す。

第3回 人間にとって教育とは(2)

教育の本質についての考察(1)

教育、形成、学習、教化、指導など類似概念等の異同や、語義の検討をして教育についての認識を深める。

第4回 教育の本質についての考察(2)

発達の定義

前時に統いて、教育、形成、学習、教化、指導など類似概念について深めて、教育への理解を深めるとともに、発達の定義を押さえる。

第5回 発達とは何か、発達と教育との関係

人間の発達の特徴を理解し、達と保障するための諸手立てを考察する。ことについて学ぶ。また、発達と教育との望ましい関係について理解を深める。

第6回 教育学の諸概念の整理（学力、人格、個性、など）

学力、人格、個性、能力などの諸概念を吟味し、深める。

第7回 学校教育の特質と課題

（その1：定義及び歴史）

学校とは何か定義および歴史について深める。

第8回 中間テスト

中間テストによってこれまでの学習を振り返り、理解を整理・点検する。

第9回 学校教育の特質と課題

（その2：学校の機能と役割、問題点）

学校とは何か、機能と役割、問題点について深める。

第10回 教育目的の意義

学校教育の問題点の補足をした上で、学校教育における教育目的・目標の意義について考察する。

第11回 教育評価の意義と機能

教育評価と評定の違いなど、教育評価に着いての基本的知識の習得、教育評価の意義と機能、望ましいあり方などを探る。

第12回 教育評価(2)、いじめ・体罰の根絶に向けて(1)

前時の復習に加え、ポートフォリオ評価など最新の評価

方法も含め、望ましいあり方を探る。また、後半では、いじめや体罰がどうして起こるのか、その背景について考察しつつ、いじめや体罰の根絶に向けて取られている対策について解説する。

第13回 いじめ・体罰の根絶に向けて(2)、生涯学習・社会教育

いじめや体罰を根絶するにはどうすれば良いか、前時の復習をしつつ原稿の対策の意義と問題点を整理し、教育の根本原理に照らしながら考察する。あわせて、いじめや体罰が部活で多発していることから、部活と学校教育(教師)との関係を考える。また、生涯学習論誕生の背景と生涯学習論の系譜について解説する。

第14回 家庭教育・地域社会における教育

前時を踏まえて生涯学習論とその理論的背景について考察する。また、家庭教育・地域社会における教育の現状と問題点、再生方策を考察する。

第15回 全体まとめ

全体を通してのまとめと補足、総括を行う。このことにより、学習の深化・定着を図る。

2021年度 後期

2単位

教育原論

末澤 奈付子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

現在の日本の教育をささえる理念、思想、理念について学ぶことが目的である。

教育の本質、教育制度、教育の歴史、学校、教育の社会的性質などについて、学校教育に焦点をあて、基礎的な知識についての理解を深める。

<到達目標>

日本の学校教育を支える理念や思想について説明できる。日本の教育制度の基礎をなす制度とその変遷について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察することができる。

今日の学校教育が直面する諸問題について自分なりに考察することできる。

<授業のキーワード>

教育の理念 教育を支える思想 学校教育の現状と課題

日本の教育の歴史 教育改革

<授業の進め方>

講義形式及び、アクティブラーニング形式で実施。毎回、授業で、重要な点をまとめ、グループで発表したり、自分の意見や質問などをリアクションペーパーを使用し、次の時間にその質問について解説し、さらに各自の意見の内容をグループ及び全体で共有します。

<授業時間外に必要な学修>

次週の授業に関連する資料を配布、或いは参考図書の関連箇所などを紹介するので、授業前に読む(50分)。
配布されたレジュメで重要な箇所を再度復習する(30分)。
配布されたレジュメの中で特に重要な教育用語やそこでとりあげた教育問題などについて調べる(50分)。

<提出課題など>

毎回、出席カードをかねたアクションペーパーに授業での重要な点をまとめたり、自分の意見を書き、提出。質問や疑問点があれば、そのアクションペーパーに書いてもらい、次の週に回答する。

<成績評価方法・基準>

平常点と最終レポートで評価

平常点は40% - 毎回の授業後に作成するアクションペーパーをもとに総合的に評価

最終レポートは60% - 授業内容や課題の文献の内容を十分に理解しているかを総合的に評価

<テキスト>

指定しない(講義の都度、レジュメ・資料を配付)

<参考図書>

佐藤 尚子、飯嶋 香織、二見 剛史他著、『はじめて学ぶ教育の原理』学文社、2012年

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本講義のオリエンテーションとして、講義の概要・評価について説明する。また、導入として社会的な文脈のなかで学校教育について理解を深める。

第2回 日本の教育制度

教育制度の全体像を理解し法の体系を説明し、公教育について学ぶ。

第3回 公教育と教育基本法

憲法、教育基本法の教育法全体における位置づけ、教育基本法の基本的な内容の説明をおこなう。

第4回 学校教育の制度－義務教育を中心に(1)

義務教育の目的と目標、各学校の目的と目標、特別支援教育の説明をおこなう。

第5回 学校教育の制度－義務教育を中心に(2)

学級編成と学級規模、教育課程・教科書・副教材の制度の説明をおこなう。

第6回 学校教育の制度－義務教育を中心に(3)

出席停止、懲戒と体罰、学校保健、学校備付表簿をおこなう。

第7回 学校教育の制度－義務教育を中心に(4)

学校評価、学校評議員制度と学校運営協議会をおこなう。

第8回 日本における教育の思想と歴史(1)

江戸時代後半から明治の近代的公教育制度の成立までを概観する。

第9回 日本における教育の思想と歴史(2)

大正新教育運動から戦時体制下の教育までを概観する。

第10回 日本における教育の思想と歴史(3)

戦後から現在までの教育を概観し、次週の戦後の教育改

革についての基礎的な知識を学ぶ。

第11回 現在の教育改革(1)

戦後の教育を振り返りながら、教育改革の流れを概観する。

第12回 現在の教育改革(2)

義務教育改革における規制緩和と市場原理導入について概観する。

第13回 生涯学習

生涯学習に関する基礎知識を理解し、生涯学習について、歴史的・理論的に学ぶ。

第14回 特別支援教育

特別支援教育の理念、歴史的背景、現状について学ぶ。

第15回 まとめ

まとめをおこない知識の定着をはかる。

2021年度 前期

2単位

教育史

水谷 勇

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

教職の入門科目として、教育の歴史を知ることを通して、教育についての理解を深め、教師としての専門的素養の一端を身につけることを目的としている。教員採用試験も見通して授業を展開するので、採用試験対策の一つとして上回生の履修もお勧めである。

履修上選択科目ではあるが、新しい教員養成政策に基づく教員養成コアカリキュラムのうち、教育に関する歴史と思想を扱う中核科目であり、本気で教職を目指す全ての学生の履修を期待する。

本講義では、教育の歴史に関する基礎知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至までの教育及び学校の変遷を理解することも目的としている。

また、教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実践の教育及び学校との関わりを歴史的に理解することを目的としている。

こうして、教育の歴史についての基本的な知識を修得するとともに、教育の歴史を作り出し動かしてきた力についての認識を形成し、教育史研究をしていく上での初步的な知識・技術の習得を目的としている。

この授業は、積極的に参画することで、全学DP(ディプロマ・ポリシー)すべてに関わってその基礎を形成するものである。

<到達目標>

1. 人間形成・教育の歴史について、とりわけ下記の諸点を理解し、他人に対して説明できる。

- (1) . 家族と社会による教育の歴史を理解している。
- (2) . 近代教育制度の成立と展開を理解している。
- (3) . 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。
- (4) . 代表的な教育家の思想を理解している。

2 . 教育の歴史を作り出し動かしてきた力についての認識を形成し、他人に対して説明できる。

3 . 上記学修の成果を踏まえ、特定の時代における教育(制度・実践)史もしくは思想家の原著論文を読み込み、その成果レポートとしてまとめることができる。

<授業のキーワード>

教育の歴史、教育概念の成立、学校の歴史、様々な教育思想

<授業の進め方>

初回を除く各回の授業で事前に配布(非登学学生向けにはdotCampusにレジュメをpdfでアップ)した上で、配付資料を補則解説する形で授業をしていきます。配付資料によく目を通し、事前に質問意見をまとめてきて授業に参加してください。ドットキャンパスは履修登録した全ての学生が利用出来ます。なくした場合や欠席したときの補充に活用ください。

受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めます(一種の反転学習)。

<履修するにあたって>

教職課程の必修ではない任意科目であるが、教育の歴史を通して本質を理解する、必修科目の教育原論での学習を深めたり助ける大切な科目であるので、意欲ある学生の旺盛な学びを期待したい。時折、教員採用試験対策の問題を演習を行って、採用試験対策をするものの、講義自体は学問を究めることで教員としての資質を形成することを目指している。

特別警報または暴風警報発令時の場合の対応について、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を優先し、自治体の指示に従って行動してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前配付の資料をよく読んで参加すること。その他、教育や教育の歴史に关心を持って様々な書物を読むなど関連学習をして授業に参加することが望ましい。概ね1時間前後の予・復習は必須である。

<提出課題など>

教育史を研究した成果としてのレポート(2000字以上、読書感想文ではない)の提出を課します。

授業中に適宜、「学びの記録」として小レポートの提出を課します。提出された課題に対しては、次回の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

<成績評価方法・基準>

毎回の学びの記録としての小レポート(15%)

期末での2千字以上の最終レポート(30%)

定期試験(55%)

以上の成績をもとに総合判定する。レポートでは、講義内容を踏まえつつも、学生諸君がどれだけ独自の学習を展開して、自己の見識を深めているか、授業以外での学びの量と質を測定する。定期試験は講義内容をどれだけ理解出来たか、論述式の設問に講義内容をまとめて記述する筆記試験である。

<テキスト>

特になし(毎回詳細なレジュメ・資料を配布し講義していく)

<参考図書>

江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、原始社会における学習・教育

本講義の概要を説明するとともに、人間(人類)にとっての教育の意義を原始社会における学習および教育の特質の解説を通して概説する。

第2回 古代(ギリシャ・ローマ)における教育・学習
西洋教育の原点に当たる古代ギリシャ・ローマにおける教育とその特徴を解説する。併せて、中国から学ぶことが主であった日本の古代社会における教育にもふれる。

第3回 中世における教育・学習

前時の補足をするとともに、中世における教育の特質を解説する。中世は暗黒時代とよく言われるが、その根拠(正当性)と誤り(一面性)についても論究する。また、日本の中世における教育についても若干はあるが触れる。

第4回 大学の成立と発展

10世紀から始まる西洋における大学の成立史について解説し、大学教育の原点と今日発展を受講生と確認し合いたい。

第5回 ルネッサンスと教育

ルネッサンス期の生活の変化と、それに伴う教育の変容について述べる。

第6回 宗教改革の意義

宗教改革の教育的意義について触れ、今日的教育概念がここで初めて成立(完成)することも論証する。併せて日本の平安末・鎌倉期の新宗教との共通点・相違点も明確にし、日本と西洋の教育概念の相違の歴史的根拠を押さえたい。

第7回 自然科学の進歩と教育

ルネッサンス以降の自然科学の発展とそれが教育に及ぼした影響を抑える。

第8回 中間まとめ

教育学の始祖とも言えるコメニウスの教育思想を詳述し、これまでの講義の中間総括をするとともに、近代以降の

教育・教育学の発展との関わりについて論究する。

第9回 絶対主義と教育

絶対主義時代における教育の特質を押さえる。総論が主だが、各国におけるそのありようについても解説する。

第10回 18世紀の教育改革者たち

18世紀における民主主義の発展と教育思想の飛躍的前進について、ルソーとコンドルセ、ペスタロッチを中心にして解説する。

第11回 産業革命と教育

産業革命の教育に及ぼした絶大な影響について解説する。ロバート・オーエンら、教育思想家・実践家の業績にも触れる。

第12回 近代公教育制度の意義と問題点

普通教育・義務教育などを主とする近代教育制度の成立とその特徴を押さえる。

第13回 19世紀の教育思想

19世紀～20世紀の教育の発展と変容を重要人物・出来事を中心に押さえる。時代の全般的特徴と代表的人物、教育業績を概説する。

第14回 新教育運動の思想と展開、現代の教育（第2次世界大戦後の教育の発展）

19世紀末から20世紀初めにかけて、諸科学の発展とそれを受けた教育の発展が新教育という形で花開く。その背景と特徴、代表的人物などを押さえる。現代の教育思想の特徴と教育改革を支える思想の特徴についても受講生と意見交換し、お互いに高め合いたい。

第15回 総括・まとめ

第2次世界大戦後の教育の発展を振り返り、現代教育の課題とこれからの教育のあり方を歴史から読み解く。また、本講義の総括的まとめを行い、定期試験対策を行う。

2021年度 前期～後期

2単位

教育実習

立田 慶裕

＜授業の方法＞

実習

＜授業の目的＞

教育実習とは、教育職を志す学生が、大学で学んできた教育についての理論・知識・技術を実際に学校教育の現場で体験する学習機会をいう。教育実習において、実習生は経験豊かな教員の指導、助言、援助のもとで、教育実践に意欲的に取り組み、大学で学んだ理論・知識と学校での教育実践を統合するように努力することが必要とされる。こうした教育実習の機会をとおして、実習生は教員の教育活動を観察し教育実践を体験する中で、教員に必要とされる資質・能力を理解するとともに、教師の責任の重大さを自覚する。また、教育実習をとおして学

校生活を共にする中で、子ども理解を深める。

以上の授業から、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して学ぶ態度が身につくようにする。

担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

＜到達目標＞

到達目標は以下の3点になる。 教育実習によって、学校教育の実態と課題を論じることができる。 教育実習によって、教育課程としての教科・科目、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の指導ができる。 教育実習によって、教師の使命、職務、責任を自分の考えで表現することができる。

＜授業のキーワード＞

教育実習生 学校 教員免許 生徒指導 学業指導

＜授業の進め方＞

中学校教員免許取得希望者は3週間、高等学校教員免許取得希望者は2週間、実際の学校現場で実習を行う。

＜履修するにあたって＞

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、この科目を履修し、単位を修得しなければならない。

＜授業時間外に必要な学修＞

専門教科の教材研究などは、実習期間前に一ヶ月程度の間で準備をし、

実習中は毎日、2時間以上をかけて校務の準備に努めなければならない。

実習後は、実習レポートの作成に2時間以上を要する。

＜提出課題など＞

教育実習日誌と簡単なレポートの提出を求める。

＜成績評価方法・基準＞

教育実習日誌、教育実習反省記録、実習校からの教育実習成績評価表などを考慮して総合的に評価する。各回のミニツツレポートでの評価を80%、総括レポート20%で評価する。

＜テキスト＞

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

＜参考図書＞

特になし

＜授業計画＞

4月 事前指導後の取組

教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

5月前半 教育実習への準備

収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に行う。

5月後半 実習校との連絡

実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料を再点検する。

6月前半 実習校訪問教員との打ち合わせ

ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

6月後半 実習の反省と事後指導

実習日誌の記載等をとおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。（振り返りシートの作成）

7月前半 後期実習生を中心に事前指導後の取組

後期実習生を中心に、教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

7月後半 後期実習生を中心に教育実習への準備

後期実習生を中心に、収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に行う。

9月後半 後期実習生を中心に実習校との連絡

後期実習生を中心に、実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料等を再点検する。

10月前半 後期実習生を中心に実習校訪問教員との打ち合わせ

後期実習生を中心に、ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

10月後半 後期実習生を中心に、実習の反省

後期実習生を中心に、実習日誌の記載等をとおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。（振り返りシートの作成）

2021年度 前期～後期

2単位

教育実習

立田 慶裕

＜授業の方法＞

実習

＜授業の目的＞

教育実習とは、教育職を志す学生が、大学で学んできた教育についての理論・知識・技術を実際に学校教育の現場で体験する学習機会をいう。教育実習において、実習生は経験豊かな教員の指導、助言、援助のもとで、教育実践に意欲的に取り組み、大学で学んだ理論・知識と学校での教育実践を統合するように努力することが必要とされる。こうした教育実習の機会をとおして、実習生は教員の教育活動を観察し教育実践を体験する中で、教員に必要とされる資質・能力を理解するとともに、教師の責任の重大さを自覚する。また、教育実習をとおして学校生活を共にする中で、子ども理解を深める。

以上の授業から、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同

して学ぶ態度が身につくようになる。

担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。
＜到達目標＞

到達目標は以下の3点になる。 教育実習によって、学校教育の実態と課題を論じることができる。 教育実習によって、教育課程としての教科・科目、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の指導ができる。 教育実習によって、教師の使命、職務、責任を自分の考えで表現することができる。

＜授業のキーワード＞

教育実習生 学校 教員免許 生徒指導 学業指導

＜授業の進め方＞

中学校教員免許取得希望者は3週間、高等学校教員免許取得希望者は2週間、実際の学校現場で実習を行う。

＜履修するにあたって＞

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、この科目を履修し、単位を修得しなければならない。

＜授業時間外に必要な学修＞

専門教科の教材研究などは、実習期間前に一ヶ月程度の間で準備をし、

実習中は毎日、2時間以上をかけて校務の準備に努めなければならない。

実習後は、実習レポートの作成に2時間以上を要する。

＜提出課題など＞

教育実習日誌と簡単なレポートの提出を求める。

＜成績評価方法・基準＞

教育実習日誌、教育実習反省記録、実習校からの教育実習成績評価表などを考慮して総合的に評価する。各回のミニツツレポートでの評価を80%、総括レポート20%で評価する。

＜テキスト＞

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

＜参考図書＞

特になし

＜授業計画＞

4月 事前指導後の取組

教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

5月前半 教育実習への準備

収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に行う。

5月後半 実習校との連絡

実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料を再点検する。

6月前半 実習校訪問教員との打ち合わせ

ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのア

ドバイスをもらうような指導を行う。

6月後半 実習の反省と事後指導

実習日誌の記載等をとおして教育実習全体を振り返る。

内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。

(振り返りシートの作成)

7月前半 後期実習生を中心に事前指導後の取組

後期実習生を中心に、教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

7月後半 後期実習生を中心に教育実習への準備

後期実習生を中心に、収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に行う。

9月後半 後期実習生を中心に実習校との連絡

後期実習生を中心に、実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料等を再点検する。

10月前半 後期実習生を中心に実習校訪問教員との打ち合わせ

後期実習生を中心に、ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

10月後半 後期実習生を中心に、実習の反省

後期実習生を中心に、実習日誌の記載等をとおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。(振り返りシートの作成)

2021年度 前期～後期

1単位

教育実習事前・事後指導

立田 慶裕、井上 豊久、小島 麻由、小林 麻貴、
道城 裕貴、水谷 勇、山下 恒

<授業の方法>

講義、実習、演習

<授業の目的>

中等教育学校教員免許状を取得するために必要な教育実習の事前説明会、教職課程ガイダンス、教育実習事後反省会などを通じて、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して主体的に学ぶ態度が身につくようにする。担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

<到達目標>

目標 1. 事前指導では、教育実習担当教員による一般的説明と具体的説明により、教科指導ならびに教科外指導及び生徒指導の教育技術などを学ぶことで、教育実習に必要な知識や技術を身につけることができる。2. 事後指導では、教育実習の経験を踏まえて、学校教育の実態についての反省的思考を深め、今後の進路選択につ

いて決定することができる。

<授業のキーワード>

教育実習 教員免許状 学校 教材研究 生徒指導 校務 勤務

<授業の進め方>

多くの教員による講義と演習を実施する。講義については多くは教育実習に関する知識とスキルを学び、心構えについて考える機会となる。演習については免許状の教科ごとに授業実践力を高める。また教育実習を振り返り、反省を行う。

<履修するにあたって>

教育実習に参加する者を対象とした授業であり、実習参加要件を満たしていることが必要である。

<授業時間外に必要な学修>

3日間の集中講義を行う予定であるので、前日に1時間程度の予習をしておくことが望ましく、

講義後は、1時間程度でその日の講義内容をまとめるこ

<提出課題など>

簡単なレポートの提出を求める。

<成績評価方法・基準>

各種の授業・説明・ガイダンスへの参加意欲や態度、提出物を考慮して総合的に評価する。各回のミニツッレポートでの評価を80%、総轄レポート20%で評価する。

<テキスト>

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 教育実習オリエンテーション

オリエンテーションの実施 挨拶と心構え 教務上の注意

第2回 教育実習に向けて

教育実習に向けて準備すること

第3回 教育実習に向けて

教育実習生としての心構え

第4回 教育実習中の教材研究準備

教材研究の方法

第5回 教育実習中の教材研究準備

教材研究の方法

第6回 教育実習中の生活

教育実習中の過ごし方

第7回 教育実習中の生活

教育実習中の生活と行動

第8回 教育実習に向けて

教育実習生としての心構え

第9回 生徒指導について

中学校での校務としての生徒指導

第10回 教育実習に向けて

教育実習生としての心構え

第11回 教育実習に向けて 学校組織と校務分掌の理解と活用	は退室を求める場合があることを理解願いたい。
第12回 教育実習に向けて 教育実習中の特別活動	<授業時間外に必要な学修>
第13回 教育実習中の生活 教育実習中の過ごし方	それぞれの終わりにレポートを学修されたかの確認レポートを課します。よって、その課題のために適切な復習をして下さい。該当箇所は授業中に知らせます。
第14回 生徒指導について 高等学校での校務としての生徒指導	<成績評価方法・基準>
第15回 教育実習の事後反省 教育実習の事後報告と反省	単元ごとのレポートを求め、その内容を成績の対象とする

2021年度 前期

2単位
教育心理学/教育心理学
石野 陽子

<授業の方法>

対面型授業を行ないます(日時は20210308現在未定。例年8月頃に実施しています)。ただし、本務大学の疫病対策ガイドラインによってはオンライン授業(オンデマンド)となる場合があります。問い合わせの際は「大学名、学部名、学年、学籍番号、氏名、履修科目名」以上6点を件名と本文のはじめに必ず記すこと。上記の記載がなければメールを確認しないこともあるので気を付けること。

<授業の目的>

当然のことながら教員とは、各教科をどのように教えるか等享受者としての本務を担っている。しかし、それと同時に、子ども一人一人の身体的心理的発達の理解と支援をも期待される存在である。まさに成長期にある子ども達は、他者との関わりや文化・社会からの影響等によって、パーソナリティを形成し興味・関心を変容・拡大させるときである。教員はその変化をとらえ、場合によっては的確な指導を行わなければならない。ここでは、教育に対して心理学がどのように貢献しているかを学んだ上で、人がどのように身体的心理的発達を行なっているかを概観する。

<到達目標>

教育心理学の基礎を理解し、実践できる土台を養う

<授業の進め方>

【2021年度】対面型もしくはオンライン型講義により授業を行ないます(「授業の方法」欄参照)。各回では課題レポートを出します。

【例年】テーマによっては小実験や話し合い活動を行なう。また、その結果などをまとめたものの提出を求める。よって、講義への積極的参加を期待する。私語など授業の進行を妨げる行為は一切認めない。非常に悪質な場合

は退室を求める場合があることを理解願いたい。

<授業時間外に必要な学修>

それぞれの終わりにレポートを学修されたかの確認レポートを課します。よって、その課題のために適切な復習をして下さい。該当箇所は授業中に知らせます。

<成績評価方法・基準>

単元ごとのレポートを求め、その内容を成績の対象とする

<テキスト>

杉森伸吉 他 (2020) コアカリキュラムで学ぶ教育心理学 培風館

<参考図書>

絶対役に立つ教養の心理学 ミネルヴァ書房

<授業計画>

第1回 教育心理学の定義・領域・歴史
教育心理学の研究方法を学ぶ内容を概観する

第2回 研究の方法

教育心理学の研究方法を学ぶ

第3回 発達

発達に関する理論を学ぶ

第4回 発達の過程

発達はいつどのようになされるのかを概観する

第5回 学習・記憶・問題解決の基礎

学習・記憶の定義を知る

第6回 障害のある幼児、児童及び生徒の学習過程

障害児の学習過程を概観する

第7回 教授学習過程 プログラム学習 発見学習 有意義受容学習

プログラム学習、発見学習などを確認する

第8回 教授学習過程 小集団学習 オープンスクール

総合学習

小集団学習、オープンスクールなどを確認する

第9回 人格・性格の概念と形成

人格・性格の概念とその形成のされ方を概観する

第10回 知能の概念と発達

知能とその概念を確認する

第11回 動機づけと学習意欲
学習への動機づけと意欲について考える

第12回 教育評価 目標 分類
教育評価に関する目標と分類を考える

第13回 教育評価 最近の動向
教育評価に関する最近の動向について確認する

第14回 発達課題
発達段階とその課題について確認する

第15回 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達過程

障害児の発達過程を概観する

2021年度 後期

2単位
教育心理学/教育心理学
道城 裕貴

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

教育心理学は、教職に関する科目でもあり、配当年次は2年次生、中高共通必修科目です。

学校教育においては、非行、学級崩壊、不登校、いじめ、中1ギャップ、小1プロブレムなど、最近ではSNSなどに関わる問題も注目を集めており、時代を反映するような諸問題が存在しています。これらの諸問題にともなって、心理学の実践研究やアプローチは常に行われてきています。そして、「生きる力」や「自己教育力」などが必要とされている現代社会においては、日々変化する社会と合致した学校教育、あるいは学校教育のあり方を考える必要があるといわれています。それらを踏まえ、本講義においては、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な力を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とします。

「教育心理学」は一般心理学を教育に応用する応用心理学の一領域、あるいはそれにとどまらない教育実践の中で独自の目的と理論をもつ実践科学であるとするなど、さまざまな捉え方があります。研究領域は、大きく分けて一般的に「発達」「学習」「適応」「評価」の4領域とされることが多いです。教育心理学において行われてきた研究知見や学校に存在するさまざまな問題への答えとなるような事象を学びましょう。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児

童生徒および教職員に対する10年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を続けている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

<到達目標>

幼児、児童及び生徒の発達に対する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し、説明できる。（知識）

様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、説明できる。（知識）
主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特長と関連付けて理解している。（知識）

教育心理学における代表的な研究知見について意見を述べることができる。（知識）

学校教育と教育心理学の関連について興味を持つ。（態度・習慣）

<授業のキーワード>

学校教育・発達・学習・適応・評価・学級集団

<授業の進め方>

講義形式で行います。

<履修するにあたって>

毎回、授業に関する資料を配付します。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。課題に取り組む際にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと（目安として30分）。

<提出課題など>

毎回の授業の内容に関する小テストへの解答もしくは小レポートの提出を求めます。またそれらの代替として大レポートも課します。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。なお小テストの正答およびレポートのフィードバックについては次回の講義冒頭で行うとともに補足の解説を行います。

<成績評価方法・基準>

小テスト・小レポート等100%

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

はじめに、授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明します。

第2回 教育心理学とは

教育心理学とは何か、その歴史、主要な4領域、学校教育の最新事情について概説します。

第3回 領域 「発達」

発達の基礎として、たとえば幼児、児童及び生徒の認知・言語の発達と教育、感情・社会行動の発達と教育、心

身の発達の規定要因、初期経験の重要性、代表的発達理論等を概説します。

第4回 領域 「学習」

学習の基礎として、学習のメカニズム（学習理論）、記憶と知識の獲得、心の理論などについて概説します。

第5回 領域 「適応」

適応の基礎として、適応とは何か、適応規制、ストレスについて概説します。

第6回 領域 「評価」

評価の基礎として、教育評価の理論的枠組みや評価の類型等について概説します。

第7回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、内発的及び外発的動機づけ、無気力、原因帰属について解説します。

第8回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、学習指導や主体的学習に関する研究知見を解説します。例えば、知的能力の発達、学業不振、学習性無力感などです。

第9回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、学習指導に関する研究知見を解説します。例えば、セルフモニタリング、適性処遇交互作用、自己調整学習、教授法などです。

第10回 領域 「適応」研究知見

領域 「適応」の続きとして、学校不適応に関する研究知見を解説します。例えば、いじめ、不登校、非行、学生相談などに関わるものです。

第11回 領域 「適応」研究知見

領域 「適応」の続きとして、学校不適応に関する研究知見を解説します。例えば、自己効力感、学校適応感、居場所感などです。

第12回 研究 「評価」研究知見

領域 「評価」の続きとして、教育評価に関する研究知見を解説します。例えば、様々な評価方法、学習観点、指導要録と通知表などです。

第13回 領域 「評価」研究知見

領域 「評価」の続きとして、教育評価に関する研究知見を解説します。例えば、学力観、知性観、児童生徒への心理的影響、海外の実践などです。

第14回 学級集団

4領域の補足として、集団づくり、学級集団の意義、特徴、その発達、リーダーシップなどについて解説します。

第15回 まとめ

本講義の全般的なまとめを行い、教育心理学に関する理解を深める。

2021年度 前期

2単位

教育制度論/教育制度論

立田 慶裕

<授業の方法>

講義

講義では、LMSのmanabaを利用します。

<授業の目的>

教育制度について、教育がなぜ社会で必要とされるのかを考えることから始め、その教育を実現するための社会制度としての教育制度についての基本的知識を習得する。さらに、教育制度の基本としての教育基本法の意義を理解し、その目標実現のためにはどのような制度が必要かを探求する。加えて、現代の日本の教育制度の現状を欧米諸国の制度と比較しながら、その課題を考える。この目的達成のため、本学DPの専門的知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力と共に、主体的に深い学びを行うことを目指す。国立教育政策研究所にての20年以上の教育研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

<到達目標>

教育制度についての認識を持ち、その意義を説明でき、積極的に考える態度を持った学生の形成を到達目標とする。具体的には、教育制度の重要性、とりわけ教育基本法に則る公教育行政と制度の現状と課題について明確な認識を持ち、考え、問題に対処できる学生を育成する。社会の変化に応じた急速な教育改革の進行の中、現代の教育課題についての問題意識を持ちながら、実践的な教育問題の解決力を備えた学習者へと成長できることを期待する。特に、教職課程の学修を目指す学生には、教員という立場から現代の教育制度の課題について建設的な議論ができるることを目標とする。

<授業のキーワード>

教育制度、公教育思想、学校教育制度、教育基本法、教育行政、小学校、中学校、高等学校、大学、生涯学習

<授業の進め方>

講義を基本とする。各講義の内容については、基本的な知識の習得のために、小テストやレポートを課する。またオンライン講義では、manabaを利用します。

講義では、

第1回の講義では、対面講義を行う。

第2回以降は、オンライン講義とする。

各講義の動画は、one drive 上と、dot.campus(4月22日以降)に掲載する。

レポートとアンケートは、manabaで提出すること。

manabaの利用は別途、受講者に連絡する。

<授業時間外に必要な学修>

講義の事前学習として、シラバスに表示されているテーマについての情報収集を行うこと。事後学習としては、毎回の授業終了後提供する、講義のコンテンツについて、振り返り学習を行い、自身のポートフォリオに制度論ノートを作成するようにしていくこと。

<提出課題など>

オンライン上のアンケート回答。プロジェクト学習でのレポート提出等。

<成績評価方法・基準>

講義中に実施する課題レポート（200字以上のアンケート形式）による形成的評価と、

総括的なレポートのレポート提出（1回）

および最終テストで評価する。

テストでは6割以上の得点の習得

総括レポートは、A4版用紙（1200字）×3枚以上を下限とし、内容、参考・引用文献などのレポートの形式の遵守を基準として評価する。

<参考図書>

指定図書は、各講義で示す。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目的、講義の内容、方法、評価法についての説明と講義への動機付けのための教材を提供する。

第2回 近代以前の学校

世界と日本の教育史として、近代以前の教育制度について講義する。

第3回 公教育の思想史

欧米および日本における教育思想を中心にその概略を説明し、公教育がなぜ必要とされるようになってきたかを論じる。

第4回 近代学校制度の成立と展開

日本における明治から大正、昭和戦前期までの教育制度の歴史を講義し、いかに現代の教育制度へと展開されるようになってきたかを講義する。

第5回 戦後の学制改革

第2次世界大戦後の日本において、教育制度がどのように形成されていったかを講義する。20世紀後半までの教育制度について論じる。

第6回 教育基本法とは何か

第1回から第5回までの講義内容について、知識確認のため、小テストを行い、学生の知識の定着化を図る。さらに、戦後教育の要となる教育基本法の内容とその意義、改正された教育基本法について論じる。

第7回 学校と教育行政1

教育行政として、学校に大きく関わる文部科学省と地方教育行政の組織やその活動について論じ、教育委員会が持つ役割を論じる。

第8回 学校と教育行政2

小学校、中学校、高校を中心に学校の組織構造を論じ、学校管理職や教員の役割、そして学校の運営、チーム学

校やカリキュラムマネジメントの重要性等について論じる。

第9回 義務教育制度の現状と課題

小学校、中学校の教育制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じると共に、プロジェクト学習を行い、その成果をレポートとして提出する。

第10回 後期中等教育制度の現状と課題

高校を初めとする後期中等教育の制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じる。

第11回 高等教育制度の現状と課題

大学や大学院の教育制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じると共に、プロジェクト学習を行い、その成果をレポートとして提出する。

第12回 生涯学習と社会教育の展開

戦前からの社会教育や20世紀後半に発展した生涯学習の制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じる。同時に、政府が戦後展開してきた教育制度改革について、これまでの歴史をふり返るとともに、現在の教育改革がどのように進められているか、新たな学習指導要領の内容を含めて論じ、現在の課題を講義する。

第13回 総括的評価

第6回から第12回までの講義から、学生自身が興味を持つテーマを選択させ、そのテーマについて、自分が得た認識と解決すべき問題について考えるレポートを総括的な評価の方法として提示する。レポートの構成、評価のポイントを提示することで、学生自身がより高度な内容のレポートを作成できるよう指導する。オンラインでの提出とする。

第14回 参考文献紹介

参考文献を紹介する。

第15回 Q & A

疑問のある人への回答機会とします。オンラインでの質問に回答します。

2021年度 後期

2単位

教育制度論/教育制度論

山下 恭

<授業の方法>

○「講義」（対面授業）

<授業の目的>

教育制度について、その変遷を深く学ぶ。教育がなぜ社会で必要とされるのかを考えることから始め、その教育を実現するための教育制度についての基本的知識を習得する。さらに、教育基本法の意義を理解し、その目標実

現のためにはどのような制度が必要かを探求する。加えて、現代日本の教育の現状を分析しその課題を考える。講師は中学校8年、高等学校33年の教員歴と、大学教職課程専門科目の11年の教師経験をもつ実務家教員です。

<到達目標>

教育制度についての興味関心を持ち、その重要性を説明でき、積極的に教育制度を考えることができる。具体的には、教育基本法に則る公教育行政と制度の現状と課題について明確な認識を持ち、考え、問題に対処できる学生を育成する。社会の変化に応じた急速な教育改革の進行の中、現代の教育課題についての問題意識を持ちながら、実践的な教育問題の解決力を備えた学習者へと成長できることを期待する。特に、教職課程の学修を目指す学生には、教員という立場から現代の教育制度の課題について建設的な議論ができる目標とする。

<授業のキーワード>

戦後の教育改革 教育制度、公教育思想、学校教育制度、教育基本法、教育行政、小学校、中学校、高等学校、大学、生涯学習

<授業の進め方>

講義を基本とする。各講義の内容については、基本的な知識の習得のために、レポートを課する。

<履修するにあたって>

出席が10回に満たない場合には評価の対象になりません。したがって必ず10回以上の出席が必要です。授業に臨むにあたっては、携帯電話・スマートフォンの電源は切ってください。また机上に飲食物など置かないでください。20分を超えての遅刻は認めません。出席カードは配布しません。

<授業時間外に必要な学修>

講義の事前学習として、シラバスに表示されているテーマについての情報収集を行うこと。新聞や雑誌の切り抜きや、気づいたことを記録するなど積極的に取り組むこと。

<提出課題など>

随時課題レポートを課します。課題テーマは授業で指示します。

<成績評価方法・基準>

講義中に実施する毎回の出席カード（manabaアンケート欄に感想）による評価と、総括的なレポート課題、指定図書の購読によって評価する。また定期考査は実施しない。

<テキスト>

文部省「学制百年史」、「学制百二十年史」

兵庫県「兵庫県百年史」など。必要なものは講師が用意します。

<参考図書>

指定図書は、各講義で示す。

文部科学省のホームページ、国立教育政策研究所のホー

ムページを随時参考とすること。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介、講義の目的、講義の内容、方法、評価法についての説明と講義への動機付けのための教材を提供する。

第2回 近代以前の学校

日本の近代以前（江戸時代）の教育制度について講義する。

第3回 近世の教育

兵庫県下の藩校・私塾などについて考える

第4回 明治期の教育（1）

明治初期の学校制度について考える。学制発布。文部省の設置などの意義について考える。

第5回 明治期の教育（2）

教育令・改正教育令・学校令の施行。教育勅語の制定と教育制度

第6回 大正期の教育

大正デモクラシーと大正自由教育運動の展開

第7回 昭和前期の教育

戦前の軍国主義教育・学童疎開・学徒動員・学徒出陣について考える。

第8回 戦後の教育改革（1）

GHQの改革とアメリカ教育視察団の提言

第9回 戦後の教育改革（2）

教育基本法を学ぶ。内容の紹介と解説。

第10回 戦後の教育改革（3）

学校制度の再構築。小学校と新制中学校・高等学校について考える。

第11回 主権回復と教育制度

講和条約締結後日本の主権は回復します。それ以降日本の教育はどのように変わったのだろうか。

第12回 高度経済成長と教育

高度経済成長期に日本の社会は豊かになり、高校や大学への進学率は急速に伸びる。この当時の教育について考える。

第13回 国際化社会と高度情報化社会の到来と教育

国際化の進展と高度情報化社会の到来。教育現場はどのように対応していくのだろう。

第14回 学習指導要領の役割

学習指導要領の現代までの変遷を学び当時の社会との関連を考える

第15回 現代教育の現状と課題

現代教育は社会の変化にどのように対応しようとしているのか。現状を分析して今後の教育現場の在り方について考える。

2021年度 後期

2単位

教育相談（カウンセリングを含む。）/教育相談

石野 陽子

＜授業の方法＞

対面型授業を行ないます（日時は2021.3.8現在未定。例年は2月頃実施。）。

ただし、本務大学の疫病対策ガイドラインによってはオンライン授業（オンデマンド）となる場合があります。問い合わせの際は「大学名、学部名、学年、学籍番号、氏名、履修科目名」以上6点を件名と本文のはじめに必ず記すこと。

上記の記載がなければメールを確認しないこともあるので気を付けること。

＜授業の目的＞

教育相談とは、成長期にある子どもが諸問題を抱えた時、本人や本人を取り巻く者に対して望ましい相談活動や援助を行なうことである。ここでは、学級という集団や教育評価の特性と問題点を学び、現場における教育相談の役割と方法について、実践を交えながら理解を深める。

＜到達目標＞

教育現場で相談業務を行なうことの意義を身につけ、実践できる土台を養う

＜授業の進め方＞

【2021年度】対面型もしくはオンライン型講義により授業を行ないます（「授業の方法」欄参照）。各回では課題レポートを出します。

【例年】テーマによっては小実験や話し合い活動を行なう。また、その結果などをまとめたものの提出を求める。よって、講義への積極的参加を期待する。私語など授業の進行を妨げる行為は一切認めない。非常に悪質な場合は退室を求める場合があることを理解願いたい。

＜授業時間外に必要な学修＞

【2021年度】レポートに費やす時間が必要となります。

【従来】この授業は4期に分けられ、それぞれの終わりにレポートを学修されたかの確認レポートを課します。よって、その課題のために適切な復習をして下さい。該当箇所は授業中に知らせます。

＜成績評価方法・基準＞

【2020年度】資料の閲覧をしているか20%、レポートの提出30%、レポートの内容50%で評価します。

【従来】出席は当然しなければならない。レポート50%、小レポート20%、授業での発言とその内容30%

＜テキスト＞

「絶対役立つ教育相談 学校現場の今に向き合う」 藤田哲也、水野治久、本田真大、串崎真志 ミネルヴァ書房 ISBN:9784623081097

＜授業計画＞

第1回 教育評価

教育評価の歴史と昨日、方法と分類

第2回 教育評価

教育評価の歴史と昨日、方法と分類

第3回 学習環境としての集団

学級の特質と理解、発達と指導

第4回 学習環境としての集団

学級の特質と理解、発達と指導

第5回 教育相談

意義と役割、組織と方法、診断と処遇

第6回 教育相談

意義と役割、組織と方法、診断と処遇

第7回 教育臨床

教育臨床の意味、教育相談との関係、学校心理士の活動内容

第8回 教育臨床

教育臨床の意味、教育相談との関係、学校心理士の活動内容

第9回 心身障害の理解

障害の分類と程度、心身障害と発達、発達保障とQOL

第10回 心身障害の理解

障害の分類と程度、心身障害と発達、発達保障とQOL

第11回 適応障害の理解

適応の仕組、適応障害のタイプ、発現の要因と対応

第12回 適応障害の理解

適応の仕組、適応障害のタイプ、発現の要因と対応

第13回 適応障害の理解

適応の仕組、適応障害のタイプ、発現の要因と対応

第14回 症例と対応

症例を確認しながらどのような対応を取るべきか考える

第15回 症例と対応

症例を確認しながらどのような対応を取るべきか考える

2021年度 前期

2単位

教育相談（カウンセリングを含む。）/教育相談

竹田 剛

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

この科目では、全学部DP3に示す「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して解決・解明へと導くことができる」こと、全学DP5に示す「多様な他者と共に存して、異なる価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」ことを目指します。

教育相談は、教職を目指すなかで、個々の児童生徒を理解し教育活動を行う上で重要なスキルであり概念でもあります。本授業では、小学校から高校までの児童思春期の子どもたちの心理的発達プロセスとそのアセスメントに始まり、カウンセリングの基本的な技法、学校における連携や協働、児童虐待やいじめ、不登校、発達障害を持つ子どもへの対応といった学校現場における重要な課題への理解と具体的な対について学ぶとともに、保護者への対応や教師自身のメンタルヘルスについても学んでいきます。自分が教師になった時に起こり得る状況をイメージしながら、具体的な対応力につけることを目標とします。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児童生徒および教職員に対する5年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を続けている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

<到達目標>

<知識> 教育相談に関わる基本的知識を獲得し説明することができる。

<体験> ミニワークを体験することを通じて自己理解を深め、児童生徒や保護者といった他者理解につなげることができる。

<技能> カウンセリングの基本的技能を習得し、ロールプレイを通して実際に活用することができる。

<授業のキーワード>

児童生徒の理解とアセスメント 学校現場での心理的課題とその対応 保護者の理解と対応および教師自身のメンタルヘルス

<授業の進め方>

・テキストを使います。講師からテキストの要点を示したレジュメを配布しますが、適宜テキストに示された資

料を参照したり、テキストに記載されたワークを行うよう勧めたりしますので、必ずテキストを持参してください。

・教育相談は、基本的な知識と実際的なスキルが両輪となって、現場で使える技能にすることができます。受講生同士での意見交換や学校現場での具体的な場面を想定したロールプレイなど、体験型のワークを取り入れて行きますので、積極的に参加するようにしてください。

<履修するにあたって>

ニュースや報道で「教育相談」に関する時事ニュースに关心を持ちましょう。社会の風潮は即教育現場に反映しますし、教育現場での事件は社会的にも耳目を引きます。子ども達を社会全体で育てるこことを目指しつつ、学校では何ができるのかを考える視点が重要です。

<授業時間外に必要な学修>

・90分の予習。テキストを予め読み込んでください。授業中にすべてを読んでいくことはできません。

・講義後は、内容定着のための復習を60分行ってください。

<提出課題など>

授業の内容に関するミニレポートの提出ないしは小テストへの回答を求めます。次回以降の講義にてフィードバックと補足の解説を行います。

<成績評価方法・基準>

各授業内容に関するミニレポート課題ないしは小テスト課題60%、2回の中間テスト課題20×2=40%。ただし全課題の3分の2以上の提出を単位認定の要件とする。

<テキスト>

『改訂版 教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子

2019年 北樹出版 2000円+税

<参考図書>

授業の中で適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 本講義についてのガイダンス

「教育相談」の全体的な流れと授業への取り組み方について教示した後、キーワードを通して本講義の全体像をつかむ。

第2回 第1章 教育相談とは

いまなぜ「教育相談」が求められているのか、現場の課題を示しつつ、教育相談の形態と方法について学びます。

第3回 第2章 児童・思春期の発達とアセスメント

児童・思春期の子どもの発達理論を概観します。アセスメントについて理解し、その方法を学びます。また教師の立場でできるアセスメントについて考えていきます。

第4回 第3章 カウンセリングの基本を学ぶ

カウンセリングに関する基本的な知識を学んだ上で、具体的なカウンセリングの技法を体験的に学びます。二人組～3人組でロールプレイを行い体験的に学習します。

第5回 第4章 学校における連携と協働

教育現場におけるカウンセリングをコミュニティ心理学の視点から見ていきます。学校における連携の大切さと具体的な方法について学んでいきます。

第6回　まとめ1

第1章から第4章までの内容についてのまとめ1を実施し、関連する内容について補充教材で学習します。

第7回　第5章　児童虐待への理解と対応

児童虐待についての基本的な知識を学び、虐待が子どもに及ぼす影響について考えていきます。被虐待を疑った際の学校の対応についても学んで行きます。

第8回　第6章　特別支援教育を必要とする子どもたち発達障害についてその概念と種類について学び、ADHD、LD、ASDの各発達障害の子どもへの理解と対応について具体的な例に基づいて学びます。

第9回　第7章　不登校の子どもの理解と対応

不登校について基本的な知識を学んだ後、状態に応じた適切な対応について、家庭での支援および教師による支援について学びます。

第10回　第8章　いじめの被害者・加害者への理解と対応

いじめについて、我が国における対策について法律を含めた知識を学び、いじめの四層構造、ネット上のいじめ、いじめ防止のためにすべきことについて概要を学びます。また、学校での被害者・加害者に対する具体的な支援について考えていきます。

第11回　まとめ2

第5章から第10章までの範囲についてまとめ2を実施します。その後、この範囲に関連する内容を補足資料を用いて学習します。

第12回　第9章　学校における危機介入と心のケア

学校における危機とは何かについて概観した後、学校への緊急支援について学びます。またトラウマとそのケア、自殺予防について学び、危機を回避するための日常的な対応について考えます。

第13回　第10章　非行問題への理解と対応

少年非行について行動説明や心理的特徴について学んだのち、非行少年との関わり方、および外部機関との連携について学びます。

第14回　第11章　保護者の理解と対応

保護者との関係作りは学校現場は必須の事項です。保護者とどのようにコミュニケーションをとるか、学校での様子を伝えるか等について学んだのち、具体的な保護者との面談場面で心がけることについて学習します。

第15回　第12章　教師のメンタルヘルス

教室のメンタルヘルスについて、ストレスとコーピング、燃え尽き症候群の予防の観点から学習します。また日本の教師の置かれた立場を踏まえての教師のメンタルヘルスの向上について学んでいきます。

2021年度 後期

2単位

教育方法論

立田 慶裕

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により学ぶ。特に今後学校教育において展開される教育方法として、学習の動機付けと学習スキルを大きく向上できる「調べる学習」に焦点を当て、児童・生徒が自ら知識を生成するプロセスを支援できるような教材作りを実践を通じて学ぶ。同時に、授業を運営する方法としてのカリキュラムマネジメントのスキルを習得する。本講義によって、本学のDPに掲げられた教員としての専門知識とスキル、協働して活動できる社会的態度の形成を目指す。

<到達目標>

到達目標として次のことができるることを目指す。

(1) 教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を行う。

(2) 多様な学習方法を学び、それらを教育の場で実践的に活用できる。

(3) ITを活用した多様な学習方法を学び使える。

(4) 自己の学習マネジメントとカリキュラムマネジメントができる。

(5) 教科に応じた調べる学習を支援できる。

(6) 児童・生徒の調べる学習を支援できる教材をマルチメディアで作成できる

<授業のキーワード>

教育方法、ポートフォリオ、調べる学習、マルチメディアの教材作成、カリキュラムマネジメント

<授業の進め方>

授業では、いろいろなグループワークも課しますし、パソコンやスマホを学習のツールとして活用します。Youtubeを見たり、本を読んだり、映画を見たり、できるだけ、学ぶことが楽しい授業を目指します。

学習システムとして、manabaを利用します。

まずは、学習への動機付けを行うアイスブレイクの手法を実践的に学び、相互理解を深める。いくつかのアイスブレイクができるようになれば、各教科に応じた教育法として、調べ学習や知識の整理法、データベースの作り方を学び、多様な学習法を用いた学習成果を生み出し、対話的な学習法による形成的評価の方法を学んでいく。

学習とカリキュラムをマネジメントの観点から考え、生徒に指導できるよう、多様な授業の方法と学習法を学ぶ
<履修するにあたって>

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

<授業時間外に必要な学修>

自宅でも、他の講義でも、自分なりのノートのまとめ方を工夫していってください。ノートテイキングは、教育や学習の基本となりますので、他の講義でも自分なりの生涯使えるノートを作っていてください。ポートフォリオは、自宅でも利用し、授業1回につき、事前・事後4時間程度の予習、復習をしてください。

<提出課題など>

オンライン上のアンケート回答。プロジェクト学習でのレポート提出等。

<成績評価方法・基準>

成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニツレポート15回(40%)、中間課題レポート2回(40%)、最終課題レポート(20%)の総合判断。

<参考図書>

各回に指示

<授業計画>

第1回 オリエンテーション 教育の方法

講義の目標、内容と方法、評価の説明 教育の方法の基本的考え方を説明する

第2回 多様な学習法

アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、実践的に体験する。

第3回 教育の情報源データベース

教育的知識の基本となる情報源データベースを作成する

第4回 探求学習の内容と方法

実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討し、近年発展をとげる「調べる学習」=探求学習の指導要領上の位置づけを学ぶ。

第5回 授業の計画

eポートフォリオの活用法を学び、プロジェクト学習として、年間授業計画と指導案のデータベースを作成する

第6回 授業の方法(1)

基本的な教育法として、板書とノート作成の方法のレポートを、eポートフォリオを用いたプロジェクト学習により作成する。

第7回 授業の方法(2)

カリキュラムマネジメントの理論を学ぶ

第8回 授業の方法(3)

PBL学習でカリキュラムマネジメントのスキルを共に学ぶ

第9回 授業の方法(4)

教科に応じたカリキュラムマネジメントのスキルを共に学ぶ

第10回 授業の方法(5)

カリキュラム・マネジメントの方法を基本に、その授業指導案に調べる学習を位置づける

第11回 授業の方法(6) 学習成果の活用

多様なマルチメディアを活用した教材作成の方法を学ぶ

第12回 調べる学習教材の作成(1)

自分が選択した教科について、教科の指導案に「調べる学習」を位置づけ、そのための教材をパワーポイントで作成する。

第13回 調べる学習教材の作成(2)

選択した教科の「調べる学習」のための教材をパワーポイントで作成する。ムービーメーカーを用いた動画作成過程に入る。

第14回 調べる学習教材の作成(3)

調べる学習の動画教材のために、ストーリー構成の文章を作り、ナレーションを録音し、動画を完成する。

第15回 総括評価

各自が作成した動画の発表会を行い、それぞれの工夫について、相互評価を行う。

最後に、「調べる学習」の教材作成について、効果的な方法を学び、教育現場で実践するための専門知識とスキル、社会的態度を学ぶ。

2021年度 後期

2単位

教育方法論

井上 豊久

<授業の方法>

質問等はdotcampusの質問箱か、井上豊久のメールアドレスに遠慮なく送ってください。私はメールは必ず1日に何度も見てますので、次の日までにもし私からの返信が無ければ、うまく届いてないことが考えられますので再送してみてください。

授業の方法・内容等については変更があるかもしれません。

<授業の目的>

これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、目的に適した指導技術を身に付ける。DP主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の実践的な育成を目指す。将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に学修できる力量形成を目的とする。

<到達目標>

1. 教育方法の基礎的理論と実践の理解、2. 主体的対話的で深い学びの理解と実践、3. 授業構成と技術の理解、4. 機器の理解と活用

<授業のキーワード>

アクティブラーニング、指導案、メディアリテラシー

<授業の進め方>

対面、オンライン授業とレポート、指導案の検討等で行う

<履修するにあたって>

自己研究を着実に行うことを求めます。

<授業時間外に必要な学修>

課題の提出、自己研究を重視し、テーマに合わせ180

分程度の時間外の学習を基本とする。

<提出課題など>

ミニレポート、中間レポート、最終レポート、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。

<成績評価方法・基準>

毎回のレポート40%、中間レポート20%、最終レポート40%の総合判断

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目標・内容と方法、評価の説明

第2回 教育方法論の概要と意義

教育方法の理念、意義、諸問題

第3回 教育方法論の歴史1

ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバート等の教育方法論

第4回 教育方法論の歴史2

デューイ、ブルーナー等の教育方法論、日本の教育方法史

第5回 教授理論

問題解決学習、系統学習、経験学習等

第6回 授業の構造と設計

学習指導の過程、授業設計、指導案の作成の基礎

第7回 主体的対話的で深い学び

主体的対話的で深い学びの意義と実践

第8回 中間レポート

これまでの授業の復習と中間まとめ

第9回 ワークショップ1

参画学習とは、アイスブレイキング、アクティビティー1

第10回 ワークショップ2

アクティビティー2. プレインストーミング、カード分類法、

第11回 ワークショップ3

シェアリング、プレゼンテーション、気づきと共有、改善

第12回 指導案作成1

指導案作成の基礎・基本の理解、教育方法におけるICTなどメディアの理解

第13回 指導案作成2

指導案作成実践、メディアリテラシー、学校とICT、PC等の活用

第14回 プレゼンテーション、ICTを活用した授業

レポート提出による指導案発表、ICTを活用した教材の作成とプレゼンテーション、シェアリング

第15回 まとめ

総括と最終レポートに向けて

2021年度 後期

2単位

教育方法論

小島 麻由

<授業の方法>

「講義」「演習」

Zoomを利用したリアルタイム授業を行う場合があります。課題などは教職用学内システムmanabaの「教育方法論」に載せます。

<授業の目的>

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、これから社会を担う中学・高校の生徒たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、目的に適した指導技術を身に付ける。特に協同学習の理論に基づき、小集団を使った学習方法のワークショップを通して今後の教育方法のあり方を考える。また、文部科学省が進めるICT教育についても考察し、適切な教材を創造する。これは本学ディプロマ・ポリシーの「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。実務経験を生かし、指導力のある教員の育成を行う。

<到達目標>

1) 教育方法の基礎的理論と実践を説明することができる

2) 協同学習の理論に基づいた多様な学習方法を学び、それらを実践的に活用する力を獲得できる

3) 指導と評価の一体化、様々な評価方法について説明することができる

4) ICT教育の実際を知り、指導案にそった適切なICT教材を創造することができる

5) グループワークを通して、様々な視点を持つ他者と協同する経験を持ち自分の考えを伝えることができる

<授業のキーワード>

教育方法、協同学習、グループワーク、評価、ICT教育

<授業の進め方>

講義形式とともにグループワークを取り入れて授業を行う。

講義の感想を提出し、次の時間に共有する。

プレゼンテーションソフトを使った教材の作成を求め、

相互評価を行う。

<履修するにあたって>

小集団でのグループワークや議論に積極的な参加を求める。

プレゼンテーションソフトを使用した課題と指導略案の作成を課し、提出させる予定である。

教職サポート室を積極的に利用すること。相談員の先生と面談して作成するレポートを課すこともある。

<授業時間外に必要な学修>

課題 は目安として3時間、ただし教職サポート室の訪問はそれ以外で約1時間

課題 はプレゼンテーションソフトの教材作り。目安として5時間。ただし教職サポート室の訪問はそれ以外で約1時間

<提出課題など>

課題として～を課す予定である。

今日的な課題と教育方法の歴史について

ICT教育の授業見学の報告

指導略案

指導略案にそって作成した独自のプレゼンテーション教材

すべて期日を守って提出すること。

課題の期日や内容の詳細は授業中で指示する。

提出されたレポートは授業で相互評価する場合がある。

課題によっては、教職サポート室の相談員の先生のアドバイスを求めるものもある。

<成績評価方法・基準>

感想やコメント30%、

課題70%（定期試験は実施しない）

<テキスト>

適宜プリント配布

<参考図書>

ジョンソン, D.W ほか 『学習の輪 学び合いの協同教育入門 改訂新版』 二瓶社

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目標、内容と方法、評価の説明

学校教育の中で印象に残っている教材や学習法について意見交換する

第2回 教育方法の歴史

現在の教育法にいたる歴史を理解する

第3回 教育方法の歴史

現在の教育法にいたる歴史を理解する

第4回 現代の教育法

今求められている学びを理解する

第5回 教育法と評価

指導と評価の一体化について理解し、様々な評価の方法を説明できるようにする

第6回 教育の情報化

学校の情報化、ICT教育、GIGAスクール構想につ

いて理解する

第7回 思考ツール

様々な思考ツールを知り、授業に生かすことができる

第8回 ICT教育の実際

実際にICTを使った授業実際に見学することで、授業におけるICTのメリット・デメリットについて考察する

第9回 協同学習の理論

協同学習の理論を知り、実践につなげができるようとする

第10回 協同学習の実践

協同学習の理論を用いた実践をワークショップ形式で理解する

第11回 協同学習の実践

協同学習の理論を用いた実践をワークショップ形式で理解する

第12回 プrezentationソフトを用いた授業の創造
プレゼンテーションソフトを用いた教材を使った授業実践を体験することで、授業におけるICTのメリット・デメリットについて考察する

第13回 教材発表会

自分の教科で実践できると思われる、学習指導案とプレゼンテーションソフトを用いた教材を作成し提出する授業の中でその内容を他の学生と互いに説明し合い、相互評価する

第14回 教材発表会

自分の教科で実践できると思われる、学習指導案とプレゼンテーションソフトを用いた教材を作成し提出する授業の中でその内容を他の学生と互いに説明し合い、相互評価する

第15回 本講座のまとめ

本講座で学んだことを総括し、自分の授業にどう生かすかを説明する

2021年度 後期

2単位

教職実践演習（栄養教諭）

小林 麻貴

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、栄養教諭免許取得の最終段階として、身につけた資質能力が有機的に形成されたかについて最終的に確認し、栄養教諭としての全体的な能力の涵養を図ることを目的とする。

<到達目標>

効果的な授業方法を身につけることができる。

児童とのコミュニケーション能力を身につけることが

できる。

<授業のキーワード>

エコ・クッキング、和風だし体験講座、食農活動

<授業の進め方>

少人数のグループワークを中心に行う。

<履修するにあたって>

栄養教諭概論 、 、 栄養教育実習で学修したことを復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業の練習をする（1時間）

<提出課題など>

授業の最終回に課題を提出する。課題のフィードバックはオフィスアワーに行う。

<成績評価方法・基準>

演習への積極性（食育授業への取り組み、媒体作成）90%、課題10%で評価を行う。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本科目の趣旨、目的を理解する。

第2回 学校訪問の準備

食育計画の打ち合わせ・作成を行うことで、食育準備に必要なことを理解する。

第3回 学校訪問の準備

食育計画の打ち合わせ・作成を行うことで、食育準備に必要なことを理解する。

第4回 学校訪問の準備

食育計画の打ち合わせ・作成を行うことで、食育準備に必要なことを理解する。

第5回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第6回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第7回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第8回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第9回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第10回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第11回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第12回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第13回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第14回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第15回 まとめ

学校訪問の実施で得たことをまとめ、効果的な授業方法、児童とのコミュニケーションに大切なことについて理解を深める。

2021年度 後期

2単位

教職実践演習（中・高教諭）（国語科）

有本 貴美子

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

この科目は、人文学科ディプロマポリシーのうち「学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、知識や技能の伸長を図る社会人として活躍する」ことを目指して実施される。

この科目は教職課程のこれまでの授業科目の履修や教育実習、その他の様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として形成されているかについて、本学が養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分自身の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。

授業の目的は以下の通りである。

（1）教職者としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付ける。

（2）教職者としての社会性や対人関係能力を身に付ける。

（3）生徒理解や学級経営等に関する知識・能力を身に付ける。

（4）教科内容等の指導力に関する知識・能力を身に付ける。

なお、この科目の担当者は、中学校・高等学校で国語科教諭として30余年勤務し、現在は引き続き非常勤講師として勤める、実務経験のある教員である。したがって、授業内では、必要に応じて教育現場での具体的な事例なども交えつつ、実務的な見地から国語教育について解説

- ・講義する機会を設けたい。

<到達目標>

- (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ・教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。
- ・高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。
- ・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。
- (2) 社会性や対人関係能力に関する事項
- ・教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
- ・組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
- ・保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。
- (3) 生徒理解や学級経営等に関する事項
- ・子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。
- ・子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。
- (4) 教科内容等の指導力に関する事項
- ・教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けている。
- ・板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。
- ・子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。

<授業のキーワード>

教育、教職、実践

<授業の進め方>

- ・教育実習その他の教育活動で各自が実践したことをテーマ別に振り返り、発表と討論を通じて考えを深めていく。
- ・また、講義形式で、具体例を挙げながら現代の教育の問題点を解説し理解を促す。
- ・毎回、振り返りシートを記入し、各自の考えをまとめること。次の時間の初めに共有する。
- ・最終回には、これから教育実習を経験する後輩に向けてのアドバイスをまとめ、発表する。

<履修するにあたって>

- ・このシラバスを読み、各回の主題について真摯な態度で取り組む心構えを持つ。
- ・授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。
- ・原則、欠席をしないよう心がける。
- ・提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体

に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

- ・教育実習で使用した実習ノート、研究授業の指導案、教職ポートフォリオ等を各自保管し、適宜持参できるようにしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。

授業前には、教育実習ノートや学修ポートフォリオ等に基づき、これまでの学びを丁寧に振り返り、自己分析を行った上で、メモにまとめておく必要がある。また、授業後には、授業内容を実践記録としてまとめ、分析を加える必要がある。

<提出課題など>

毎時間、授業内容に基づく実践報告の提出を求める。この内容については提出後、次時にその主なものを紹介してフィードバックする。

また、次回のテーマを示すので、そのテーマについて各自発言できるように準備をしてくる必要がある。

冬季休暇には、以下の課題を与える。第15回に提出。

「教職を学ぶことで自身が成長したこと・得たことを、今後の教師としての生活にどのように活かしていきたいか」を考察する。（A4用紙1枚）

第15回に発表できるように、自身の課題点を分析し後輩へのアドバイスを800字程度にまとめる。

<成績評価方法・基準>

授業時の討議や発言、発表、他の受講生との意見交換等の内容を50%、実践報告・課題の内容を50%とする。評価基準は「到達目標」（1）～（4）である。

<テキスト>

プリントを使用する。

<授業計画>

第1回 授業を始めるにあたって

授業の目的、目標、進め方などについてのガイダンス。

教育実習及びこれまでの大学での学びで得られたことについて振り返り、教職に対する自身の意識を確認する。

第2回 教育実習の省察と自己研鑽

教育実習時を振り返りながら、「自身の準備不足を痛感し反省したことはなかったか」、「その解決に向けてどのように努力したか」などについて自己評価を行い、これらの点において成長するためには何が必要かを考察する。「授業の目的」（1）に対応。

第3回 部活動の指導

教育実習で携わった実習校での部活動での、生徒や顧問の先生などとの関わりを各自発表し、質疑応答の形式で進める。「授業の目的」（2）（3）に対応。

第4回 教職員との相互協力

教育実習で、指導教員その他の教職員、他の教育実習生とどのように関わったかを振り返る。「アドバイスに耳を傾けるとともに理解や協力を得ることができたか」「

独善的にならず協調性や柔軟性を持って、授業や学級の運営に当たることができたか」という観点で話し合う。

「授業の目的」(2)に対応。

第5回 生徒理解

教育実習の時の生徒との関係を振り返り、「生徒たちと親しみを持って接することができたか」「生徒の声を真摯に受け止め、公平かつ受容的な態度で接することができるか」といった観点から自己評価を行い、よりよい関係性を探求していく。「授業の目的」(3)に対応。

第6回 学級経営

教育実習の時、学級の指導で困ったこと・苦労したことなどを報告し話し合う。また、対処がうまくできた時の各自の工夫も紹介し、情報を共有しあいに理解し合う。

「授業の目的」(3)に対応。

第7回 学校に関わるボランティア活動

これまでに経験した、学校や児童生徒に関係するボランティア活動について、経験者からの発表を聞く。経験の中で学んだこと反省したことなどを紹介し、他の学生からの質問疑問に答える。教育実習以外の児童生徒と関わる実践の機会から得るものを見つける。「授業の目的」(1)(3)に対応。

第8回 魅力的な先生とは

教育実習でお世話になった先生、自分が小・中・高でお世話になった先生を思い出し、目標あるいはあこがれとする先生の、どのような点を見習いたいかを討論し、自分たちがめざす先生像を模索する。「授業の目的」(1)(4)に対応。

第9回 使命感・責任感、倫理観、教育的愛情

教育実習を含めたこれまでの学びを振り返り、教職者として「誠実、公平かつ責任感を持って児童・生徒に接し、彼らから学び、共に成長しようとする意識を持って、指導に当たることができるか」という観点から自己評価を行い、さらに成長するためには何が必要かについて考察を深める。「授業の目的」(1)に対応。

第10回 新学習指導要領の実施と高校国語の科目再編の行方

前半は講義形式で行い、新学習指導要領の概略と高校国語の科目再編について理解を深める。後半は、高校国語科目の選択科目「論理国語」と「文学国語」を巡る議論に言及し、著名三氏の意見をふまえて、各自の考えをまとめる。「授業の目的」(4)に対応。

第11回 自然災害時の対応

阪神・淡路大震災の時の、児童生徒に対する対応や避難所になった学校の事例などについて、講義担当者が自身の体験や市内の学校の様子などを示し、予期できぬ出来事への対応・心構えを考察する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第12回 保護者・地域社会との向き合い方

新聞記事や講義担当者の体験談から様々な事例を知り、対応の仕方を考える。教職者として「保護者や地域の関

係者の意見・要望に耳を傾けるとともに、連携・協力しながら、課題に対処することができるか」といった観点に立って自己評価をし、さらなる成長をめざす。「授業の目的」(2)に対応。

第13回 不登校・いじめ等の諸問題について

不登校・いじめ等の諸問題について、授業担当者の体験を聞き、その対応についての基本的な立場について考える。「授業の目的」(1)(3)に対応。

第14回 教職者(社会人)としての自己形成

教職者としてのキャリア形成を、初任期から退職までの流れを背景として学ぶ。その上で、教職者としてまた社会人として、一生涯にわたって社会に貢献する意識を持つ。

教職を学ぶことで自身が成長したこと・得ることができた知識・経験・体験を振り返る。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第15回 まとめ

教育実習とこの授業全体を通してわかった課題点を分析し、今後教職を目指す後輩たちにアドバイスとしてまとめ、発表をする。

2021年度 後期

2単位

教職実践演習(中・高教諭)(英語科)

長谷川 弘基

<授業の方法>

演習

covid-19による感染症が拡大した際の扱いについてはdotCampusを使って連絡する。

<授業の目的>

この授業は教職課程における人文学部人文学科教職に関する科目(英語)に属し、学部のDPに示す「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」ようになることを目的とする。

本演習は教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられ、学生諸君が教職科目を含んだ全ての授業科目・活動の中で身についた資質・能力が、教員としての重要な資質・能力として有機的に形成・統合されているかについて、本学の教員養成の理念や到達目標に照らして最終的に確認するために開設されたものである。なお、この授業は中等教育における十分な実務経験を有する担当教員によって行われる。

<到達目標>

(1) 教員としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する

(2) 教員として必要とされる社会性や対人関係能力について理解を深める

(3) 教科に関する知識、理解力および指導力を伸ばす

(5) 現代の教育問題に関する理解を深める

<授業の進め方>

教材研究、教材作成、模擬授業、ロールプレーティングなどを行いながらその内容についてのディスカッション形式を行う。

また、適宜、学校訪問や現職や元教員の講話を聞くことも加える。

<授業時間外に必要な学修>

授業で指示された教育、教材研究、英語教育などの書籍を丹念に読むこと(目安として1時間)

<提出課題など>

学年末に特定の課題にもとづいたレポートを提出。

その他、適宜課題を出す予定。

<成績評価方法・基準>

学年末のレポート(40%)、提出課題(30%)、授業での発表と質疑(30%)

<テキスト>

授業中に資料を配付する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の目的と概要の説明

第2回 教育実習総括1

各自の教育実習体験について発表とディスカッション

第3回 教育実習総括2

各自の教育実習体験について発表とディスカッション

第4回 教育実習総括3

各自の教育実習体験について発表とディスカッション

第5回 最近の教育問題 # 1

自らの経験及びマスコミなどの情報を通じて知り得た教育問題の検討を行う。

第6回 最近の教育問題 # 2

引き続き、自らの経験及びマスコミなどの情報を通じて知り得た教育問題の検討を行う。

第7回 学校：教師の視点と生徒の視点

教育実習で知り得たことを、「教師の視点」と「生徒の視点」からとらえ直し、「学校」という制度・機関に関する理解を深める

第8回 教育経験者からの知見 # 1

教育経験者からの助言などを参考に、これまでの議論を再検討する。

第9回 教育経験者からの知見 # 2

引き続き、教育経験者からの助言を受ける。

第10回 教育経験者からの知見 # 3

引き続き、教育経験者からの助言を受ける。

第11回 教材研究 # 1 (教科指導)

教材研究の重要性と実質的な取り組みについて学ぶ。

第12回 教材研究 # 2 (教科指導)

引き続き、教材研究の重要性と実質的な取り組みについて学ぶ。

第13回 教材研究 # 3 (学級活動)

学級経営、学級活動の問題点と基本的取り組みに関する理解を深める。

第14回 教材研究 # 4 (学級活動)

引き続き、学級経営、学級活動の問題点と基本的取り組みに関する理解を深める。

第15回 まとめ

学校と教育の意義について理解を深める。

2021年度 後期

2単位

教職実践演習(中・高教諭)(社会科)

山下 恭

<授業の方法>

「演習」(対面授業で実施)

<授業の目的>

本講座は教職課程の総括をする講座としての性格が強い。教育実習を終えて教師の途を確固たるものにした受講生を対象にするものである。その意味で教育実習を振り返り、各自の課題を明らかにし、さらにその克服のための専門性の向上を目的とするものである。具体的には教壇に立った時に要求される教師の表現能力(説明力・板書力など)の向上を図るものである。担当講師は中学校に8年間、高等学校に33年間の勤務経験があり、かつ大学の教職教育に11年間携わった実務経験のある教員です。

<到達目標>

教科内容の用語を基本的知識として理解し他者に口頭で説明できる 文章を読み理解し、黒板を使って説明できる。 地図や関係図を描いて説明できる 自分にしかできない授業スタイルを持つことが出来る 現代教育の抱える問題について解決法を考え提示できる。

<授業のキーワード>

教育実習体験報告 説明技術 模擬授業 合評会 授業見学会 グループ討議

<授業の進め方>

○教育実習を振り返り、自身の体験を報告する。用語の説明・板書技術の向上を図り、各自の授業スタイルを構築する。教育実習で行った同じテーマで模擬授業を行い合評を実施する。

○神戸学院大学附属高等学校でICT授業実践を見学する予定です。

<履修するにあたって>

教育実習時の自分を振り返る。実習中の資料は保管しておく。反省点問題点を整理しておく 講義中の入退室は認めません 20分以上の遅刻者には出席カードは配りません。 授業に臨むに当たり携帯・スマホの電源はOFFにしてください。 10回以上の出席がなければ評価の対象になりません。

<授業時間外に必要な学修>

教育実習で見つかった自身の課題を振り返り克服する方

法を考える。実習先で行った研究授業を基礎にさらに授業技術の向上を図るために用語説明力をつける。そのため訓練をおこなうことが必要である。実習先で行った研究授業を再度行うための準備が3時間必要となる。課題レポートの作成には数時間必要となる。

<提出課題など>

教育実習体験レポート 模擬授業体験レポート 学習指導案 授業見学会レポート 授業で課したレポート

<成績評価方法・基準>

定期考査は実施しない

教育実習体験レポート・模擬授業実践・学習指導案・模擬授業体験レポート・授業見学会報告レポート・課題レポートで評価します。

<テキスト>

講師がプリントなどの資料を用意します。

<参考図書>

授業中に随時紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス 開講にあたって

1. 講座の概要 2. 教育実習実践報告 3. 用語説明演習 4. 板書技術向上演習 5. 模擬授業の実践

第2回 教育実習報告（1）

教育実習を振り返って

1. 教育実習の受講生の報告と質疑応答

2. 実習体験レポートの作成

第3回 教育実習報告（2）

教育実習を振り返って

1. 教育実習の受講生の報告と質疑応答

2. 実習体験レポートの作成

第4回 教育実習報告（3）教育実習を振り返って

1. 教育実習の受講生の報告と質疑応答

2. 実習体験レポートの作成

第5回 教育実習報告（4）教育実習を振り返って

1. 教育実習の受講生の報告と質疑応答

2. 実習体験レポートの作成

第6回 用語説明演習（1）歴史分野用語説明

各自が選択した歴史事象について説明する

（例）石高制 遣唐使 国学 ミラノ勅令

ウイーン会議

第7回 用語説明演習（2）公民分野用語説明

各自が選択した公民分野の用語について説明する

（例）憲法第9条 三審制 GDP 国連憲章

第8回 用語説明演習（3）地理分野用語説明

各自が選択した地理分野の用語について説明する

（例）リアス式海岸 地中海式気候 栽培漁業

第9回 授業見学

付属中学校・高等学校の訪問。実際の授業を見学する。

第10回 現代の教育問題（1）

教育現場が抱える生徒指導上の問題について考えます。

グループ討議を行います。テーマは授業で提示します。

第11回 現代の教育問題（2）

教育現場が抱える教科指導の問題についてグループ討議する。討議のテーマは授業の中で指示します。

第12回 模擬授業（1）教育実習先での研究授業の再現 模擬授業 合評 模擬授業評価記入 課題レポート

第13回 模擬授業（2）教育実習先での研究授業の再現 模擬授業 合評 模擬授業評価記入 課題レポート

第14回 模擬授業（3）教育実習先での研究授業の再現 模擬授業 合評 模擬授業評価記入 課題レポート

第15回 模擬授業（4）教育実習先での研究授業の再現 模擬授業 合評 模擬授業評価記入 課題レポート

2021年度 後期

2単位

教職実践演習（中・高教諭）（社会科）

中村 健治

<授業の方法>

講義・演習・実習

<授業の目的>

本講座は、教職課程の他の科目や教職課程外での様々な活動を通して受講者自身が身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的かつ総括的に確認するものであり、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」となるものである。受講生はこの科目の履修を通じて、将来教員となる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教員生活をより円滑にスタートさせることを目的としている。

なお、この授業担当者は、神戸市立高等学校で地歴公民科教諭・教頭・校長として38年間勤め、教育委員会事務局において社会科・地歴公民科等の指導主事も勤めた実務経験のある教員である。学校現場の実態を踏まえ、より実践的な授業を行います。

<到達目標>

1. 教育に対する使命感と情熱、高い倫理観と規範意識を持ち、真摯に教育課題と向き合い、自己の職責を果たそうとする姿勢が身に付いている。（態度・習慣）

2. 教員を目指す身として、その職責や組織の一員としての自覚を持つことの必要性を理解し、目的や状況に応じた適切な言動をとり、他者と協働することができる。（技能、態度・習慣）

3. 感性やコミュニケーション能力を磨き、子供の発達や心身状況に応じて、公正かつ受容的な態度で適切な指導を行うことができる。（知識、技能、態度・習慣）

4. 専門教科・科目の知識や指導方法を習得し、生徒の興味・関心を高める教科指導を行うことができる。（知識、技能、態度・習慣）

<授業のキーワード>

使命感 共感力 対応力 人間関係形成能力 教科指導力

<授業の進め方>

・講義も行うが、基本的には課題に対して受講者同士が討論・発表などを行う「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業形態をとる。（グループワーク、ロールプレーティング、事例研究など）

<履修するにあたって>

・受講生が将来教員になることを前提に授業を行うので、「必ず教員になる」という強い意志と覚悟を持って授業に臨んでください。

・授業に関係のない私語・スマホ操作・授業中の入退室は禁じます。

・受講者同士の討論・発表など、受講者主体の授業となるので、積極的な姿勢で臨んでください。

・教育実習時に使用した「教育実習日誌」や「学習指導案」、「履修カルテ」を活用する場合がありますので、準備しておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

・「履修カルテ」に基づいた教職課程ポートフォリオの作成

今まで履修した教職課程の科目について整理することによって、自己の課題を発見したり、自身の力量形成を紡ぎだすツールとなるため、是非取り組んでもらいたい。

・第1回目の講義時に自身の教育実習の概要について発表してもらうので、事前に教育実習日誌等で振り返りを行い、発表内容をまとめておくこと。

・課題レポート作成、総括レポート作成

・教育関係ニュース等の収集・分析

<提出課題など>

毎回の授業のリフレクションシート（出席票を兼ねる）

授業中に指示する課題レポート

授業総括レポート

授業記録シート

<成績評価方法・基準>

・定期考查は実施しない。

・到達目標に照らして、どの程度達成できたかによって総合的に評価を行う。

毎回の授業のリフレクションシート（40%）

課題レポート（30%） 授業総括レポート（20%）

グループワーク、意見発表など授業への積極的参加姿勢（10%）

<テキスト>

テキストは使用しない。毎回必要な資料プリントを配付する。

<参考図書>

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省発行）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史

編（文部科学省発行）

生徒指導提要（文部科学省発行）

その他必要に応じて提示する

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

・担当教員自己紹介

・受講生自己紹介及び自身が行った教育実習概要発表（各自3分以内）

・講義の狙いと概要、評価方法等の説明

第2回 自己分析と課題設定

・「履修カルテ」や「教育実習日誌」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己分析を行う。

・自己分析結果を発表し、全体で共有する。

・自己分析結果を踏まえ、各自の課題設定を行う。

第3回 自己分析と課題設定

・「履修カルテ」や「教育実習日誌」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己分析を行う。

・自己分析結果を発表し、全体で共有する。

・自己分析結果を踏まえ、各自の課題設定を行う。

第4回 学校組織と教員の役割

・教職の意義、学校組織と教員の役割と職務内容等について（講義）

・学校の果たす役割と課題について考える。（グループ討議・発表）

・教員として求められるものは何かについて考える。（グループ討議・発表）

第5回 学校組織と教員の役割

・教職の意義、学校組織と教員の役割と職務内容等について（講義）

・学校の果たす役割と課題について考える。（グループ討議・発表）

・教員として求められるものは何かについて考える。（グループ討議・発表）

第6回 学級経営（講義・演習・発表）

・豊かな人間性を育てる学級経営について考える

・学級経営を進めるための基礎基本について

・道徳教育と学級経営について

第7回 学級経営（講義・演習・発表）

・学級経営案について理解し、作成演習を行う

第8回 学級経営

多岐にわたる学級経営上の視点を知り、円滑な学級運営を行う上での留意点や具体的な方策を理解する。

・生徒との人間関係づくり、叱り方・ほめ方の事例研究

・学級の組織づくり

・教室環境づくり

第9回 生徒理解と生徒指導（講義・ロールプレイ・事例研究）

・生徒理解の基礎基本を理解し、生徒理解のための観点を知ることによって、生徒の健全育成、自己実現を図るための能力の育成に資するための生徒指導力の基礎を培

う。

- ・事例研究を行うことによって、実践力を養う。

第10回 生徒理解と生徒指導（講義・ロールプレイ・事例研究）

- ・生徒指導に取り組む基本姿勢、生徒指導体制充実のポイントを理解し、生徒指導力の基礎を培う。
- ・生徒指導に関する事例研究を行うことによって、実践力を養う。

第11回 生徒理解と生徒指導（講義・ロールプレイ・事例研究）

- ・不登校生徒への対応、いじめ問題への対応に関する短縮事例研究を行うことによって、対応の視点や方法を学び、生徒指導に関する実践力を養う。

第12回 特別支援教育の理解

- ・特別支援教育及び特別支援教育の視点を生かした生徒指導について理解を深める。
- ・高等学校における通級による指導の現状と課題を理解する。

第13回 教科指導力の向上に向けて

- ・新学習指導要領について概説し、そのねらいを考える。
- ・資料を基に素材研究を行い、実際の授業の中でどのような「問い合わせ」をたて、授業を行うかを考える。

第14回 教育における今日的課題

- ・コンプライアンスの意味する内容を学ぶことによって、その本質を理解する。
- ・教職員による不祥事が起こる背景とその影響について考え、それらを防止する方策を検討し、全体で共有することによって、教員としての資質・能力を高める。

第15回 講義のまとめ・振り返り

- ・教職実践演習で学んだ内容を振り返り、各自が当初に設定した課題の達成状況や教職関係科目への取組を自己評価し、教職課程全般の総括を行う。
- ・「教員として必要な資質・能力」、「教員としてのるべき姿」について討論・発表し、授業総括レポートとしてまとめ後日提出する。

2021年度 後期

2単位

教職実践演習（中・高教諭）（英語科）

深田 將揮

＜授業の方法＞

演習

＜授業の目的＞

この科目は教職課程におけるグローバル・コミュニケーション学部英語コース教職に関する科目（英語）に属し、学部のディプロマポリシーに示す「教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とする。

本演習は教職課程における「学びの軌跡の集大成」とし

て位置づけられ、本学の教員養成の理念や到達目標に照らして、受講生の資質・能力を最終的に確認するため開設されたものである。

〔教員の実務経験〕

様々な英語教育現場を経験した教員がそれぞれの経験を活かし、日本の英語教育現場の知識を示し、英語の授業を行うにあたって必要とされる実践方法を学生に教示している。

＜到達目標＞

（1）自らの教育実践力を客観的かつ具体的に評価できる。

（2）自らの課題について、改善するためのセルフマネジメント力を身に付け、その上で、学習指導力、生徒理解と学級経営力、社会性や対人関係能力、教員としての使命感や責任感などの資質や能力について、不足するものを補完するとともに、教育実践力の統合と深化をはかることができる。

＜授業のキーワード＞

教員養成、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

＜授業の進め方＞

大学4年間の各授業科目で学んだ理論と、教育実習等で得られた実践的指導力について、履修カルテを活用して振り返り、その理解度を把握する。その上で、各自の課題を克服するための活動に取り組む。また、多様な教育現場を経験した教職経験者により授業を実施するとともに、現職教員による講義を取り入れることで、教育現場における今日的課題に気付き、その解決のための方法について討議する。さらに、ロールプレイングやグループワークなどを行い、学習した内容について、学習知から実践知への移行を図る。また、実践的な学習指導力の向上に向けて、模擬授業の企画や実施後の討議を通して、より具体的な授業実践の方法について学ぶ。

＜履修するにあたって＞

初回授業時に「履修カルテ」の提出を求めます。授業開始までにまとめておくようにしてください。また、毎回、リサーチ、プレゼンテーション等を課すため、事前の準備が欠かせません。

リフレクションをGC Square上で行うためノートパソコンを授業に持参してください。

＜授業時間外に必要な学修＞

自分の考えや意見を現職教員や他の学生と交流することで4年間の学びを実践的に発展させるためには、授業までに自分自身の考え方の整理や必要な情報の収集が必要です。授業に主体的に臨めるよう、しっかりとした準備（90分程度）をしておいてください。

＜提出課題など＞

履修カルテ、レッスンプラン（学習指導案）の提出及び授業後のリフレクションシートを随時課し、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィード

バックを行う。

<成績評価方法・基準>

授業時の発表内容や、作成した授業案の内容70%。授業中の質疑・発表30%。

<テキスト>

特になし。（講義内で必要なプリント類を配布予定）

<参考図書>

講義内で隨時紹介する。

<授業計画>

第1回 振り返り

履修カルテによる振り返りと、自己課題の発見。（グループワーク）

第2回 生徒指導（1）

集団に対する場面での生徒指導における教員としての対応

第3回 生徒指導（2）

個別に対応する場面での生徒指導における教員としての対応

第4回 生徒指導（3）

生徒指導に関する事例研究とロールプレイング

第5回 現場との交流（1）

学校現場の現状と取り組みを学ぶ

第6回 課題の検討（1）

ワークショップによる今日的教育課題の認識

第7回 課題の検討（2）

集団討議による今日的教育課題の解決法の模索

第8回 現場との交流（2）

生徒や保護者に信頼される教師像

第9回 学級経営

自分が目指す学級経営（意見発表）

第10回 具体的実践

生徒の学びをつくる発問と板書の具体的実践（学校教員による実践発表及び演習）

第11回 授業設計と模擬授業（1）

授業研究テーマの設定

第12回 授業設計と模擬授業（2）

授業構想についての研究討議

第13回 授業設計と模擬授業（3）

授業展開の発表

第14回 授業設計と模擬授業（4）

模擬授業

第15回 プレゼンテーション

大学4年間の成長や変容と10年後の在りたい自分

2021年度 前期

2単位

教職入門

立田 慶裕

<授業の方法>

1回目は、対面講義で行う。

2回目以降は、オンデマンド講義とする。

<授業の目的>

本講義を通じて、急激な社会の変化の中で生じている学校教育現場の課題をふまえながら、これから社会に求められる教員の役割と職務についての認識を持つようにし、教育課題への問題意識の向上を図る。特に、本学のディプロマポリシーの内容に即して、教員としての専門性と公共的役割を考え、教員となるために必要な基本的資質や能力、態度の習得を目指す。そのために、講義を通じて、ICT等の道具を活用する能力や、協働で問題を解決する人間関係力を高め、自主的自律的に学習に取り組む力を毎回の講義で習慣として育てる。その過程で受講生自身により、教員としての適性についての考察を促す。この目的達成のため、本学DPの専門的知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力と共に、主体的に深い学びを行うことを目指す。国立教育政策研究所にての20年以上の教育研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

<到達目標>

(1)自己の教育体験を相対化するレポートの作成や、グループ討論を通じて、各自の授業や学校生活の経験から、教師の役割についての理解を深めることができる。

(2)教員の専門性と公共性を理解し、教員の仕事の目的が、児童・生徒の人格の向上や完成にあることを理解できる。

(3)教員養成制度や資質向上のための研修制度について学び認識すると共に、自らの教員適性やキャリア選択について判断できる。

(4)児童・生徒の発達に応じて、どのような教育内容や方法が必要かを認識し、そのための教科指導や学級運営、生活指導の方法を習得できる。

(5)学校組織や地域社会の一員としての教員についての認識を深め、具体的な役割について考えることで、教員の社会的な役割を知ることができる。

<授業のキーワード>

教師の役割、教職の基本的知識、教師の資質、学校の課題

<授業の進め方>

本教職課程の講義では、

第1回は、対面講義で行う。

第2回の講義から、eLearning システムのmanaba を用いて、教材コンテンツの提供を行う。

manabaの利用は、別途、受講者に連絡する。できるだけ、講義時間内での参加を推奨し、アクセスを行ってもらいたい。

manaba上のコンテンツ画面で、PDF教材を提供するとともに、毎回のレポート課題を指定する。

授業は、講義を基本とするが、講義内では、多様な学習法を同時に学べるようにするとともに、動画を適宜用いる。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、参考書や資料を1時間程度読んでくるなど学習の仕方を授業中に指示する。事後学習として、資料や参考文献を読んでレポートを2時間程度でまとめるなど、詳細は、授業中に指示する。

<提出課題など>

オンライン上のアンケート回答。レポート提出等。

<成績評価方法・基準>

個人レポートの提出（1回）を求め、形成的な評価を行う一方、最後の小テストを含めた総括的な評価を行う。レポートの提出は8割以上の成績、テストも8割以上を合格基準とする。できるだけ、講義内のキーワードをきちんとノートにまとめてください。キーワードを中心に最終テストを行います。

<参考図書>

立田慶裕『キー・コンピテンシーの実践－学び続ける教師のために』明石書店、2014

立田慶裕・今西幸蔵編『学校教員の現代的課題』法律文化社、2010

<授業計画>

第1回 ガイダンス

教員という職業について、これまでみなさんが持ってきたイメージをふり返る学習を行い、人として学ぶことと、教えることの意味を深く学ぶ。また、今日の重要な教育課題を説明する。

第2回 教職の意義

教職は、基本的に児童・生徒の人格の完成をめざして指導することが目的であり、教師の職務内容やその役割について知ると共に、教育公務員として法を遵守し、研修を通じて、教員自身が人間としての成長を図っていくことの重要性を学ぶ。

第3回 公務員としての教員

小学校から、高校までの学校教員は、公務員として雇用される。その任用制度や教員免許制度について、詳しく学ぶ。公務員としての教員が守るべき規則や考え方を知る。教員志望学生へのアンケートの実施により、学習志望教科を尋ねる。

第4回 教員の専門的な資質と能力

教員養成制度や資質向上のための研修制度について学び、自らの教員適性やキャリア選択について深く考え、学んでいく。

第5回 教育の現場から

新たな教育の取り組みや先端的な教育の事例を知ることによって、教育の未来像について話し合う。

第6回 学級の経営

子どもの自律的な発達に即して、どのように学級の運営を行っていくか、を学ぶ。

第7回 教育課程の編成

授業作りのための前提として、学校段階に応じて、どのような教育課程の編成が行われているかについての知識を習得するとともに、学習指導要領の変化の中で、カリキュラム・マネジメントのような手法をどう取り入れていくかを学ぶ。

第8回 学習指導と授業づくり

各教科に応じた指導案の作成を通じて、どのようにして授業を形作るか、また授業作りの経験から、教員が何を学んでいくかについて学ぶ。年間の指導計画、各授業の指導案、単元における指導案など、指導案のテンプレートを用いながら、基本的な授業計画の立て方を学ぶ。

第9回 多様な教育のスキル

教員は、生徒ひとりひとりの学習者としての特性を把握しながら、授業や学校生活の場を通じて指導する専門的スキルを持つことが求められる。教育の方法について、古典的な教育スキルから、現代のICTを活用したスキルまで、多様な教育方法について概観し、基礎的な教育スキルを学ぶ。

第10回 生徒の理解と生徒指導

教員は、生徒ひとりひとりとの対話を通じて、生徒の個別的な発達に応じた指導を展開していくことが求められる。その指導は、教科や授業の指導だけではなく、生徒の家庭や学校での行動や発言の日常的な観察を素にして、注意深くしていく必要がある。そのような生徒の理解と生活指導の知識とスキルを学ぶ。

第11回 学校の校務分掌と運営

教員は、学級運営や授業作りだけではなく、その他にも学校組織の一員として多様な校務を分掌している。その校務の内容や仕事について学ぶとともに、同僚との関係をどのようにして作っていくかを考える。また、学校の管理や運営は、専ら校長や教頭の管理職の仕事というだけではなく、チーム学校という視点に立てば、教員自身や多くの学校行事や学校の運営、危機管理を学び。参加していくことが求められつつある。学校組織の一員として、学習する組織としての学校について学ぶ。

第12回 地域社会との協働

20世紀後半の生涯学習政策以降、学校と地域社会との連携の重要性が増しつつある。特に、地域の教育力や家庭の教育力が減退する中で、学校は、単なる保護者対応という視点ではなく、積極的に地域との協働を進めることができられつつある。コミュニティスクールやサービスラーニング、調べる学習等の事例を通じて、教員がいかに学校と地域社会との協働を図っていくかについて学ぶ。

第13回 教員としての人生と未来

本講義を通じて、教職についての知識と理解を深め、いくつかの指導の方法を学ぶことから、受講者自身が教員としての適性をどの程度有しているか、自己診断として教師力チェックを行う。

教職を選択し、教員採用試験に合格して教員として採

用された場合、その教員は、一定の地域社会の中で学校という社会の中で人生を送るような時代から、現代は、教員が積極的に地域社会と関わることが求められつつある。学校での仕事を行いながら、教育委員会や地域社会での活動への参加を通じて、教員として生きていく場合、どのような未来があるか、プロジェクト学習を通じて、自分なりの教員としての人生像を設計する。

最後に、教職に係る基本的な知識についてのテストを行い、自己採点によって、教員採用試験に応じた知識の理解を深める。

第14回 参考文献の紹介

講義で用いた参考文献を紹介する。

第15回 Q & A

講義についての疑問に回答する。

2021年度 前期

2単位

教職入門

藤田 敏和

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

学校教育の現状と課題を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を追究する。また、これによって受講者が教員としての適性を有するか否かの自己判断を行う助けとする。科目の性格上、受講者が全学D P所載の1～5の能力を学修することに資することを目指す。

なお、この授業の担当者は、高等学校の教諭として41年間勤めた実務経験のある教員であるので、授業内容は実践を踏まえたものとなる。

<到達目標>

1. 公教育の場としての学校の役割を把握することができる。

2. 教員としての心構えやあるべき姿を理解し、実践することができる。

3. 学校と保護者・地域住民との関係づくりにとりくむ心構えができる。

4. 教員の今日的課題にとりくむ心構えができる。

<授業のキーワード>

教員 学校 教育行政 生徒指導 学習指導 服務と研修

<授業の進め方>

講義を中心に進める。適宜、課題レポートや小課題の提出を求める。

<履修するにあたって>

この科目のノートを作成すること。

<授業時間外に必要な学修>

課題レポートや小課題の提出を求めるので、授業時間外

に一定の学修が必要になる。シラバスとテキストを熟読することがその助けになる。以下に最低限の想定時間を示す。予復習に各回当たり最低2時間。課題レポートに1本当たり24時間として3本で72時間。指定図書や参考書、自分で探した書籍等、1冊を読むのに5時間かかるとして、たとえば6冊で30時間。

<提出課題など>

課題レポートを3編程度と、各回授業時に小課題の提出を求める。

<成績評価方法・基準>

課題レポート75%、授業関連25%（参加態度と小課題解答を総合的に評価）で評価する。

<テキスト>

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊編著『教職に関する基礎知識（第3版）』八千代出版2021年2420円

<参考図書>

解説教育六法編修委員会編『解説 教育六法 2021 令和3年版』三省堂2021年2970円、古川治・五百住満・今西幸蔵編著『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房2018年2640円

<授業計画>

第1回 教員の任用、教員免許制度、大学教職課程
教員任用の実際、教員免許制度、大学の教職課程について学ぶ。

第2回 教職と学校

教職とは何か、教職の役割、近代学校制度と教職について学ぶ。

第3回 教職の歴史と教員養成制度

教職の歴史、教員養成の歴史について学ぶ。

第4回 教員の専門性と能力

日本における「教員の専門性」論議、2つの「教員の資質」論について学ぶ。

第5回 日本の学校制度と学校の設置者

日本の学校制度の歴史、学校の設置者、学校教育の現状について学ぶ。

第6回 学校組織と学校経営

学校組織の分類、校務分掌の意義・手順・組織、学校管理と学校経営について学ぶ。

第7回 教員生活と服務・研修

教員の生活と勤務、教員と服務、教員と研修について学ぶ。

第8回 教育内容と教育方法

学校の教育活動の内容、教育方法の改善と学習指導の工夫について学ぶ。

第9回 学習指導要領と教育課程の編成

教育課程の定義、教育課程編成のしくみ、学習指導要領について学ぶ。

第10回 授業運営と教材研究

授業の運営と教材研究について学ぶ。

第11回 生徒指導、体罰、人権教育

生徒指導のあり方、体罰、学校における人権教育について学ぶ。

第12回 特別活動と総合的な学習・探究の時間

特別活動と「その指導、総合的な学習・探究の時間とその指導について学ぶ。

第13回 学校保健と健康管理

学校における保健活動、児童・生徒の健康の管理について学ぶ。

第14回 学校安全、災害安全、危機管理

学校安全と安全教育、災害安全と防災教育、学校の危機管理について学ぶ。

第15回 生涯学習社会の学校教育

生涯学習の意義、学校教育との関係について学ぶ。

2021年度 前期～後期

4単位

憲法

上脇 博之

<授業の方法>

講義。ただし少なくとも前期は対面授業ではなく、オンラインによるオンデマンド授業とします。dotCampusで各回の授業を連絡しますし、末尾の「遠隔授業情報」でも案内します。

質問がある場合には、第1回の授業動画で説明します。それ以外の方法としては、dotCampusからの「お知らせ」メールに質問内容を書いて返信すると、私の電子メールに届きます。メールで回答するか、授業（動画）の中で回答するかどうかは、質問内容や質問数によって判断します。

<授業の目的>

“日本国憲法とそれを取り巻く社会を考え、日本国憲法の基本原理、基本的人権保障及び統治機構の内実を正確に知ること”である。これは教員であれば当然習得しておくべき最低限のことである。

<到達目標>

本科目の到達目標の第一は、そもそも憲法は何のためにあるのか、日本国憲法はどのような基本原理に基づいてつくられているのかを、受講生が説明できるようになることである。

第二は、日本国憲法が保障している基本的人権にはどのようなものがあるのかを、受講生が正確に把握し、説明できるようになることである。

第三に、日本国憲法が定める統治機構はどのようなものなのかを、受講生が正確に把握し、説明できるようになることである。

<授業のキーワード>

市民革命、近代憲法、現代憲法、ポツダム宣言、日本国憲法の基本原理、国民主権主義、平和主義、基本的人権

尊重主義、自由権、社会権、新しい人権、権力分立制、国会、衆議院、参議院、国民代表、立法機関、内閣、裁判所、司法権の独立、地方自治、憲法改正。

<授業の進め方>

本授業の到達目標を達成するために適した2冊のテキストを使って、講義を行うこととする。
レジュメ等も使用する予定である。

<履修するにあたって>

必ずシラバスを読んで、テキストを購入し精読すること。
1回の授業につき予習と復習を計4時間行うこと。

<授業時間外に必要な学修>

テキストで予習し、テキストとレジュメで復習することが望まれる。授業回数は30回。授業1回につき予習と復習を最低でも合計4時間行うこと。

<提出課題など>

前期の課題レポート

以下の3つの課題のうち1つの課題を選択して、必ずテキストとレジュメを使用し（他の文献を追加で参考にする場合でもテキストは必ず使用し）、3000字以上でまとめて提出する。」

日本国憲法の基本的特徴について、近代憲法と現代憲法の視点で、かつ、大日本帝国憲法との比較を通じて、論述しなさい。

いわゆる「押しつけ憲法」論について、その内容を簡潔に説明したうえで、「押しつけ憲法」論が妥当かどうか論述しなさい。

日本国憲法を改正する場合、その改正に限界があるかどうか、限界がある場合、どのような限界が内容の点と手続きの点であるのか、論述しなさい。

後期の課題レポート・・・・ただし、後期の授業がオンライン授業になった場合は下記の課題の内容を変更する。

以下の9つの課題のうち1つの課題を選択して、必ず下記の参考文献を使用し（他の文献を参考にする場合でも必ず使用し）、3000字以上でまとめて提出する。

衆議院と参議院の各議員を選出する選挙制度の特徴とその問題点について憲法学の視点から論じなさい。その際、日本国憲法が選挙制度について要請していることがあり、その要請に基づくと衆議院の小選挙区選挙と参議院の選挙区選挙が憲法違反であるとの意見があるので、その意見の論理を紹介したうえで、日本国憲法の立場から、その見解に対する評価についても論述しなさい（参考文献は上脇博之『ここまでできた小選挙区制の弊害 アベ「独裁」政権誕生の元凶を廃止しよう！』あけび書房、

2018年)。

自民党の「4項目」改憲案の特徴とその問題点について憲法学の視点から論じなさい(参考文献は上脇博之『安倍「4項目」改憲の建前と本音』日本機関紙出版センター、2018年)。

政治資金の重要な一つである政党助成金の特徴と問題点について憲法学の視点から論じなさい。その際、政党助成法が憲法違反であるとの意見があるので、その意見の論理を紹介したうえで、日本国憲法の立場から、その見解に対する評価についても論述しなさい(参考文献は上脇博之『政党助成金、まだ続けますか?』(日本機関紙出版センター、2021年)。

政治資金の重要な一つである、企業の政治献金(企業献金)の特徴と問題点について憲法学の視点から論じなさい。その際、企業献金が違憲であるとの意見があるので、その意見の論理を紹介したうえで、日本国憲法の立場から、その見解に対する評価についても論述しなさい(参考文献は上脇博之『財界主権国家・ニッポン 買収政治の構図に迫る』日本機関紙出版センター、2014年)。

いわゆる落選運動の法的根拠について憲法学の視点から論じなさい。その際、落選運動は選挙運動ではないという見解があるので、その意見の論理を紹介したうえで、日本国憲法の立場から、その見解に対する評価についても論述しなさい(参考文献は上脇博之『追及!民主主義の蹂躪者たち【戦争法廃止と立憲主義復活のために】』日本機関紙出版センター、2016年)。

内閣官房報償費(機密費)の使途についての情報公開訴訟があるので、それを素材に、いわゆる情報公開と裁判闘争の重要性について憲法学の視点から論じなさい(上脇博之『内閣官房長官の裏金』(日本機関紙出版センター、2018年)。

衆議院の選挙制度を中選挙区制から小選挙区中心に変更し、企業献金の存続を認めながら政党助成金制度を導入したことと憲法第9条等の憲法改正との間には関係があるので、その意見の論理を紹介したうえで、日本国憲法の立場から、その見解に対する評価についても論述しなさい(参考文献は上脇博之『安倍改憲と「政治改革」【解釈・立法・96条先行】改憲のカラクリ』日本機関紙出版センター、2013年)。

1994年の「政治改革」の主要な内容を紹介し、それが憲法学の立場から憲法違反であるから真の政治改革を行うべきだという見解があるので、その意見の論理を

紹介したうえで、日本国憲法の立場から、その見解に対する評価についても論述しなさい(参考文献は上脇博之『安倍改憲と「政治改革」【解釈・立法・96条先行】改憲のカラクリ』日本機関紙出版センター、2013年、上脇博之『告発!政治とカネ 政党助成金20年、腐敗の深層』かもがわ出版、2015年)

政党が政治資金を使途不明金にしていることは「知る権利」を侵害するという見解があるので、その具体的な事例と、その見解に基づく制度改革案を紹介したうえで、その見解と制度改革案に対し憲法学の立場から論評しなさい(参考文献は上脇博之『追及!安倍自民党・内閣と小池都知事の「政治とカネ」疑惑』日本機関紙出版センター、2016年)。

留意点

本科目は憲法の科目であり、そのレポートなので、憲法の視点で論述されていないレポートは、本科目のレポートとして評価できないので、必ず明記した参考文献を精読し、そこから憲法の視点を読み取り、レポートをまとめること。

提出するレポートには、

本科目名、担当教員名、受講生の所属学部、学科、氏名、学籍番号、上記のうち選択したテーマ、使用した参考文献、レポート提出日
を必ず明記すること。

参考文献を記載する際には、

著者名、書名、出版社名、出版年、該当頁を明記すること。

なお、私の担当科目において、過去に提出したレポートをそのまま本科目のレポートとして提出した場合、本科目のレポートは未提出として扱う。

また、インターネットのものをコピーして貼り付けたものは、独自のレポートではないので、本科目のレポートは未提出として扱う。

前期のレポートの提出は、dotCampusを通じて行ってください。PDFファイル以外(例えばWord)でレポートを作成し、提出する直前に、それをPDFファイルにしたものを作成して下さい。もし後期もオンライン授業のときには同様です。

提出された課題レポートについては、各レポートに対する個々のコメントは行わないが、全レポート全体についての論評を行い、それを提示する場合もあるので、その場合は、今後の学習の参考にしてください。

<成績評価方法・基準>

前期の課題レポート 50 %と後期の授業中筆記試験（25 %）・課題レポート（25 %）計 50 %の合計で評価を行う。定期試験期間には試験を行わない。

＜テキスト＞

播磨信義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋『新・どうなっている憲法！？〔第3版〕－憲法と社会を考える－』法律文化社、2016年、本体定価2300円（税別）。

上脇博之『日本国憲法の真価と改憲論の正体 施行70年、希望の活憲民主主義をめざして』（日本機関紙出版センター、2017年、本体価格1500円（税別））

＜参考図書＞

・坂本修・小沢隆一・上脇博之『国会議員定数削減と私たちの選択』（新日本出版社、2011年）

・上脇博之『なぜ4割の得票で8割の議席なのか～いまこそ、小選挙区制の見直しを』（日本機関紙出版センター、2013年）

・上脇博之『自民改憲案 VS日本国憲法～緊迫！9条と96条の危機』（日本機関紙出版センター、2013年）

・上脇博之『安倍改憲と「政治改革」【解釈・立法・96条先行】改憲のカラクリ』（日本機関紙出版センター、2013年）

・上脇博之『どう思う？地方議員削減【憲法と民意が生きる地方自治のために】』（日本機関紙出版センター、2014年）

・上脇博之『誰も言わない政党助成金の闇「政治とカネ」の本質に迫る』（日本機関紙出版センター、2014年）

・上脇博之『財界主権国家・ニッポン 買収政治の構図に迫る』（日本機関紙出版センター、2014年）

・上脇博之『告発！政治とカネ 政党助成金20年、腐敗の深層』（かもがわ出版、2015年）

・上脇博之『追及！安倍自民党・内閣と小池都知事の「政治とカネ」疑惑』（日本機関紙出版センター、2016年）

・上脇博之『日本国憲法の真価と改憲論の正体 施行70年、希望の活憲民主主義をめざして』（日本機関紙出版センター、2017年）

・上脇博之『ここまできた小選挙区制の弊害 アベ「独裁」政権誕生の元凶を廃止しよう！』（あけび書房、2018年）

・上脇博之『内閣官房長官の裏金』（日本機関紙出版センター、2018年）

・上脇博之『安倍「4項目」改憲の建前と本音』（日本機関紙出版センター、2018年）。

・上脇博之『逃げる総理 壊れる行政 追及！！「桜を見る会」&「前夜祭」』（日本機関紙出版センター、2020年）

・富田宏治・上脇博之・石川康宏『いまこそ、野党連合

政権を！真実とやさしさ、そして希望の政治を』（日本機関紙出版センター、2020年）

・上脇博之『忘れない、許さない！安倍政権の事件・疑惑の総決算とその終焉』（かもがわ出版、2020年）

・上脇博之『政党助成金、まだ続けますか？』（日本機関紙出版センター、2021年）。

＜授業計画＞

第1回 憲法総論

オリエンテーション。課題レポートの書き方についても説明する。

第2回 憲法総論

近代憲法と現代憲法

第3回 憲法総論

大日本帝国憲法と日本国憲法の基本原理

第4回 憲法総論

日本国憲法はどのようにつくられたか。「押しつけ憲法」論とその問題点

第5回 憲法総論

国民主権主義と参政権

第6回 憲法総論

国民主権主義と象徴天皇制

第7回 憲法総論

非軍事平和主義と自衛隊

第8回 憲法総論

非軍事平和主義と日米安保体制

第9回 憲法総論

憲法改正

第10回 基本人権

基本的人権と公共の福祉、私人間効力

第11回 基本人権

法の下の平等

第12回 基本人権

新しい人権

第13回 基本人権

人権享有主体性

第14回 基本人権

思想の自由、信教の自由、政教分離

第15回 基本人権

表現の自由、知る権利、結社の自由、集会の自由

第16回 基本人権

人身の自由

第17回 基本人権

社会権と生存権

第18回 基本人権

労働基本権

第19回 基本人権

学問の自由と教育を受ける権利

第20回 基本人権

財産権など

第21回 基本人権

第21回授業は第22回授業内容を行う。それ以降同じ。

第22回 統治機構

権力分立制

第23回 統治機構

国会の権限 議院の権限

第24回 統治機構

衆参の選挙制度と国民代表

第25回 統治機構

裁判を受ける権利、裁判所の構成、公正な判断

第26回 統治機構

憲法保障と憲法訴訟

第27回 統治機構

司法権の独立とその危機

第28回 統治機構

内閣

第29回 統治機構

地方自治の本旨、住民自治、団体自治、地方議会の選挙制度

第30回 統治機構

試験

2021年度 前期

4単位

憲法

幸田 功

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。憲法が属する法学も経済学と同じく社会現象を扱います。憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

憲法の知識は経済学の学習とも関連する内容が少なぬないです。例えば、営業の自由、財産権などの経済的自由権や生存権、財政における予算や租税法律主義などが挙げられます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはずです。そのような政治分野のニュースなどを理解し易くな

ることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

<到達目標>

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。

経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験(教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」)や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていく。

日々の政治関連のニュースに关心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

<授業のキーワード>

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

<授業の進め方>

配布する資料を使って授業を進めます。

<履修するにあたって>

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

<授業時間外に必要な学修>

次回の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するよう努めたり、調べるようにしてください。

<提出課題など>

なし。

<成績評価方法・基準>

評価方法：確認テスト50%，定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

<テキスト>

なし。資料を配布します。

<参考図書>

井上典之編『憲法の時間』(有斐閣、2016年) 2090円

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50! [第2版]』(有斐閣、2020年) 1980円

曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』(有斐閣、2016年) 2750円

小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第2版』(法律文

化社、2016年) 1980円

その他は授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下の平等

「平等」の意味、「法の下の平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権

財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由

奴隸の拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権

生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権

勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総合

人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト

人権分野の知識整理と補足。

第17回 確認テストの解説、統治機構総論

第16回で実施した確認テストの解説。第18回からの学習範囲の全体構造の確認。

第18回 国会

唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会

通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会

衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣

内閣総理大臣と国務大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣

内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権(裁判所)

「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権(裁判所)

裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権(裁判所)

違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政

財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治

地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正

憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。

第29回 統治総合

憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。

第30回 統治分野のまとめ

統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2021年度 前期～後期

4単位

憲法

秋元 洋祐

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

本講義では、憲法が保障する基本的人権について理解することを目的とする。基本的人権には、中学生の髪型の自由から商売を始める際の職業選択の自由まで様々な権利保障が認められている。もっとも、これらの人権は、完全な自由を保障するものではなく、学校の校則や商店の開設を制限する法律によって規制される。この法的な規制に対して、憲法が保障する自由は、どこまで認められるのかが最も重要な問題となる。そこで、憲法上の人権保障の観点から、法的な制限が許されるのかを考えられるようになることを目的とする。

この科目は、人文学部のDPに示す、複数の分野の基礎知識を教養として身につけることを目指す。また、心理学部のDPに示す、社会人として幅広い教養を身につけることを目指す。

<到達目標>

1. 憲法の人権保障を具体的に説明できる(知識)。
2. 人権を規制する法律の問題点を説明できる(知識)。
3. 主要な裁判例について条文を参照しながら、解決方

法を考えることができる（知識、態度・習慣）。

4. 憲法9条の戦争放棄といった現代の解釈問題に関心を持ち、自分の法的な考えを示すことができる（態度・習慣・技能）。

＜授業のキーワード＞

憲法、基本的人権、公共の福祉、法の下の平等、職業選択の自由

＜授業の進め方＞

憲法の人権保障と制限について、裁判例を題材にして学ぶ。平等権や表現の自由といった各人権規定について、毎回の授業で1つずつ裁判例を題材にして、講義中心で授業を進める。とりわけ、社会で起こった事例に触れることで、憲法と法律の身近さを体感し、法学一般への興味をもってもらいたいので、受講生からの意見や質問に応じる。

＜履修するにあたって＞

毎回授業用プリントを配布する。

＜授業時間外に必要な学修＞

受講の際には、テキストの該当範囲を一読しておく（予習2時間）。

区切りごとに復習問題を配布するので、授業用プリントを参考に取り組む（復習2時間）。

＜提出課題など＞

対話型の授業方式を重視するため、毎回の授業時に質疑応答を行う。

＜成績評価方法・基準＞

前期試験50%・後期試験50%（各試験の内訳：法律用語の理解70%、事例解決型論述30%）

＜テキスト＞

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』有斐閣 2020年 1,760円

＜参考図書＞

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選I〔第7版〕』有斐閣 2019年 2,530円

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選II〔第7版〕』有斐閣 2019年 2,530円

＜授業計画＞

第1回 法学の基礎

講義と成績評価の説明、憲法と法律

第2回 法学の基礎

社会における法の役割

第3回 法学の基礎

法解釈や法と慣習・道徳の差異

第4回 法的思考

建造物が燃え出しそうな状況を放置した不作為犯を題材に、法的義務と道徳的義務の差異

第5回 法的思考

思っていた人とは別人を傷つけてしまった錯誤を題材に、法的な客觀と主觀の區別

第6回 法的思考

殴りかかってきた相手を傷つけてしまった正当防衛を題材に、法的な比較衡量の視点

第7回 憲法の基礎

憲法の構造と歴史的な経緯

第8回 人権の享有主体

政治活動を行ったことで在留期間の更新が認められなかった事案を題材に、外国人や子供の人権（テキスト第1・2章）

第9回 幸福追求権

市役所から前科を回答された事案を題材に、プライバシー権に関わる一般的・包括的人権（テキスト第2・3章）

第10回 自己決定権

男子生徒の髪型で丸刈り校則が問題となった事案を題材に、生徒の髪型の自由（テキスト第1・4章）

第11回 法の下の平等

虐待を受けていた娘が父親を殺害してしまった事案を題材に、尊属殺人罪と法の下の平等（テキスト第6章）

第12回 法の下の平等

嫡出子と非嫡出子の法定相続の差異が問題となった事案を題材に、法の下の平等（テキスト第5章）

第13回 法の下の平等

女性の再婚禁止期間が問題となった事案を題材に、平等権と合理的な区別（テキスト第5章）

第14回 精神的自由

高校受験の際に不適切な内申書を記載された事案を題材に、思想・良心の自由（テキスト第1章）

第15回 精神的自由

剣道の不受講によって退学処分を受けた事案を題材に、信教の自由（テキスト第7章）

第16回 後期の説明

前期試験のまとめと後期の説明

第17回 精神的自由

モデル小説で私生活を暴露された事案を題材に、プライバシー権と表現の自由（テキスト第8・9章）

第18回 精神的自由

少年事件の匿名報道が問題となった事案を題材に、推知報道と表現の自由（テキスト第8・9章）

第19回 経済的自由

既存の公衆浴場からの距離制限が問題となった事案を題材に、公衆浴場法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第20回 経済的自由

既存の小売市場からの距離制限が問題となった事案を題材に、商調法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第21回 経済的自由

既存の薬局からの距離制限が問題となった事案を題材に、薬事法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第22回 経済的自由

予防接種によって健康被害を受けた事案を題材に、財産

権の保障

第23回 人身の自由

死刑制度が残虐な刑罰の禁止に該当するのかが問題となつた事案を題材に、適正手続の保障（テキスト第13章）

第24回 生存権

生活保護の金額が不十分であった事案を題材に、生活保護法と生存権（テキスト第11章）

第25回 教育権

学力テストを実力で妨害した事案を題材に、教育権の所在（テキスト第12章）

第26回 参政権

衆議院議員選挙で1票の価値が問題となつた事案を題材に、選挙権の平等

第27回 平和主義

自衛隊の基地建設が問題となつた事案を題材に、憲法9条の戦争放棄（テキスト第15章）

第28回 国会

衆議院議員が国会の会期中に逮捕された事案を題材に、立法機関である国会の役割（テキスト第16・17章）

第29回 内閣

衆議院議員が国会の会期中に逮捕された事案を題材に、行政権を担う内閣の役割（テキスト第18章）

第30回 裁判所

宗教上の価値観の相違に基づいて寄付金の返還を請求した事案を題材に、司法権を担う裁判所の役割（テキスト第19・20章）

2021年度 前期

2単位

現代文講読

白方 佳果

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本授業は人文学部専門教育科目と、教職課程の「教科に関する科目」（国語）を兼ねます。人文学部のディプロマ・ポリシーに掲げられた「複数の分野の基礎知識を教養として身につけており、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」ことを目指しています。

本授業では、「日本文学」を的確に読み解き、自らの理解・解釈を適切に表現する能力を向上させることを目標とします。おもに日本近現代の短編・中編小説を扱い、小説を精読する方法や、「語り」「作者」「典拠・翻案」という視点をふまえて作品を読むことができるようになることを目標とします。

<到達目標>

- (1) 文学に対する関心を高める。
- (2) 文学に関する基礎的な知識を身に付け、それを説明できる。
- (3) 文学研究・鑑賞の一般的な手法を理解し、応用できる。
- (4) 文学作品を的確に理解し、そこから得た自分なりの問題意識や考え、感想などを適切に表現することができる。

<授業のキーワード>

文学 読解 日本文学

<授業の進め方>

講義を基本としますが、参加者に発言を求める場合があります。積極的な授業参加を期待します。

<履修するにあたって>

- ・講義形式で授業を進めますが、受講者の授業参加・発言を求める場合があります。
- ・文学作品を中心に扱います。文学作品を読むことや感想を述べること、グループワークに抵抗がある人の受講はおすすめしません。
- ・予習状況・理解度などを確認するミニッツペーパー・ワークシートの提出を求める場合があります。きちんと予習したうえで授業に参加して下さい。
- ・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画（進度、内容等）は予定から変更される場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

各回120分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。また課題にきちんと取り組み、期限までに提出して下さい。

<提出課題など>

毎回ミニッツペーパーを提出してもらいます。また授業の予習状況や理解度を問うワークシートを数回課します。レポートと、それに基づいたグループワークを課します。

<成績評価方法・基準>

ミニッツペーパー／授業についてのコメント・ワークシート・小テスト等70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

1) ミニッツペーパー／授業についてのコメント、ワークシート・小テスト等の評価基準は「到達目標」を達成できているか、適切に予習を行うなど、授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せていくか、の2点です。

2) レポートの評価基準は授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せていくか、「到達目標」です。

<テキスト>

プリントを配布、もしくはファイルをweb上に掲示しま

す。図書館での閲覧、またはインターネット上のテキストの閲覧を指示する場合もあります。

<参考図書>

授業中に指示します

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業のねらいや、受講上の注意について説明します。

第2回 『蜜柑』精読1

芥川龍之介『蜜柑』を精読し、文学作品の読解について基礎的な考え方を学びます。

第3回 『蜜柑』精読2

前回に引き続き、芥川『蜜柑』を精読します。また文学の「語り」について、基礎的な考え方を確認します。

第4回 『坊っちゃん』

夏目漱石『坊っちゃん』を例に、「語り」について考えます。

第5回 『地獄変』1

芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。

第6回 『地獄変』2

引き続き、芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。

第7回 『地獄変』3

前回に引き続き、芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。また太宰治について学びます。

第8回 『道化の華』1

『道化の華』を精読し、文学作品の「語り」と「作者」の問題について考えます。

第9回 『道化の華』2

文学作品の「作者」の問題について基礎的な考え方を学び、夏目漱石『こころ』論争を例に、「作者」をめぐる問題について考えます。

第10回 文学作品の「作者」「典拠・翻案」

文学作品の「作者」の問題、「典拠・翻案」について基礎的な考え方を学びます。

第11回 『お伽草紙』1

太宰治『お伽草紙』を精読します。

第12回 『お伽草紙』2

太宰治『お伽草紙』などを例に、文学作品の典拠や翻案について学びます。

第13回 『新釈 走れメロス』1

森見登美彦『新釈 走れメロス』を例に、文学作品の翻案について考えます。

第14回 『新釈 走れメロス』2

森見登美彦『新釈 走れメロス』を例に、文学作品の翻案について考えます。

第15回 グループワーク

レポートの内容に基づき、グループワークを実施します。

2021年度 後期

2単位

古典文講読

中村 健史

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「基礎国語4」の発展科目として位置づけられる。

この科目は古文の講読を行う。今期取りあげるのは石川雅望『しみのすみか物語』である。

授業の目的は以下の通りである。

(1) 古文を正しく現代語訳できるようになる。

(2) 古文の任意の箇所について文法的な説明を行えるようになる。

(3) 作品の主題や表現上の特色などを理解する。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

<到達目標>

(1) 古文を正しく現代語訳し、文章・口頭で表現できる。

(2) 古文の任意の箇所について文法的な説明を行える。

(3) 作品の主題や表現上の特色などを文章にまとめることができる。

ここでいう「古文」とは中古文法に則ってしるされ、おおむね平安時代～鎌倉時代の一般的語彙を踏襲した文章を指す。

<授業のキーワード>

古文講読、石川雅望、しみのすみか物語

<授業の進め方>

演習形式で行うが、担当者をあらかじめ決めるとはしないので、全員が毎回予習してくる必要がある。その場で指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

なお、授業の性質上、授業計画（進度、内容）に変更を加える場合がある。

<履修するにあたって>

履修要件は「古文の文章について、品詞分解し、文法的

説明ができること」（おおむね基礎国語2の到達目標に相当）である。授業は、受講生にこうした学力が備わっていることを前提として進めてゆく。

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

予習をせずに出席することは認めない。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。次の授業に向けて講読箇所を現代語訳し、必要に応じて文法的な分析を加えて予習しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

<提出課題など>

学期末に期末レポートを課す。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

<成績評価方法・基準>

授業内で指名されて講読・解釈したときの回答内容を60%として評価する。評価基準は、「到達目標」(1)(2)及び「積極的に授業に参加する意欲」である。

期末レポートを40%として評価する。評価基準は、「到達目標」(1)(2)(3)である。

<テキスト>

プリントを使用する。

古語辞典（電子辞書でも可）と文法書（高校生のとき使用したものでよい）を毎時持参すること。

<授業計画>

第1回 はじめに

古文の基本的な読解・現代語訳の方法について説明する。この回は予習不要。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第2回 『しみのすみか物語』319-320頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。「授業の目的」(1)～(3)に対応（以下すべて同じ）。

第3回 『しみのすみか物語』321-322頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第4回 『しみのすみか物語』323-324頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第5回 『しみのすみか物語』325-326頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加

で求めることもある。

第6回 『しみのすみか物語』327-328頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第7回 『しみのすみか物語』329-330頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第8回 『しみのすみか物語』331-332頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第9回 『しみのすみか物語』333-334頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第10回 『しみのすみか物語』335-336頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第11回 『しみのすみか物語』337-338頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第12回 『しみのすみか物語』339-340頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第13回 『しみのすみか物語』341-342頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第14回 『しみのすみか物語』343-345頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第15回 『しみのすみか物語』346-347頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

2021年度 前期～後期

4単位

国語科教育法

小寄 麻由

<授業の方法>

講義、演習、実習

Zoomを利用したリアルタイム授業を行う場合があります。

課題などは教職用学内システムmanabaのコース「国語科教育法」に載せます。

<授業の目的>

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に示された国語科教育の目標を理解し、その内容を実践できる能力を身につける。また、国語の授業に関する基礎的な知識や技能を身につけることができる。学習材の研究・指導と評価の方法などについて事例から学ぶとともに、模擬授業やグループワークを積極的に行い、授業力の向上を目指す。これは、本学ディプロマ・ポリシーの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。実務経験を生かし、指導力のある教員の育成を行う。

<到達目標>

- 1) 学習指導要領に示された目標や内容及び全体構造を説明できる。
- 2) 各領域の学習内容について指導上の留意点を説明できる。
- 3) 各領域の学習評価の考え方を説明できる。
- 4) 各領域と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- 5) 既存の形にとらわれず発展的な学習を試み、学習指導への位置づけを考察することができる。

<授業のキーワード>

- ・国語科の指導と実践
- ・国語力の向上
- ・授業研究
- ・学習指導要領
- ・学習指導案
- ・模擬授業

<授業の進め方>

- 1) 学校現場の生徒の認識・思考・学力などの実態を視野に入れた授業設計を試みる。
- 2) 情報機器及び教材の効果的な活用法を視野に入れる。
- 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を目指す。この時1つの単元を数人で担当し、アイデアを出しながら指導案の作成を行う予定である。
- 4) 学生同士で互いに模擬授業を受けることで、問題点や参考点を発見し、自身の模擬授業の反省や改善につなげていく。
- 5) 実践研究の動向を広く探り、自身の授業設計の向上を図る。

<履修するにあたって>

- 1) 将来国語科教育に携わるという気持ちを強く持つ学生を期待する。
- 2) 遅刻・欠席・早退をしない。
- 3) 中学校・高等学校の教科書に目を通す。
- 4) 中学校・高等学校の副教材（辞書・国語便覧・文法書・古文単語集など）を用意しておく。

5) 今年のセンター試験の国語、教員採用試験問題を解いてみる。

6) 教職サポート室を積極的に利用すること

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 国語の学力向上
- 2) 読書・新聞の購読
- 3) 模擬授業のための準備（目安として5時間）
- 4) その他、授業内で示す課題の作成（目安として2時間）

<提出課題など>

- 1) 模擬授業の学習指導案、板書計画、ワークシート
- 2) 模擬授業の相互評価表
- 3) 模擬授業ふり返りレポート
- 4) 課題として指示するレポート

<成績評価方法・基準>

模擬授業20%、学習指導案20%、レポート20%、授業中の発言・発表30%、相互評価表10%（定期考查は実施しない）

<テキスト>

適宜プリント配布

<参考図書>

「中学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社
「高等学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社
その他、適宜紹介する

<授業計画>

第1回 ガイダンス、アンケート

1年間の講義の内容について説明する。相互に自己紹介する。

「なぜ国語科教員を目指すのか」というテーマで作文を書く。

第2回 国語科教育の目標・内容

学習指導要領をもとに国語科の目標や内容について解説する。

第3回 国語科の授業を創る

国語科の授業を成立させるための授業計画・学習材研究・学習者研究・発問や板書・授業展開・評価について解説する。

中学校、高等学校の国語科教材について紹介する。

第4回 学習指導案 単元案

学習指導案とは、単元とは何かについて学ぶ。単元を創るための3つの観点について解説する。

第5回 学習指導案 本時案

学習指導案とはなにか、本時案の書き方を学ぶ。

第6回 評価規準と評価基準

指導と評価の一体化について理解する。評価規準と評価基準の違い、観点別評価、様々な評価法について解説する。

第7回 教材研究・話すこと聞くこと
「話すこと聞くこと」をどう指導するのか考察する
「話すこと聞くこと」の様々な指導方法を解説する

第8回 教材研究・書くこと
「書くこと」をどう指導するか考察する
「書くこと」の様々な指導方法を解説する

第9回 教材研究・言語事項
日本語の特徴、音韻と音声、文法、文字の成り立ち、書写指導についてどのように指導するか考察する

第10回 教材研究・読むこと（韻文）
韻文の教材をどう指導するか考察する
韻文の指導内容、指導法、評価について解説する

第11回 教材研究・読むこと（古典）
古典の教材をどう指導するか考察する
古典の指導内容、指導法、評価について解説する

第12回 教材研究・読むこと（物語・小説）
物語・小説の教材をどう指導するか考察する
物語・小説の指導内容、指導法、評価について解説する

第13回 教材研究・読むこと（説明文・論説文）
説明文・論説文の教材をどう指導するか考察する
説明文・論説文の指導内容、指導法、評価について解説する

第14回 教材研究 課題
高等学校の教科書から教材を1つ選び、各自研究して発表する。その内容はレポートにまとめて提出する。

第15回 前期のまとめと夏の課題
前期のまとめを行うとともに夏季休業中の課題について説明する。課題の詳細は授業中に説明する。

第16回 読書指導
様々な読書指導について紹介する。また、模擬授業の担当教材と担当日を決定する。

第17回 レポート発表・模擬授業準備
夏の課題を発表する。
模擬授業の準備として、板書の仕方、発問、指導方法などの留意事項について理解する。

第18回 模擬授業
学生による模擬授業。2～3人ずつ（以下、全体の受講人数により、増減あり）実施する。他の学生は生徒役となり模擬授業を受ける。授業後に指導教員からの講評を受けるとともに、授業者も含め全員が相互評価表を作成し、提出する。

第19回 模擬授業
学生による模擬授業

第20回 模擬授業
学生による模擬授業

第21回 模擬授業
学生による模擬授業

第22回 模擬授業
学生による模擬授業

第23回 模擬授業

学生による模擬授業

第24回 模擬授業
学生による模擬授業

第25回 模擬授業
学生による模擬授業

第26回 模擬授業
学生による模擬授業

第27回 模擬授業
学生による模擬授業

第28回 模擬授業
学生による模擬授業

第29回 模擬授業のまとめ
模擬授業について全体的なふり返りを行う。今後の課題や学んだこと、考えたことを話し合う。

第30回 本講座のまとめ
1年間の総括を行う。教職を目指すうえで今後何をすべきかを考える。1年間の授業で学んだ内容から考察したこと作文にまとめる。

2021年度 前期～後期

4単位

国語科教育法

小寄 麻由

<授業の方法>

「講義」「演習」「実技」

Zoomを利用したリアルタイム授業を行う場合があります。課題などは教職用学内システムmanabaのコース「国語科教育法」に載せます。

<授業の目的>

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に示された国語科教育の目標を理解し、その内容を実践できる能力を身につける。また、国語の授業に関する基礎的な知識や技能を身につけることができる。学習材の研究・指導と評価の方法などについて事例から学ぶとともに、模擬授業やグループワークを積極的に行い、授業力の向上を目指す。これは、本学ディプロマ・ポリシーの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。実務経験を生かし、指導力のある教員の育成を行う。

<到達目標>

- 1) 学習指導要領に示された目標や内容及び全体構造を理解している。
- 2) 各領域の学習内容について指導上の留意点を説明できる。
- 3) 各領域の学習評価の考え方を説明できる。

4) 各領域と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

5) 既存の形にとらわれず発展的な学習を試み、学習指導への位置づけを考察することができる。

<授業のキーワード>

国語科の指導と実践、国語力の向上、模擬授業、教材研究、学習指導要領、学習指導案

<授業の進め方>

1) 学校現場の生徒の認識・思考・学力などの実態を視野に入れた授業設計を試みる。

2) 情報機器及び教材の効果的な活用法を視野に入れる。

3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を目指す。

4) 学生同士で互いに模擬授業を受けることで、問題点や参考点を発見し、自身の模擬授業の反省や改善につなげていく。

5) 実践研究の動向を広く探り、自身の授業設計の向上を図る。

<履修するにあたって>

1) 将来国語科教育に携わるという気持ちを強く持つ学生を期待する。

2) 遅刻・欠席・早退をしない。

3) 毎日のニュースに关心を持ち、広く社会に視野を広げる。

4) 今年のセンター試験の国語、教員採用試験問題を解いてみる。

5) 教職サポート室を積極的に利用すること

<授業時間外に必要な学修>

1) 国語の学力向上

2) 読書・新聞の購読

3) 模擬授業のための準備（目安として、1回5時間）

4) その他、授業内で示す課題の作成（目安として、1課題につき2時間）

<提出課題など>

1) 模擬授業の学習指導案、板書計画、ワークシート

2) 模擬授業の相互評価表

3) 模擬授業ふり返りレポート

4) 課題として指示するレポート

<成績評価方法・基準>

模擬授業20%、学習指導案15%、模擬授業に対する自己

評価5%、レポート30%、授業感想30%

（定期考查は実施しない）

<テキスト>

適宜プリント配布

<参考図書>

「中学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社

「高等学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社

その他、適宜紹介する

<授業計画>

第1回 ガイダンス、アンケート、作文

1年間の講義の内容について説明する。相互に自己紹介する。

「中学校時代の国語の授業」というテーマで作文を書く。模擬授業について準備を指示する。

第2回 中学校の学習内容

中学校の学習内容について解説する。

書写指導について解説する。

模擬授業について準備を指示する。

第3回 模擬授業（韻文1）

学生による模擬授業。2人ずつ（以下、全体の受講人数により、増減あり）。他の学生からの質疑応答と指導教員からの講評。また授業者も含め全員が相互評価表を作成し、提出する。

第4回 模擬授業（韻文2）

学生による模擬授業

第5回 模擬授業（韻文3）

学生による模擬授業

第6回 模擬授業（韻文4）

学生による模擬授業

第7回 模擬授業（韻文5）

学生による模擬授業

第8回 模擬授業（韻文6）

学生による模擬授業

第9回 模擬授業（古典1）

学生による模擬授業

第10回 模擬授業（古典2）

学生による模擬授業

第11回 模擬授業（古典3）

学生による模擬授業

第12回 模擬授業（古典4）

学生による模擬授業

第13回 模擬授業（古典5）

学生による模擬授業

第14回 模擬授業（古典6）

学生による模擬授業

第15回 前期授業まとめ

夏の課題

前期中に実施した模擬授業について全体的な反省をし、前期のまとめを行う。夏期休業中の課題について説明する。

第16回 夏の課題提出

夏の課題を提出する。後期の模擬授業について説明と分担を行う。

第17回 模擬授業（散文1）

学生による模擬授業

第18回 模擬授業（散文2）

学生による模擬授業
第19回 模擬授業（散文3）
学生による模擬授業
第20回 模擬授業（散文4）
学生による模擬授業
第21回 模擬授業（散文5）
学生による模擬授業
第22回 模擬授業（散文6）
学生による模擬授業
第23回 模擬授業（散文7）
学生による模擬授業
第24回 模擬授業（散文8）
学生による模擬授業
第25回 模擬授業（散文9）
学生による模擬授業
第26回 模擬授業（散文10）
学生による模擬授業
第27回 模擬授業（散文11）
学生による模擬授業
第28回 模擬授業のまとめ
模擬授業について全体的な反省を行う。問題点を取り上げ、解決方法を話し合う。
第29回 教育実習・採用試験について
教育実習と採用試験に向けて準備すべきことを説明する。

第30回 まとめ
1年間の総括を行う。教職を目指すうえで何をすべきかを考える。1年間の授業で学んだ内容から考察したことを作文にまとめる。

2021年度 前期～後期

4単位
自然地理学
鹿島 基彦

<授業の方法>
大学の基本方針どおり、原則として対面形式での講義を行う。
<授業の目的>
地理学は人文地理学と自然地理学に大別され、自然地理学は主に人間の存在より前からある自然環境を扱う学問である。しかし、近代の人間活動の拡大は自然環境を大きく変えつつあり、人間から切り離した意味での自然地理学では時代にそぐわなくなっている。それを踏まえつつ、本講義は地球の気候環境の理解を中心に、それに関連する地理学的事例について学んでいく。（Diplom at Policy 知識、理解、価値基準、創造性、表現力）

前期は、はじめに様々な地理学の区分を概観する。また、それらは地球を鳥瞰する地図認識を背景にしているため、地図に関する知識・認識も不可欠である。次に地球の気

候環境の形成理由とそれによって出来る気候区分のうちで最も代表的なケッペンの気候区分について学ぶ（DP知識、理解）。

後期は、人間が自然環境に影響を及ぼしたと考えられる環境問題の代表としての地球温暖化と、それに関連する内容を学んでいく。近年の自然地理学では、環境問題も大きなテーマとなっている。また、燃料と食糧とそれに関連する領土領海問題についても詳しく扱う（DP 知識、理解、価値基準、創造性、表現力）。

<到達目標>

- ・地理区分について説明できる
- ・（ケッペンの）気候区分とその形成理由を説明できる
- ・地球温暖化について説明できる
- ・地球の炭素固定の能力について説明できる
- ・燃料・食糧資源と領土領海について説明できる
- ・地図表記法の特徴を説明できる

<授業のキーワード>

気候区分、地理区分、地図、環境問題、資源

<授業の進め方>

通常の対面講義形式。

期末レポートはdotCampusに提出する。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）も授業を実施する。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動すること。

<履修するにあたって>

- ・この講義は特に教員免許取得を目指す者を対象としているため、通常の講義に比べてハードルは高く、また、知識の習得のみならず人間性の教育も念頭に置いている。
- ・大学は「学びの場」であることを今一度自覚して受講すること。クラスの雰囲気と成績は比例する。

<授業時間外に必要な学修>

- ・講義内容についての整理（目安1時間程度）

<提出課題など>

受講姿勢確認と期末レポートを実施する。

<成績評価方法・基準>

- ・授業内容を聞き漏らさないように集中して授業を受けることが大切。
- ・期末レポートを行う。中間・期末理解度調査は行わない。
- ・受講姿勢確認 60%、期末レポート 40%
- ・冠婚葬祭、急病、部活、就活、教育実習、事故などによる欠席は出席扱い（確認書類提出必須）
- ・通年単位なので年度末に評価
- ・前期 50% 後期 50%

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

自己紹介と授業の注意点を説明する。

第2回 1章 自然地理学に関わる分類 1

これから学ぶ自然地理学の地理学分類の中での位置づけと、地球科学的区分の中での位置づけについて説明する。

第3回 1章 自然地理学に関わる分類 2

世界の大陸区分、文化区分について概観する。

第4回 1章 自然地理学に関わる分類 3

世界の海洋区分について概観する。

第5回 1章 自然地理学に関わる分類 4

世界の生物区分とこれらの区分境界が出来る理由となる地形と海について概観する。

第6回 2章 地図学

様々な地図表記法と世界地図について説明する。

第7回 3章 気候区分の形成 1

ケッペンの気候区分が出来る理由について詳しく紹介する。特に地球のエネルギー源としての太陽、地球の放射収支について説明する。

第8回 3章 気候区分の形成 2

ケッペンの気候区分が出来る理由について詳しく紹介する。特に地球の自公転について説明する。

第9回 3章 気候区分の形成 3

ケッペンの気候区分が出来る理由について詳しく紹介する。特に大気大循環、海洋大循環について説明する。

第10回 3章 気候区分の形成 4

ケッペンの気候区分が出来る理由について詳しく紹介する。特に海陸風・モンスーン、中緯度の暖流・寒流について説明する。

第11回 4章 気候区分 1

ケッペンの気候大区分とその特性について説明する。

第12回 4章 気候区分 2

引き続き、ケッペンの気候大区分とその特性、および、他の気候区分について説明する。

第13回 4章 気候区分 3

日本の気候区分について説明する。

第14回 5章 気候変動 1

気候と気候変動について説明する。短期の気候変動の代表例としてエルニーニョ・ラ・ニーニャ現象について説明する。

第15回 5章 気候変動 2

温暖化の説明に先立ち、長期の気候変動について説明する。そのデータ取得などについて説明する。

期末レポートの説明。

第16回 5章 気候変動 3

温暖化の説明に先立ち、長期の気候変動について説明する。その原因について説明する。

第17回 5章 気候変動 4

温暖化の説明に先立ち、長期の気候変動について説明する。引き続き、その原因について説明する。

第18回 6章 地球温暖化と社会 1

気候変動の代表例として地球温暖化について説明する。その事実確認を行う。

第19回 6章 地球温暖化と社会 2

気候変動の代表例として地球温暖化について説明する。その原因について説明する。

第20回 6章 地球温暖化と社会 3

気候変動の代表例として地球温暖化について説明する。その環境への影響について説明する。

第21回 6章 地球温暖化と社会 4

気候変動の代表例として地球温暖化について説明する。引き続き、その環境への影響について説明する。

第22回 6章 地球温暖化と社会 5

温暖化に関連する炭素固定などについて説明する。

第23回 予備日

授業進行の調整日。

第24回 7章 資源と領土領海 1

地球の気候に大きな影響があると考えられている化石燃料について説明する。特に石油について説明する。

第25回 7章 資源と領土領海 2

地球の気候に大きな影響があると考えられている化石燃料について説明する。特に石炭について説明する。

第26回 7章 資源と領土領海 3

地球の気候に大きな影響があると考えられている化石燃料について説明する。特に天然ガスおよびメタンハイドレートについて説明する。

第27回 7章 資源と領土領海 4

炭素排出量は少ないが大きな危険性を抱える原子力発電について説明する。

第28回 7章 資源と領土領海 5

低炭素社会実現のために有効な再生可能エネルギーについて説明する。

第29回 7章 資源と領土領海 6

人間の燃料である食糧の現状と特に水について説明する。

第30回 まとめ

全体のまとめ。期末レポートの説明。

2021年度 前期～後期

4単位

自然地理学

梅田 真樹

<授業の方法>

・受講生が興味をもった身近な地形の写真を撮影し、その写真を使って、地形の生い立ちを解説します。

・兵庫県の地形は日本の縮図です。担当教員が撮影した兵庫県の地形の写真を使って、日本の地形がどのようにしてできたのかを学びます。

・兵庫県の砂丘、周氷河地形、火山、断層などから、地球が経験した気候変化を解説します。海外のダイナミックな地形も紹介します。

・パワーポイントで様々な地形や自然の写真を紹介し解説するだけでなく、校庭などで実際に植生の観察もとりいれ、地形が気候や自然にどのような影響を与えているかを学びます。

＜授業の目的＞

この科目では、DPに掲げるうち、2. 専門分野に高い関心を持ち、課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている、3. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる、を目指している。

神戸にはアジアを代表する良港があり、世界の船乗りが愛した水がある。灘の酒や有馬温泉もある。これらはすべて神戸ならではの地形が生み出した自然の恵みである。一方、このような地形は、大きな地震を伴う地殻変動によってつくられた。まず、これらの身近な自然地理について学び、その対象を日本から世界へと広げていき、地球規模の大きな視点から地域を捉えることができるようになる。この授業を履修することで、地理学的な関心をもって自然景観に目を向け、その面白さを知ることができるようになる。地域学習の重要性が認識でき、授業に対応できる必要最低限の知識を身に付けることを目的とする。

＜到達目標＞

1 地形、地震、火山、気候についての基礎知識を持ち、説明できる。

2 身近な自然環境（六甲山など）の成り立ちと生い立ちについて、総合的に学び、興味を持って考えることができる。

3 地形を見て、その場所の自然史を語ることができるようになる。

＜授業のキーワード＞

自然環境 地形 断層 火山 氷河

＜授業の進め方＞

パワーポイントを用いた講義と観察を組み合わせて行う。高校で地理を選択していない学生にも配慮する。

＜履修するにあたって＞

積極的に授業に参加し、課題に取り組んでください。

＜授業時間外に必要な学修＞

特定の教科書は指定しませんが、各自読みやすい自然地理学の本を探し、入手してください（ガイダンス時に紹介します）。

授業時にプリント教材をまとめて配布するので、予習の際に目を通し、用語について調べておいてください（60分程度）。学修は復習を中心に行い、ノートをまとめてください。また、時間中に終えられなかった課題があれ

ば完成させ、関連する書籍を読み、理解を深めてください（120分程度）。

＜提出課題など＞

授業ごとに課題を課し、提出してもらいます、提出課題は点検し、返却します。

＜成績評価方法・基準＞

授業毎提出物60%、期末レポート40%。

＜テキスト＞

使用しない。

＜参考図書＞

なし。

＜授業計画＞

第1回 ガイダンス

地球とはどんな星で、自然地理学とはどのような学問か。

第2回 身近な植生

校庭などの身近な植物を観察し、それらの植物がどの地域に起源をもち、どうしてそこに生えているのかについて解説する。

第3回 白亜紀の火成活動による地形：桶居山、中山連山

恐竜が生きていた約1億年前、日本列島の地下では活発にマグマが活動し、地表ではたくさんの火山が噴火した。白亜紀の火成活動がつくった兵庫県の地形について解説する。

第4回 兵庫県の火山地形：甲山、神鍋山

約1300年前に噴火した甲山、約2万5千年前に噴火した神鍋山など、兵庫県の火山の地形について紹介する。

第5回 兵庫の山地：六甲山地

六甲山がどのようにしてできたのかについて、芦屋のロックガーデン・須磨アルプスと蓬莱峡・白水峡の地形の違いからひもとく。

第6回 太古の海水が湧き出す温泉：有馬温泉、宝塚温泉、見つけた温泉

有馬温泉や宝塚温泉がなぜそこにあるのかについて学び、温泉が湧くしくみと湧く地形の条件を知る。教員が六甲山地の地形を見て、山を歩き、見つけた温泉を紹介する。

第7回 プレートと火山がつくる温泉：城崎温泉、湯村温泉

東日本大震災を引き起こした太平洋プレートは兵庫県北部の地下まで届き、火山性の温泉（城崎温泉や湯村温泉）をつくる。プレートの沈み込みがつくる火山性温泉と地形から、兵庫県の土台がどのようにしてできたのか解説する。

第8回 盆地はどのようにしてできたのか：三田盆地、篠山盆地、大阪湾

三田盆地は太古の第二瀬戸内海の跡、篠山盆地は太古の湖の跡、大阪湾の将来は盆地？、などのエピソードを通して、盆地から大地の歴史をひもとく。

第9回 氷河期にできた地形：有馬富士、雄岡山、峰山高原

数万年前、地球に氷河期が訪れた。兵庫県には、氷河期にできた数々の美しくなだらかな地形がある。兵庫県の地形から氷河期の謎を解く

第10回 台地はどのようにしてできたのか：播磨平野、上ヶ原台地

兵庫県には台地が多い。台地は大地の間欠的な隆起と気候変化による海の移動によってつくられた。台地に残された海の跡や縄文時代の亜熱帯の森の名残りを紹介する。

第11回 平野はどのようにしてできたのか：三原平野、神戸の扇状地、中世都市尼崎

どのようにして河川が平野をつくったのかについて、兵庫県最大の扇状地のある三原平野（淡路島）、六甲山地がつくる扇状地と天井川、尼崎の海岸線の変化を通して探る。

第12回 地形がつくる水：布引の水、灘の宮水、揖保川なぜ六甲布引の飲料水は腐らないのか、なぜ西宮や住吉に湧く水は名酒になるのか、なぜ揖保川の水はしょうゆやそうめんを作るのに適しているのか。これらの水質をつくる地形の違いについて解説する。

第13回 海峡はどのようにしてできたのか：明石海峡、鳴門海峡

海峡は大昔の河川の跡である。河川が海峡に変化する過程について、明石海峡や鳴門海峡を通して解説する。また、明石のタコが世界一美味しい理由、明石海峡大橋を通して本州と淡路島が少しずつ離れていることを紹介する。

第14回 海岸の地形はどのようにしてできたのか：但馬海岸、慶野松原、須磨海水浴場

リアス式の但馬海岸、慶野松原の砂丘、須磨海水浴場の砂浜のできかたを通して、波や風がどのようにして海岸の地形をつくるかについて解説する。

第15回 兵庫の地形は日本の縮図

前期のまとめとして、兵庫県の大地の歴史から、日本列島の歴史をひもとく。

第16回 サンゴがつくる地形

サンゴという動物がどのようにしてサンゴ礁をつくり出すのか、サンゴ礁の豊かな生態系やそれが環境に与える影響について解説する。

第17回 気候のしくみ

梅雨や台風がある理由、夏の暑さや冬の寒さの理由を自然地理の観点から読み解く。

第18回 地球温暖化の未来

約7千万年前、現在よりもはるかに深刻な地球温暖化が進んだ。そのような過去の温暖化と現在の温暖化を照らし合わせ、未来の地球の環境を予測する。

第19回 雲と気候

校庭で雲を観察し、雲の成因と名前を知り、地形が生み出す雲と気候について考える。

第20回 秋の植生

校庭の植物を観察し、気候からみた植生を考える。

第21回 波はどうしておきるのか

風がつくる波と地震がつくる津波の違い、月の引力がつくる潮汐波、それらの波がつくる地形について解説する。

第22回 川はどうしてできるのか

川は陸上だけでなく、南極の氷の下にも、砂漠の地下にも、海底にも存在する。川はどこでできて、どこを流れ、どこへたどり着くのか、そして川の流れはどんな地形をつくるのかについて解説する。

第23回 砂漠の地形と気候

オーストラリアの砂漠を題材にして、なぜ砂漠ができるのか、なぜ砂漠にオアシスが湧くのかなどのエピソードを紹介しながら、砂漠の地形と気候について解説する。

第24回 世界の氷河がつくる地形

ヨーロッパの氷河がつくる美しい地形について紹介する。

第25回 世界の火山と地形

イタリアやハワイ島などの火山の特徴と、火山がつくる地形について学ぶ。

第26回 地震はどうしておきるのか

地震についての知識を習得し、活断層や南海トラフ地震に対する思い込みと誤解を解く。

第27回 地球外惑星の地形

地形の研究成果は、地球外惑星の環境を知る手掛かりになる。火星や金星の地形から、それらの惑星が辿った歴史を探る。

第28回 地形の謎

興味のある世界の地形の成因について調べる。

第29回 地形の謎

興味のある世界の地形の成因についてまとめる。

第30回 後期分のまとめ

興味のある地形の成因について発表する。

2021年度 前期～後期

4単位

社会科・公民科教育法/社会科・公民科教育法

藤田 敏和

<授業の方法>

前期：講義、後期：演習

<授業の目的>

中学校社会科（以下「社会科」と略する）および高等学校公民科（以下「公民科」と略する）の教員免許取得希望者を対象に、教育についての理解を深め教職に対する意欲を喚起すること、社会科・公民科教員として必要な資質を確認させること、社会科・公民科教育の目的と内容を把握させること、生徒の学習意欲を高める授業を創造するために必要な基本姿勢と技術を伝達することを目的とする。科目的性格上、受講者が全学D P所載の1～5の諸能力を学修することに資することを目指す。なお、この授業の担当者は、高等学校の教諭を41年間勤めた実務経験のある教員であるので、授業内容は実践を踏まえたものとなる。

<到達目標>

1. 教育関連法規の概要および学習指導要領改定の推移について理解し、説明することができる。
2. 学習指導要領における社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造について理解し、説明することができる。
3. 社会科・公民科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
4. 社会科・公民科の学習指導および評価の方法や手順について理解し、説明することができる。
5. 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計を行い、社会科・公民科の学習指導案を実際に作成することができる。
6. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけることができる。
7. 社会科・公民科教員として任用された際に授業その他の学習指導を行うことができる。

<授業のキーワード>

教育関連法規 学習指導要領 教科書 学習指導案 模擬授業

<授業の進め方>

前半は講義中心の授業である。後半は模擬授業演習で、1人ひとりが教壇に立つなど授業の構成に参加し、相互に批評する形式となる。

<履修するにあたって>

社会科・公民科教員として教壇に立つことになるということをはっきり自覚した上で授業に臨むこと。公民科で履修した科目を復習しておくこと。履修していない科目についても少なくともイメージをつかんでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

前半の講義内容の毎回の復習 指定図書・参考書のできる限りの参照 学習指導案の作成はじめ模擬授業の入念な準備（については最低でも各回について1時間はかかると思われる。各回あたり1時間かけるとすれば年間で約30時間。5～6冊。これで最低限度ぐらいであろう。最低でものべ24時間はかかると思われる）

<提出課題など>

前期末・後期末にレポートの提出を求める。

前半は授業ごとに小課題の提出を求める。

後半は模擬授業演習ごとに、授業担当者に学習指導案の提出を、他の出席者に「評価票」の提出を求める。

<成績評価方法・基準>

定期試験は実施しない。レポート内容50%（内訳：前期末レポート50%、後期末レポート50%）、授業関連50%（内訳：担当模擬授業内容50%、学習指導案25%、評価票および前期小課題25%）で評価する。

<テキスト>

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社2018年208円、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍2019年1100円

<参考図書>

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊編著『教職に関する基礎知識(第3版)』八千代出版2021年2420円、古川治・今西幸蔵・五百住満編著『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房2018年2640円、解説教育六法編修委員会編『解説教育六法 2021 令和3年版』三省堂2021年2970円、久米公編著『漢字指導の手引き第八版』教育出版2017年1760円

<授業計画>

第1回 ガイダンス

科目的目的、目標、授業の概要と進め方を知り、注意事項の説明を受ける。

第2回 教育関連法規の概要

教育基本法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行細則の概要を学ぶ。

第3回 学習指導要領とは何か

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の意義、概要、変遷の歴史を学ぶ。

第4回 中学校・高等学校の現状

中学校・高等学校の現状を概観し、中学・高校教育に期

待されていることとは何かを考察する。

第5回 社会科・公民科教育の意義

社会科・公民科教育の歴史、特質、構造、目標、教科内容、意義について学ぶ。

第6回 社会科・公民科の学習指導と評価

学習指導の形態、学習資料の活用、評価とその方法について学ぶ。あわせて、模擬授業の分担・順序等を決定する。

第7回 社会科・公民科教授法

学習指導案の作成法、教材研究の方法、授業研究、実地の授業の展開方法について学ぶ。あわせて、模擬授業の分担・順序等を決定する。

第8回 新しい幼稚園教育要領・学習指導要領の特徴と意義

新幼稚園教育要領・学習指導要領の構造、求められる資質・能力とその育成、「主体的・対話的で深い学び」について学ぶ。

第9回 新しい中学校社会科

新学習指導要領における中学校社会科の目標、改訂の趣旨、内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

第10回 新しい中学校社会科公民的分野

新学習指導要領における中学校社会科公民的分野の目標、改訂の趣旨と要点を学ぶ。

第11回 新しい中学校社会科公民的分野

新学習指導要領における中学校社会科公民的分野の内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

第12回 新しい高等学校公民科

新学習指導要領における高校公民科の目標、趣旨と要点を学ぶ。

第13回 新しい高校科目「公共」について

目標と内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

第14回 高校新課程科目「倫理」について

目標と内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

第15回 高校新課程科目「政治・経済」について

目標と内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

第16回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第17回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第18回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第19回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の

受講者は「評価票」を作成して提出する。

第20回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第21回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第22回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第23回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第24回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第25回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第26回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第27回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第28回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第29回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第30回 総括

担当者と受講者とで1年間の成果について総括する。また、受講者は社会科・公民科教員となるにあたっての抱負を披瀝する。

2021年度 前期～後期

4単位

社会科・公民科教育法/社会科・公民科教育法

山下 恒

<授業の方法>

○「講義」と「演習」（模擬授業を中心とする対面授業です。）

<授業の目的>

本授業は受講生が将来中学校の社会科、高等学校の公民科を担当する教員として教壇に立つことを前提として、受講生の資質を高め、教育技術を向上させることを目的とする。授業での教材研究の重要性や資料の提示法などを習得し、模擬授業では受講生の能力の伸長を図る。具体的には教材研究の手法、説明技術、表現方法、さらに学習指導案の作成、模擬授業の実践を通じて授業に必要なスキルを養う。担当講師は中学校8年間、高等学校33年間の勤務経験があり、なつかつ大学で社会科・地理歴史科教育法・社会科公民科教育法を11年間担当した実務経験をもつ教員です。教育法は授業での教授体験を通してのみ身に付くことを受講生に知ってもらいたいと思います。

<到達目標>

模擬授業を体験して教科指導の重要性を認識することができる

作成した学習指導案にもとづき授業ができる

<授業のキーワード>

対面授業 模擬授業 中学校社会分野 高等学校公民分野 現代社会 政治経済 学習指導案 合評

学習指導要領

<授業の進め方>

レポート等の課題を適宜指示します 学習指導案の作成をします 学習指導案にもとづいて対面での模擬授業を行います

<履修するにあたって>

○受講前に資料を配布することがあります。manabaから事前に資料をダウンロードしてください。

○受講生は学習指導案を作成し、それにもとづいて対面で模擬授業を複数回行う。受講生の人数によって模擬授業の回数は変動します。この模擬授業はレポートなどに代えることはできません。模擬授業を無断欠席した場合には評価の対象になりません。授業中の入退室は認めません。また20分以上の遅刻者には出席カードは配布しません。受講に当たり携帯・スマホの電源はOFFにしてください。飲食は禁止です。

<授業時間外に必要な学修>

受講後、講義内容の整理および出された課題の考察、提出物の作成に2時間ほどかかります。模擬授業を始めるにあたって実践するための諸準備に相当の時間がかかり

ます。担当テーマに対する教材研究（15時間）と使用教材の精選、学習指導案の作成（細案と略案の作成10時間）、模擬授業前の練習（8時間）、さらに使用資料の用意（10時間）などがある。また模擬授業終了後は体験レポートの作成に4時間の時間がかかります。

<提出課題など>

課題レポート 学習指導案（細案と略案） 板書計画案

模擬授業体験レポート 模擬授業評価票

出席票感想 その他必要な課題を課します

<成績評価方法・基準>

前期のオンライン授業では学習指導案の作成など課題が複数回です。後期の授業では担当模擬授業の実践と他の模擬授業への積極的参加、学習指導案・模擬授業体験レポートなど。さらに複数回のレポートが課せられます。定期考査は後期試験で実施しません。

<テキスト>

帝国書院「社会科 中学生の公民」

<参考図書>

文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』（平成29年度告示）

文部科学省『中学校学習指導要領解説』（平成29年度告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年度告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』（平成30年度告示）

<授業計画>

第1回 ガイダンス 開講にあたって

講師の紹介 受講生自己紹介 講義の概要 オンライン授業・模擬授業について 評価について

第2回 学習指導要領について

1. 中学校社会科（公民分野）の目標と内容

2. 高等学校公民科の目標と内容

第3回 中学校社会科公民分野と高等学校公民科の学習内容 学習指導要領の目標と学習内容

1. 中学校社会科公民的分野の内容

2. 高等学校「政治経済」の内容

3. 高等学校「現代社会」の内容 高等学校「倫理」の内容

第4回 教材研究の意義と方法(1)

1. さまざまな教材研究の方法

第5回 教材研究の意義と方法(2)

1. さまざまな教材研究の方法

第6回 学習指導案の作成(1) 学習指導案の意義と作成方法

決定したテーマに沿って学習指導案を作成 自宅学習で作成作業継続

第7回 学習指導案の作成(2) 学習指導案の修正と完成

完成した学習指導案を修正 模擬授業に必要な教材

の作成

第8回 授業の進め方 模擬授業を始めるにあたって
授業の進め方(黒板の使い方 用語の説明 話し
方・姿勢・表情 指示の出し方

第9回 公民分野の授業研究(1)

公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討

第10回 公民分野の授業研究(2)

公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討

第11回 公民分野の授業研究(3)

公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討

第12回 公民分野の授業研究(4)

公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討

第13回 公民分野の授業研究(5)

公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討

第14回 公民分野の授業研究(6)

公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討

第15回 前期のまとめと後期の模擬授業実施について

1. 前期授業の総括 2. 後期の実施予定の模擬授業のテ
ーマ一覧 3. 模擬授業の概要説明

第16回 ガイダンス(後期) 1. 模擬授業についてテ
ーマ決定

1. 模擬授業の進め方 2. 模擬授業評価票 3. 模擬
授業合評 4. 模擬授業体験レポート

第17回 模擬授業 - 1 中学校社会公民的分野、高等
学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第18回 模擬授業 - 2 中学校社会公民的分野、高等
学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第19回 模擬授業 - 3 中学校社会公民的分野、高等
学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第20回 模擬授業 - 4 中学校社会公民的分野、高等
学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第21回 模擬授業 - 5 中学校社会公民的分野、高等
学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第22回 模擬授業 - 6 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第23回 模擬授業 - 7 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第24回 模擬授業 - 8 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第25回 模擬授業 - 9 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第26回 模擬授業 - 10 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第27回 模擬授業 - 11 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第28回 模擬授業 - 12 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体
験レポート

第29回 模擬授業 - 13 中学校社会公民的分野、高等学
校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマで
の模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役と
しての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体

験レポート

第30回　まとめ 模擬授業の総括

グループ討議「授業の反省とスキルの向上にむけて大切なこと」

2021年度 前期～後期

4単位

社会科・地理歴史科教育法/社会科・地理歴史科教育法

中村 健治

<授業の方法>

講義・演習・実習

<授業の目的>

中学校社会科・高等学校地理歴史科の教師を目指すにあたって、学習指導における不可欠な知識や指導技術・指導方法を習得し、併せてその心構えの醸成を図る。学習指導要領を読み解し、何をどのように教えなければならないかを総合的に理解し、学習指導案の作成や模擬授業実習、小グループによるグループワークなどを通して、社会科・地理歴史科教師に求められる実践的な資質・能力を身につけることを目的とする。

なお、この授業担当者は、神戸市立高等学校で地歴公民科教諭・教頭・校長を38年間勤め、教育委員会事務局において社会科・地歴公民科の指導主事も勤めた実務経験のある教員である。学校現場で社会科・地理歴史科の教員として、どのように考え、どのように授業に臨み、どのように勤めるべきかを学校現場の実態を踏まえながら授業を行います。

<到達目標>

1. 中学校社会科・高等学校地理歴史科の学習指導要領に示された目標及び主な内容並びに全体の構造を理解できる。（知識）
2. 学習指導要領に示された学習内容の取扱い、指導上の留意点を理解できる。（知識）
3. 授業計画や教材研究の方法を理解し、学習指導要領に基づいた適切な学習指導案を作成できる。（知識・技能）
4. 学習指導案に基づいて適切に模擬授業を行うことができる。（技能・態度）
5. 学習評価の考え方・方法を理解できる。（知識・技能）
6. 他者の授業を適切に評価できる。（技能・態度）
7. 講義に積極的に参加し、協調的・建設的な議論ができる。（態度・習慣）

<授業のキーワード>

学習指導要領、学習指導案、主体的・対話的で深い学び、学習評価、模擬授業

<授業の進め方>

- ・受講生が近い将来教壇に立つことを前提に、受講者主体の実践的な授業を行う。

・担当者からの講義のみならず、少人数によるグループワーク（学習指導案検討・教材検討）等、受講者が主体的に参加できる授業形態を取り入れる。

・受講者全員が1回以上模擬授業を行い、授業者以外はその評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

・受講者数によって、授業計画を変更する場合もある。

<履修するにあたって>

・受講生が将来教員になることを前提に授業を行います。1年間30回という長丁場の講義となりますし、内容的にもかなりハード・濃密になります。生半可な気持ちで受講するのではなく、「教員になる」という強い意志と覚悟を持って授業に臨んでください。

・授業に関係のない私語・スマホ操作・授業中の入退室は禁じます。

・受講者同士の討論・発表など、受講者主体の授業となるので、積極的な姿勢で臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

・前期の「学習指導要領の理解」の授業後には、基本的な内容に関しての小テストを実施するため、その復習（1時間程度）が必要となる。

・前期の授業後には、授業内容等に関する課題を課すことがあるため、その課題に取り組む時間が必要となる。

・後期の模擬授業への準備時間として、授業内容の教材研究・教材の準備・板書内容の構成・学習指導案の作成などで最低数時間要する。また、模擬授業終了後のレポート作成には授業時間外で2～3時間程度の学修が必要となる。

<提出課題など>

毎回の授業のリフレクションシート（出席票を兼ねる）

課題プリント 学習指導案 模擬授業評価表（模擬授業自己評価表） 模擬授業レポート

<成績評価方法・基準>

・定期考査は実施しない。

・到達目標に照らしてどの程度達成できたかを以下の観点によって総合的に評価を行う。

模擬授業への取組（学習指導案・教材研究・板書計画等）

他者の模擬授業への積極的参加及び模擬授業評価表
模擬授業レポート

リフレクションシートの内容

課題レポート 小テスト

グループワーク・意見発表など、授業への積極的参加姿勢

（～：50% ～：40% ～：10%）

<テキスト>

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省発行）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編（文部科学省発行）

上記の2冊は必ず購入しておくこと。

前期授業では、学習指導要領の内容やポイント並びに各回の授業主題に応じた内容をまとめたプリント資料を使用して授業を進めるが、必要に応じて上記2冊を使用する。

<参考図書>

- ・自分が中学校で使用した社会科の教科書・資料集・地図帳
- ・自分が高等学校で使用した地理・日本史・世界史の教科書・資料集・地図帳等
- ・新課程用中学校社会科教科書

(学習指導案作成や模擬授業実施時に必要となる)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

- ・担当教員自己紹介
- ・受講生自己紹介
- ・講義の狙いと概要説明
- ・評価方法

第2回 中学校社会学習指導要領の理解

中学校社会学習指導要領に示された、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の目標及び主な内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第3回 中学校社会学習指導要領の理解

中学校社会学習指導要領に示された、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の目標及び主な内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第4回 高等学校学習指導要領地理歴史科の理解

高等学校学習指導要領地理歴史科に示された各科目(地理総合・歴史総合・地理探求・日本史探求・世界史探求)の目標及び内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第5回 高等学校学習指導要領地理歴史科の理解

高等学校学習指導要領地理歴史科に示された各科目(地理総合・歴史総合・地理探求・日本史探求・世界史探求)の目標及び内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第6回 社会科・地理歴史学習指導案作成演習

中学校社会学習指導要領及び高等学校学習指導要領地理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第7回 社会科・地理歴史学習指導案作成演習

中学校社会学習指導要領及び高等学校学習指導要領地理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第8回 社会科・地理歴史学習指導案作成演習

中学校社会学習指導要領及び高等学校学習指導要領地理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第9回 社会科・地理歴史学習指導案作成演習

中学校社会学習指導要領及び高等学校学習指導要領地

理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第10回 教材研究の意義と方法

様々な教材研究法について学び、綿密な教材研究の必要性・重要性を理解する。

第11回 教材研究の実践演習

歴史(日本史)に関する具体的な教材(史資料)をもとに、どのように授業に取り入れ、展開するかを小グループで考え、発表する。

第12回 授業の進め方について

教壇に立って授業を行う際、留意すべき点やその進め方について理解する。

第13回 模擬授業の実施に向けて

模擬授業についての概要(授業時間・進め方・評価)について理解する。

第14回 模擬授業の実施に向けて

模擬授業の実施に向けての業の割り振り決定。授業を行うにあたっての心構えについて学ぶ。

第15回 前期のまとめ

前期に行った学習内容をまとめる。学習指導案の作成、教材研究、板書方法等について討議を行い、意見交換をする。

第16回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第17回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第18回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第19回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第20回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第21回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、

他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第22回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第23回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第24回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第25回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第26回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第27回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第28回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第29回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

第30回 1年間のまとめ

1年間の授業を通して、社会科・地理歴史科教員が授業を行う上で必要な知識・技能・心構え等について振り返り、受講者各自が今後の教職科目への取組や目指す教員像等について意見表明を行う。

2021年度 前期～後期

4単位

社会科・地理歴史科教員法/社会科・地理歴史科教員法

山下 恒

<授業の方法>

○「講義」と「演習」（模擬授業の実施を中心とする対面授業）

<授業の目的>

教師の力量は教科指導の分野で發揮されるといつても過言ではない。それほど重要である。教科指導の両輪は深い専門性に支えられた知識とそれを生徒に魅力的に伝える技術である。専門的知識は絶え間ない自己研鑽と知的好奇心に裏付けられた探究心によって培われる。また後者の教授技術は生徒に分かってもらいたいという愛情に源がある。本講座では模擬授業を体験することによってそのことを強く認識してもらうことが目的である。受講生には、模擬授業に向けての何が必要かを考察し、その準備を万全にしてこの講座に臨んでもらいたい。なお担当講師は中学校8年間、高等学校33年間の勤務経験があり、また大学の社会科・地歴科教育法を11年間担当した実務経験のある教員です。実践的な授業を目指したいと思っています。

<到達目標>

1. 教科指導の大切さ難しさを実感できる。 2. 教材研究の重要性を知る 3. 学習指導案が作成できそのプランに基づいた授業ができる

<授業のキーワード>

対面授業 模擬授業 学習指導案 教材研究 学習指導要領

<授業の進め方>

○授業では、パワーポイントなどを使い、具体的な教材資料を提示し、教科内容の指導力を高めたい。

○対面授業では、受講生が近い将来教壇に立つことを前提として模擬授業を進めます。実践的な内容です。教材研究、学習指導案作成、模擬授業の体験、生徒役としての参加、合評会での意見交換などを行い教師としての基本的な教育技術を習得するとともに研究意欲を高めるようになりたい。

<履修するにあたって>

○授業を実施するにあたり、事前に資料をmanabaを通じて配布したり、課題を課したりする場合があります。

○対面授業が復活することを前提として模擬授業を実施します。

模擬授業は必須です。レポート等に代えることはできません。受講生には必ず模擬授業を課します。模擬授業の回数は受講生の人数によって変動があります。模擬授業を行わなかった場合は評価の対象となりません。授業中の入退室は認めません。また20分以上の遅刻者に

は出席カードは与えません。受講にあたり携帯・スマホの電源はOFFにしてください。10回以上の出席がなければ評価の対象となりません。

○授業がオンライン授業となった場合には、別途指示します。

<授業時間外に必要な学修>

この科目では毎回の講義について復習のために2時間ほどかかります。後期で実施予定の模擬授業への準備期間には毎日2時間の時間外の学習が必要になります。模擬授業の準備とは、教科内容の予習、教材の準備、板書内容の構成、学習指導案の作成などです。また模擬授業終了後の体験レポートの作成には授業時間外に3時間の学修が必要となります。

<提出課題など>

模擬授業体験レポート 学習指導案（細案と略案） 模擬授業評価票 出席票への感想文記載、
授業で課したレポートの提出

<成績評価方法・基準>

課題レポート、学習指導案の作成、模擬授業の実践、他の模擬授業への積極的参加、模擬授業体験レポートによる。また複数回の課題が出ます。定期考査は後期に実施します。

<テキスト>

現在神戸市の中学校で使用されている中学校社会科の教科書

『社会科 中学生の地理』（帝国書院）

『中学校 社会科地図』（帝国書院）

『社会科中学生の歴史』（帝国書院）

高等学校の歴史教科書『詳説日本史B』（山川出版社）、

『詳説世界史B』（山川出版社）

<参考図書>

○文部科学省「中学校学習指導要領（平成二十九年告示）」

○文部科学省「中学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 社会編」

○文部科学省「高等学校学習指導要領（平成三十年告示）」

○文部科学省「高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 地理・歴史科」

『新詳日本史』（浜島書店）

高等学校で使用した地理・歴史の資料集など

<授業計画>

第1回 ガイダンス 開講にあたって

1. 講師紹介 2. 受講生自己紹介 3. 講義のねらいと概要 4. 授業実施要領 5. 評価方法

第2回 授業の進め方

初めて教壇に立つ人へ

1. 授業の進め方について

第3回 学習指導案について

1. 学習指導案とは何か 2. 学習指導案の作り方

第4回 教材研究の意義と方法

1. 教材研究はなぜ必要か 2. 教材研究の方法 3. 様々な教材研究

第5回 学習指導要領について

1. 中学校社会科の目標とその内容

2. 高等学校地理・歴史科の目標とその内容

第6回 歴史分野の授業研究（1）

1. 歴史分野授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第7回 歴史分野の授業研究（2）

1. 歴史分野の授業 2. 教材研究 3. 板書例

第8回 歴史分野の授業研究（3）

1. 歴史分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第9回 歴史分野の授業研究（4）

1. 歴史分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第10回 歴史分野の授業研究（5）

1. 歴史分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第11回 地理分野の授業研究（1）

1. 地理分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第12回 地理分野の授業研究（2）

1. 地理分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第13回 地理分野の授業研究（3）

1. 地理分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第14回 地理分野の授業研究（4）

1. 地理分野の授業 2. 教材研究 3. 板書事項の検討

第15回 前期授業を終えて・アンケート

後期授業の概要

後期の模擬授業テーマ一覧について説明・希望調査票記入

第16回 後期講座のガイダンス・模擬授業（ ）計画
中学校の地理・歴史分野、高等学校の日本史・世界史・地理の分野から、受講生の模擬授業テーマ決定。実施日を調整

1. 模擬授業の実施日と実施者確定

第17回 模擬授業 - 1 各自が中学校歴史分野、高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3. 合評会 4. 模擬授業体験レポートの作成・提出

第18回 模擬授業 - 2 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3. .

合評会 4. レポートの作成・提出
第19回 模擬授業 - 3 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第20回 模擬授業 - 4 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第21回 模擬授業 - 5 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第22回 模擬授業 - 6 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第23回 模擬授業 - 7 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第24回 模擬授業 - 8 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第25回 模擬授業 - 9 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第26回 模擬授業 - 10 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第27回 模擬授業 - 11 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第28回 模擬授業 - 12 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第29回 模擬授業 - 13 各自分が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う
1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加 3.
合評会 4. レポートの作成・提出
第30回 模擬授業を終えて 来年度の教育実習へむけて集大成としてグループ討議

2021年度 前期
2単位
社会学概論
濱田 武士

<授業の方法>
講義
<授業の目的>
主題：社会学の成果を学び、それをもとに現代社会の性格について考える。
目標：主な社会学理論を検討しながら、社会学とはどのような学問であるかを把握する。そしてその成果をふまえて、いくつかの社会的事象をとりあげて、それらがもつ意味を考える。
心理学部ディプロマ・ポリシーにしたがい、特に「社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる」能力を培う機会として、本講義は位置づけられる。前半では、社会学の基礎知識の修得を経て、主な学説を学ぶことから始める。そこでの知見をもとに、地域から国際社会まで視野を広くもって、社会事象を観察し、その意味や問題点を適正に把握するための力を養う。後半では、現代社会の特性やその問題点を、「ゆたかさ」をキーワードにして考察を進める。前半での成果をもとに、現代日本社会のゆたかさがもつ意味と、そこにはらむ矛盾について、事例を用いて考察を進める。
<到達目標>
第1に、社会学の基礎知識の習得が目指される。第2には、基礎知識をもとに、現代社会の特性や問題について、その意味や背景を明らかにすることが目標となる。
<授業のキーワード>
社会学 現代社会 ゆたかさ
<授業の進め方>
担当者による講義（解説）が中心となる。
<履修するにあたって>
各回にて文献を適宜紹介する。一部文献に関しては、期間を設け、部分を定めて精読をお願いする。課題は当該文献の通読の成果をはかるものを用意する。
<授業時間外に必要な学修>
授業各回で検討されたキーワードについて、該当する具体例や関連する事柄について検索し、調べること。どのように調べるかは授業にて案内する。
<提出課題など>
講義中に課題の提出をお願いする（回数は未定）。
<成績評価方法・基準>
課題提出物 65% (65点)、期末レポート 35% (35点) で評価する。
<テキスト>
特になし。適宜プリントを配布する。

<授業計画>

第1回 社会学の基礎的理

19世紀において社会学が誕生した歴史的経緯を考察する。社会学における重要なキーワードの概念を検討しながら、基礎知識を学ぶ。

第2回 方法論的集合主義

E・デュルケムの業績を検討しながら、彼が確立した方法論的集合主義の中身を理解する。

第3回 方法論的個人主義

M・ヴェーバーの業績を検討しながら、彼が確立した方法論的個人主義の中身を理解する。

第4回 構造-機能アプローチ

T・パーソンズの業績を検討しながら、彼が確立した「構造-機能アプローチ」の中身を理解する。

第5回 意味学派のアプローチ

20世紀後半に活躍したアメリカの社会学者の業績をいくつか検討して、個人の主体的な意味付与という実践から、個人と社会の関係を捉えようとするアプローチを考察する。

第6回 近年の社会学理論

近年の社会学理論の主な業績を検討する。これまでにみてきた社会学の古典的業績との比較から、現時点での社会学の成果と課題を明らかにする。

第7回 社会学理論のまとめ

第1回から第6回までの授業で学んだことを振り返り、要点の整理をする。

第8回 現代社会の特性と諸問題

現代社会の特性と諸問題について、近代社会の成熟化という観点から、具体的な事例を用いて検討をする。

第9回 家族論

社会学における家族研究の成果をみながら、現代社会の家族の特性を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

第10回 組織論

社会学における組織研究の成果をみながら、現代社会の組織の特性を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

第11回 地域社会論

社会学における地域社会をめぐる研究の成果も用いて、現代社会における地域社会の実態を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

第12回 文化と社会

現代社会における文化のありようと、それをめぐる問題点について、「グローバリゼーション」をキーワードにして考察をする。

第13回 政治と社会

現代社会における政治のありようについて、「民主主義のパラドクス」をキーワードにして、具体的な事例も交えながら考察をする。

第14回 経済と社会

現代社会における経済のありようについて、「消費社会」をキーワードにして、具体的な事例も交えながら考察

をする。

第15回 全体のまとめ

これまでの授業で学んだことを振り返り、要点の整理をする。

2021年度 前期～後期

4単位

宗教学概論

能川 元一

<授業の方法>

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある（3回ほどを予定）。

資料は OneDrive を通じて配布する。

<授業の目的>

宗教は人類の歴史、現代社会を理解するうえで重要なファクターの一つであり、また人間という存在を理解するうえでも欠かせない手がかりである。本講義では主として仏教、キリスト教、イスラム教の歴史を題材しながら、宗教に対するさまざまな学問的アプローチを紹介し、宗教の多面性を明らかにしたい。また宗教現象の多様性と、多様性を貫く一般性の双方を明らかにすることを目指す。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、宗教史、宗教思想史に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

<到達目標>

・仏教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、仏教が日本社会に与えた影響と仏教が日本で被った変容について理解する。

・キリスト教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、宗教社会学、宗教人類学、宗教心理学などの諸学問がどのように宗教現象へとアプローチするのかを学ぶ。

・イスラム教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、「スカーフ問題」「ムハンマド諷刺画事件」などに象徴される、イスラム社会と欧米社会の間の摩擦について、その背景を理解する。

<授業のキーワード>

原始仏教、根本分裂、大乗仏教、顕密体制、鎌倉新仏教、寺請制度

バビロン虜囚、律法、ユダヤ戦争、史的イエス／信仰のイエス、信仰義認

本文批評、禁忌、カリスマ、回心

シャリーア、政治的イスラーム主義、スカーフ問題

<授業の進め方>

講義時に使用する資料等は OneDrive の「宗教学概論講義資料」フォルダ（URLは下記参照）にPDFファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえ、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料PDFファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「宗教学概論講義資料」フォルダへのリンク [https:](https://)

<履修するにあたって>

第1回講義時に詳細なガイダンスを行うので、第1回講義を欠席した場合は初回出席時に申し出ること。

<授業時間外に必要な学修>

講義前に講義ホームページで配布した資料を閲覧し、理解しにくい箇所をチェックしておくこと（30分程度）。講義後に再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと（30分程度）。

<提出課題など>

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめるミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

<成績評価方法・基準>

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20%（全講義期間を通じて）である。

<テキスト>

なし（教材プリントを配布する）。

<参考図書>

馬場紀寿『初期仏教 ブッダの思想をたどる』、岩波新書

石井公成『東アジア仏教史』、岩波新書

末木文美士『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』、新潮文庫

五来重『日本の庶民仏教』、講談社学術文庫

山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』、岩波現代文庫

佐藤研『聖書時代史 新約篇』、岩波現代文庫

バート・D. アーマン『書き換えられた聖書』、ちくま学芸文庫

カレン・アームストロング『イスラームの歴史：1400年の軌跡』、中公新書

飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』、山川出版社（世界史リブレット）

<授業計画>

第1回 現代日本と仏教

現代社会における仏教のあり方について概観する。

第2回 原始仏教

ブッダの生涯と原始仏教の基本的な教義について解説する。

第3回 大乗仏教の成立

ブッダ入滅後の仏教史、特に大乗仏教の成立について概観する。

第4回 日本仏教史（1）

仏教の日本への伝来から平安仏教までを概観する。

第5回 日本仏教史（2）

神仏習合の歴史について概観する。

第6回 日本仏教史（3）

鎌倉新仏教について概観する。

第7回 日本仏教史（4）

鎌倉新仏教の思想史的な意義について考察する。

第8回 ユダヤ教の歴史

ユダヤ民族の成立からユダヤ戦争までを概観する。

第9回 「旧約聖書」の世界（1）

「旧約聖書」の成立過程を概観する。

第10回 「旧約聖書」の世界（2）

「創世記」「出エジプト記」を中心にその内容を概観する。

第11回 「旧約聖書」の世界（3）

「旧約聖書」に対する社会学的、人類学的分析のいくつかの例を紹介する。

第12回 ユダヤ教の神学（1）

一神教における「神」と「人間」の関係について考察する。

第13回 ユダヤ教の神学（2）

「ヨブ記」を題材に、一神教における「惡」の問題について考察する。

第14回 キリスト教の成立（1）

イエス・キリストが現れた時代の社会的・宗教的背景について概観する。

第15回 キリスト教の成立（2）

イエスの生涯と言行動、弟子たちの活動について概観する。

第16回 新約聖書の成立（1）

四福音書の成立過程について概説する。

第17回 新約聖書の成立（2）

福音書以外の文書、および「新約聖書」の成立過程について概説する。

第18回 神話としての「新約聖書」（1）

「聖書」への神話学的アプローチについて紹介する。

第19回 神話としての「新約聖書」（2）

「聖書」への神話学的アプローチについて紹介する。

第20回 キリスト教の発展（1）

ローマ帝国における国教化から東西教会の分裂までを概観する。

第21回 キリスト教の発展（2）

プロテスタント諸派の成立について、神学および政治的背景の二つの観点から考察する。

第22回 キリスト教の近代

19世紀の復興運動とその現代への影響について解説する。

第23回 イスラームの成立

ムハンマドの預言とウンマの成立について概観する。

第24回 クルアーンとイスラム法

クルアーンの成立と内容について概観し、クルアーンを法源とするイスラム法について解説する。

第25回 イスラム教と近代

欧米による植民地化に直面したイスラム社会の対応について概観する。

第26回 イスラム教と現代（1）

フランスにおける「宗教シンボル禁止法」成立過程を例にとり、欧米社会とイスラム社会の間の対立についてその背景を分析する。

第27回 イスラム教と現代（2）

デンマークの新聞社が掲載した諷刺画に端を発する「ムハンマド諷刺画事件」を例にとり、欧米社会とイスラム社会の間の対立についてその背景を分析する。

第28回 イスラム教と現代（3）

ISIS（「イスラム国」）に欧米出身のムスリムが参加する背景、欧米社会で高まっているイスラム・フォビアについて紹介する。

第29回 現代日本社会と宗教（1）

「宗教」という視点から見た場合の現代日本社会の特質について考える。

第30回 現代日本社会と宗教（2）

現代日本社会における宗教現象について、宗教社会学的観点から考察する。

2021年度 前期

2単位

書道（書写を含む。）/書道（書写を含む。）

新田 安典

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

日常使用する漢字や仮名の成り立ちや歴史、書体の分化など多様な書についての理論・表現・鑑賞を通じて研究する。また、この教科は中学校（国語科書写）を指導するための専門的知識や技能を習得することも目標とする。

<到達目標>

様々な書についての理解と表現法を可能にする。また、中高教科の国語科書写や高校書道に関する知識や技能を身につける。

<授業のキーワード>

毛筆を中心に様々な表現法を習得する。

<授業の進め方>

資料提示により、古典教材などの理解と表現をする。

<履修するにあたって>

書表現を習熟するためには、事前・事後の時間をとることが大切である。ネットなど通じて色々な作品を鑑賞する。

<授業時間外に必要な学修>

文部科学省のホームページから学習指導要領などを閲覧し、小・中・高等学校における指導内容を把握する。日常から手書き文字について観察する習慣をつける。授業時間外学習として15時間の学習時間を必要とする。

<提出課題など>

授業ごとに課題とレポートを提出する。

<成績評価方法・基準>

レポート・作品提出(100%)・授業に対する興味・関心・態度(30%)

<テキスト>

高等学校教科書（書道）教科書購入の必要はない

<授業計画>

第1回 ガイダンス・アンケート

授業ガイダンス（遠隔授業による方法と評価などについて）・アンケート

第2回 文房四宝について

筆・墨・硯・紙その他の用具についての知識を習得する。

第3回 新学習指導要領の改善点について

新・旧の学習指導要領の相違点について理解する。

第4回 ひらがな・カタカナとその字源について

楷書・行書に合うひらがな・カタカナとその字源について理解し、表現する。

第5回 漢字の筆順について

漢字の筆順についての原則を理解し、表現する。

第6回 毛筆による基本点画について

楷書の基本点画の理解と表現をする。

第7回 小学校・中学校書写について

小学校・中学校教材の指導法の理解と表現する。

第8回 楷書法について

唐代の四大家の古典を理解し、臨書する。

第9回 行書法・草書法について

王羲之蘭亭序並びに空海風信帖を理解し、臨書する。

第10回 隸書法について

漢代の隸書についての特徴を理解し、臨書する。

第11回 篆書法について

篆書体（甲骨文・金文・小篆）を理解し、臨書する。

第12回 仮名について

単体について理解し、仮名や変体仮名の表現をする。

第13回 仮名について

連綿について理解し、臨書する。

2021年度 後期

2単位

書道

新田 安典

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

書道を踏まえ、古典教材の広がりと深化を図る。さらに日常使用する書についての様式などを理解するとともに表現できるようにする。また、書作品の制作や鑑賞を通じて身近な書に関心を持ち、生涯にわたり愛好する心情を養うことを目標とする。

<到達目標>

様々な書についての理解と表現を可能にする。また、日常生活にある手書き文字に関心を持ち、必要に応じて表現する知識や技能を習得する。

<授業のキーワード>

手書き文字を活用する知識や技能を習得する。

<授業の進め方>

古典教材を活用して様々な表現ができるように知識や技能を習得する。毎時作品を提出する。

後期の授業については学内システム dotCampus のみで課題を提示します。レポートや作品の提出についてはその都度指示いたします。

<履修するにあたって>

書表現を習熟するためには、事前・事後の時間を取ることが大切である。身のまわりにある手書き文字、古法帖や各種展覧会の鑑賞をすること。

<授業時間外に必要な学修>

日常から手書き文字について観察する習慣を身につける。また、機会があれば積極的に手書き文字を活用した取り組みをする。授業時間外学習として鑑賞や演習の学習時間を必要とする。

<提出課題など>

授業ごとに課題とレポートなどを提出する。

<成績評価方法・基準>

レポート・作品提出(70%)・授業に対する興味・関心・態度(30%)

<テキスト>

高等学校教科書 (書 6教図 書 306)

<授業計画>

第1回 殷代甲骨文字を学ぶ

中国書道史最古の文字について

第2回 周代金文を学ぶ

青銅器に鑄込まれた文字について

第3回 石鼓文を学ぶ

中国最古の石鼓文について

第4回 隸書(乙瑛碑)を学ぶ

漢代の正式書体隸書(乙瑛碑)について。

第5回 木簡を学ぶ

木簡の書について

第6回 草書を学ぶ

草書(十七帖)について

第7回 草書を学ぶ

草書(書譜)について

第8回 行書を学ぶ

行書(蜀素帖)について

第9回 楷書を学ぶ

楷書(始平公造像記)について

第10回 楷書を学ぶ

楷書(孟法師碑)について

第11回 仮名を学ぶ

仮名(高野切第一種)について

第12回 仮名を学ぶ

仮名(寸松庵色紙)について

第13回 漢字仮名交じりの書を学ぶ

漢字仮名交じりの書の創作について

第14回 実用書を学ぶ

封書・はがきなどの表書きについて

第15回 実用書を学ぶ

金封などの表書きについて

2021年度 後期

2単位

心理学概論

長谷 和久

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本科目は、人文学部人間心理学科のDPに示す「既存の心理学専門分野の知識の修得」「真理を探求し新しい知見を得るために、統計法、研究法など必要な技能の習得」さらには「心理現象について学修した知識を自らの経験と関係づけて解釈できること」を目指します。

本授業は、人間心理学科専門教育科目の中で基礎専門教育科目として位置づけられています。また、教職に関する科目（必修科目ではない）もあります。

心理学とは物理的な実体を伴わない心の働きを科学的に探求することで、人の行動の特徴を明らかにしようとする学問になります。本講義では心理学の歴史・研究手法を理解することから始め、感覚・知覚、発達、学習、感情などの心理学における基本的事項について学修します。そして、こうした個々人の心の働きについて理解したうえで、心が寄り集まった場合、すなわち集団における心の働きについて学びます。

<到達目標>

- ・心理学の研究法について説明できる。（知識）
- ・心理学の各領域で得られた知見について述べることができる。（知識）
- ・心理学的なものの見方ができる。（態度・習慣）

<授業のキーワード>

発達、学習、パーソナリティ、感情、認知、集団

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。各回の授業の最後に小レポートを提出してもらいます。また、授業内では確認テストを2回実施します。

<授業時間外に必要な学修>

配布資料をもとに授業内容の復習を行う（各授業後30分）

<提出課題など>

授業後に小レポートの提出を求めます。

優れた内容のレポートについては翌週の授業時に取り上げ、どの点が優れているかについて口頭でフィードバックを行います。

<成績評価方法・基準>

2/3以上の課題の提出をもって評価の対象とします。

各回の授業で提出する小レポートに対する評価40%、1回目の確認テストに対する評価30%、2回目の確認テストに対する評価30%で評価を行います。また、以上の評価基準を基本として、授業中に募集が行われる心理学に関する実験や調査への参加を学習点として成績に加味します。

<テキスト>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

心理学の歴史、心理学の研究手法について学びます。

第2回 意識と行動

意識の成立過程について学び、意識と行動との関係について理解します。

第3回 感覚・知覚

人の感覚と知覚の過程・特徴について学びます。

第4回 学習と記憶

人の学習と記憶の特徴について学びます。

第5回 学習と記憶

人の学習と記憶の特徴について学びます。

第6回 発達

人のさまざまな認知的側面の発達過程について学びます。

第7回 発達

人のさまざまな認知的側面の発達過程について学びます。

第8回 パーソナリティと知能

人の個人差や知能について理解し、その測定方法について学びます。その後、1回目の確認テストを行います。

第9回 感情

人の基本的な感情のあり方について理解し、こうした感

情が私たちの判断や行動にもたらす影響について学びます。

第10回 態度と行動

意識できる態度・意識できない態度の形成過程について学び、こうした2種類の態度が私たちの行動に与える影響について理解します。

第11回 態度と行動

意識できる態度・意識できない態度の形成過程について学び、こうした2種類の態度が私たちの行動に与える影響について理解します。

第12回 対人認知・対人魅力

対人認知の特徴について学び、どんな相手に対して好意を抱きやすいかについて理解します。

第13回 個人と集団

個人と集団における相互の影響過程について学びます。

第14回 個人と集団

個人と集団における相互の影響過程について学びます。

第15回 ふりかえり・確認テスト

授業内容をふりかえり、2回目の確認テストを実施します。

2021年度 前期～後期

4単位

人文地理学

西尾 正仁

<授業の方法>

対面による講義形式を原則としながら、受講生自身による調査・報告、実習を適宜取り入れる。

なお、新型コロナの感染状況により、授業形態が変更される場合のあることを諒解しておいてください。

<授業の目的>

授業の目的は、全学DPに掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」という到達目標に関連し、中学校社会科および高等学校地歴科の授業実施に必要な人文地理学的知識・技能・視点を習得することを目的とする。

なお、この授業の担当者は公立高等学校教諭を41年間にわたり務めた、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、中・高等学校での授業実施に必要な技能や考え方も併せて講義するものである。

<到達目標>

授業目的を達成するために、以下の到達目標を設定する。

- ・自然地理を含めた人文地理の基礎的知識を習得する。
- ・社会的諸事象を人文地理学的視点によって理解しようとする態度を身につける。
- ・地図・統計を使って、分析したり、自己の主張を端的に表現したりする技能を研鑽する。
- ・地理情報システム等を用いて、児童・生徒に学習させる基本的スキルを獲得する。

<授業のキーワード>

主体的・対話的深い学び、空間的相互依存、GIS(地理情報システム)、科目「地理総合」

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めるが、受講生による発表や実習を適宜織り交ぜて授業を進める。

また、各単元ごとに理解度や講義に対する質問や意見を訊ねる小レポートを課す。

<履修するにあたって>

高等学校で地理A・Bを履修していなくても対応可能となるよう、基礎・基本に徹した講義を実施する。将来中学校や高等学校で社会科や地歴科の教員を目指す学生に受講してほしい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習

授業に関係するテキストの内容を通読し、学ぶ内容や疑問点を整理しておく。(1時間)

事後学習

- 授業ごとに配布される復習プリントを完成させ、綴つておき、請求があればいつでも提出できるようにしておく。(1時間)

- 各単元でだされる小レポートを作成し、dotCampusを通じて期限内に提出する(4~5時間)

<提出課題など>

- 単元毎にだされる小レポート

- 前期・後期レポート

<成績評価方法・基準>

- 授業平常点(発表・作業・復習プリント実施状況)

30%

- 小レポート6回 @5% 30%

- 前期・後期レポート @20% 40%

<テキスト>

- 帝国書院『新詳資料 地理の研究』1,026円(税込)

- 帝国書院『標準高等地図 地図でよむ現代社会』1,760円(税込)

なお、『標準高等地図』は中学校や高等学校で使用していた地図帳で代替可能

<参考図書>

朝倉書店『地理学概論(第2版)』

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の構成、評価方法の説明を受けた上で、2022年から実施される新指導要領から、科目「地理総合」および「主体的・対話的で深い学び」について学ぶ

第2回 人間と環境

人文地理学の基本的な考え方である、地人相関・空間認識について学ぶ

第3回 世界地図

地図の歴史、投影法、地図用途の拡大について学ぶ

第4回 地図を描く

世界地図をノートならびに黒板に描く技術を習得する

第5回 地形図を読む

地形図の基本的読図技術を習得する

小レポート

第6回 大地形と生活(1)

大地形をつくる内的要因について理解する

第7回 大地形と生活(2)

大地形の成り立ちでそこで営まれる人間生活について学ぶ

第8回 小地形と生活(1)

河川が形成する地形の特色とそこで営まれる人間生活について、地形図から読み解く

第9回 小地形と生活(2)

海岸地形・氷河地形・乾燥地形等とそこで営まれる生活を写真等を通じて読み解く

第10回 観光と災害

地形がもたらす観光資源や自然災害について学ぶ。また、ハザードマップの読み方を身につける

小レポート

第11回 気候と生活(1)

気候要素の地域分布と気候因子の関連について理解する

第12回 気候と生活(2)

ケッペンの気候区分の概念について理解する

無樹林気候の景観と生活を、図表や画像から読み解く

第13回 気候と生活(3)

樹林気候の景観と生活を画像や図表から読み解く

第14回 世界の生態系

植生や動物相などの生態系の構造とその変容について学ぶ

小レポート

第15回 気候変動と気候災害

地球温暖化に代表される気候変動の問題と激化する気候災害の基本的な問題点について学ぶ

前期レポート出題

第16回 経済地理(1)

資源・エネルギーの分布とその交易について理解する

第17回 経済地理(2)

世界の農業の地域性とその特徴について学ぶ

第18回 経済地理(3)

工業地帯の立地とその歴史的变化について学ぶ

第19回 経済地理(4)

貿易・交通・通信の様態を通じて空間相互依存の実態と課題について考える

小レポート

第20回 集落地理(1)

村落の歴史と立地を地形図や画像から読み解く

第21回 集落地理(2)

都市の歴史やその内部構造について学ぶ

第22回 集落地理(3)

都市問題や都市の再開発について考える

第23回 社会地理（1）

世界の人口分布・人口構成とその課題について統計や画像から読み解く

第24回 社会地理（2）

国家の空間的構造と国家を超えた地域統合について考える

小レポート（集落地理・社会地理）

第25回 文化地理（1）

環境と生活文化の相互依存について考察する

第26回 文化地理（2）

民族と宗教の分布と多様性について理解する

第27回 文化地理（3）

画像や動画から文化景観を読み解く

各地でみられる民族問題について学ぶ

小レポート

第28回 GISの基本

ナビゲーションや地図ソフトなどを使って、GISが生活に浸透していることを理解する

なお、この授業はスマホやタブレットなどのモバイルデバイスを使用する

第29回 GISの応用

GIS学習に使えるフリーソフトの基本的技能を習得する

第30回 総括

1年間を通して学んできた人文地理学的視点について振り返る

後期レポート出題

2021年度 前期～後期

4単位

人文地理学

金子 直樹

＜授業の方法＞

講義（対面授業）

ただし今後の状況によっては遠隔授業（オンライン授業）になる可能性もある。

＜授業の目的＞

この科目は、全学のDPに示す、に掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」するという方針のもと、人文地理学的な内容を理解し、地理学的な視点を習得することを目的とする。

地理学は地域(region)や空間(space)、景観(landscape)、場所(place)など規定される対象の特徴および一般性を明らかにするという目的のもと、広範な人文・自然の両科学において研究がなされてきた。本講義では、人文地理学的内容である以下のテーマを中心に扱う。 地理学の基本的資料となってきた 地図の歴史と特徴、

地図の中で特に精緻な地形図から確認される村落地域と自然環境との関わり、 地域の歴史的変遷、 都市の構造や機能(その画定・都市化・機能の地区別分化・郊外の開発)、 人口と社会の変動(世界・日本の人口推移およびそれにともなう種々の問題等)、 様々な文化景観(歴史的景観の保全と活用など)への理解。各事例を概説しながら、地理学の特徴や視点などを確認していく。

＜到達目標＞

以下のような地理学的視点や考え方が理解できることを目標とする。 地図資料の読み方や特徴、村落の形態やその立地に関連する地形、地域における歴史的痕跡を理解できる。 様々な地域や地図について、自分でその地理的特徴を理解することができる。 都市の変容や構造、人口の変動による社会へのインパクト、環境や政治経済現象と地域文化の状況を理解できる。 都市や地域文化の諸相について、自分でその地理的特徴を理解することができる。

＜授業のキーワード＞

人文地理学・地図・地域・集落・村落・歴史・都市・人口・文化・景観

＜授業の進め方＞

地図・資料を配布・提示しつつ講義を進めるが、資料としてドキュメンタリーやニュース番組を紹介することもある。

＜履修するにあたって＞

高校社会科の地理を履修していないなくても対応可能な講義とする予定である。ただし教職科目ということで、社会科の教員免許という点では、歴史学の知識や見方のみならず、地理学的な側面も必要となるので、本講義で少しでも地理学や地理的な話に关心を持ってのぞんでいただきたい。

＜授業時間外に必要な学修＞

授業各回の内容を事後に復習(15分)して、次回にのぞむこと。

＜提出課題など＞

毎回講義終了前に、講義内容に対する意見・感想・疑問点などをまとめる課題を行う。次の授業時にその総評などをを行う。また上記課題や定期試験は、請求があれば採点基準や判定を文書にて回答する。

＜成績評価方法・基準＞

講義中の課題(30%) 前期についてはレポート(35%)

・後期については定期試験(35%)

＜参考図書＞

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 嶽『図説 京阪神の地理（仮題）』ミネルヴァ書房、2019年。他は必要に応じて講義中に紹介する。

＜授業計画＞

第1回 ガイダンス:地理学の特徴と教職課程との関連地理学の概要および授業構成、成績評価などについて説明する。

第2回 地図の歴史

地理的世界の図化とそれに関連する地理的知識の拡大や理解について理解する。

第3回 地図の政治性

正確性を意図している地図の背後にある政治や軍事との関連について理解する。

第4回 地形図の歴史と読み方

地形図作成の歴史とその読み方(縮尺・等高線・記号など)について理解する。

第5回 村落の立地と地形と関係1:「水」を必要とする村落

扇状地における村落立地の特徴をから水の有無の重要性を理解する。

第6回 村落の立地と地形と関係2:「水」を避ける村落

氾濫原における村落立地の特徴から洪水との関係性を理解する。

第7回 村落形態の諸相

様々な村落の形態的特徴を確認し、地形との関連や歴史的背景を理解する。

第8回 散村の特徴と背景1:散村の特徴と気象現象

日本の典型的とされる砺波平野の散村について、その特徴や立地の背景を理解する。

第9回 散村の特徴と背景2:散村立地の起源をめぐって

砺波の散村について、その歴史的背景(加賀藩や集村化)や地形(扇状地)との関連を理解する。

第10回 農地に残る古代の開発の痕跡

古代に行われた農地区画整備(条里制)およびその痕跡の特徴を理解する。

第11回 道路から見る歴史

古代に整備され、その後変容した道路(古代官道とその名残)の特徴や痕跡を理解する。

第12回 古代都市の特徴とその痕跡

平城京や平安京などの古代都市(都城)の特徴やその痕跡を理解する。

第13回 古代都市の変容とその痕跡

平安京であった京都の変容について、特に豊臣秀吉との関連を理解する。

第14回 近世城下町の特徴とその痕跡

近世城下町の特徴とその痕跡

第15回 城下町の変容

近現代の開発等による変貌した城下町の特徴を理解する。

第16回 ガイダンス:日本の大都市

日本の大都市(政令指定都市)の種々の統計データからその特徴を確認する。

第17回 都市の特徴

都市の概念や画定についての様々な基準(人口・人口密度・景観・機能など)を理解する。

第18回 都市の発展

都市化による都市域の拡大およびその実像について理解する。

第19回 都市の衰退・再生

都市の人口減少や社会経済的衰退およびその再生の実像について理解する。

第20回 都市構造の諸相

同心円モデルとセクターモデルなどの大都市の構造モデルについて理解する。

第21回 都市近郊地域の開発

鉄道の整備と近郊地域の開発について理解する。

第22回 郊外住宅地の誕生

鉄道会社を中心とした住宅地開発について理解する。

第23回 世界の人口

人口の世界的分布と歴史的推移、および関連する問題について理解する。

第24回 日本の人口

日本の人口推移、およびそれに関連する地域の変容について理解する。

第25回 人口と都市問題

都市への人口移動、およびそれに関連する都市問題について理解する。

第26回 文化景観と地域

文化景観には自然環境および政治社会経済的背景が複雑に関係していることを理解する。

第27回 歴史的景観の保存と活用

古い町並みや集落が保存され、それらが観光化していることを理解する。

第28回 農村および周辺地域の保存と活用

棚田や里山などの景観が注目され、その維持と活用が図られていることを理解する。

第29回 文化景観に関する社会的背景

1960~70年代における景観をめぐる動向(古都法やディスカバーリー・パンなど)について理解する。

第30回 サブカルチャーと景観

サブカルチャーが現代の景観に与える影響(形成や意味付け)について理解する。

2021年度 前期

2単位

政治学

北島 栄儀

<授業の方法>

講義形式で、学内での対面授業にて行いますが、例外的に自宅等での遠隔受講を認められた者については、遠隔授業で行います。

- ・対面授業は通常の講義の形態で行い、遠隔授業については対面授業の録音のオンデマンド配信によって行う予定です。尚、遠隔授業における講義内容のオンデマンド配信は、講義日の翌日を予定しています。
- ・対面授業の際に、各回の講義レジュメ・資料を配布し

ますが、これらの資料や講義音声ファイルへのリンク等は、office365のMicrosoft Teamsの「3水4限1前_政治学（資格）【人文・心理学部】」_ファイル_内のフォルダにアップロードしておきますので、欠席者や遠隔受講を認められた者は、そこから各自ダウンロードしてください。

・課題や質問・要望の提出については、原則として講義時に対応する予定ですが、dotCampusの「政治学（資格）【人文・心理学部】」の質問箱も併用します。また遠隔授業の場合は、課題や小テスト、及び質問・要望等の提出を、dotCampusの「政治学（資格）【人文・心理学部】」のレポートと質問箱を其々用いて行います。尚、質問・要望への回答は、基本的に講義の中でまとめて対応します。

＜授業の目的＞

政治学では、現代の我々の生活を取り巻く複雑な政治現象とその仕組み、及び現代の民主政治が直面している様々な課題といったものを的確に理解し、また判断していくうえで必要となる基本的な知識の修得を目的とします。この目的に従い、この講義では主に、議会や選挙制度など現代の民主政の基本的な政治機構や制度の仕組みと問題点、政党や利益集団といった政治の主要なアクターに関する問題点などを主題として扱います。全体として、政治制度や政治過程に関するものを中心とした講義になります。講義を通じて、現実の政治問題について理解し判断するために必要となる基本的な知識を身に付けていくください。また、こうした知識は、政治学で扱うところの、政治の社会的文化的条件に関わる問題や、政治が直面する価値的・規範的な問題などを学んでいくための基盤、或いは他の政治学関連分野の知識を習得していくうえでの前提となります。

＜到達目標＞

講義で扱った知識を整理し、確かなものとして定着させ、頭の中に政治現象を把握するための見取り図を持つようにする。

日々、生起し報道される政治現象に対し、先の知識や見取り図を用いて、その現象ないし問題がどのような意義や関連性を有するものであるのか、体系的にはどの項目と関連し何処に位置付けられるものであるのかについて、理解し把握できる能力を身につける。

日々、政治に関する大量の情報に晒される中で、一面的表層的で偏った主張や報道に流されることなく、多様かつ体系的な視座を確保し、バランスのとれた総合的な理解や判断を心がけるような思考態度や習慣を身につける。

教職で必要とされる、自分の考えをまとめて論理的に

構成し表現する能力の習得の一環として、政治学に関連するテーマについて、レポートが作成できるだけの思考力・文章力を身につける。

＜授業のキーワード＞

政治、権力と正統性、対立と協調、国民代表、利益代表
＜授業の進め方＞

A4またはB4で1枚程度の講義レジュメを配布し、そこに書かれてある項目とキーワードに沿って、講義を進めます。オンラインで、分かりにくかった箇所、説明の補足が欲しい箇所、疑問点などについて、質問やコメントを記載して提出すれば、可能な範囲内で対応します。

＜履修するにあたって＞

オフィス・アワーなどについては第1回目の授業で告知します。政治学入門の講義ではありませんので、初步的な知識については各自で整理しておいてください。そのための自習に役立ちそうな文献などについては、ガイドンスや講義の中で触れます。

＜授業時間外に必要な学修＞

予習としては、シラバスの各回の準テキストにおける該当箇所を一読し、扱われる内容・項目について大体のイメージをつかんでおくと良いでしょう。

復習としては、板書して説明した箇所、例題、図表で整理された箇所を中心に、レジュメと講義ノートを何度も読み返し、講義内容を整理して理解しておくことが必要です。

その他、新聞の政治欄に目を通す習慣をつけ、そこで扱われている問題が、講義内容のどの箇所と関係しているのか考えるようにすると、理解に役立つでしょう。講義で紹介する参考文献を読む場合についても、同様です。

＜提出課題など＞

教職で必要とされる論理的思考力・文章構成力の習得を目指して、政治・政策課題をテーマとするレポートの提出（1回）を課します。遠隔授業の受講者については、これに加えて穴埋め式の小テスト（1回）も課します。

＜成績評価方法・基準＞

期末試験が54点、レポートが35点、対面授業時の平常点（例題の理解度や出席数・受講態度等）が16点の、合計105点満点中の60点以上で単位を認定します。遠隔授業の受講者については、平常点の代わりに穴埋め式の小テストを一回実施します。期末試験の記述式問題では講義の到達目標に対応して、項目や概念の相互の関連や異同が正しく理解され、体系的な把握が出来ているか否かを試すような問題や課題が出題されます。レポートでは、問い合わせ正面から答えていくことが重要ですが、論述のバランスも重要になります。尚、対面授業では全15回の講義の内11回以上出席し、課題のレポートを提出すること（遠隔授業の場合は課題のレポート+小テストの提出）が単位認定の条件であり、これを充たして

いない場合には単位を認めないので、注意して下さい。また、フィードバックに関しては、定期試験終了後に簡単な解答と解説をMicrosoft Teamsの「3水4限1前_政治学（資格）【人文・心理学部】」_ファイル内のフォルダにアップロードします。政治学の第一回目の講義の際に、試験及びレポートについての簡単な講評も行います。

<テキスト>

講義レジュメ（A4またはB4で1枚程度）を配布し、それに基づいて講義を行います。レジュメは、加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦（著）『現代政治学（第4版）』（有斐閣）をベースとして、それを補足する内容となっていますので、同書を準テキストに指定します。

<参考図書>

政治・経済教育研究会（編）『政治・経済用語集（第2版）』（山川出版社）、伊藤光利・田中愛治・真渕勝（著）『政治過程論』（有斐閣）、久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝（著）『政治学（補訂版）』（有斐閣）、佐々木毅・清水真人（編著）『ゼミナール現代日本政治』（日本経済新聞出版社）

<授業計画>

第1回 はじめに- イントロダクション

講義の進め方、政治学とは何か、その他の告知

第2回 政治の世界

政治とは何か、政治と権力

第3回 政治の世界

国家と権力、正統性

第4回 政治の機構と制度

議会制、議院内閣制と大統領制

第5回 議会と選挙制度

日本の国会、アリーナ型議会と変換型議会、小選挙区制と比例代表制

第6回 行政

政治と行政、現代行政と官僚制、行政統制と行政責任

第7回 裁判所・その他

政治制度としての司法制度、司法制度の独立性と民主主義、中央銀行

第8回 地方自治

分権と地方自治、分権改革

第9回 政治、経済、福祉

政治と経済の関係、戦後福祉国家とケインズ主義

第10回 政治、経済、福祉

福祉国家の分類、福祉国家の危機と再編

第11回 政党- 国民代表の政治過程

政党とは何か、政党政治と政党制、政党制の変容と衰退

第12回 利益代表の政治過程

利益集団、多元主義とネオ・コーポラティズム

第13回 政治過程の変容

マスメディア、新しい社会運動

第14回 政策過程

政治と公共政策、政策過程のモデル、政策決定論

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと補足、定期試験について

2021年度 前期

2単位

政治学

森 達也

<授業の方法>

遠隔授業（オンドマンド講義）

本講義は金曜1限「政治学I」（対面講義）を録画したものを作成・配信するため、配信は同日の3限以降となることを了解されたい。なお、対面講義と遠隔講義の評価方法および基準は同一である。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外の本科目の取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。

解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの

以下の場所に記載されているので、ご確認ください。

URL:<https://www.kobegakuin.ac.jp/students/torialsukai.html>

<授業の目的>

この科目は、法学部のDPに示す、国内外の公共的事柄に関する知識を習得し、公平性と客観性を重視した判断ができるようになることを目指す。

政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はこうした問題を理屈的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段である。

本講義ではまず、政治学の主題、方法、および基本的な概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の各分野をそれぞれ簡潔に紹介・検討することを通じて、さらに専門的な各科目に進むための基礎固めをおこなう。

<到達目標>

- ・政治の基本的な仕組み（構造）とはたらき（機能）を体系的に理解する。
- ・政治学の各分野の骨子を理解し、現代社会の諸問題との接続地点を把握する。
- ・身近な社会問題を政治学の観点から把握し、政治について他者と理屈的に議論する能力を養う。

<授業のキーワード>

政治体制、政治制度、政治過程、メディアと政治、公共政策、福祉国家、国際関係、グローバル化

<授業の進め方>

講義を中心とし、可能な範囲でコメントシートなどを用いた授業内討論を実施する。

<履修するにあたって>

・高校の「政治経済」または「倫理政経」の政治に関する部分を必要に応じて復習しておくこと。

・普段から新聞等で国内外のニュースを読み、時事問題に通じておくことが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

予習：次回範囲の教科書およびレジュメを熟読する（120分程度）。

復習：講義の要点をノート等にまとめる。内容に関する質問または意見をオンラインで提出する（90分程度）。

<提出課題など>

中間課題、最終課題に加え、内容確認と質疑を目的とするコメントシートを毎回作成してdotCampusに投稿する。

<成績評価方法・基準>

中間課題（2回）：各20%（レポート形式、詳細は講義内で説明する）

最終課題：30%（同上）

授業内課題：30%：コメントシートの提出

ただし、状況に応じて成績評価方法の変更がありうる。

<テキスト>

レジュメを配布する。

<参考図書>

・加茂利男ほか『現代政治学（第4版）』（有斐閣アルマ、2012年）

・佐々木毅『政治学講義 第2版』（東京大学出版会、2012年）

・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』（ミネルヴァ書房、2008年）

その他、授業中に適宜紹介する。

<授業計画>

第1回 政治と政治学

現代社会のタコツボ化現象と「政治」イメージの複数性／政治学の基本的視座

第2回 現代政治学の展開

伝統的政治学／行動主義政治学の台頭と批判／「ポスト行動主義宣言」以降の動向

第3回 政治体制（1）：社会秩序をめぐる問題

政治的正当性とは何か／政治体制と政治文化の関係／体制変動（革命、クーデター）

第4回 政治体制（2）：自由民主主義の諸問題

自由民主主義の歴史と思想／ポリアーキー／自由民主主義は最善の政治体制か

第5回 政治制度：統治機構と選挙制度の多様性

法の支配、人の支配、抑制と均衡／大統領制と議院内閣制／民主集中制／選挙制度の比較

第6回 政治過程（1）：政党政治をめぐる問題

政党の役割と分類／政党システム／戦後日本の政党政治

/政党は必要なのか？

第7回 政治過程（2）：団体政治をめぐる問題

民主主義の二つの回路／団体の役割と分類／多元主義とコーポラティズム／市民の政治参加

第8回 政治過程（3）：メディアと世論の問題

メディア強力効果論の展開／インターネット時代の政治／「理性的市民」は存在するか

第9回 政策過程（1）：政策決定における合理性の問題

合理的な政策とは何か／純粋合理性モデルと最適モデル／リスクの計算とその限界

第10回 政策過程（2）：政策実施をめぐる諸問題

官僚制の特徴と問題性／行政改革（NPM）／民営化・規制緩和の歴史とその功罪

第11回 福祉国家の諸問題（1）：政治と福祉

福祉とは何か／社会保障の歴史／戦後日本の社会保障制度とその問題点

第12回 福祉国家の諸問題（2）：ポスト福祉国家の展望

ケインズ主義とその批判／ワークフェア／基本所得／エコロジーと人口減少社会の制度構想

第13回 国家と国際関係

主権国家と国際政治の歴史／国際法と国際機関／世界の民族紛争

第14回 グローバル化と政治

グローバル化とは何か／理想主義と現実主義／ナショナリズム対コスモポリタニズム？

第15回 現代社会における政治学の役割

社会学的想像力／専門分化と「モンタージュ」の作成／集合知の射程

2021年度 後期

2単位

政治学

北島 栄儀

<授業の方法>

講義形式で、学内での対面授業にて行いますが、例外的に自宅等での遠隔受講を認められた者については、遠隔授業で行います。

・対面授業は通常の講義の形態で行い、遠隔授業については対面授業の録音のオンデマンド配信

によって行う予定です。尚、遠隔授業における講義内容のオンデマンド配信は、講義日の翌日を予定しています。

・対面授業の際に、各回の講義レジュメ・資料を配布しますが、これらの資料や講義音声ファイルへのリンク等は、office365のMicrosoft Teamsの「3水4限2後_政治学

（資格）【人文・心理学部】_ファイル_内のフォルダにアップロードしておきますので、欠席者や遠隔受講

を認められた者は、そこから各自ダウントロードしてください。

・課題や質問・要望の提出については、原則として講義時に対応する予定ですが、dotCampusの「政治学（資格）【人文・心理学部】」の質問箱も併用します。また遠隔授業の場合は、課題や小テスト、及び質問・要望等の提出を、dotCampusの「政治学（資格）【人文・心理学部】」のレポートと質問箱を其々用いて行います。尚、質問・要望への回答は、基本的に講義の中でまとめて対応します。

＜授業の目的＞

政治学では基本的な政治制度と政治過程の問題を扱いましたが、こうした制度や過程は、様々な社会的文化的条件や国際社会の動向の影響下にあります。そこで政治学の講義の序盤では、これらが政治に対してどのように作用しているのかについて理解することを目的として、政治体制や政治文化、グローバル化といった事項を取り上げます。また、現実の政治課題は、自由や公正といった様々な価値的・規範的な問題を含んでいます。そこで講義の中盤以降では、これまでに学んだ政治の制度や過程に関する基本的な知識を前提に、政治という人間の営みを如何にして把握し、それに対してどのように関わっていけばよいのかという基本的な問題意識に立って、政治や政策の課題について考え、対処していくのに役立つ規範的・理念的な理論や概念を修得することを目的とします。この目的に従い、講義では、政治の規範的・理念的要素について考察する講学上「政治理論（political theory）」と呼ばれる分野から、自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会といった理論や概念を主題として取り上げます。政治学の講義を通じて、現代の政治問題について理解し判断するための政治学的な視点と知識を身に付けていってください。これらは、他の政治学関連分野の知識を習得していくうえでの基盤となります。

＜到達目標＞

講義で扱った知識を整理し、確かなものとして定着させ、頭の中に政治現象を把握するための見取り図を持つようにする。

日々、生じし報道される政治現象に対し、先の知識や見取り図を用いて、その現象ないし問題がどのような意義や関連性を有するものであるのか、体系的にはどの項目と関連し何処に位置付けられるものであるのかについて、理解し把握できる能力を身につける。

日々、政治に関する大量の情報に晒される中で、一面的表層的で偏った主張や報道に流されることなく、多様かつ体系的な視座を確保し、バランスのとれた総合的な理解や判断を心がけるような思考態度や習慣を身につける。

規範的な問題についての議論の状況や考え方を学び、自分でも論理的に思考し、議論を展開できるようになる。

教職で必要とされる、自分の考えをまとめて論理的に構成し表現する能力の習得の一環として、政治学に関連するテーマについて、レポートが作成できるだけの思考力・文章力を身につける。

＜授業のキーワード＞

政治体制、自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会

＜授業の進め方＞

A4またはB4で1枚程度の講義レジュメを配布し、そこに書かれてある項目とキーワードに沿って、講義を進めます。対面授業では、レジュメの例題の箇所などでランダムに指名して質問をすることあります。また、毎回出席カードを配布するので、そこに、分かりにくかった箇所、説明の補足が欲しい箇所、疑問点などについて、質問やコメントを記載して提出すれば、可能な範囲内で対応します。遠隔授業では、dotCampusの「政治学」の質問箱によって質問や要望を受け付けます。

＜履修するにあたって＞

オフィス・アワーなどについては第1回目の授業で告知します。政治学入門の講義ではありませんので、初步的な知識については各自で整理しておいてください。そのための自習に役立ちそうな文献などについては、ガイドスや講義の中で触れます。また、政治学の知識を前提として講義を進めますので、政治学を履修ないし聴講済みであることを強く望みます。

＜授業時間外に必要な学修＞

予習としては、参考書として挙げてあるもの（他に適当なものががあればその文献でも差し支えない）の中から自分に合うと思われるもの一冊を選び、シラバスの各回における該当箇所を一読し、扱われる内容・項目について大体のイメージをつかんでおくと良いでしょう。

復習としては、板書して説明した箇所、例題、図表で整理された箇所を中心に、レジュメと講義ノートを何度も読み返し、講義内容を整理して理解しておくことが必要です。

その他、新聞の政治欄に目を通す習慣をつけ、そこで扱われている問題が、講義内容のどの箇所と関係しているのかを考えるようにすると、理解に役立つでしょう。講義で紹介する参考文献を読む場合についても、同様です。

＜提出課題など＞

教職で必要とされる論理的思考力・文章構成力の習得を目指して、政治・政策課題をテーマとするレポートの提出（1回）を課します。遠隔授業の受講者については、これに加えて穴埋め式の小テスト（1回）も課します。

＜成績評価方法・基準＞

期末試験が54点、レポートが35点、対面授業時の平

常点（例題の理解度や出席数・受講態度等）が16点の、合計105点満点中の60点以上で単位を認定します。遠隔授業の受講者については、平常点の代わりに穴埋め式の小テストを一回実施します。期末試験の記述式問題では講義の到達目標に対応して、項目や概念の相互の関連や異同が正しく理解され、体系的な把握が出来ているか否かを試すような問題や課題が出題されます。レポートでは、問い合わせ正面から答えてることが重要ですが、論述のバランスも重要になります。尚、対面授業では全15回の講義の内11回以上出席し、課題のレポートを提出すること（遠隔授業の場合は課題のレポート+小テストの提出）が単位認定の条件であり、これを充たしていない場合には単位を認めないので、注意して下さい。また、フィードバックに関しては、定期試験終了後に簡単な解答と解説をMicrosoft Teamsの「3水4限2後_政治学（資格）【人文・心理学部】」_ファイル内のフォルダにアップロードします。

<テキスト>

特に指定しません。毎回講義レジュメ（A4またはB4で1枚程度）を配布し、それに基づいて講義を行います。

<参考図書>

加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦（著）『現代政治学（第4版）』（有斐閣）、久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・眞渕勝（著）『政治学（補訂版）』（有斐閣）、佐々木毅（著）『政治学講義（第2版）』（東京大学出版会）、川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論（新版）』（有斐閣）

<授業計画>

第1回 はじめに- イントロダクション

講義の進め方、政治の社会的文化的条件、もう一つの政治学

第2回 政治意識と政治文化

政治意識と政治行動、政治文化、イデオロギー

第3回 政治とグローバル化

国際政治経済、グローバル・プロブレマティックと地球環境問題

第4回 政治体制と政治変動

政治体制と政治システム、政治変動の諸形態、非自由民主主義体制（全体主義や権威主義）

第5回 政治体制と政治変動

自由民主主義体制、政治文化による自由民主主義体制の分類

第6回 自由主義とその課題

リベラリズムの多義性と多様性、積極的自由と消極的自由、福祉国家型自由主義

第7回 自由主義とその課題

功利主義批判と義務論的リベラリズム、リバタリアニズム

第8回 公共性

「公」と「私」、共和主義、コミュニタリアニズム

第9回 現代民主政とその課題

古代の民主政と近代の民主政、ルソーと人民権、自由民主主義体制の成立

第10回 現代民主政とその課題

大衆民主政批判、多元的民主主義論の展開とそれに対する批判、利益集団民主主義、参加民主主義論

第11回 市民社会と新しいデモクラシー

市民社会とは、社会関係資本、市民社会と公共性

第12回 市民社会と新しいデモクラシー

新しいデモクラシー論、審議的民主主義、ラディカル・デモクラシー、国境をこえるデモクラシーの理論

第13回 政治学の潮流- ディシプリンとしての政治学の展開

伝統的政治学、科学としての政治学、行動論、ポリティカル

第14回 政治学の潮流- ディシプリンとしての政治学の展開

脱行動論、新制度論、政治哲学の復権

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと補足、定期試験について

2021年度 後期

2単位

政治学

森 達也

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、法学部のDPに示す、国内外の公共的事柄に関する知識を習得し、公平性と客觀性を重視した判断ができるようになることを目指す。

英国の政治理論家バーナード・クリックは、「政治学とは、社会全体に影響を与えるような利害と価値をめぐって生じる紛争についての研究であり、また、どうすればこの紛争を調停することができるかについての研究である」と述べた。ここから政治学の二つの課題を指摘することができる。ひとつは人間による政治の営みを（観察者として）客觀的に説明・理解するという課題であり、その研究はしばしば経験的（empirical）研究と呼ばれる。もうひとつは、（当事者として）あるべき政治の姿を考え、人間による政治の営みを改善するという課題であり、こちらは規範的（normative）研究と呼ばれる。

政治について考えるためには、この二つの方向性を自覚することが不可欠である。政治は「可能性の束」を取り扱う技術である。政治には選択や決断が伴う。それゆえ、経験的研究によって把握された客觀的状況から唯一の正解が演繹されるわけではない。また政治は他者と共にあこなう活動である。これらを承認しつつ、意見を異にする人びとと粘り強く議論し、紛争の平和的解決と

社会生活の改善を柔軟に模索する姿勢こそ、政治に対する「現実主義的な」態度である。現代政治学の課題のひとつは、こうした「成熟した政治認識」の具体的なあり方について考え、現実政治（とりわけ民主政治）の質の向上に寄与することにあると考えられる。

以上の政治観に基づき、本講義は主として政治の規範的な側面を取り扱う「政治理論」という分野について解説していく。

＜到達目標＞

・政治における経験的なものと規範的なものの関係について理解する

・政治理論の諸分野に関する基本的知識を習得する
・習得した知識に基づき、現代の政治的諸問題について理性的に考察・議論できる能力を養う

＜授業のキーワード＞

政治理論、リベラリズム、民主主義、権力、フェミニズム、ナショナリズムと多文化主義、公共性

＜授業の進め方＞

講義を中心とし、質疑応答を適宜おこなう。

＜履修するにあたって＞

・高校の「政治経済」または「倫理政経」の関連箇所を必要に応じて復習しておくこと。
・普段から新聞等で国内外のニュースを読み、時事問題に通じておくことが望ましい。

＜授業時間外に必要な学修＞

予習：教科書の次回講義範囲を熟読する（90分程度）

復習：講義での不明な点や疑問点を調べ、ノートやレジュメに書き込むなどして整理しておく（90分程度）

＜提出課題など＞

内容確認と質疑を目的としたコメントシートの作成を毎回おこなう

＜成績評価方法・基準＞

学期末試験：60% 記述式試験を予定（詳細は講義中に説明する）

授業内課題：40% コメントシートの提出、および授業中に適宜指示する課題への取り組み
(ただし状況に応じて成績評価方法の変更がありうる)

＜テキスト＞

田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望著『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

あわせてレジュメを配布する

＜参考図書＞

・川崎修・杉田敦編『現代政治理論（新版）』有斐閣、2012年

・デイヴィッド・ミラー著『はじめての政治哲学』山岡龍一・森達也訳、岩波書店、2019年

・高山・野口・山本編『よくわかる政治思想』ミネルヴァ書房、2021年

その他、授業中に適宜紹介する。

＜授業計画＞

第1回 講義概要説明とイントロダクション

本講義の目的と概要について説明した上で、政治学における規範的な議論の役割を考える。

第2回 政治とは何か

「政治」を構成する基本的諸要素（意思決定、正統性、権力など）について考察する。

第3回 リベラリズム

リベラリズム（自由主義）の基本的な考え方とその多様な展開について考察する。

第4回 分配的正義論

現代の分配的正義論を比較検討し、公平な分配や正義にかなう社会のあり方について考察する。

第5回 グローバル正義論

国境を超える正義の可能性、その基本的な考え方、その是非をめぐる論争を検討する。

第6回 民主主義の理論

民主的意志決定の多様な方法を比較検討しながら、民主主義に関する一面的な見方を相対化する。

第7回 熟議民主主義とラディカル・デモクラシー

代表制民主主義の枠を超える、デモクラシーのさまざまなあり方を比較検討する

第8回 グローバル民主主義

国境を超えるレベルにおけるデモクラシーの成立可能性を展望する

第9回 政治理論における個人

政治理論の方法論的前提のひとつである「個人」概念を批判的に考察する

第10回 権力

さまざまな権力概念と、政治社会における多様な権力現象との対応関係をみる

第11回 フェミニズム

フェミニズムによる公私二元論批判と、それを通じた「政治」イメージの変容について考える

第12回 ナショナリズム

国民国家の自明性を批判的に考察することで、ナショナルなもの規範的な価値を再考する

第13回 多文化主義

多文化共生のための理論と実践について、政治理論の観点から考察をおこなう

第14回 市民社会とコミュニティ

公共性概念を歴史的に展望したのち、現代社会における公共的なものの成立可能性を考える

第15回 総括

講義内容を振り返り、現代社会において規範的な思考が果たすべき役割について再考する

2021年度 後期

2単位

生涯学習概論/生涯学習概論/生涯学習論 /生涯学習論

立田 慶裕

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク

遠隔講義（基本 オンデマンド） リアルタイムで実施したものをLMS(MOODLE)へアップします。

オンライン（オンデマンド）での学習が難しい人は、リアルタイムでの参加を推奨します。

オンライン（リアルタイム）での参加が難しい場合は、オンデマンドで記録された講義録から学習してください。

<授業の目的>

現代の生涯学習は、多様な学習方法を取り入れつつ展開されています。しかし、そのような時代の中でも、読書という基本的な学習方法は重要な位置を占めています。特に、近年、子どもの読書活動振興法や、文字活字文化振興法が成立する中で、子どもだけではなく、大人の読書の推進も生涯学習の政策として、重視されつつあるのです。

この講義では、社会人の基礎的な力としての読書力の向上と読書習慣の習得を図ります。そのために、まず、幼児から成人に至るまでの読書の発達について考え、大学生の調査結果から作成した推薦本リストを参考にし、次のような読書法の学習を行う予定です。

1. ライト・リーディング(軽く読む。難しい本ではなく、絵本や新書から読み始める)
2. フリー・リーディング(タダで読む。青空文庫の利用、図書館の利用)
3. ブックトーク(本の内容について、誰かと話し合う)
4. 探究型読書(テーマをつなげて読んでいく。同じ本を繰り返し読む)
5. 追っかけ型読書(一人の作家の作品を続けて読む)
6. 異分野読書(いつも読む分野とは異なる領域の本を読む)
7. マルチ読書(その作品について、活字だけではなく、新聞や漫画、映画を見る)

こうした読書を楽しみながら、8. 生涯読書の習慣(1月2冊～4冊を読む習慣を持つ。同じ本を繰り返し読む習慣を持つ)を身につけることを目指します。その過程で、本学DPの専門的知識とスキル、読書をめぐる課題解決、主体性を持って相互に学ぶ態度を生涯学習に関わって学んでいきます。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用します。

<到達目標>

学習目標は、1)生涯学習の多様な方法を身につけることができる、2)なかでも多様な読書法の修得を通じて、読書力の向上を行い、3)他の人への読書の指導ができるようになり、4)その後の成人期における読書習慣の形成(1か月に2冊～4冊)へつなぎ、5)生涯にわたる読書の楽しみをめざす。

<授業のキーワード>

生涯学習の方法、読書力、読解力、読書教育、学校図書館、読書法、コンピテンシー

<授業の進め方>

アイスブレイク、ICT、インプロなど新たな学習方法を修得しながら、生涯学習の基礎的方法としての読書をめぐる実践的知識を身につける。また、多様な読書の方法について、授業内で学んでいく。

授業では、いろいろなグループワークも課しますし、パソコンやスマホを学習のツールとして活用します。YouTubeを見たり、本を読んだり、映画を見たり、できるだけ、学ぶことが楽しい授業を目指します。

<履修するにあたって>

履修にあたっては、ノートテイキングを基礎としながらも、いろいろな学習方法について考え、そうした学習法の中でもつ読書の重要性を学びます。みなさんが好きな漫画や活字本、ミステリー、SF、ファンタジーなど子どもから大人が楽しめる本を探してください。

<授業時間外に必要な学修>

本講義では、生涯にわたる読書をテーマとしての講義を行うため、公共図書館や大学図書館に時間外に出かけて、自分が読みたい本だけではなく、普段、読むことない領域の分類があるコーナーにも足を運び、いろいろな領域の本に接するように心がけることが期待されます。また、絵本や科学書、ドキュメンタリーなど、小説以外の本を借りてみることも、自分の読書経験を深めるためにも必要とされます。また、自分が読んだ本について、家族や友人と話し合ってみてください。さらに、本だけではなく、新聞を読んだり、ニュースを見たり、映画や音楽、漫画を楽しんだり、旅にでかけたりして、多くの経験を積むようにしてください。こうした多様な経験が、読書の楽しみ、深まりを招いてくれます。

<提出課題など>

- (1)毎回、主題についてのミニツッレポートを作成。
- (2)読書に関わるレポートを提出。
- (3)学習支援システムを用いたチームプロジェクト課題など

<成績評価方法・基準>

1)毎回、授業でミニレポートの作成を行い(形成的評価)、15回目にまとめの総括レポート(総轄評価)を提出する。2)評価の配分は、ミニレポート60%、課題レポート20%、総括レポート20%とします。

<テキスト>

立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015

<参考図書>

各回で指示する

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

読書教育の学習について

1) 講義での学習法の説明、2) 読書の意義を考えます、
3) 読書状況についてのアンケートを実施します。

第2回 発達に応じた読書

乳幼児から成人にいたるまでの発達に応じた読書教育について概観します。

読書が別の世界への秘密の扉となることを考えます。

テキスト 第1章 発達に応じた読書

第3回 読書教育の担い手

読書教育の担い手として、とりわけ、家庭の親、学校図書館を支える司書教諭、学校司書、学校図書館ボランティアの人々について、その役割を考えます。

テキスト 第2章 読書教育の担い手

第4回 乳幼児の読書

乳幼児段階で行われる多様な読書教育の方法を探ります。ブックスタートや読み聞かせに注目してください。

テキスト 第6章 乳幼児の読書教育

第5回 小学校の読書教育

小学校低学年、中学年、高学年における各学年の読書の特性と読書教育の目標の設定

テキスト 第9章 小学校の読書教育

第6回 中学校・高校時代の読書

中学校、高校では、学習センター、情報センターとしての学校図書館の役割が増す。

それぞれのセンターの特徴と科学的な思考を育てる読書教育を考えます。

テキスト 第10章 中学校・高校の読書教育

第7回 多様な読書法の紹介

読書法には、どのようなものがあるかを、いろいろな読書法の本や読書ガイドを紹介して、8つの読書法を説明します。まずは、ライト・リーディング、軽く読める本を探しましょう。

第8回 無料で読める本を探そう

大学図書館、公共図書館、博物館、美術館などの学校図書館、公共図書館や図書室で提供される本、青空文庫などの無料の電子図書館、kindleの0円本、オープンリソースの利用法を学ぶ。本を読むとお金がかかるなら、お金をかけないで本や論文を読む工夫を考えます。

第9回 面白い本を紹介しよう

ブックトーク、ビブリオバトルで、人が読んだ本から面白い本を探しましょう。

第10回 調べる学習で深く本を読もう

浅く、広く本を読むランダムリーディングもあれば、たまには、自分が疑問に思う一つのテーマを決めて、その

テーマを巡る本を探しながら、テーマについての深い知識を得てみよう（探究型読書）。wikipedia、図書館の事典や辞典、学術論文などから、一つのテーマについてのノートを作り、レポートを書こう。

第11回 追っかけ読書

一人の作家やアーティスト、漫画家、ミュージシャン、専門家、有名なビジネスパーソン、タレントなど、その人を巡る本やニュース、経歴、成功のきっかけ、生き方のスタイルなど、一人の人間を追っかけると面白いことがたくさん見えてくる。その人の言葉や考え方から学んでみましょう。

第12回 マルチ読書

映画や音楽、漫画や物語など一つの作品から生まれた音楽、アニメ、シリーズ、派生した作品などを探し、一つの作品から、どのような世界が生まれていくか、「～ユニバース」について学んでみよう。

第13回 異分野読書

これまで興味を持ったことのないいろいろな分野が社会や世界にはあります。自分の暮らしを支えるプロフェッショナルたちや職業の世界、これまで調べたことも興味を持ったこともない鉄道や、野鳥や、写真や、スポーツ、趣味の世界から、自分が知らなかつた世界や資料を探ってみましょう。図書館でいつも行かないコーナーに足を運んでみると、多様な分野への旅が待っています。日本から世界へ目を向けることから初めてもいいでしょう。

第14回 生涯にわたる読書

1) 生涯にわたる読書の意義について説明します、2) 読書力には、多様な生きる力が含まれています。3) 読書活動のアンケートを行います。

第15回 読書法から学習のマネジメントへ

本講義では、読書力の向上を目標として、多様な読書法について考えてきました。しかし、読書法は、学習法の一つの方法です。本を読むことから、知識の習得、探究や活用を通じて、さらに多くのことを学び、自分の学習のマネジメントを考えて、さらに効率的で楽しく、ムリのない学習法について考えていきましょう。

2021年度 前期

2単位

生徒指導論/生徒指導論/生徒指導論（進路指導を含む。）/生徒・進路指導論

小寄 麻由

<授業の方法>

「講義」「演習」「実技」

Zoomを利用したリアルタイム授業を行う場合があります。課題などは教職用学内システムmanabaの「生徒・進路指導論」に載せます。

<授業の目的>

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、学

校教育における「生徒指導」・「進路指導」の在り方に
関しての基本的な知識やスキルを獲得し、教員としての
実践力を身につけることが目的である。具体的な生徒指
導の事例を様々な視点から考察することにより、教育現
場での実践力を身につける。また進路指導の実際につい
ても学習し、中高生のキャリア形成を図ることのできる
教員になることを目指す。これは、本学ディプロマ・ポ
リシーの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題
を考察し、解決するための知識や技能を身につけている
」学生の育成につながるものである。なお、この授業の
担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員で
ある。

＜到達目標＞

事例や文献について学生同士で意見を出し合い、協調的、
建設的な議論ができる。

生徒理解について最新の教育理論を説明することができる。

学校現場での生徒指導の実際を、豊富な事例から考察し、
最適な指導を結論づけることができる。

キャリア形成としての進路指導の実際を、豊富な事例か
ら考察し、最適な指導を結論づけることができる。

＜授業のキーワード＞

生徒理解、自己形成、カウンセリングマインド、学級経
営、特別活動、いじめ、不登校、保護者対応、進路指導、
キャリア教育

＜授業の進め方＞

テキストとして示した小説の示された章を読んでから授
業に臨み、少人数のグループで議論する。

生徒指導や進路指導の事例を学生同士で議論し、理解を
深めるとともにコミュニケーション能力を高める。

ロールプレイやワークショップ形式の授業形態を取り、
主体的で対話的な学習を行う。

授業時間外に教職サポート室を訪れて相談員の先生と課
題を作成することを求める。

＜履修するにあたって＞

小説を読んでくる、質の高いレポート課題を出すなどの
自主的な学習を求める。

授業に意欲的に取り組み、学生同士の相互交流を積極的
に行うことを探める。

＜授業時間外に必要な学修＞

テキストとして示した小説から毎回数章ずつ指定された
部分を事前に熟読し、生徒指導として重要と思われる部
分に付箋を貼って持参すること。（毎時間30分）

レポート2回と、最終講義の記述テストに向けて自主的
に学習すること。（目安として1回のレポートに3時間
）

2回目のレポートは教職サポート室を訪問しなければ書
くことができない。必ず相談員の先生のお話を伺うこと。
(目安として1時間)

＜提出課題など＞

レポート課題は前期1回、中期1回の計2回を予定して
いる。期日までに提出すること。

レポート課題の期日や内容は授業中で指示する。提出さ
れたレポートは授業のなかで相互評価する。

出席カードに講義内容についての感想を必ず記入して提
出すること。

最終講義で課題の論述を求め、その内容も成績評価に加
味する。

＜成績評価方法・基準＞

出席カードの記載内容（30%）、レポート課題（40%）、最終講義での課題の論述（30%）（定期試験は
実施しない）

＜テキスト＞

長田黎『若葉の頃に』（文芸社）

＜参考図書＞

文部科学省『生徒指導提要』（教育図書）

＜授業計画＞

第1回 生徒指導の意義と理解

1、生徒指導とは何か、その考え方と意義 2、生徒指
導の目標 3、教育課程と生徒指導の関係

第2回 生徒指導の原理

1、人間観と発達観 2、教育観と指導観 3、集団指
導と個別指導

第3回 教育課程と生徒指導

1、教科指導における生徒指導 2、道徳教育における
生徒指導 3、特別活動における生徒指導

第4回 学級経営

1、生徒との信頼関係 2、係活動 3、学級揭示 4、
学級通信

第5回 保護者対応

1、保護者との信頼関係 2、家庭訪問 3、懇談 4、
電話連絡

第6回 生徒の心理とその理解

1、児童・生徒の発達と問題 2、発達障害 3、多様
な生徒の理解と方法

第7回 教育相談

1、カウンセリングマインド 2、教育相談 3、学外
機関との連携

第8回 特別活動と生徒指導

1、生徒会活動 2、学校行事 3、校外学習 4、宿
泊行事

第9回 生徒指導の個別課題

1、いじめ問題 2、中途退学問題 3、LGBTQ

第10回 不登校

1、不登校とは 2、不登校の原因 3、初期対応 4、
不登校支援

第11回 学校の危機管理

1、日常生活の中の危機管理 2、長期休業中の危機管
理 3、災害時の危機管理

第12回 体験学習と進路指導

1、体験学習の意義と役割 2、体験学習の実際 3、地域社会との連携

第13回 進路指導体制

1、進路指導と進路保障の関係 2、校内進路指導体制の組織と役割 3、生きる力の開発と進路問題

第14回 キャリア教育と進路指導

1、キャリア教育とは何か、その基本的方向 2、進路指導における保護者との連携の在り方とその方法

第15回 本講座のまとめ

1、メタ認知 2、本講座で学んだこと

2021年度 前期

2単位

生徒指導論/生徒指導論/生徒指導論（進路指導を含む。）/生徒・進路指導論

山下 恭

<授業の方法>

○対面での「講義」形式の授業を行います。

<授業の目的>

学校教育の中でも重要な位置を占める生活指導と進路指導についてその現状を知る。「生徒指導論」の分野については、具体的な事例を取り上げて解決方法を考察する。「進路指導論」については生徒の進路を支援する具体的な方法について考察する。担当講師は中学校8年間・高等学校33年間の勤務経験があり、大学の教職課程の教育に11年間携わった実務経験のある教員である。

<到達目標>

生活指導の意義を理解する 生活指導の事例を研究し、解決しようとする意欲を持つことが出来る。生活指導の目標には問題行動への対処のみならず、仲間づくりにより好ましい人間関係を作ることにあると理解把握し、それにもとづいて基本的な指導力を養うことができる。進路指導論を学ぶことで基本的な指導法を身につけることが出来る。

<授業のキーワード>

学級経営 生徒会・リーダー指導 保護者面談 家庭訪問 生活指導 問題行動 スクールカウンセリング 進路指導 就職 公務員 面接指導

<授業の進め方>

講義および事例研究が中心になります。受講生の意見も求めます。

教育実践記録などを読み、感想や考えをレポートにまとめてもらいます。

<履修するにあたって>

時間厳守のこと。途中の退出は認めません。授業に積極的に参加し、積極的に発言してください。授業に臨むにあたって資料を事前にダウンロードしておいてください。授業後に感想を求めることがあります。

<授業時間外に必要な学修>

この科目では毎回の予習と復習に2時間必要です。複数回課題がでますが、1回の課題研究レポートの作成に授業時間外に3時間の学修が必要です。

<提出課題など>

課題・レポート（課題は授業中に指示します）

<成績評価方法・基準>

課題・レポート

<テキスト>

講師が資料を配布します

<参考図書>

文部科学省「生徒指導提要」（平成22年3月）

<授業計画>

第1回 ガイダンス 開講にあたって

自己紹介 本講座の目的 授業の進め方 評価について 質疑応答

第2回 学級経営（1）

生徒との信頼関係の構築

1. 学級づくり 担任と生徒の信頼関係の構築

第3回 学級経営（2）

保護者との信頼関係を結ぶ

1. 保護者との信頼関係構築

第4回 部活指導 顧問の役割

1. 家庭訪問指導（中学校・高等学校）

第5回 生徒会 リーダー指導とその成果

1. 学年集会指導 2. 生徒会活動の指導

第6回 生活指導（1）事例研究

1. クラスになじめない生徒の事例研究

第7回 生活指導（2）事例研究

1. いじめ・集団暴力行為の事例研究

第8回 災害・事故の発生とその対応 学校の危機管理

1. 事故が発生したら 2. 阪神・淡路大震災と学校

第9回 学校カウンセリング こころの相談

1. 学校カウンセリング

第10回 生活指導と人権教育 他者を尊重し生き方を学ぶ

1. 在日韓国人3世をめぐる進路指導上の問題

第11回 中学校の進路指導 高校入試に向けて

1. 高校入試に向けて 2. 三者面談 3. キャリア教育

第12回 高等学校の進路指導 進路の決定に向けて

1. 高校の進路指導の実際 進路調査 三者面談

大学・短期大学・専門学校 理系か文系か

第13回 公務員・就職指導 社会の一員としての自立

1. 面接指導の重要性 2. 民間企業への就職 3. 公務員への就職

第14回 教員採用試験について

1. 面接試験の内容 生徒指導・進路指導関連の質問との対応

第15回 生徒指導・進路指導の総括

授業アンケートなど

2021年度 後期

2単位

生徒指導論/生徒指導論/生徒指導論（進路指導を含む。）/生徒・進路指導論

立田 慶裕

＜授業の方法＞

集中講義

＜授業の目的＞

生徒指導は、現実社会で暮らす生徒の生活を踏まえながら、学校において生徒の人格を尊重し、個性を伸ばし、社会で生きるために必要な資質と能力を育てる教育的取り組みである。本講義は、生徒指導を行うために必要な教師としての知識と理解を深め、実践的なスキルの習得を目的とする。受講者は、自らの学校体験を振り返り、学校における人間関係の問題や現実に生じている教育問題について考えながら、教員としての立場でどのようにしてその問題解決を図ることができるか、そのための多様な制度的工夫、教育的工夫を学んでもらいたい。本講義によって、本学のDPに掲げられた教員としての専門知識とスキル、協働して活動できる社会的態度の形成を目指す。担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

＜到達目標＞

本講義の学習により、(1)学校における生徒指導の目的と原理を理解できる。(2)生徒指導の具体的な指導法を理解し、実践できる。(3)子どもの人権を尊重するとともに、その発達や問題を理解し、考察できる。(4)進路指導を含む生徒指導上で必要な知識と力量を高めることができる。(5)教育問題への多様な視点を学び、自主的、自律的に問題に対応する力を持つことができる。

＜授業のキーワード＞

生徒指導、進路指導、進学指導、キャリア教育、子どもの人権、合理的配慮、いじめ、不登校、人間関係

＜授業の進め方＞

基本的には、講義を主とするが、講義の内容に応じて、事例を導入し、教育事例についての集団討議を行う。

＜履修するにあたって＞

生徒指導の学習は、現実に生じている多様な教育問題への関心を持つ事が最も重要であり、それぞれの教育問題について、自分が教師であればどう考え、どう対処するか、またそのためには、どんな知識やスキルが必要かをいつも考えるようにしていただきたい。

＜授業時間外に必要な学修＞

事前学習は、次回のテーマに関わる新聞記事や文献を探し、1時間程度読むこと。

事後学習については、各回に提示するが、最終レポートに向けて自分の関心を1時間程度でまとめておくこと。

特に、学習コンテンツとして用意する「生徒指導提要」(PDF)については、2時間程度をかけて精読しておくこと。
＜提出課題など＞

毎回の講義で、講義課題についてのアンケートを求める。さらに、2回程度のレポート提出とグループワークによるプロジェクト課題の提出を求める。

＜成績評価方法・基準＞

毎回のミニレポートと課題に応じたレポートを数回提出を求める。最終レポートは、A4版レポート2枚以上を求める。ミニレポート15回が50%、最終レポート30%、中間レポート20%の配分で評価を行う。

＜参考図書＞

文部科学省『生徒指導提要』(PDF)。平成22年、授業内で提供

＜授業計画＞

第1回 生徒指導の意義と課題

ガイダンスと共に、教育課程における生徒指導 集団指導と個別指導 各教科別の生徒指導などについての講義を行う。

第2回 青少年期の発達の理解

児童期、青年期の心理と発達の課題 等の講義と学習

第3回 学校における生徒指導体制

生徒指導の方針、共通理解、組織的指導、教育相談、指導計画の作成と教員研修 について学ぶ

第4回 生徒指導の進め方

全体指導と個別指導、チームによる指導、生活習慣の確立、問題行動の発見、リスク管理について学ぶ

第5回 個別の課題への指導1

暴力問題、いじめ問題を中心に学ぶ

第6回 個別の課題への指導2

不登校、中途退学問題を中心に学ぶ

第7回 生徒指導に関する法制度等

校則の運用、懲戒と体罰、保護育成法令等について学ぶ

第8回 学校と家庭・地域・関係機関との連携

地域と家庭の教育との連携、社会的リテラシーの育成、体験学習について学ぶ

第9回 発達障害児の理解と生徒指導

発達障害児の学べる学校と統合教育や合理的配慮について学ぶ

第10回 キャリア教育の基礎理論

進路指導、進学指導は、生涯にわたるキャリアという視点から、キャリア教育の概念の中で考察されるようになってきた。まずはその基礎知識を学ぶ

第11回 中学校の進路指導

中学生の進路問題、進学問題、職業体験学習について考える。

第12回 高校の進路指導

高校生の進路問題、進学問題とともに、ボランティア学

習の課題を考える。

第13回 生活指導と自律性・自立性の発達

生徒指導と進路指導は、生徒の生活指導と深い関係を持ち、特に生徒の自律性や自立性と深く関わっている。では、子どもたちが自律性と自立性を育てるには、どのような指導が必要かを考える。

第14回 生徒・進路指導の課題の探究

受講生が個別に関心を持つ生徒指導の問題について、参考文献を収集し、個別の生徒指導の問題についてのレポートを作成する。

第15回 課題のまとめ

前回に引き続き、レポートを個別にまとめて提出し、これまでの講義のまとめを行う。

2021年度 前期

2単位

生徒指導論/生徒指導論/生徒指導論（進路指導を含む。）/生徒・進路指導論

磯辺 次雄

<授業の方法>

対面形式 講義

<授業の目的>

生徒指導は一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会で生きるために必要な資質・能力を高める取り組みである。本講義は生徒指導を行うために必要な教師としての知識と理解を深めることを目的とする。受講者は自らの学校体験を振り返り、学校における人間関係の問題や、現実に生じている教育問題などを取り上げ、教員としての立場でどのようにして問題解決を図ることができるか考えてみる。これを通して多様な専門知識の獲得や協働して活動できる社会的態度の形成を目指す。

なお、この科目的担当者は中学校現場の実践および教育委員会での指導を経験した実務経験のある教員であり、現場での実践に向けて必要な知識・態度や実践事例を受講できる。

<到達目標>

本講義の学習により、学校における生徒指導の目的と原理を理解する。生徒指導の具体的な指導を実践できるように理解する。子どもの人権を尊重し、その発達や問題を理解・考察できる。進路指導論を含む生徒指導上必要な知識を身に付ける。多様な視点から教育問題とらえ主体的に問題に対応する力を養う。

<授業のキーワード>

生徒指導、進路指導、キャリア教育、子どもの人権、合理的配慮、いじめ、不登校、人間関係

<授業の進め方>

基本的には講義を主とするが、講義の内容に応じて事例を導入し、教育事例についての集団討議を行う。

<履修するにあたって>

生徒指導の学習は、現実に生じている多様な教育問題への関心を持つことが最も重要であり、それぞれの教育問題について、自分が教師であればどう考えどう対処するか、そのためにはどんな知識やスキルが必要かを常に考えるようにしていただきたい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習は、次回のテーマにかかわる新聞記事や文献を探し、読むこと。事後学習については最終レポートに向けて自分の関心をまとめておくこと。

<提出課題など>

毎回ミニレポートの提出をもとめる。（講義時間内に書いてもらいます。15分程度）最終レポートはA4版2枚程度を求める。

<成績評価方法・基準>

課題のレポート（60%） 毎時間講義終了後のミニレポートの記載内容（40%）で評価する。

<テキスト>

文部科学省『生徒指導提要』平成22年教育図書 27

6円+税

<授業計画>

第1回 生徒指導の意義と課題

生徒指導の意義 教育課程における生徒指導の位置づけ
学習指導における生徒指導

第2回 児童期・青年期の心理と発達

前提となる発達観・指導観 児童生徒理解の基本 児童期・青年期の心理と発達

第3回 発達の課題と発達障害

発達障害の理解 合理的配慮とは

第4回 個別の課題を抱える生徒への指導1

問題行動の早期発見 暴力行為の課題

第5回 個別の課題を抱える生徒への指導2

いじめに関わる課題 インターネット・スマホの課題

不登校の課題

第6回 学校における生徒指導体制

生徒指導の方針と共通理解 指導体制の確立 資料の保管・活用

第7回 キャリア教育の基礎理論

進路指導からキャリア教育へ 基礎的・汎用的能力

第8回 キャリア教育と教科指導・特別活動・総合的な学習の時間

特別活動・総合的な学習の時間における進路指導

第9回 教育評価について

教育評価の種類と目的 目標の設定

第10回 総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力

生き方を考える進路指導

第11回 学校と家庭・地域・関係機関との連携

地域との関わり 職場体験活動

第12回 生徒指導の現場から

事例研究

第13回 社会の形成者としての資質のまとめ

生徒指導の目的

第14回 生徒・進路指導の課題の研究

受講生が個別に関心を持つ生徒指導の問題について、参考文献等の資料を収集し、レポートを作成する。

第15回 課題のまとめ

前回に引き続き、レポートをまとめて提出し、これまでの講義のまとめをおこなう。

2021年度 後期

2単位

西洋史/西洋の歴史

北村 厚

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部DP1、2および人文学科DP1,2で示される教養としての基礎知識及び人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

「西洋の歴史」では、いわゆるグローバル・ヒストリーを学びます。グローバル化が進む現代において、世界の歴史をただ各国別・時代別に学ぶのではなく、地球儀を俯瞰する視点から世界全体の動きを学ぶことが重要です。そこでは国家や英雄たちではなく、海や山や砂漠を超える人々の動きや、商品の交易、気候や疫病といった自然環境の影響、さらに文字や宗教といった人々の生活にかかわる文化の交流が主人公となります。すなわち異文化間ネットワークの歴史です。

世界中がつながるネットワークの一端には、当然ながら日本も加わっていました。グローバル・ネットワークにおける日本の役割の変遷を知ることによって、日本人の歴史を人類史的な視点で眺めなおすことができます。これによってグローバル時代に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養います。これは2022年度からはじまる「歴史総合」や「世界史探究」において必要なスキルとなります。

なお、この科目の担当者は、世界史を専門として高等学 校での専任講師を3年間経験していた、実務経験のある教員です。従ってこの授業では、教職科目として必要な知識として、高校世界史の教科知識を身につけることができます。

<到達目標>

1. 世界の諸地域の歴史を、異文化ネットワークの観点から結びつけて説明することができる。
2. 日本史をグローバルな歴史から考えることができる。
3. 世界史を題材として主体的に「問い」を立て、歴史

的思考力を身につける。

<授業のキーワード>

グローバル・ヒストリー 海域アジア 異文化間ネットワーク 歴史総合 世界史探究 アクティブ・ラーニング

<授業の進め方>

教科書と配布資料をもとに、スライドで授業をします。ノートを必ず取るようにしてください。授業の最後に課題を出しますので、3日間の期限で時間外に復習として課題に取り組み、指定されたGoogleフォームに投稿してください。

<履修するにあたって>

私語や途中退室は厳禁です。授業を受ける最低限のマナーを守ってください。

<授業時間外に必要な学修>

授業の予習として、必ずテキストの次の範囲を読み込んでおいてください(1時間)。さらに復習として、授業後に課題に取り組んでください(1時間)。

<提出課題など>

毎回授業の最後に課題を提示します。3日間の期限で用意されたGoogleフォームに投稿してください。次の回の冒頭でフィードバックを行います。

<成績評価方法・基準>

毎回の課題7点満点 $\times 15 = 105$ 点で採点し、成績評価をします。

<テキスト>

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

<参考図書>

小川幸司『世界史との対話 70時間の歴史批評』(上・中・下)地歴社、2011年

前川修一・梨子田喬・皆川雅樹『歴史教育「再」入門 歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019年

<授業計画>

第1回 グローバル・ヒストリーとは何か

最初に授業の概要を説明します。これまで日本史に限らず世界史においても各国史の集合体であることが少なくありませんでした。また避けがたい西洋中心史観も問題でした。これらを乗り越えようとするグローバル・ヒストリーの試みを紹介します。

第2回 世界史探究のための「問い合わせ」

歴史教育の現場では、2022年に実施予定の「歴史総合」や「世界史探究」に向けた準備が進んでいます。これまでの歴史教育と異なり、史料の読み解きや生徒間のグループワークを想定した「主体的・対話的で深い学び」の実践が必要とされています。その成功は、いかにして生徒の興味を引き出し、能力を身につけさせうる「問い合わせ」を創出するかにかかっています。以降、受講生には毎回「問い合わせ」を創出してもらいますが、そのための方法論や

考え方をレクチャーします。

第3回 大モンゴルのユーラシア：13世紀～14世紀

13世紀、モンゴルのチンギス・ハンによってユーラシア大陸の東西が直接結びつけられます。彼とその後継者たちは大陸と海洋を有機的に結び付け、周辺諸国をもまきこむ「ユーラシア・ネットワークの円環」を作り出します。空前の大帝国の時代と14世紀におけるその崩壊を概略します。

第4回 大交易時代の到来：15世紀

明帝国は鄭和の大船団を南海に派遣し、海域アジアを再び結びつけました。明を中心とする「海禁＝朝貢体制」は早期に破綻し、むしろ琉球王国やマラッカ王国、ヴィジャヤナガル王国といった海域アジア諸国の活躍により、「大交易時代」を迎えます。

第5回 15世紀の「問い合わせ」

前回課題として提出された「問い合わせ」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第6回 世界の一体化：16世紀

16世紀はグローバル・ヒストリーの画期をなします。大西洋へと漕ぎ出したポルトガルとスペインの活躍によりヨーロッパのアジアとアメリカへの進出が始まり、オスマン帝国の発展によりムスリム商人のネットワークが強化され、新大陸と日本からの銀が世界を結びつけます。言葉の真の意味での「グローバル・ネットワーク」の成立です。

第7回 16世紀の「問い合わせ」

前回課題として提出された「問い合わせ」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第8回 大交易時代の終焉：17世紀

ヨーロッパの海洋帝国はポルトガルからオランダに交代し、天下統一成った日本の江戸幕府は海域アジアへと朱印船を派遣して、大交易時代はさらに繁栄しましたが。しかし日本の鎖国と明清交代は交易を縮小させ、大交易時代は終わりを迎えます。

第9回 17世紀の「問い合わせ」

前回課題として提出された「問い合わせ」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第10回 アジア／大西洋の分岐点：18世紀

江戸幕府・清・オスマン帝国といった長期的な大帝国の安定によってアジアは平和の時代を迎え、人口も激増します。一方ヨーロッパは大西洋を舞台に戦争を繰り返し、やがてイギリスが霸権を握るに至ります。大西洋のネットワークは「環大西洋革命」を引き起こし、ヨーロッパの成長がアジアを圧倒していく原動力になるのです。

第11回 18世紀の「問い合わせ」

前回課題として提出された「問い合わせ」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第12回 不平等なネットワークの構築：19世紀前半

ナポレオン戦争を経てグローバルな海洋帝国となつたイギリスは、アメリカ・アジアへと進出し、諸国と不平等

条約を結んでいきます。英領インドで生産されたアヘンは中国に流れ込み、アヘン戦争を引き起します。中国を組み込んだ不平等なネットワークはタイや日本をも巻き込み、欧米列強が次々とアジアへと進出し、世界は激動の時代を迎えるのです。

第13回 19世紀後半の「問い合わせ」

前回課題として提出された「問い合わせ」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第14回 ネットワークの緊密化と「帝国」：19世紀後半
19世紀はグローバル・ネットワークの完成の時代です。世界中に蒸気船航路や鉄道網が張り巡らされ、さらにアメリカ横断鉄道とスエズ運河によってネットワークの短縮化が完成しました。欧米列強だけでなく、アジア諸国もこのネットワークを利用し、欧米の支配に対抗していくことになります。欧米の「帝国」とそれに抗するアジアのネットワークの関係を学びます。

第15回 19世紀後半の「問い合わせ」

前回課題として提出された「問い合わせ」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

2021年度 前期

2単位

青年心理学

村山 恭朗

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義は、人間心理学科の3年次生以上を対象に開講される専門教育科目である。青年期にある者の認知的・心理的特徴や青年期特有の発達課題を学ぶことを修得する。本講義の目的は、人間心理学科のDPに示す、既存の心理学専門知識を修得する（知識）こと、心理学の専門知識などの既存の知識・情報を検索・入手し知見を広げることができる（技能）こと、心理現象について学修した知識を自らの経験と関係づけて解釈することができる（思考力・表現力）こと、社会の一員として自らの意見や考えを的確に表現する（表現力）ことを目的とする。

なお、この科目的担当者は、臨床心理士として10年の経験があり、現在も医療・福祉・産業領域において実務を行う教員である。

<到達目標>

- ・青年期の特徴と発達課題を理解し、説明することができる。

- ・自分自身を振り返り、発達課題や特徴を把握し伝えることができる。

- ・調査および研究結果を踏まえ、自身の意見・考えを主張することができる。

<授業の進め方>

講義を中心に進める。毎回、講義終了時にコメントカード

を記入し、次の冒頭で共有する。

＜履修するにあたって＞

発達心理学の基本的な知識を理解していることが望ましい。

＜授業時間外に必要な学修＞

事前学習として、講義の配布資料を読んでおくこと（目安として1時間）。

事後学習として、配布資料および講義中に記したノートを通じ理解を深めること（目安として1時間）。

＜提出課題など＞

青年期の発達に関するレポートを課す（詳細は講義内で説明する）。提出されたレポートについて、一部をサンプルとして取り上げ、評価のポイントを示す。

＜成績評価方法・基準＞

定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への積極性（講義中の発言、毎回配布される出席カードへの意見や感想等：20%）をもって、評価する。

＜テキスト＞

テキストは使用しない。

＜授業計画＞

第1回 オリエンテーション

本講義の概説、成績評価等の説明

第2回 青年期における生物学的・認知的発達

青年期にあたる年齢と発達加速現象

第3回 青年期における生物学的・認知的発達

青年期における脳の発達

第4回 青年期における自己意識

漸成発達段階論と青年期の発達課題

第5回 青年期における自己意識

アイデンティティとその確立

第6回 青年期における社会性

青年期における友人関係

第7回 青年期における社会性

青年期の親子関係

第8回 青年期における社会性

青年期の親子関係

第9回 青年期における道徳性

青年期の道徳性

第10回 青年期における道徳性

青年期の道徳性

第11回 動機づけ

MotivationとAchievement

第12回 青年期における精神症状と精神疾患

摂食障害群

第13回 青年期における精神症状と精神疾患

抑うつ・うつ病

第14回 青年期における精神症状と精神疾患

統合失調症および他の精神疾患

第15回 まとめ

これまでの講義の総括

2021年度 前期～後期

4単位

地誌学

西尾 正仁

＜授業の方法＞

対面による講義形式を原則にしながら、受講生自身による調査・報告、実習を適宜取り入れる。

なお、新型コロナの感染状況により、授業形態が変更される場合のあることを諒解しておいてください。

＜授業の目的＞

授業の目的は、全額DPに掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」という到達目標に関連し、中学校社会科および高等学校地歴科の授業実施に必要な地誌学的知識・技能・視点を習得することを目的とする。

なお、この授業の担当者は公立高等学校教諭を41年間にわたり務めた、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、中・高等学校での授業実施に必要な技能や考え方も併せて講義する者である。

＜到達目標＞

授業目的を達成するために、以下の到達目標を設定する。

- ・地誌学の基礎的知識を習得する。
- ・多様性とその相互依存によって世界が成り立っていることを理解しようとする態度を身につける。
- ・地図・統計を使って分析したり、自己の主張を端的に表現したりする技能を研鑽する。
- ・児童・生徒への学習指導に資する地域調査を行うための基本的スキルを獲得する。

＜授業のキーワード＞

多様性 空間相互依存 新科目「地理基礎」 地域調査

＜授業の進め方＞

講義中心で授業を進めるが、受講生による発表や実習を適宜織り交ぜて授業をすすめる。

また、各単元ごとに理解度や講義に対する質問や意見を訊ねる小レポートを課す。

＜履修するにあたって＞

高等学校で地理A・Bを履修していないなくても対応可能となるよう、基礎・基本に徹した講義を実施する。将来中学校や高等学校で社会科や地歴科の教員を目指す学生に受講してほしい。

＜授業時間外に必要な学修＞

事前学習

授業に関係するテキストの内容を通読し、学習内容や疑問点を整理しておく（1時間）

事後学習

- ・授業ごとに配布される復習プリントを完成させ、綴つておき、請求があればいつでも提出できるようにしてお

く（1時間）

・各单元で出される小レポートを作成し、dotCampusを通じて期限内に提出する（4～5時間）

＜提出課題など＞

・単元毎にだされる小レポート

・前期レポート

・最終レポート

＜成績評価方法・基準＞

・授業平常点（発表・作業・復習プリント実施状況）

30%

・小レポート5回 @5% 25%

・前期レポート 20%

・最終レポート（発表態度等含めて） 25%

＜テキスト＞

・帝国書院『新詳資料 地理の研究』1,026円（税込）

・帝国書院『標準高等地図 地図でよむ現代社会』1,760円（税込）

なお、『標準高等地図』は中学校や高等学校で使用していた地図帳で代替可能

＜参考図書＞

朝倉書店『地誌学概論〔第2版〕』

＜授業計画＞

第1回 ガイダンス

講義の構成、評価方法の説明を受けた上で、地誌学の歴史と課題について学ぶ

第2回 日本の地誌（1）

日本の自然と生活について学ぶ

第3回 日本の地誌（2）

日本の産業や都市の特徴について統計や画像から読み解く

第4回 東アジアの地誌（1）

東アジアの自然と民族について学ぶ

第5回 東アジアの地誌（2）

東アジアの農業について、図表や統計から読み解く

第6回 東アジアの地誌（3）

世界の工業生産拠点となっている中国・韓国・台湾の工業の発展過程と課題について検討する

小レポート（日本を含む東アジア）

第7回 東南アジアの地誌（1）

東南アジアの自然と産業を図表や画像から読み解く

第8回 東南アジアの地誌（2）

東南アジアの民族、植民地支配の歴史、地域統合について学ぶ

第9回 南アジアの地誌（1）

南アジアの民族・宗教と国の成り立ちについて学ぶ

第10回 南アジアの地誌（2）

南アジアの自然環境と産業を図表や統計から読み解く

小レポート（東南アジア・南アジア）

第11回 西アジア・中央アジアの地誌（1）

西アジア・中央アジアの自然と民族・宗教について学ぶ

第12回 西アジア・中央アジアの地誌（2）

西アジア・中央アジアのエネルギー資源と貿易、国家間対立について学ぶ

第13回 アフリカの地誌（1）

北アフリカの自然・文化と環境変化について学ぶ

小レポート（西アジア・中央アジアと北アフリカ）

第14回 アフリカの地誌（2）

サハラ以南のアフリカの自然、歴史、資源について学ぶ
砂漠化・食糧・人口等、アフリカの諸課題について考察する

第15回 前期総括

アジア・アフリカ地域の地域交流を地誌学的視点から検討する

前期レポート課題提示

第16回 ヨーロッパの地誌（1）

ヨーロッパの自然、民族、宗教について学ぶ

第17回 ヨーロッパの地誌（2）

ヨーロッパの産業を課像や統計から解明かす

第18回 ヨーロッパの地誌（3）

ヨーロッパの地域統合の歴史と意義、ブレクジットの意味について考察する

第19回 ロシアの地誌

ロシアの自然・産業・社会について学ぶ

小テスト（ロシアを含むヨーロッパ）

第20回 アングロアメリカの地誌（1）

北米の自然環境と歴史について学ぶ

第21回 アングロアメリカの地誌（2）

アングロアメリカの産業を図表や画像から読み解く

第22回 アングロアメリカの地誌（3）

アメリカ合衆国が抱える社会問題について学ぶ

第23回 ラテンアメリカの地誌（1）

ラテンアメリカの自然と民族・歴史を画像や統計から読み解く

第24回 ラテンアメリカの地誌（2）

ラテンアメリカの産業や社会について学ぶ

小レポート（アングロアメリカとラテンアメリカ）

第25回 オセアニアの地誌

オーストラリアの自然・産業・多文化共生主義について学ぶ

第26回 地域研究（1）

地域研究の方法論について学ぶ

各自の最終レポートの課題を決める（冬季休業最終日に提出）

第27回 歴史地誌学

港湾都市神戸の発展を歴史地誌の視点から学ぶ

第28回 グローバル化と地誌

グローバル化の進展の中で地誌の捉え方を空間相互依存をキーワードに検討する

第29回 地域研究（2）

各自の最終レポートの進行状況を確認したうえで、最終

レポートの作成についてアドバイスを受ける

第30回 最終レポート報告

冬季休業最終日に提出したレポートの要点を報告する

2021年度 前期～後期

4単位

地誌学

金子 直樹

<授業の方法>

講義（対面授業）

ただし今後の状況によっては遠隔授業（オンデマンド授業）の可能性もある。

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、に掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」するという方針のもと、日本や世界の地誌的な内容を理解し、地理学的な視点を習得することを目的とする。

地理学の領域における地誌学の独特な位置づけを理解した上で、様々な地理資料（地図や統計・写真等）を用いて、世界の各地域の自然環境と人間生活との関わりについて、社会的、歴史的文脈から総合的に概説していく。また、今日における社会的、文化的、経済的事象の地域や国境を越えた関係性についての理解も目指す。その過程を通じて、中学・高校の教職にも必要となるべき地理的思考や知識の体系を確認していく。

<到達目標>

以下のような地誌的視点や考え方が理解できることを目標とする。日本・世界の様々な地理的特徴への基本的知識（日本列島・各地方・大陸・各国の位置、人口・産業・資源・環境などの状況）の理解、地誌がいかに昨今の国際情勢と関連しているかを認識し、グローバル化社会に対する基礎知識としての地誌の重要性への理解

<授業のキーワード>

地誌・地理学・地域・日本・世界・時事問題

<授業の進め方>

地図・資料を配布・提示しつつ講義を進めるが、資料としてドキュメンタリーやニュース番組を紹介することもある。

<履修するにあたって>

高校社会科の地理を履修していなくても対応可能な講義とする予定である。ただし教職科目ということで、社会科の教員免許という点では、歴史学の知識や見方のみならず、地誌を含めた地理学的な側面も必要となるので、本講義で少しでも地理学や地理的な話に関心を持ってのぞんでいただきたい。

<授業時間外に必要な学修>

授業各回の内容を事後に復習(15分)して、次回にのぞむ

こと。

<提出課題など>

毎回講義終了前に、講義内容に対する意見・感想・疑問点などをまとめる課題を行う。次の授業時にその総評などをを行う。また上記課題や定期試験は、請求があれば採点基準や判定を文書にて回答する。

<成績評価方法・基準>

講義中の課題(70%)およびレポート(30%)

<テキスト>

使用しない

<参考図書>

中学校社会科地理の教科書など。講義中に紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

「地誌学」の特徴と課題

第2回 日本の諸地域 1 九州地方 1

自然的特徴：地形・気候など

第3回 日本の諸地域 1 九州地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第4回 日本の諸地域 2 中国・四国地方 1

自然的特徴：地形・気候など

第5回 日本の諸地域 2 中国・四国地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第6回 日本の諸地域 3 近畿地方 1

自然的特徴：地形・気候など

第7回 日本の諸地域 3 近畿地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第8回 日本の諸地域 4 中部地方 1

自然的特徴：地形・気候など

第9回 日本の諸地域 4 中部地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第10回 日本の諸地域 5 関東地方 1

人文社会的特徴：人口・産業など

第11回 日本の諸地域 5 関東地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第12回 日本の諸地域 6 東北地方 1

自然的特徴：地形・気候など

第13回 日本の諸地域 6 東北地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第14回 日本の諸地域 7 北海道地方 1

自然的特徴：地形・気候など

第15回 日本の諸地域 7 北海道地方 2

人文社会的特徴：人口・産業など

第16回 オリエンテーション

世界・日本の区分

第17回 世界各地域の概要 1

自然的特徴：地形・気候など

第18回 世界各地域の概要 2

人口・人種・民族など

第19回 世界の諸地域 1 ; 東アジア

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）
第20回 世界の諸地域2：東南アジア
自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）
第21回 世界の諸地域3：南アジア
自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）
第22回 世界の諸地域4：西アジア・中央アジア
自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）
第23回 世界の諸地域5：アフリカ
自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）
第24回 世界の諸地域6：ヨーロッパ1
自然的特徴：地形・気候など
第25回 世界の諸地域6：ヨーロッパ2
人文社会的特徴：人口・産業など
第26回 世界の諸地域7：アングロアメリカ1
自然的特徴：地形・気候など
第27回 世界の諸地域7：アングロアメリカ2
人文社会的特徴：人口・産業など
第28回 世界の諸地域8：ラテンアメリカ1
自然的特徴：地形・気候など
第29回 世界の諸地域8：ラテンアメリカ2
人文社会的特徴：人口・産業など
第30回 世界の諸地域9：オセアニア
自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

2021年度 前期～後期

4単位
哲学概論/哲学概論
能川 元一

＜授業の方法＞

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある（3回ほどを予定）。
資料は OneDrive を通じて配布する。

＜授業の目的＞

哲学の役割は、本来、日常生活で当たり前だと思われていることを改めて問い合わせし、その意味を受け取り直すことである。例えば「私が私である」ことは私たちの日常の営みにとって自明の前提とされているが、この自明性を疑い「私が私である、とはどういうことか？」を問うことが哲学的な思考である。本講義では哲学における基本問題のいくつかをとりあげ、古代から近代までの哲学史においてそれらがどのように論じられてきたかを概観するとともに、哲学的な思考の実践例について学ぶ。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、思想史に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

＜到達目標＞

各回ごとに課題となるキーワードを指定するので、そのキーワードについて「それがなぜ問題になるのか（問題の拝啓）」「それはどのような問題なのか（問題の内容）」「それについてどのような学説があるのか」を説明できるようになることが目標である。

＜授業のキーワード＞

素朴实在論、イデア論、懷疑論、生得觀念、コペルニクス的転回、主觀主義／客觀主義、最大多数の最大幸福、定言命法、自然権、社会契約論、抵抗権、格差原理、承認、イドラ、方法的懷疑とコギト、科学革命、基礎付け主義、帰納法、演繹、アブダクション、言語行為論、会話の作法、魂の不死、人格の同一性、心身問題

＜授業の進め方＞

講義時に使用する資料等は OneDrive の「哲学概論講義資料」フォルダ（URLは下記参照）にPDFファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえ、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料PDFファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「哲学概論講義資料」フォルダへのリンク <https://>

＜履修するにあたって＞

第1回目の講義で講義の進め方についての詳細なガイダンスを行う。第1回目を欠席した場合には初回出席時に申し出ること。

＜授業時間外に必要な学修＞

講義ホームページで配布するPDFファイルの資料を講義前に閲覧し、理解の困難な箇所をチェックしておくこと（30分程度）。

講義後にも再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと（30分程度）。

＜提出課題など＞

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

＜成績評価方法・基準＞

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20%（全講義期間を通じて）である。

＜テキスト＞

なし。

＜参考図書＞

熊野純彦、『西洋哲学史 古代から中世へ』、岩波新書
熊野純彦、『西洋哲学史 近代から現代へ』、岩波新書
國分功一郎、『中動態の世界 意志と責任の考古学』、医学書院

戸田山 和久、『恐怖の哲学 ホラーで人間を読む』、N

HK出版新書

野矢茂樹（監修）、『ロンリのちから「読み解く・伝える・議論する」論理と思考のレッスン』、三笠書房
植原亮、『自然主義入門：知識・道徳・人間本性をめぐる現代哲学ツアーア』、勁草書房
ピーター・ゴドフリー=スミス、『タコの心身問題
頭足類から考える意識の起源』、みすず書房
<授業計画>

第1回 ガイダンスおよびイントロダクション

講義のテーマ、講義の進め方などについてのガイダンスを行うとともに、現代における哲学の意義について概説する。

第2回 ものはなぜそう見えるか？（1）

素朴实在論はなぜ間違っているのか？ 認識論におけるもっとも基本的な問いについて、それがどのような問題であるのかを論じる。

第3回 ものはなぜそう見えるか？（2）

ものの実在に関する懷疑論の説得力がどのような点にあるのか、にもかかわらず懷疑論を克服すべき理由は何なのかについて考える。

第4回 ものはなぜそう見えるか？（3）

「生得観念」をめぐるイギリス経験論と大陸合理論の対立と、その対立がもつ現代的な意義について論じる。

第5回 ものはなぜそう見えるか？（4）

懷疑論を克服しつつイギリス経験論と大陸合理論とを総合しようとしたカントの試みについて論じる。

第6回 ものはなぜそう見えるか？（5）

「色」はものの表面にあるのか？ 光のなかにあるのか？ 人の心のなかにあるのか？ 「色の知覚」を例にとり、「ものはなぜそう見えるか？」という問いを改めて考え直す。

第7回 ものはなぜそう見えるか？（6）

「色」の認識論と存在論をめぐる現代哲学の議論を紹介する。

第8回 「道徳的」であるとはどのようなことか（1）

現代倫理学における基本的な立場の一つである、ベンサムの「功利主義」について解説する。

第9回 「道徳的」であるとはどのようなことか（2）

現代倫理学における基本的な立場の一つである、カントの「義務論」について解説する。

第10回 道徳的」であるとはどのようなことか（3）

人間の自律性について、ベンサムとカントの思想を対比させながら考える。

第11回 国家はなんのためにあるのか（1）

ホップス、ロック、ルソーの社会契約論について概観する。

第12回 国家はなんのためにあるのか（2）

啓蒙主義と人権思想について概観する。

第13回 国家はなんのためにあるのか（3）

自由をめぐるミルとヘーゲルの議論を紹介する。

第14回 国家はなんのためにあるのか（4）

ロールズの『正義論』とそれに対する批判について解説する。

第15回 前半のまとめ

第14回までの講義について補足説明を加えるとともに、受講者の関心の高いテーマについて討論する。

第16回 確実な知識を求めて（1）

デカルトの「方法的懷疑」と「コギト」について解説する。

第17回 確実な知識を求めて（2）

17世紀の「科学革命」の思想史的な意義について解説する。

第18回 確実な知識を求めて（3）

論理実証主義と現象学による「基礎づけ」の試みについて概説する。

第19回 確実な知識を求めて（4）

「基礎づけ主義」の挫折とプラグマティズムの真理論について概説する。

第20回 「考える」ことを考える（1）

フランシス・ベーコンの「イドラ論」について、現代における心理学の知見もふまえつつ解説する。

第21回 「考える」ことを考える（2）

帰納と演繹についての基本的な事項を解説する。

第22回 「考える」ことを考える（3）

人間が犯しやすい論理的な錯誤について学ぶ。

第23回 「考える」ことを考える（4）

アブダクション（仮設形成）や類推といった思考方法の特徴について概説する。

第24回 「考える」ことを考える（5）

第20回から23回までの講義内容に関して、練習問題に取り組んでみる。

第25回 「考える」ことを考える（6）

第20回から24回までの講義を踏まえて、ITC時代に必要なメディア・リテラシーについて考える。

第26回 20世紀の言語哲学（1）

言語行為論および「会話の作法」について概説し、20世紀の言語哲学の知見に触れる。

第27回 20世紀の言語哲学（2）

20世紀に大きく発展を見せた記号理論について紹介する。

第28回 自己同一性（1）

「人格の同一性」についての様々な哲学的議論を紹介する。

第29回 自己同一性（2）

「心」と「身体」の関係はどのようなものであるのかを考える（心身問題）。

第30回 後半のまとめ

第16回から29回までの講義について補足説明を加えるとともに、受講者の関心の高いテーマについて討論する。

2021年度 前期～後期

4単位

哲学概論/哲学概論

平光 哲朗

＜授業の方法＞

講義

＜授業の目的＞

前期

主題　　問い合わせはじめる哲学

目的

本講義では、哲学的な疑問から出発して、著名な哲学者たちの考察のなかへ入っていきます。それにより受講者は考える力を養い、哲学の基礎的な考え方を獲得します。

私たちは、日常に訪れるふとした隙間のなかで、哲学的な疑問を持つことがあります。この講義では、そうした疑問のいくつかを受講者と一緒に考えます。

例えは夜寝る前、こんな風に考えたことはないでしょうか。「…このまま眠って、もし目覚めることがないなら、それが死ぬということだろうか。明かりが消えるように私の意識も消える…」。こうしたぼんやりとした疑問を、さらに著名な哲学者たちの考察のなかに置き直して考えます。

また例えは、夢と現実の区別についての疑問では、デカルトの省察を導きの糸にします。そうすることで受講者は、おそらく極端と思われるような結論に行き当たることでしょう。

本講義で取り上げる哲学者たちは、それぞれに考察を極限まで推し進めたことで、私たちの足元に大きな穴がぽっかりと開いていることに、気づかせてくれます。

この講義全体を通して、小さな哲学者が受講者一人ひとりのなかに生まれることを期待しています。

後期

主題　　西洋哲学の歴史を辿る

目的

本講義では、古代ギリシャに端を発した西洋哲学の流れを、現代の手前まで辿ります。それにより受講者は、理性を中心においたものの考え方の始まりからひとつの終わりまでを、さまざまな哲学者たちとともに、自ら辿り直すことになります。受講者は、哲学者たちが生み出してきた、それぞれに独創的な思考の体系のなかに身を置き、自分でも彼らと同じ問い合わせを考え、議論の展開につき従います。そうすることで、受講者が自分で問い合わせ立て、問題の前提を考察し、議論を展開するときに必要になるものの考え方の、最も徹底された諸形態を学びます。

講義では、各回のテーマについて、最も肝心な問い合わせ

焦点を絞って論じます。参加者が、その問い合わせを引き継いで思索を深め、自ら探究をはじめる期待します。本講義は、人文学科DP 1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

＜到達目標＞

前期

問い合わせを持つ。

問い合わせについての自分の考えを展開できる。

哲学者たちの議論を適切に理解できる。

哲学者たちの議論のなかに自分の問い合わせを位置づけることができる。

後期

哲学者たちの思考を体系的に理解し、説明できる。

西洋哲学の基礎知識を獲得する。

哲学者たちの問い合わせと考察を受けて、自らの問い合わせを立てることができる。

＜授業の進め方＞

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようになります。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

＜授業時間外に必要な学修＞

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）

＜提出課題など＞

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

＜成績評価方法・基準＞

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（40%）

＜授業計画＞

第1回 ガイダンス

私はいま夢を見ているのではない、と知ることはできるか

デカルトによる省察。方法的懷疑における夢の懷疑について。

第2回 私はいま夢を見ているのではない、と知ることはできるか

ベルクソンにおける現実と夢の違い。身体と夢。

第3回 私たちは自由か

決定論について。スピノザにおける必然主義。

第4回 私たちは自由か

ライプニッツにおける可能世界論。

第5回 これまでの問い合わせのレビューと討議

受講者による第1回から第4回の問い合わせへの考察と討論。

第6回 心と体の関係について、または魂は存在するか
デカルトにおける精神と身体の二元論、スピノザの平行説。

第7回 心と体の関係について、または魂は存在するか
現代の脳科学における諸前提について。ベルクソンの心身関係論。

第8回 死とは何か

ソクラテスと死。

第9回 死とは何か

ハイデガーによる死の考察。

第10回 これまでの問い合わせのレビューと討議

受講者による第6回から第8回の問い合わせへの考察と討論。

第11回 私はなんのために生きているのか

アリストテレスにおける最高善について。

第12回 私はなんのために生きているのか
ニーチェにおけるニヒリズムについて。

第13回 神は存在するか

世界を創造する神と世界に内在する神。

第14回 神は存在するか

神の死について。

第15回 これまでの問い合わせのレビューと討議

受講者による第11回から第14回の問い合わせへの考察と討論。

第16回 哲学とは何か

ギリシャにおける哲学の始まり。ソクラテス以前の哲学者たちについて。

第17回 ソクラテス

無知の知、問答、ソクラテスの死。

第18回 プラトン

イデア、想起説、哲人王。

第19回 アリストテレス

形相と質料、自然学、形而上学。

第20回 中世哲学

神学、普遍論争、トマス・アクィナス。

第21回 ルネサンス期の哲学

ルネサンス、宗教改革、科学革命。

第22回 デカルト

理性、方法的懷疑、「我思う故に我在り」。

第23回 スピノザ、ライプニッツ

実体、神即自然、モナド。

第24回 ロック、バークリー、ヒューム

ロックの認識論、バークリーの観念論、ヒュームの批判。

第25回 カント

理性批判、コペルニクス的転回、二律背反。

第26回 ヘーゲル

弁証法、歴史、絶対知。

第27回 キルケゴー

実存の三段階、単独者、信仰。

第28回 マルクス

物象化、史的唯物論、革命。

第29回 ニーチェ

「神は死んだ」、力への意志、永遠回帰。

第30回 総括

講義全体のレビューと総括。

2021年度 前期

2単位

道徳教育研究 /道徳教育研究/道徳教育の指導法

平光 哲朗

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

主題 「いかに生きるべきか」を問い合わせ、共に考えます。

目的

道徳は、いかに生きるべきかという問い合わせとともにはじまります。その道徳の教育においては、まず教える側が、その問い合わせを持っているのかが問われます。

例えばある子どもたちに、「なぜ～しちゃダメなのか」と問われたとき、その答えを子どもたちに語り、あるいは子どもたちと共に考えるためには、受講者が自分でその問い合わせを受けたことがなければならないでしょう。学校における道徳教育を教師として担うためには、受講者一人ひとりが主体的に「いかに生きるべきか」と問い合わせ、道徳についての知見と理解を深めることができます。

本講義では、私たちはいかに生きるべきかを問い合わせ、受講者と共に考えます。その議論を通して、道徳教育の指導にあたる力を養います。

本講義は、人文学部DP 1、2、4、5、7、8、9に対応します。

<到達目標>

目標

- ・「いかに生きるべきか」を問い合わせる。
- ・道徳についての知見と理解を持つ。
- ・道徳について考え、議論する。
- ・道徳教育の指導にあたる力を養う。

<授業の進め方>

これは講義である。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述する。その内容を教員が次回講義の冒頭に紹介し、受講者全体と共有する。それにより受講者間での相互的な啓発を図る。この双方向的かつ相互的な授業過程を通して問題の理解を深め、受講者の更なる考察を促す。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として、講義内容について自らの考察を深めること。（目安として1時間）

<提出課題など>

講義各回についてのコメント記述、「道徳の内容」についての小レポート、学習指導案。

「授業の進め方」に記載した仕方でフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

講義内容の理解度と考察(50%)、小レポート(25%)、学習指導案(25%)の割合で、総合的に評価します。

<参考図書>

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成27年7月)

下記URLよりダウンロード可能。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm

<授業計画>

第1回 道徳とは何か

道徳とは何か。

共同体と慣習、法と道徳、「内なる声」。

第2回 道徳を教えることについて

教育基本法における「人格の完成」の意味。

人格とは何か。カントにおける人格の尊重。

学校における道徳教育について。

第3回 「よく生きる」ことへの問い合わせ

ソクラテスの問い合わせ。

アテナイ市民との対話と問答の意義。

「徳は教えられるか」という問い合わせ。

「ただ生きる」のではなく「よく生きる」ために。

第4回 世界の道徳教育

ドイツの道徳教育、フランスの道徳教育、アメリカの道徳教育、など。

第5回 日本における道徳教育

日本における道徳教育の歴史。

明治期、大正期、昭和戦前～戦中期、戦後期～現代へ。

第6回 学校における道徳教育

学習指導要領における道徳教育の位置づけとその目標。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と要としての特別の教科 道徳。

学習指導要領における道徳教育の目標。

第7回 「道徳の内容」について(1)

学習指導要領における「道徳の内容」A、Bについて論じ、考察する。

また受講生が各自で内容を解釈し、解釈した内容について小レポートを作成する。

第8回 「道徳の内容」について(2)

学習指導要領における「道徳の内容」C、Dについて論じ、考察する。

また受講生が各自で内容を解釈し、解釈した内容について小レポートを作成する。

第9回 道徳授業の理論と実践(1)

道徳授業におけるさまざまな理論と実践を考察し検討する。

コーラバーグとモラルジレンマ授業。

構造化方式の道徳授業。

第10回 道徳授業の理論と実践(2)

道徳授業におけるさまざまな理論と実践を考察し検討する。

プロセス主義と価値の明確化による道徳授業

エンカウンター方式による道徳授業

第11回 考える場としての「道徳」

教育の前提としての教師と生徒。

教師が探求者であることの意味。

子どもとともに考える場としての「道徳」。

第12回 道徳授業の学習指導案作成

受講生が道徳授業の学習指導案を作成するために。

第13回 道徳の模擬授業(1)

受講生が「道徳」の模擬授業を行う。「道徳の内容 A」と「道徳の内容 B」とに分類される主題を選んだ学生が教師の役割を担う。受講生は小グループに分かれ、グループごとに教師役の受講生が生徒に見立てた受講生に対して学習指導過程を実際に展開する。受講生は、模擬授業を行うことによって得られる発見や理解をもとに、自らの学習指導を振りかえる。

第14回 道徳の模擬授業(2)

受講生が「道徳」の模擬授業を行う。「道徳の内容 C」と「道徳の内容 D」とに分類される主題を選んだ学生が教師の役割を担う。受講生は小グループに分かれ、グループごとに教師役の受講生が生徒に見立てた受講生に対して学習指導過程を実際に展開する。受講生は、模擬授業を行うことによって得られる発見や理解をもとに、自らの学習指導を振りかえる。

第15回 総括

講義全体のレビューと総括。

2021年度 前期

2単位

道徳教育研究 /道徳教育研究/道徳教育の指導法

藤野 幸彦

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

2015年3月、学校教育法施行規則が改正され、道徳教育は「特別の教科 道徳」として学校教育の教科の一つとして実施されることが決定した。小学校では2018年度、中学校では2019年度から一部改正学習指導要領が施行され、新たな道徳教育が既にスタートしている。こうした事情を踏まえ、将来の教育者として受講者の一人一人が「道徳」を考え、るべき道徳教育の姿を追求する姿勢を養うことを通じて、道徳教育を実践する能力を身に付

けることを本講義は目的とする。

＜到達目標＞

- ・「道徳」とは何かを考え、その多様性を理解する。
- ・道徳教育のあるべき姿を一人の教育者として探求し、教育の実践者たる姿勢・態度を身に付ける。
- ・自らの道徳観に自覚を持ち、その上で現代の道徳教育が提示する価値を理解し、評価する。
- ・個人として、また同時に教育者として、道徳教育を実践する能力を体得する。

＜授業のキーワード＞

道徳教育・道徳・倫理学

＜授業の進め方＞

講義を中心に、受講生によるグループディスカッションと模擬授業、また小レポートの作成を取り入れて授業を進める。各講義では各回、受講者は出席カードに講義内容について考えたことを記述する。その内容を教員が次回講義の冒頭に紹介することで、受講者全体で共有する。また小レポートについては実際に道徳の授業で用いられる資料を題材とする。これにより本講義は多様な道徳的価値のありかたを体験する助けとし、更なる受講者の考察を促す。

＜授業時間外に必要な学修＞

「「道徳」と道徳教育を考える（1）～（4）」で行う小レポートについては、扱うテキストの選択を受講者のそれぞれに任せる。レポートの作成にあたって、テキストの選定を事前に済ませておくことが望ましい。

＜提出課題など＞

各回の小ノート、「「道徳」と道徳教育を考える（1）～（4）」の小レポート、授業計画案。

＜成績評価方法・基準＞

・講義進行に伴い、内容理解を確認する小試験を講義内で実施する。また「「道徳」と道徳教育を考える（1）～（4）」では小レポートの作成、第12回講義後には授業計画案の作成を受講者に課す。以上の小試験、小レポート、授業案の内容に受講姿勢を含め、総合的に評価する。

・本講義では受講者個人の道徳観に対し評価を行うことはしない。いかに「道徳」と道徳教育、それぞれの望ましいありかたを考えることができるか、その考察の深さに対して評価を実施することをここに明記する。

＜テキスト＞

文部科学省『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、平成27年。

ともに文部科学省HP (http://www.mext.go.jp/a_menu/s-hotou/new-cs/youryou/1356248.htm) にて公開されているものを用いる。

同『中学校道徳 読み物資料集』、平成24年。こちらも同省HP (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1318785.htm) にて公開のものを用いる。

＜参考図書＞

講義の進行に伴い、適宜講義時間内に指示する。

＜授業計画＞

第1回 「道徳」とは何か

- ・道徳教育のよりよい実践のために、「道徳」そのものについて考える。
- ・特に道徳的な価値を多角的に捉えることの必要性と、その多角性を踏まえた道徳教育のありかたが現代の教育に求められる課題であることを知り、教育者としての自覚を持つ。

第2回 道徳教育における評価の意義

- ・個人の道徳性、また教育においては生徒の道徳性を評価する際、留意されるべき点を理解する。
- ・道徳そのものが個人性と社会性の二側面を持つことを取り上げ、道徳教育において目指されるものが「道徳性の成長」にあることの意義を考える。またこの「道徳性の成長」が何により測られるべきかを考え、一人の教育者として道徳教育を捉える。

第3回 道徳教育と道徳科の目標

- ・道徳教育を教科として実施するにあたり、その理念を学び理解を深める。

・実際に『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の内容に触れ、学校教育に求められている役割を知る。同時に自らの道徳観を見つめ直すことで道徳的価値の多様性を自覚し、あるべき道徳教育の姿を探求する端緒とする。

第4回 道徳科の内容（1）

- ・学習指導要領解説に記載されている道徳教育の内容構成を知り、指導のための知識を身に付ける。

・「主として自分自身に関すること」、「主として人との関わりに関すること」の細目を学び、学校教育において期待される道徳教育の内容を理解する。同時に自らの道徳観を見つめ直し、画一的・教条的な指導とならぬよう留意することの必要性を自覚する。

第5回 道徳科の内容（2）

- ・学習指導要領解説に記載されている道徳教育の内容構成を学び、指導のための知識を身に付ける。

・「主として集団や社会との関わりに関する事」、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」の細目を学び、学校教育において期待される道徳教育の内容を理解する。同時に自らの道徳観を見つめ直し、画一的・教条的な指導とならぬよう留意することの必要性を自覚する。

第6回 「道徳」と道徳教育を考える（1）

- ・「主として自分自身に関する事」について批判的に吟味し、道徳教育を実践する力を養う。

・『中学校道徳 読み物資料集』からテキストを選び、テキストが提示する道徳的な価値を読み解く。同時に提示された道徳的価値と、その提示のされたかたに問題点がないかを批判的に吟味し、道徳の多様性の観点から

授業内で小レポートを作成する。

第7回 「道徳」と道徳教育を考える（2）

- ・「主として人との関わりに関すること」について批判的に吟味し、道徳教育を実践する力を養う。
- ・『中学校道徳 読み物資料集』からテキストを選び、テキストが提示する道徳的な価値を読み解く。同時に提示された道徳的価値と、その提示のされかたに問題点がないかを批判的に吟味し、道徳の多様性の観点から授業内で小レポートを作成する。

第8回 「道徳」と道徳教育を考える（3）

- ・「主として集団や社会との関わりに関すること」について批判的に吟味し、道徳教育を実践する力を養う。
- ・『中学校道徳 読み物資料集』からテキストを選び、テキストが提示する道徳的な価値を読み解く。同時に提示された道徳的価値と、その提示のされかたに問題点がないかを批判的に吟味し、道徳の多様性の観点から授業内で小レポートを作成する。

第9回 「道徳」と道徳教育を考える（4）

- ・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を批判的に吟味し、道徳教育を実践する力を養う。
- ・『中学校道徳 読み物資料集』からテキストを選び、テキストが提示する道徳的な価値を読み解く。同時に提示された道徳的価値と、その提示のされかたに問題点がないかを批判的に吟味し、道徳の多様性の観点から授業内で小レポートを作成する。

第10回 グループ・ディスカッション（1）道徳について

- ・これまでの講義の内容を踏まえ、受講者によるグループ・ディスカッションを実施する。
- ・このディスカッションは道徳的価値の優劣を競うためではなく、あくまでもその多様性を自覚し、多様な道徳的価値を互いに理解し、尊重しあうことを目的として行う。実際に様々な道徳的な視点を交換しあうことで、道徳教育の実践において望まれる多様性を体得する。

第11回 道徳教育の実践（1）方法上の留意点

- ・実際に道徳教育を実施する中で、教員が配慮すべき事柄を理解する。
- ・特に、学校の教育活動全体を通じて道徳教育が行われること、その要の役割を道徳の授業が担うことを把握し、学校における道徳教育としての道徳科のありかたを自覚する。加えて、この道徳教育が重視するものが特定の価値観の提示ではないこと、多様な道徳的価値の下にあるべき道徳を考えることが道徳教育の中心をなすことを把握し、実際に授業計画を作成し、道徳の授業を実施するための知識を身に付ける。

第12回 道徳教育の実践（2）授業計画の作成

- ・道徳教育を実施するにあたり、授業計画を作成する手法を身に付ける。
- ・実際に作成された授業計画を資料として用い、具体的

な道徳教育の実践にあたって計画を作成する方法、計画作成にあたっての留意点を学ぶ。なお本講義後、課題として授業計画案の作成を受講者に課す。具体的には第6回～第9回講義の小レポートでそれぞれの受講者が取り上げたテキストから一つを教材として選び、授業計画を作成するものとする。

第13回 模擬授業（1）

- ・第12回講義の課題として提出した授業計画をもとに模擬授業を行う。
- ・課題について「主として自分自身に関すること」、「主として人との関わりに関すること」に属する主題を選んだ受講者が教師の役割を担い、小グループを作り模擬授業を実施する。この経験をもとに、道徳教育の望ましいありかたを再度考え、教育者として道徳教育を実践する能力を養う。

第14回 模擬授業（2）

- ・第12回講義の課題として提出した授業計画をもとに模擬授業を行う。
- ・課題について「主として集団や社会との関わりに関すること」、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に属する主題を選んだ受講者が教師の役割を担い、小グループを作り模擬授業を実施する。この経験をもとに、道徳教育の望ましいありかたを再度考え、教育者として道徳教育を実践する能力を養う。

第15回 グループ・ディスカッション（2）道徳教育について

- ・講義の内容、また模擬授業の体験を踏まえ、受講者によるグループ・ディスカッションを実施する。
- ・第10回講義のディスカッションが受講者個人の視点を交換しあうことの目的としていたのに対し、このディスカッションは教育者としての視点を交換しあうことの目的とする。将来の教育者の一人として、常にあるべき道徳教育のありかたを探求することの切っ掛けとして、道徳的価値のみではなく道徳教育そのものにもまた多様性が望まれることを自覚する。

2021年度 前期

2単位

東洋史/東洋の歴史

大原 良通

<授業の方法>

遠隔授業（オンデマンド授業）

初回と2回目の授業は講義内容をOneDriveに挙げます。その後はdotCampusでおこないます。

<授業の目的>

講義該当内容での教員採用試験に合格するだけの知識を身につける。

この授業では、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の行動や文化を学際的に研究し、現代社会の大

きな変化に対応しうる人材となることを目的とします。

この授業では、私たちが社会や文化をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。人文学部のDPに依拠しながら、この授業から得た広い教養を身につけ、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる（思考力・判断力・表現力）。

また、さまざまな人間の社会的・文化的活動を学ぶことで、複数の分野の基礎知識を教養として身につけます（知識・技能）。さらに、この授業を通して多様な他者と共に存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになります（主体性・協働性）。人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できます。（主体性・協働性）。学部教育と融合した教職教育をとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、生徒の知識や技能、主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成を図る教員として活躍できる（教職志望者）。

＜到達目標＞

中国史の各王朝の基本的な事項について説明できる。東アジアと西方諸国の交流を理解し、その影響について考察できる。

高校世界史の東洋史関連項目についてほぼ理解できる。社会人として恥ずかしくない程度の東洋史の知識を身につけ、教員採用試験の東洋史関連分野に関しては高得点をとれるようになる。

＜授業のキーワード＞

世界史 教職

＜授業の進め方＞

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』と高校世界史の教科書を使用し、課題を提出してもらいます。課題はdotCampusで通知しますので、授業時に必ず確認してください。

前向きに、教員採用試験合格レベルの知識を得るんだ！という強い気持ちで頑張りましょう。

＜履修するにあたって＞

学習した範囲の基本事項を復習して、覚えておくこと。予習や復習の際には、高校の世界史で使用していた教科書や資料集も活用すること。

＜授業時間外に必要な学修＞

教科書の読解と暗記、課題制作で、週に4時間ぐらいをめどにしてください。

＜提出課題など＞

ほぼ毎回、何らかの課題を提出してもらいます。

かならず、dotCampusで確認してください。

課題には頭に、表題、学籍番号、氏名を必ず明記してください。

＜成績評価方法・基準＞

授業毎におこなうテストや課題で評価します。

課題は教科書の5章までを全て覚えることです。

（100パーセント）。

＜テキスト＞

北村厚、『教養のグローバル・ヒストリー』、ミネルヴァ書房。

ISBN978-4-623-08288-9

＜授業計画＞

第1回 ガイダンス、東洋史のあゆみ

この、シラバスを読んでください。

OneDriveに授業の説明がありますので、そちらもしっかり読んでください。{https:

第2回 教員採用試験に見る世界史1

世界史の東洋史部分がどのように扱われてきたのか、教員採用試験を使用して考察する。

第3回 ユーラシア・ネットワークの形成

ソグド人の活躍など。

第4回 古代の東アジア

班超と甘英など。

第5回 海の道の形成

漢代の東アジアと西方諸国との東西交流について学び、それが物や文化に与えた影響について考察する。

第6回 教員採用試験に見る世界史2

教員採用試験から、古代史がどのように扱われて以下について確認する。

第7回 東西の大帝国

唐の制度と文化、周辺諸国との関係について学ぶ。

第8回 イスラーム・ネットワークの拡大

タラス河畔の戦いと製紙法の西伝。

第9回 東西帝国の衰退

ウイグルと安史の乱

第10回 海洋の発展と大陸の分裂

日宋貿易や陶磁器

第11回 教員採用試験に見る世界史3

教員採用試験で唐代などがどのように扱われているかを確認します。

第12回 大モンゴルのユーラシア

モンゴル帝国の発展と、それが東西交流に与えた影響について学ぶ。ジンギス・ハン、ジャムチ。

第13回 大モンゴルユーラシア・ネットワーク

ラマ教やジャムチ制度、マルコポーロやモンテ・コルヴィノ

第14回 教員採用試験に見る世界史4

教員採用試験でアジアがどのように取り上げられたかを確認する。

第15回 全体を俯瞰する

授業内容を確認しながら、学生の習熟度を測ります。

＜授業の方法＞

対面授業（講義）。ただし、万が一コロナウィルスの感染状況が悪化して対面授業の実施が困難になった場合には、遠隔授業に切り替える可能性もある。遠隔授業になった場合、毎週水曜1限にzoomによる同時進行の授業を実施するか、あるいはオンデマンド型の授業として授業動画をOne driveに掲示する。シラバスとdotCampusを定期的に見るようにしておいてほしい。

遠隔授業になった場合、特別警報または暴風警報発令の場合も、基本的には授業を実施する。ただし自治体より避難指示、避難勧告か「発令されている場合は、その都度授業の休講、中断を判断し、自分自身の安全を最優先に考えて対応してほしい。

＜授業の目的＞

この科目は、法学部のDPに示す「法の理念および現実の社会における法の運用を踏まえて、法および政治について体系的に学修し、法化社会・国際化社会に対応した法的素養を身につけている」ことを目指す科目である。「東洋法制史」は、「日本法制史」や「西洋法制史」と並んで、現実の現代社会における法の理念や法の運用方法が形成されてきた過去の経緯を詳しく理解するための基礎的科目であり、「法学」全体の一部である「基礎法学」に分類されることの多い科目である。この授業の具体的な主題は、「清代を中心とする中国及びモンゴルの法制史」である。

授業の目的は、以下の通りである。まず前期では、日本法制史や西洋法制史に対する意味での「東洋法制史」、特にその代表である中国法制史の全体像を、他の文化圏での法制史と比較しつつ通史的に広く理解し、詳しく説明できるようになることである。その際、最新の研究状況に関する情報の入手方法や、法典編纂史と裁判制度史の概要とを説明できることも必要となる。次いで、中国法制史の中でも特に最後の王朝である清王朝に関して、法典、行政組織、官僚機構、司法システム等の基礎的な部分を自ら詳しく理解し、その諸問題を検討した上で、現実に行われていた裁判の実態や今も現存する中国法の特色を理解できるような状態に到達することが目的となる。後期では、中国以外の多様なアジア諸地域の法制史を理解するための一例として、モンゴル民族の法制史について、法典編纂史と裁判システムを中心に、法制度全体を理解できるようになることを目的とする。また最後に、清朝時代のモンゴルで現実に起こった刑事事件とその裁判事例を自ら詳しく検討し、当時のモンゴル遊牧民に対する清王朝の司法支配の実態を理解・解説できるよ

うになることが目的となる。前後期を通じて、過去の社会に関する法的素養を身につけた上で、現在の中国、モンゴル国、ドイツ、ロシア、アメリカ合衆国、日本等の学界において中国やモンゴルの法制史がどのような形で研究されているのか、という日進月歩の研究状況を身につけることも目的の一つである。

＜到達目標＞

前期に関しては、中国法制史と東アジア全体規模での法制史の形成過程、特に中国歴代王朝における法典の編纂史やその伝播状況、各王朝における刑罰大系や裁判制度の形成史等を理解して自分で説明できるようになることを目標とする。後期では、モンゴル民族の法制史について、世界各国における具体的な研究史を理解し、その背景にある各国の政治経済的な事情や近代におけるヨーロッパ流の法制の導入に関しても、充分に理解して、自分で説明できるようになることを目標とする。前後期を通じて、学んだ知識を利用して東洋法制史の概要を自分で記述する能力のみならず、人前でわかりやすく口頭発表するプレゼンテーションの能力をも身につけることがさらなるハイレベルの目標となる。

＜授業のキーワード＞

律令 科挙 大清律例 清朝の裁判制度 モンゴル法
蒙古例 盟旗制度 モンゴル人民共和国憲法

＜授業の進め方＞

現在の所、対面形式による授業の実施を想定している。しかし、万が一コロナウィルスの感染状況が悪化して対面授業の実施が困難になった場合には、遠隔授業に切り替える予定である。

対面形式の授業が可能であった場合には、前期と後期の終わりに一度ずつ試験を実施する予定であるが、さらに試験以外にも、希望する学生を募って、数回程度、学生自身に口頭発表をしてもらう可能性もある。その場合、レポートの提出と同様に扱い、加点することを考えている。

＜履修するにあたって＞

高校レベルで日本史や世界史を履修した学生は、より理解しやすく感じるかもしれないが、履修していない学生にもわかるような丁寧な授業にしたい。授業中はしっかりとノートを取り、理解できなかった部分などは、その都度質問して、よく確かめておくことが望ましい。また、履修の順番は問わないが、できれば、日本法制史や西洋法制史も受講して、各々の違いをよく理解できるようになってほしい。

＜授業時間外に必要な学修＞

シラバスに掲載された参考文献や授業中に指示する参考文献を神戸学院大学の図書館から借り出して読み、授業の前後に予習や復習をしておくことが望ましい。また、試験の前にも授業ノートや参考文献をよく確かめておいて、充分な準備をしておくことが望ましい。

<提出課題など>

対面授業の実施が可能であった場合、試験以外にも、希望者に口頭発表をしてもらう可能性がある。また、遠隔授業となった場合には、レポート風の試験答案を提出してもらう予定である。その場合、試験問題の掲示も、答案ファイルの提出先もドットキャンパスとする。

<成績評価方法・基準>

対面授業の実施が可能であれば、前期と後期の終わりに一度ずつ持込可能の試験を実施する。長文論述式の試験を予定している。もちろん授業への出席は必要であるが、成績の評価はあくまで試験の結果を重視する。ノート、参考資料等を持ち込むことが可能な長文論述式の試験であるため、充分な準備が要求される。また前述のように、希望者がおれば数名の学生に授業中に口頭発表してもらう。その時の発表内容も、レポートに準じて成績に加点することとしたい。

対面授業の実施が困難となった場合には、ドットキャンパスを用いて、前期と後期の終わりに一度ずつレポート風の試験を行う。試験問題の掲示も、答案ファイルの提出も、ドットキャンパスを用いて行うことになる。

いずれの場合も、シラバスとドットキャンパスを普段からよく見ておくようにしてほしい。

<テキスト>

この講義では、テキストは指定しない。参考文献を図書館で読んでほしい。

<参考図書>

石岡浩・川村康・その他著『史料からみる中国法史』法律文化社2500円 宮崎市定著『科挙 中国の試験地獄』中公文庫 914円 富屋至著『文書行政の漢帝国』名古屋大学出版会8400円 滋賀秀三著『続・清代中国の法と裁判』創文社 5,500円 夫馬進編『中国訴訟社会史の研究』京都大学学術出版会 9,600円 萩原守著『清代モンゴルの裁判と裁判文書』創文社 14,000円 萩原守著『体感するモンゴル現代史』南船北馬舎 3,200円 寺田浩明著『中国法制史』東京大学出版会

<授業計画>

第1回 中国法制史の持つ特徴

成文法主義とイギリス等の判例法主義との違いや、神判の有無等を中心にして、中国と西洋の法制史の大きな違いを概説する。

第2回 中国古代の成文法、一回目

秦漢時代を中心に、代表的な法典とその残存状況とを概説する。特に近年新しく出土し始めた秦漢律の問題について、かなり詳しく扱う。

第3回 中国古代の成文法、二回目

隋唐時代を中心に、代表的な法典とその残存状況とを概説する。特に新発見の唐令の問題については、かなり詳しく扱う。

第4回 中国古代の刑罰体系

秦漢と隋唐の時代を中心として、中国古代における刑罰

とその体系を詳しく述べる。

第5回 中国中世・近世の成文法

宋代、元代から明清期に至る代表的な法典・判例集と法制史の特徴とを概説する。

第6回 中国中世・近世の刑罰体系

五代十国・宋・元代から明清期に至る刑罰の体系をまとめて述べる。

第7回 清王朝の法

『大清律例』を中心とする清代中国の法典、及び「蒙古例」、『回疆則例』等、清朝政府が定めた民族集団別の諸法典について、その種類や法的効力の問題を概説する。

第8回 清王朝の行政機構、前半

首都北京に存在していた中央官庁群、特に裁判に関わる官庁群に関して、地図で確認しつつその配置や機能等を詳しく解説する。

第9回 清王朝の行政機構、後半

中国本土の全土に存在していた網の目状の地方行政・司法組織について、その官僚職の種類や機能等を詳しく解説する。

第10回 清代の科挙制度、前半

清朝の官僚機構を構成する科挙官僚を選抜する試験に関して、まず、地方の州県、省レベルにおける試験を中心にして、発表を希望する学生に詳しく口頭発表してもらう。

第11回 清代の科挙制度、後半

科挙の中心部分をなす首都北京での会試と皇帝自身による殿試について、発表を希望する学生に詳しく口頭発表してもらう。

第12回 清代中国の刑事裁判制度前半

まず清代中国の刑罰体系を解説して、犯罪と刑罰の軽重によって異なる清朝の刑事裁判制度を、詳しく解説する。

第13回 清代中国の刑事裁判制度後半

清朝の刑事裁判制度、特に最近研究が盛んになってきた秋審や勾決の問題を詳しく扱う。

第14回 清代中国における訴訟と裁判の実態前半

宮崎市定氏の和訳した『鹿洲公案』を用いて、発表を希望する学生に訴訟や裁判の実態を詳しく口頭発表してもらう。

第15回 清代中国における訴訟と裁判の実態後半

引き続き、宮崎市定氏の和訳した『鹿洲公案』を用いて、発表を希望する学生に訴訟や裁判の実態を詳しく口頭発表してもらう。

第16回 モンゴル民族史の時代区分

チンギスハーン以来のモンゴル民族史をいくつかの時代に区分し、各時代の政治史状況や世界各国における研究の進展状況等を概説する。

第17回 モンゴル民族の法制史1

13世紀から15世紀頃のモンゴル民族史上の法典、刑事裁判システムに関する研究状況等を時代順に概説する。特にモンゴル帝国期の『大ヤサ』、『大元聖政国朝典章』

等の法制史料とその研究を詳しく述べる。

第18回 モンゴル民族の法制史2

16世紀頃のモンゴル民族史上の主要な法典とその残存状況に関する研究を時代順に概説する。特に、ドイツ、日本等の国々における研究状況を詳しく述べる。

第19回 モンゴル民族の法制史3

17世紀のモンゴル民族史上の主要な法典とその残存状況に関する研究を時代順に概説する。特に、ドイツ、日本、ロシア等の国々における研究状況を詳しく述べる。

第20回 モンゴル民族の法制史4

20世紀初頭以降のモンゴル近現代史について、独立運動の発生や帝国主義諸国との関係等、政治史面を中心にして、先に詳しく解説しておく。

第21回 モンゴル民族の法制史5

20世紀初頭から21世紀にかけてのモンゴル国での憲法と刑法、そして刑事裁判システム、すなわちモンゴルの独立宣言以降の法制史に関する研究状況を概説する。

第22回 清朝初期のモンゴル文法典

清朝政府が制定したモンゴル民族専用法である「蒙古例」の内、乾隆期以前における初期の法、特に中国国家図書館所蔵の「崇徳三年軍律」、中国第一歴史档案館所蔵のモンゴル文法典、ウランバートルのモンゴル国立図書館所蔵のモンゴル文法典等について、その制定・出版状況や研究状況等を詳しく解説する。

第23回 清朝の蒙古例法典

清朝政府が制定したモンゴル民族専用法である「蒙古例」の内、乾隆期以降の『蒙古律例』と『理藩院則例』について、その制定・出版状況や研究状況等を詳しく解説する。

第24回 清代モンゴルの刑事裁判事例（1）「ダシジドの事件」1回目

18世紀のモンゴルで実際に起こった一家心中事件である「ダシジドの事件」に関する各裁判の判決文中で適用された条文を詳しく比定し、清代モンゴルの各種法典が持つ法的効力の問題を考察する。

第25回 清代モンゴルの刑事裁判事例（1）「ダシジドの事件」2回目

「ダシジドの事件」に関して現実に何度も行われた各レベルの役所での裁判の判決文を詳しく検討し、清代モンゴルの社会を考察する。

第26回 清代モンゴルの刑事裁判事例（2）「オンボフの事件」1回目

18世紀のモンゴルで実際に起こった殺人未遂事件である「オンボフの事件」に関して各級の裁判機構にて繰り返し行われた裁判の判決文を詳しく検討し、清代モンゴルの社会を考察する。

第27回 清代モンゴルの刑事裁判事例（2）「オンボフの事件」2回目

「オンボフの事件」に関して行われた裁判の判決中で適用された法典の条文を詳しく比定し、清代モンゴルの各

種法典が持つ法的効力の問題を考察する。

第28回 清代モンゴルの刑事裁判事例（3）「オドセルとナワーンの事件」1回目

光緒年間に発生した殺人事件である「オドセルとナワーンの事件」に関して、加害者と被害者の身分の問題を詳しく検討し、清代モンゴルの種々の身分と各自分に適用される法との関係を考察する。

第29回 清代モンゴルの刑事裁判事例（3）「オドセルとナワーンの事件」2回目

「オドセルとナワーンの事件」で、裁判期間中に脱獄・逃亡したオドセルを捕獲するために庫倫辦事大臣によって適用された「逃亡犯捕獲期限に関する法」について、その起源を詳しく追究・検討していく。

第30回 清代モンゴルの刑事裁判事例（3）「オドセルとナワーンの事件」3回目

「オドセルとナワーンの事件」で、逃亡犯を期限内に捕獲できなかった官員と兵士とに対して庫倫辦事大臣が布告した数種類の判決文について、満洲文による判決文とモンゴル文による判決文とを比較することによって、大臣が利用した方の版本がどちらだったのかを詳しく検討して見る。それによって、清代のモンゴルにおける裁判のシステム自体を分析する。

2021年度 後期

2単位

特別活動の研究/特別活動の研究/特別活動の指導法/総合的な学習の時間・特別活動の指導法

井上 豊久

<授業の方法>

質問等はdotcampusの質問箱か、井上豊久のメールアドレスに遠慮なく送ってください。 私はメールは必ず1日に何度も見てますので、次の日までにもし私からの返信が無ければ、うまく届いてないことが考えられますので再送してみてください。

授業の方法・内容等については変更があるかもしれません。

<授業の目的>

学校教育全体における総合的な学習の時間・特別活動の意義を理解し、人間関係形成、社会参画、自己実現の視点やチームとしての学校の視点を深めた上で、総合的な学習の時間・特別活動の指導に必要な知識や素養を身につける。DP複数の分野の基礎知識を教養として身につけること、相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章での的確に表現できることを目的とする。

<到達目標>

1. 総合的な学習の時間・特別活動の目標及び内容の理解、2. 総合的な学習の時間・教育課程全体で取り組む指導の在り方の理解、3. 総合的な学習の時間・特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の理解

<授業のキーワード>

アイスブレーキング、指導案、メディアリテラシー

<授業の進め方>

毎回、課題レポートを義務付ける。また、指導案作成を行なう。

<授業時間外に必要な学修>

課題の提出、自己研究、各回60分の予習復習を基本とします。

<提出課題など>

レポート、指導案、最終レポート、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。

<成績評価方法・基準>

レポート40%、中間レポート20%、最終レポート40%の総合判断

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目標・内容と方法、評価の説明

第2回 総合的な学習の時間・特別活動とは何か

総合的な学習の時間・特別活動の定義と特徴

第3回 総合的な学習の時間・特別活動の目標と内容

学習指導要領の理解と授業展開

第4回 総合的な学習の時間・特別活動の歴史

明治以降の変遷、戦後の変遷

第5回 教科等との関連

教科、道徳、生徒指導等との関連

第6回 総合的な学習の時間・特別活動と授業実践

授業の計画・実施・評価の基本、個人、自己実現、集団、

体験活動、社会参画

第7回 学級活動

学級活動の目標と内容

第8回 中間試験

中間総括と中間試験

第9回 総合的な学習の時間の実際と課題

総合的な学習の時間の実際と課題について事例等に基づいて検討する

第10回 ワークショップ1

ワークショップの説明とアイスブレーキング、ブレインストーミングの説明を行う

第11回 ワークショップ2

カード分類法を使ったアクティブラーニングとプレゼンテーションの説明を行う

第12回 指導案作成1

指導案作成の基礎・基本の理解

第13回 指導案作成2

指導案作成の実践と学校経営、地域等との連携について検討する

第14回 発表

指導案の発表と省察、教育評価の内容と方法を理解する

第15回 まとめ

総括と最終レポート提出

2021年度 前期

2単位

特別活動の研究/特別活動の研究/特別活動の指導法/総合的な学習の時間・特別活動の指導法

山下 恒

<授業の方法>

この授業は対面で行います。

1. 特別活動

○現在中学校・高等学校で行われている事例について紹介します。

○受講生の小学校～高等学校までの学校生活を振り返りかえる目的で課題（作文）を課します。例えば

「お世話になった先生」「わたしと部活動」「わが校の文化祭」などのテーマで実施します。

○学級担任や部活指導を行う教師の立場に立って「学級通信」の作成、「校外学習の実施計画」の作成、

「夏休みの合宿計画」の作成などのプランを練ってもらいます。

○人権教育の取り組みについて紹介し、その意義を考えます。

○阪神・淡路大震災を事例に防災教育について考えます。

2. 総合的な学習の時間

○現在中学校や高等学校で行われている事例を紹介します。

○消費者教育について紹介します。

この授業では教師が教育現場で行っていることを追体験します。また多くの課題がでます。

<授業の目的>

学校教育の中でも特別活動は生徒の心を豊かにし成長させる教育活動として重要なものである。中学校・高等学校の特別活動を振り返った時、最も印象に残った学校行事は特別活動の行事であったことが多い。特別活動の意義を知り、より良い人間関係を生徒相互に築かせ、なおかつ社会性を養うための特別活動のあり方を学ぶことがこの講座の目的である。担当講師は中学校8年間、高等学校に33年間の勤務経験があり、大学の教職教育にも11年間携わった実務経験のある教員です。体験にもとづいた具体的な話を盛り込みながら授業を行います。

<到達目標>

特別活動の全体像を把握できる。 年間指導計画を立てることができる。 特別活動の指導案を作成できる。

特別活動の意義を理解しその実践に意欲的に取りくむことができる。

<授業のキーワード>

生徒会 学級活動 LHR活動 仲間づくり 文化祭 体育大会 校外学習 部活動 総合的学習の時間

<授業の進め方>

講義および課題テーマでの討議。授業中に課題を与え適宜レポートの提出を求める。

<履修するにあたって>

出身中学校や高等学校での様々な行事についての資料（文集・しおり・行事予定プリント）を集めておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

この科目は対面授業でおこないます。授業終了後、それをまとめるとに授業時間外に2時間の学修が必要です。複数回出される課題レポートの作成にそれぞれ2時間かかります。課題として出される「学級通信」の作成には4時間ほど時間外の学修が必要です。

<提出課題など>

課題レポート 校外学習・LHRプラン 学習指導案

<成績評価方法・基準>

校外学習プラン・LHRプラン・課題レポートなど

<テキスト>

講師がプリントなどの資料を用意します

<参考図書>

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』

文部科学省『中学校学習指導要領』

<授業計画>

第1回 ガイダンス 開講にあたって

1. 講師自己紹介 2. 受講生の自己紹介 3. 講義の進め方とその内容 4. 評価について 5. アンケート

第2回 学習指導要領と特別活動 特別活動とは

1. 学習指導要領の記載 2. さまざまな特別活動

第3回 LHR活動について（1）

LHR活動を通じたクラス仲間づくり

学級担任の仕事を追体験します

第4回 LHR活動について（2）LHR活動を通じたクラス

仲間づくり

作ってみよう「学級通信」

第5回 校外学習について（1）校外学習の目的

校外学習プランを立ててみよう

第6回 学年行事について

学年行事について考える

第7回 生徒会活動（1）1. 生徒会活動の目的 2. 生徒会行事

生徒会活動の意義・役割

第8回 生徒会活動（2）1. 生徒会執行部への指導 リーダー指導の実際

第9回 部活動指導（1）部活動の現状

1. 部活動の目的 2. さまざまな部活動 3. 運動部と文化部

第10回 部活動指導（2）部活動顧問の役割

1. 活動計画 2. 備品管理 3. 会計処理 4. 部員の統率 5. 部活運営と問題の処理

第11回 人権教育・平和教育 人権・平和教育の概要

1. 身近な人権 2. 在日外国人問題 3. 国際ボランティア活動

第12回 修学旅行 修学旅行は学校生活のハイライト

1. 修学旅行の準備 2. 団体行動で求められるもの
3. 思い出に残る旅行とは

第13回 文化祭 文化祭のめざすもの

1. 文化祭の準備 2. 舞台演技披露 3. クラスの出し物 4. 文化部の演出 5. 会計処理の重要性

第14回 総合的学習の時間の活用 学校の特色を生かした総合的な学習

1. 学校での取り組み例の紹介

第15回 総合的学習の時間の活用 学校の特色を生かした総合的な学習

1. 学校での取り組み例の紹介

2021年度 後期

2単位

特別活動の研究/特別活動の研究/特別活動の指導法/総合的な学習の時間・特別活動の指導法

磯辺 次雄

<授業の方法>

対面形式 講義

<授業の目的>

総合的な学習の時間及び特別活動の意義、目標・内容や、その定め方についての理解を深め、指導計画作成、指導法、評価についての知識・技能や素養を身に付ける。

なお、この科の担当者は中学校現場の実践および教育委員会での指導を経験した実務経験のある教員であり、現場での実践に向けて必要な知識・態度や実践事例を受講できる。

<到達目標>

・総合的な学習の時間の目標・内容・各学校において定める際の考え方、特別活動の目標・内容を説明できる。

・総合的な学習の時間の果たす役割を、必要となる資質・能力の視点から理解している。

・探究的な学習過程、主体的・対話的で深い学びを実現することの重要性と具体的な事例を理解している。

・特別活動の教育課程における位置づけ、各教科等との関連を理解している。

・特別活動の内容の特質、指導の在り方、評価の重要性を理解し、話し合い活動や集団活動の指導の在り方を例示できる。

・特別活動の家庭、地域住民、社会教育施設等の関係機関との連携の在り方を理解している。

・教育活動の評価と改善の重要性、学習状況に関する評価の方法・留意点を理解している。

・この学習を通して、教育実践に対する意欲を高める。

<授業のキーワード>

探究的な学習過程 主体的・対話的で深い学び 人間関係形成 生き方を考える 社会参画 自己実現

<授業の進め方>

テキストとレジュメを用いて講義を中心に進める。毎授業の最後にミニレポートを提出する。

<履修するにあたって>

小・中学校、高等学校で経験してきた学校行事・校外学習・職場体験活動・ホームルームなどの内容や、それらの活動で感じたことを振り返っておく。

<授業時間外に必要な学修>

自分の興味・関心に応じた探究的な学習を考えること。最終レポートの作成に向けて、探究的な学習の具体をまとめておくこと。

<提出課題など>

毎時間講義終了後、ミニレポートを提出する。講義時間内に書いてもらいます。（15分程度）

最終レポートとして、特別活動を組み込んだ総合的な学習の時間の実施計画を立案して提出する。

<成績評価方法・基準>

課題のレポート（60%） 毎時間講義終了後のミニレポートの記載内容（40%）で評価する。

<テキスト>

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（H29.7）東山書房発行 256円+税

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（H29.7）東山書房発行 209円+税

<授業計画>

第1回 概要

学習指導要領と総合的な学習の時間・特別活動

第2回 総合的な学習の時間・特別活動の目標と内容

総合的な学習の時間及び特別活動の目標と内容 育成する資質・能力

第3回 総合的な学習の時間の内容1

探究的な見方・考え方 探究課題

第4回 総合的な学習の時間の内容2

考える技法 道徳との関連

第5回 総合的な学習の時間の評価

教育評価とは 目標の設定について 指導と評価の一体化

第6回 内容の取り扱いについての配慮事項

総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方

第7回 特別活動の目標と内容

学級活動 生徒会活動 学校行事

第8回 特別活動の目標と内容2

特別活動の目標とは 実践事例より

第9回 特別活動の意義

人間形成と特別活動 各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連

第10回 総合的な学習の時間の計画立案について

見通しを持った指導計画 単元計画

第11回 総合的な学習の時間の指導計画作成

総合的な学習の時間としての要件

第12回 各学校において定める総合的な学習の時間の目標及び内容

各学校において総合的な学習の時間の目標及び内容を定める際の考え方

第13回 総合的な学習の時間の指導計画

総合的な学習の時間の指導計画の作成と配慮事項

第14回 総合的な学習の時間・特別活動の課題の研究
受講生が参考文献等の資料を収集して、特別活動を組み込んだ総合的な学習の時間の指導計画を、レポートとして作成する。

第15回 課題のまとめ

前回に引き続きレポートをまとめて、提出し、これまでの講義のまとめをおこなう。

2021年度 後期

2単位

日本漢文学

藤井 宏

<授業の方法>

対面授業（講義）

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

緊急事態が発生した場合の取扱い

教務センター所長の判断により措置するものとし、その内容を速やかに大学ホームページ（学内情報サービス）に掲示することで、周知するものとします。

この授業を通して、複数の分野の基礎知識を身につけ、獲得した知識を活用して自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して、解決・解明へと導くことができるようになることを目指す。

<授業の目的>

日本人が書いた漢文を読みながら、その意味と国語との関連を考える。

<到達目標>

日本語は漢語を導入してから、言葉の質が大きく変わり、表現力がアップした。しかし日本人は漢語をそのまま取り入れるのではなく、自らの言葉の中で、その質を変化させながら使用し、言葉としての日本語の質を大きく高めてきた。この時間は、日本語との関連を考えながら、日本人の書いたいくつかの漢文を読んで、その変遷をた

どることによって、日本語の中の漢文に慣れ、館文脈の入った国語の表現に慣れるということを目標にしたい。

<授業の進め方>

教材文を読みながら、問題点をこちらから説明するだけではなく、質問したりしながら進めていきます。

<履修するにあたって>

国語とのつながりということをつねに考えながら参加してください。

<授業時間外に必要な学修>

特に指定はしませんが、中国と日本の文化的かかわり（特に言葉や文学に関して）に関する本を読んでみてください。1時間程度の予習・復習をしてください。

<提出課題など>

必要がある場合は、授業中に指示する。課題はmanabaから、添付ファイルで回答するものとする。

<成績評価方法・基準>

平常の発表点とまとめテストによる。

<テキスト>

プリント使用。

<参考図書>

特になし。日本語や日本文学と漢文について考察した本で、興味のあるものは何でも読んでみてください。

<授業計画>

第1回 プリントの配布とガイダンス。

教材プリント（1）の配布とこの授業ならびに最初の教材についての説明。

第2回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第3回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第4回 教材プリント（2）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第5回 「注の読み方」を中心とした教材文の検討。

古典の「注の読み方」を中心に内容を検討して行きます。

第6回 「注の読み方」を中心とした教材文の検討。

古典の「注の読み方」を中心に内容を検討して行きます。

第7回 教材プリント（3）の配布と「注の読み方」。

古典の「注の読み方」を中心に内容を検討して行きます。

第8回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第9回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第10回 教材プリント（4）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第11回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第12回 教材プリント（5）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第13回 教材プリント（6）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第14回 教材プリント（7）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めています。

第15回 前期のまとめ。

この授業のまとめと質疑応答。

2021年度 後期

4単位

日本経済史/日本経済史

関谷 次博

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

歴史のある出来事は、それ以前の歴史の積み重ねにおいて成り立っており、現在もそうした歴史の積み重ねによって成り立っています。「経済史総論」では、過去の教訓に学ぶという歴史学の手法を用いましたが、「日本経済史」では、現代を捉え、将来の指針を提言するためにも、歴史の成り立ちから分析するという方法を用います。本講義は、日本経済の歴史を、アーリーモダン（初期近代）として捉えられる江戸時代から現在までを対象とします。まずは、明治維新後の日本の経済成長が、江戸時代につくられた経済基盤の上に成り立っているというように、歴史理解の方法を習得することを目的としています。

経済成長を理解するには、GDP（かつてはGNPが主）といった基礎的な経済統計データも理解しなければなりません。また、GDPの成り立ちを理解するためには、簡単なマクロ経済学の理論が必要です。講義では、経済統計データの数的処理による分析や、簡単なマクロ経済理論の解説をおこないます。

本講義はDPの1「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」に対応しています。

<到達目標>

1. 日本経済の歴史を習得できる。
2. 歴史的視点から現代経済を考えることができる。
3. 現代経済を、歴史、データ、理論といった多面的な視点から考えることができる。

<授業のキーワード>
近現代日本史、経済史、マクロ経済学（入門程度）、経済統計

<授業の進め方>
日本経済史の講義をおこなった後、関連する経済統計データの数的処理による分析をおこないます。また、時事の新聞や雑誌記事を用いて、現代との関わりを示すことに努めます。

<履修するにあたって>
段階的な理解のためにも「経済史総論」を修得、ないしは履修することが望ましいです。講義では経済統計データを使った数的処理をおこないます。電卓を持参することが望ましいです。

<授業時間外に必要な学修>
講義における疑問点を発見（30分程度の作業）して、オフィスアワーなどを利用し、質問をしてください。

<提出課題など>
各日の2限目に、1限目の講義内容について要約したものをお提出してもらいます。

オンラインの場合、dotCampusを通じて提出してもらい、提出されたものについてはdotCampusを通じてコメントを返します。

<成績評価方法・基準>
確認テスト40%、期末レポート60%
なお、課題提出が3分の2に満たない場合には、成績評価の対象とはせず「/」とする。

<テキスト>
特にありませんが、必要なプリントは講義中に配布します。

<参考図書>
講義中に紹介します。

<授業計画>

第1回 産業革命
2000年の歴史の中で産業革命のインパクトを理解する。

第2回 課題
要約作業

第3回 江戸時代の経済
勤勉革命について理解する。

第4回 課題
要約作業

第5回 江戸時代の経済
米遣いの経済について理解する。

第6回 課題
要約作業

第7回 幕末・維新の経済
商家の経営について理解する。

第8回 課題
要約作業

第9回 幕末・維新の経済
ビジネスリーダーの役割について理解する。

第10回 課題
要約作業

第11回 明治維新の経済
殖産興業政策について理解する。

第12回 課題
要約作業

第13回 確認テスト
1~12回の分の確認テスト

第14回 確認テスト
1~12回の分の確認テスト

第15回 確認テストの解説
確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第16回 確認テストの解説
確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第17回 明治の経済
政商について理解する。

第18回 課題
要約作業

第19回 明治の経済
綿糸紡績業の発展について理解する。

第20回 課題
要約作業

第21回 明治の経済
鉄道の果たした役割について理解する。

第22回 課題
要約作業

第23回 第一次大戦前の経済
在来産業について理解する。

第24回 課題
要約作業

第25回 第一次大戦前の経済
無制限労働供給について理解する。

第26回 課題
要約作業

第27回 確認テスト
17~27回の分の確認テスト

第28回 確認テスト
17~27回の分の確認テスト

第29回 確認テストの解説
確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第30回 確認テストの解説
確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

2021年度 前期

1単位

日本語 / 日本語 A

金澤 協子

<授業の方法>

対面授業：講義・演習

<授業の目的>

この科目は、日本語能力試験N1レベルの語彙・漢字を総復習し、文法項目の復習を行ないながら、それらの力をさらに伸ばすこと目的とします。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目的担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法の復習と上級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが幅広く扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付ける、適切に使うことが出来ること。

また、総合的に、幅広い場面で使われる日本語を理解するのに充分な量の漢字・語彙を覚え、日本語能力試験N1を受験し、認定を得るための力を付けることです。

<授業のキーワード>

日本語能力試験N1合格・認定

<授業の進め方>

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

日本語文法の整理だけでなく、実践的な運用も視野に入れます。

また、日本語能力試験対策に関しては、数多くの練習問題などを利用します。

日々の授業では…。

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業…を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、授業内で確認し、即座にフィードバックします。

授業内では、充分な質疑応答の時間を取り、対応します。また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

<履修するにあたって>

一度、誤った部分に関しては、確実に得点出来るよう、充分な復習をすること。

<授業時間外に必要な学修>

・予習・復習合わせて1時間程度の学習が必要です。

特に、復習には、充分な対応を心掛けて下さい。

・毎回の授業の冒頭で前回の授業で学習した内容について小テストを行ないます。

復習をしっかりとしておいて下さい。

・次回の授業で答えられるよう、配当された問題を予習しておいて下さい。

また、可能であれば、割り当てられていない問題も、目を通しておいて下さい。

<提出課題など>

初回の授業で、レベルチェックした後に、対応を指示します。

提出された課題は、次の授業時間内にフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

課題遂行：練習問題の実施と提出50%

確認作業：小テスト・練習問題実施後、誤答に対する修正50%

各評価基準は、到達目標に従います。

また、この授業は、対面で行ないます。

<テキスト>

プリントを配布する予定です。

レベルチェックをした後に、対応を指示します。

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。

受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

・受講者自己紹介

・今後の授業の進め方の説明・練習

第2回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

わざと、わざわざ、せっかく、あいにく等

第3回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

ぐるぐる、おろおろ、うろうろ等

第4回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

いかにも、さも、今にも等

第5回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

なるほど、もちろん、無理はない等

第6回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

きっと、おそらく、必ず等

第7回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

ころ、盛り、模様等

第8回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

そろそろ、いそいそ、いよいよ等

第9回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

習

めきめき、そこそこ、ぼつぼつ等

第10回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

ついに・とうとう・やっと・ようやく等

第11回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

見損なう・見下げる・見失う等

第12回 語彙総復習

2-11回で学習した語彙の総復習を行う

第13回 文法総復習

2-11回で学習した文法事項の総復習を行う

2021年度 前期

2単位

日本史/日本の歴史

森栗 茂一

<授業の方法>

対面（社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり）

特別警報または暴風警報発令時も遠隔で授業は実施します。（ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合は、自分の安全を最優先にして行動してください。）

<授業の目的>

本授業は、人文学科の専門教育科目に属し、本学人文学部DPにもとづき、歴史の「問題の解決」に向け、歴史隨想によって「総合的かつ主体的に理解」し、「協働によって問題解決」する能力を養うことを目的とする。

なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた高校教育と博物館展示企画、歴史的まちづくりに関する実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史教育に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

・歴史問題に対処する系統的な判断ができるようになる。
・歴史教育に対する総合的な知識、主体的に学ぶ態度を身に着ける。

<授業のキーワード>

歴史教育、歴史問題、生き方と歴史

<授業の進め方>

対面（社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり）

)

スマホ、PCによるチャットを活用することもある。

<履修するにあたって>

視聴覚教材等は、準備の都合によって変更することがある。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の宿題に90分程度が必要である。

<提出課題など>

毎回、試験を実施する。範囲は、宿題と当日の視聴覚教材のなかから。

<成績評価方法・基準>

毎回の試験 13回 × 6点 = 78点

随想等に関する諮詢…22点

<テキスト>

東京アカデミー編『2021年度教員採用試験対策 専門教科 中学社会』

(2020年度の古いものでも可)

<参考図書>

森栗茂一『河原町の歴史と都市民俗学』明石書店、2003年(図書館に複数用意する)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介動画、授業の組立、宿題提出法

第2回 NHK歴史番組をみる1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

第3回 歩き、見る、聞く予習

神戸、明石on-line動画で、各自で予習する。

第4回 歩き、見る、聞く実践

必要な動画を撮り、投稿する。

第5回 教員採用試験の経験1(古代、中世)

自己採点で自己確認

第6回 地歴教員物語(大学生篇)

地理学教室の学び、社会科初志の会、教員採用試験の経験を知る。

第7回 NHK歴史番組をみる2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

第8回 地歴新書を読む1

受験歴史と歴史学、歴史研究との違いを知る。

第9回 教員採用試験の経験2(近世)

自己採点で自己確認

第10回 地歴教員物語(鈴高、定時制編)

新任教員経験を知る。(教師か研究か? 社会矛盾と社会科教育に悩む。)

第11回 NHK歴史番組をみる3

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

第12回 地歴新書を読む2

受験歴史と歴史学、歴史研究との違いを知る。

第13回 教員採用試験の経験3(現代、総合)

自己採点で自己確認

第14回 地歴教員物語(大学教育編)

大学教育の教師像を知る。(学に志す。イケイケ国立歴博。大学院教養・キャリア教育。)

第15回 地歴探究教育の志

社会科の初志、地歴の意味

2021年度 後期

2単位

日本政治史/日本政治史

成田 千尋

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

・本講義は、法学部のDP(ディプロマ・ポリシー)に掲げられている、法的素養を身につけ(知識・理解)、法的思考に基づいた説得力ある解決指針を示し(汎用的技能)、公平性と客觀性を重視した判断および行動(志向性)ができるることを目指している。

・本講義は、「政治学」「行政学」「国際関係論」といった他の政治学系科目と密接な関連を持つ。政治学の一部門を担う政治史は、近代国家における中央レベルの政治権力の形成と発展の過程をたどり、その特質を明らかにすることが基本的な課題である。

・本講義は、明治期から現代に至る近現代日本の歩みを通史的に把握し、基礎的な知識を習得するとともに、近現代日本の政治・外交を歴史的視点から考察することができるようになることを目的としている。

<到達目標>

- ・近現代日本政治史に関する基礎知識を習得する。
- ・これまでの歴史を踏まえて今日の政治や外交を理解し、自分の見解を表明することができる。

<授業の進め方>

教材として、パワーポイントの他、適宜ニュース映像などを使用しつつ、講義形態で実施する。

<履修するにあたって>

授業計画は、進度や受講生の関心に応じて調整することもある。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の講義終了後、配布資料や授業で紹介した参考文献、映像等を参照し、復習を行うこと。

<提出課題など>

毎回の講義終了後、講義に対する感想・質問を提出してもらう。これに対しては、次回の授業の最初にフィードバックを行う。また、期末レポートを課し、終了後に講評を提示する。

<成績評価方法・基準>

・講義に対する感想・質問30%、期末レポート70%とし、それぞれ内容により評価する。

・感想・質問については、授業に積極的に取り組んでいる姿勢が見られれば、加点対象とする。

・期末レポートについては、講義内容をきちんと理解し、自分の見解が表明できているかどうかという点を評価する。

・レポート作成の際に、インターネットなどからのコピー・アンド・ペーストが判明した場合は、不正に当たるので単位は不可とする。

<テキスト>

特に指定しない。参考図書をもとに講師が作成したパワーポイントを使用する。

<参考図書>

五百旗頭薫・奈良岡聰智『日本政治外交史』（放送大学教育振興会、2019年）

清水唯一朗、瀧井一博、村井良太『日本政治史??現代日本を形作るもの』（有斐閣、2020年）

蓑原俊洋・奈良岡聰智編『ハンドブック近代日本外交史』（ミネルヴァ書房、2016年）

<授業計画>

第1回 講義ガイダンスとイントロダクション

講義内容と目的、講義方法や評価方法などのガイダンス及び、初回以降の導入

第2回 国家形成期の政治

鎖国体制の崩壊と明治新政府による近代国家の建設

第3回 国家形成期の政治

明治新政府の対外政策と政党政治の発展

第4回 近代的軍隊の形成

徴兵制の成立から軍拡へ

第5回 日清・日露戦争

日清・日露戦争と日本社会の変化

第6回 第一次世界大戦と日本

第一次世界大戦前後の日本の外交と政治状況

第7回 二大政党政治と大正デモクラシー

二大政党政治の展開と崩壊の過程

第8回 第二次世界大戦と日本

第二次世界大戦前に至る日本の外交と政治状況

第9回 戦後体制の成立

敗戦と占領改革、サンフランシスコ講和

第10回 日米安保体制の成立

55年体制の成立と安保条約改定

第11回 高度経済成長の時代

高度経済成長と政治状況の変化

第12回 「経済大国」の政治と外交

日韓国交正常化、沖縄返還、日中国交正常化

第13回 55年体制の展開と崩壊

1980年代の日本の外交と政治状況

第14回 56年体制の展開と崩壊

55年体制の終焉と非自民政権の成立

第15回 戦後日本の歴史認識問題

日本の戦後処理と歴史認識問題

2021年度 後期

2単位

日本文学概論

中村 健史

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なる価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、同時に教職科目（国語）に属する。

この科目ではもっぱら国文学の成立と展開をたどりながら、形態、理念、文学史の流れ、構想と表現、文学研究および教材研究の方法論・視点・知識などを講義する。

授業の目的は以下の通りである。

（1）国文学の成立と展開を踏まえ、作品の形態、理念、文学史の流れ、構想と表現などを理解する。

（2）文学研究および教材研究の方法論・視点・知識を習得する。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場

での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

<到達目標>

(1) 国文学の成立と展開を踏まえ、作品の形態、理念、文学史の流れ、構想と表現などが理解できている。

(2) 文学研究および教材研究の方法論・視点・知識を習得している。

<授業のキーワード>

国文学、形態、理念、構想、表現

<授業の進め方>

講義形式で行うが、受講生には積極的な発言・討議を求める。

<履修するにあたって>

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

予習なしに出席することは認めない。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

受講生は積極的な発言・討議が求められる。

提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。あらかじめ指定されたテキストを読み、その作品の文学史的知識を調査しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

<提出課題など>

学期末に期末レポートを課す。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

<成績評価方法・基準>

期末レポートによって評価する。平常点は加味しない。

評価の基準は、「到達目標」(1)～(2)が達成できているかどうかである。

<テキスト>

プリントを使用する。

<参考図書>

久保田淳他『日本文学史』おうふう 1997年 2052円 ISBN:9784273029883

購入を強く推奨する。

<授業計画>

第1回 序説

授業の内容を案内し、あわせて国文学における文学形式（ジャンル）、時代区分、研究方法および研究史について概説する。「授業の目的」(1)(2)に対応（以下

すべて同じ）。なお、以下の授業内容については講義の都合上、順序が前後する場合がある。この回のみZoomで授業を行う。

第2回 神話

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第3回 和歌

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第4回 物語

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第5回 日記

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第6回 説話

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第7回 歌論

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第8回 軍記

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第9回 能

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第10回 俳諧

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第11回 戯作

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第12回 浄瑠璃

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第13回 小説（19世紀）

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第14回 小説（20世紀）

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第15回 発展編

文学の研究法について講義する。

2021年度 前期

2単位

日本文学史概論/日本文学史概論

中村 健史

<授業の方法>

講義。オンデマンド（動画視聴）。

<授業の目的>

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共に存して、異なる価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「日本文学史2」への導入科目として位置づけられる。この科目は教職科目（国語）に属する。

この科目では国文学史を通史的に学ぶ。授業で取り扱う範囲は、奈良時代にはじまりおおむね江戸時代を下限とする。文学史的見地から個々の作品の特色を知り、主に日本語による文学表現の生成・発展を探求する。

授業の目的は以下の通りである。

（1）各時代・各分野の代表的な作品について、作者・成立・概要を知る。

（2）文学史全体の流れのなかで作品が占める位置や影響関係を知る。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

<到達目標>

（1）「授業の目的」（1）について、授業1回あたり20項目程度列挙できる。

（2）「授業の目的」（2）について、特に代表的な作品であれば、参考書等を利用することなく、暗記した知識を基に短い文章で説明できる。

<授業のキーワード>

国文学、文学史、文学

<授業の進め方>

講義形式で行う。

<履修するにあたって>

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。授業の内容を整理し、よく理解した上で、主要な情報については暗記しておいてほしい。また、授業内で紹介した作品・参考書を読むことが不可欠である。予習は必要ない。

<提出課題など>

期末レポート。

模範解答または正答を提示することでフィードバックとする。

<成績評価方法・基準>

期末レポートによって成績を評価する。内容は(1)一問一答形式の問題100問程度、(2)原稿用紙10枚(4000字)程度の文章。

ともに平常点は加味しない。

評価の基準は、ともに「到達目標」（1）（2）が達成できているかどうかである。

<テキスト>

プリントを配布する。

<参考図書>

久保田淳他『日本文学史』おうふう 1997年 2052円 ISBN:9784273029883

乾安代他『日本古典文学史』暁印書館 2016年 1870円 ISBN:9784870155152

いずれかを購入することが望ましい。

<授業計画>

第1回 序説

「日本」文学史の範囲・定義について講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第2回 奈良時代

主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第3回 平安時代（1）

詩歌に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第4回 平安時代（2）

物語に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第5回 平安時代（3）

日記等に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第6回 和歌知識

和歌に関する技巧、知識、概要、文学史上の位置、影響関係について講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第7回 まとめ

奈良・平安時代文学の主題・特色を考察し、全体のまとめを行う。

第8回 鎌倉時代(1)

和歌・物語等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第9回 鎌倉時代(2)

軍記等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第10回 室町時代

主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第11回 江戸時代(1)

俳諧に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第12回 江戸時代(2)

浮世草子等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第13回 江戸時代(3)

洒落本等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第14回 江戸時代(4)

淨瑠璃等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第15回 江戸時代(5)

和歌・漢詩等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

2021年度 前期

4単位

日本法制史

辻村 亮彦

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

明治維新期から大正期までの日本法の歴史について講義する。明治以降の日本法は、明治維新以前の法制度の上に、古代ローマ以来の伝統を持つ西洋近代法を全面的に移植することによって形作られてきた。全面的な法制度

の改変が進められつつある21世紀の現代において、われわれの法がどのようにできあがってきたのかについて、今一度立ち止まって確認しておくことも無意味ではないはずである。この講義では、明治日本が西洋法とどのように出会い、受け入れ、自分たちの「法」としていったのか、学んでいくことにしたい。法学部ディプロマポリシーのうち「知識・理解」(法の理念および現実の社会における法の運用を踏まえて、法および政治について体系的に学修し、法化社会・国際化社会に対応した法的素養を身に付ける)と「汎用的技能」(社会における各種の問題について、その要点を把握し、必要な情報を収集・分析して、法的思考に基づいた説得力ある解決指針を示すことができる)の修得を目標とする。

<到達目標>

日本の法の歴史について理解し、その内容について自分の言葉で説明できる。

現行法を歴史的観点から相対化して議論を行うことができる。

<授業のキーワード>

法の継承、法典編纂

<授業の進め方>

講義形式で進める。毎回レジュメと資料を配付する。受講者と一緒に資料を読み、議論する時間を設けたい。

<履修するにあたって>

日本史、法制史に関する知識は必要ない。日本法の歴史的な成り立ちに対する関心が、唯一の受講条件である。

<授業時間外に必要な学修>

授業前にはあらかじめ配布した資料に目を通し(1時間程度)、授業後には十分に復習を行うこと(3時間程度)。

<提出課題など>

dotCampusを用いて小テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

5回の小テスト(計25点)と対面の定期試験(75点)により評価する。非登学申請が認められた学生については定期試験に代えてレポートで成績評価を行う。感染拡大等の理由で対面試験の実施が不可能となった場合にもレポートで成績評価を行う。

<テキスト>

指定しない。

<参考図書>

最近のものとして出口雄一他編『概説 日本法制史』(弘文堂、2018年)、高谷知佳他編『日本法史から何がみえるか 法と秩序の歴史を学ぶ』(有斐閣、2018年)がある。その他概説的なものを初回にいくつか紹介した上で、授業の進行に合わせて個別的なものを紹介する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

本講義のねらい、講義予定。参考書の紹介を行う

第2回 江戸時代の法の概観
江戸時代の統治組織、裁判制度について学ぶ
第3回 江戸時代の「法典」
江戸幕府の編纂した公事方御定書について学ぶ
第4回 幕末・維新期の政治、外交
明治期の法形成を決定づけることになる不平等条約の締結について学ぶ
第5回 「律令」への回帰（1）
明治初年の太政官制について学ぶ
第6回 「律令」への回帰（2）
明治初年の刑事法典である新律綱領、改定律例について学ぶ
第7回 西洋法との出会い（1）
幕末・維新期におけるオランダ法、フランス法との接触について学ぶ
第8回 西洋法との出会い（2）
日本の西洋法受容に貢献したお雇い外国人について学ぶ
第9回 司法制度の創設（1）
江藤新平の裁判所制度の構想について学ぶ
第10回 司法制度の創設（2）
明治4年の司法省設置、明治8年の大審院の設置について学ぶ
第11回 司法制度の創設（3）
明治前期の法曹制度、法学教育について学ぶ
第12回 条約改正交渉
法典編纂、司法制度整備を促進することになる不平等条約の改正交渉について学ぶ
第13回 明治前期の刑事法（1）
日本で最初の西洋型法典である刑法と治罪法について学ぶ
第14回 明治前期の刑事法（2）
刑法、治罪法施行に伴う刑事裁判の変化について学ぶ
第15回 明治前期の民事法（1）
明治4年戸籍法と「家制度」について学ぶ
第16回 明治前期の民事法（2）
明治前期の婚姻、離婚について学ぶ
第17回 明治前期の民事法（3）
地租改正、取引法について学ぶ
第18回 明治前期の民事法（4）
法典実施以前の民事裁判について学ぶ
第19回 明治立憲制の成立（1）
太政官制から内閣制への移行について学ぶ
第20回 明治立憲制の成立（2）
大日本帝国憲法、皇室典範の編纂、施行について学ぶ
第21回 明治立憲制の成立（3）
地方制度の確立過程について学ぶ
第22回 民法典の編纂（1）
明治初期の民法草案、ボワソナード民法について学ぶ
第23回 民法典の編纂（2）
ボワソナード民法の施行をめぐって繰り広げられた民法

典論争について学ぶ
第24回 民法典の編纂（3）
民法典論争の結果新たに作られた明治民法について学ぶ
第25回 司法制度の展開
明治20年代以降の司法制度の強化、司法官の刷新について学ぶ
第26回 陪審制の導入
大正陪審法の制定、運用について学ぶ
第27回 「社会法」の形成
大正期以降の労働法制、小作法等の形成過程について学ぶ
第28回 治安法制
大正期以降の治安法制の展開について学ぶ
第29回 東アジアへの法の移転
植民地における法、裁判の展開について学ぶ
第30回 総括
授業を振りかえり、日本における「法の継承」について考え直す

2021年度 前期
2単位
発達障害学/特別支援教育概論
大前 玲子

<授業の方法>
遠隔授業（オンデマンド）
<授業の目的>
1, 特別の支援を必要とする児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 2, 特別の支援を必要とする児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。
<到達目標>
1, インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。
2, 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。
3, 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。
4, 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を理解している。
5, 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
6, 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
<授業の進め方>
オンデマンドによる配信されるもの（主にパワーポイントと動画）に沿って進める。資料の配付等は教職課程専

用のLMS (manaba)において行う。

<授業時間外に必要な学修>

次週の授業に関連する資料を配布、或いは参考図書の関連箇所などを紹介するので、授業前に読む(50分)。

配布されたレジュメで重要な箇所を再度復習する(30分)。

配布されたレジュメの中で特に重要な教育用語やそこでとりあげた教育問題などについて調べる(50分)。

<成績評価方法・基準>

学期末レポート50% 授業への参加（小レポート、意欲・態度）50%

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

特別支援教育概論の授業の進め方。レポートの提出方法、評価の仕方など。

第2回 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み

インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育について。特別支援教育の制度の理念や仕組みについて。

第3回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程。

発達障害とは。

第4回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程。

自閉スペクトラム症/自閉スペクトラム障害（ASD）の心身の発達、心理的特性及び学習の課題。

第5回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程。

注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害（ADHD）の発達、心理的特性及び学習の課題。

第6回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程。

限局性学習症・限局性学習障害（LD）その他の発達障害についての発達、心理的特性及び学習の課題。

第7回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する支援の方法について

自閉スペクトラム症/自閉スペクトラム障害（ASD）の支援の方法とその例示。

第8回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する支援の方法について

注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害（ADHD）の支援の方法とその例示。

第9回 発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する支援の方法について

限局性学習症・限局性学習障害（LD）その他の発達障害についての支援の方法とその例示。

第10回 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけ

特別支援教育に関する教育課程。

第11回 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけ

「通級による指導」及び「自立活動」

第12回 特別支援教育に関する教育課程の枠踏みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法

個別の指導計画の作成とその意義

第13回 特別支援教育に関する教育課程の枠踏みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法 、まとめのレポートの書き方

個別の教育支援計画を作成する意義 、まとめのレポートの書き方

第14回 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解

特別支援教育コーディネーターの役割、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築

第15回 振り返りと総括

本講義の振り返りと全体的な総括

2021年度 後期

2単位

発達障害学/特別支援教育概論

小山 正

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1、3、8に特に関連し、心理学科専門教育科目専門科目群の中に位置づけられる。自閉症スペクトラムや発達障がいの子どもの問題を中心に、乳幼児期の早期教育・療育の問題、親への支援のあり方、学校教育における問題などについて、「障がいのある子どもが発達する」という「障害児発達学」の立場から述べていく。平成19年度より、特別支援教育に移行したことを踏まえ、障がいのある子どもの発達上の問題や療育方法および学校教育について説明できることや、障がいのある子どものコミュニケーションとその発達についても説明できることを目指し、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。なお、この科目的担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員を9年間経験した実務経験がある教員です。療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。

<到達目標>

・障がいのある子どもの発達と教育について説明することができる。（知識）

- ・障がいのある子どもの発達上の問題について説明できる。(知識)
- ・療育方法および学校教育について説明できる。(知識)
- ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援に関する制度の理念や仕組みを説明できる。(知識)
- ・障がいのある子どものコミュニケーションとその発達について説明できる。(知識)
- ・特別支援教育に関する教育課程の位置づけと内容を説明できる。(知識)
- ・「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を説明できる。(知識)
- ・これまでと違った観点から障がい児・者への配慮することができる。(態度・習慣)
- ・地域の療育について調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

障がい、自立、特別支援教育、療育

<授業の進め方>

配布資料にそって講義を進めます。事前に関連する参考書の章を読んでおくこと。

<履修するにあたって>

これまでの授業の中で発達障害や療育について学んだことから、疑問点などを整理しておいてください。

新型コロナウィルス感染予防のため、授業を受けるにあたり、マスクを着用し、入室前に必ず手指消毒を行い、入室後は互いの距離を十分に取ることなど留意してください。

<授業時間外に必要な学修>

前回の授業の資料を読んで整理すること（目安として90分）、および該当の参考書の該当箇所を予習として読んでいること（目安として90分）を前提として講義を進めます。

<提出課題など>

講義内容と主題にした小レポートを毎回授業において提出すること。小レポートについては、以降の授業時に、記述のポイントなど、全体にコメントを行います。また、まとめのレポートを指定された期間に提出します。まとめのレポートについては、最終授業において全体的にコメントを行います。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者が単位の認定・評価の対象になります。

毎回の講義内容に関する小レポート(70%)と、まとめのレポート(30%)によって評価します。

小レポートでは、各回の主題に関しての理解を問い合わせ、まとめのレポートでは到達目標から評価します。

<テキスト>

なし。

<参考図書>

小山 正・神土陽子(編)「自閉症スペクトラムの子ども

の言語・象徴機能の発達」ナカニシヤ出版。

<授業計画>

第1回 子ども理解と障がいのある子どもの教育

特別支援教育、障害児教育を進める上で児童・生徒の障害特性および心身の発達を理解する。

第2回 発達障害とは。

「知的障害」「自閉スペクトラム症」「発達障害」についての理解を深める。

第3回 (1) 自閉スペクトラム症の子どもの言語発達の諸相

(2) 語用の障がいについて

(1)自閉スペクトラム症のある子どもの言語発達とその支援について。

(2)他者認識の発達という観点から考える。

第4回 ことばの獲得とその障がい

わが国における障がいのある子どもへの言語発達支援について理解を深める。

第5回 障がいのある子どもの遊びと発達子どもの遊びと発達について理解を深める。

第6回 個別療育と集団療育の意義

主として児童発達支援センター等における発達支援やさまざまな療法についての理解を深める。就学前の療育システムについても理解を深める。

第7回 早期療育と親への心理的サポート

障がいのある子どもの親子関係や親への支援、地域療育のあり方について考える。また、家庭との連携について理解する。

第8回 学校教育:特別支援教育に関する教育課程

障がいのある子どもの学校教育や教育課程、指導形態について理解を深める。関係機関との連携についても理解する。

第9回 通級指導教室と交流教育

通級制と交流教育の意義について理解する。

第10回 特別支援教育の実際とこれからの課題。

特別支援教育が目指すもの、障害児教育における今後の課題を考える。学童期のアセスメントから個別教育計画の考え方や実際について述べる。

第11回 自立とは。就労の問題 学校終了後の問題。

発達的自立、就労の問題について考える。

第12回 事例研究

事例を通して、障がいのある子どもの発達についての理解を深める。さらに事例研究の方法について学ぶ。

第13回 思春期・青年期の問題

障がいのある児童のアイデンティティの形成、青年期以降の問題を発達的観点から考える。

第14回 特別支援教育における今後の展開

特別支援教育の今後の課題を考える。

第15回 振り返りと総括

本講義の振り返りと全体的な総括を行う。

2021年度 後期

2単位

発達障害学

小山 正

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人間心理学科DP1、3に示す、「既存の心理学専門分野の知識を修得している」と「心理学の専門知識などの既存の知識、情報を検索・入手し知見を広げる」ことを目指します。本講義は、臨床心理学領域科目群ならびに人間心理学科関連科目であり、臨床心理学領域の専門的な知識や人の理解の仕方を学び、人間、社会を理解するために新しい視点を獲得する科目として位置づけられます。自閉症スペクトラムや発達障がいの子どもの問題を中心に、乳幼児期の早期教育・療育の問題、親への支援のあり方、学校教育における問題などについて、「障がいのある子どもが発達する」という「障害児発達学」の立場から述べていく。平成19年度より、特別支援教育に移行したことを踏まえ、障がいのある子どもの発達上の問題や療育方法および学校教育について説明できることや、障がいのある子どものコミュニケーションとその発達についても説明できることを目指し、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。なお、この科目的担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員を9年間経験した実務経験がある教員です。療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。

<到達目標>

- ・障がいのある子どもの発達と教育について説明することができる。(知識)
- ・障がいのある子どもの発達上の問題について説明できる。(知識)
- ・療育方法および学校教育について説明できる。(知識)
- ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援に関する制度の理念や仕組みを説明できる。(知識)
- ・障がいのある子どものコミュニケーションとその発達について説明できる。(知識)
- ・特別支援教育に関する教育課程の位置づけと内容を説明できる。(知識)
- ・「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を説明できる。(知識)
- ・これまでと違った観点から障がい児・者への配慮することができる。(態度・習慣)
- ・地域の療育について調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

障がい、自立、特別支援教育、療育

配布資料にそって講義を進めます。事前に関連する参考書の章を読んでおくこと。

<履修するにあたって>

これまでの授業の中で発達障害や療育について学んだことから、疑問点などを整理しておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

前回の授業の資料を読んで整理すること(目安として90分)、および該当の参考書の該当箇所を予習として読んでいること(目安として90分)を前提として講義を進めます。

<提出課題など>

講義内容と主題に関する小レポートを毎回授業において提出すること。小レポートについては、以降の授業時に、記述のポイントなど、全体にコメントを行います。また、まとめのレポートを指定された期間に提出します。まとめのレポートについては、最終授業において全体的にコメントを行います。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者が単位の認定・評価の対象になります。毎回の講義内容に関する小レポート(70%)と、まとめのレポート(30%)によって評価します。小レポートでは、各回の主題に関しての理解を問い合わせ、まとめのレポートでは到達目標から評価します。

<テキスト>

なし。

<参考図書>

小山 正・神土陽子(編)「自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達」ナカニシヤ出版。

<授業計画>

第1回 子ども理解と障がいのある子どもの教育

特別支援教育、障害児教育を進める上で児童・生徒の障害特性および心身の発達を理解する。

第2回 発達障害とは。

「知的障害」「自閉スペクトラム症」「発達障害」についての理解を深める。

第3回 (1) 自閉スペクトラム症の子どもの言語発達の諸相

(2) 語用の障がいについて

(1)自閉スペクトラム症のある子どもの言語発達とその支援について。

(2)他者認識の発達という観点から考える。

第4回 ことばの獲得とその障がい

わが国における障がいのある子どもへの言語発達支援について理解を深める。

第5回 障がいのある子どもの遊びと発達
子どもの遊びと発達について理解を深める。

第6回 個別療育と集団療育の意義

主として児童発達支援センター等における発達支援やさまざまな療法についての理解を深める。就学前の療育システムについても理解を深める。

第7回 早期療育と親への心理的サポート

障がいのある子どもの親子関係や親への支援、地域療育のあり方について考える。また、家庭との連携について理解する。

第8回 学校教育:特別支援教育に関する教育課程

障がいのある子どもの学校教育や教育課程、指導形態について理解を深める。関係機関との連携についても理解する。

第9回 通級指導教室と交流教育

通級制と交流教育の意義について理解する。

第10回 特別支援教育の実際とこれからの課題。

特別支援教育が目指すもの、障害児教育における今後の課題を考える。学童期のアセスメントから個別教育計画の考え方や実際について述べる。

第11回 自立とは。就労の問題 学校終了後の問題。

発達的自立、就労の問題について考える。

第12回 事例研究

事例を通して、障がいのある子どもの発達についての理解を深める。さらに事例研究の方法について学ぶ。

第13回 思春期・青年期の問題

障がいのある児童のアイデンティティの形成、青年期以降の問題を発達的観点から考える。

第14回 特別支援教育における今後の展開

特別支援教育の今後の課題を考える。

第15回 振り返りと総括

本講義の振り返りと全体的な総括を行う。

2021年度 前期

2単位

発達心理学

松島 由美子

<授業の方法>

遠隔授業（オンデマンド授業）

<授業の目的>

この授業は教職に関する科目（選択科目）であり、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1および2の獲得を目指すものである。

本講義では発達心理学の基本的知識を幅広く学び、日常生活の中で気づかずにはいる人の心の働きやその変化を認識するとともに、自分自身について興味を持って観察できるようになることを目指す。また、発達過程で生じる問題について学ぶことを通して、得られた知識をどう生かすかを考える。

なお、授業担当者は企業での人事経験や地域での心理職としての実務経験のある教員であるので、より複合的な視点から発達について解説するものとする。

<到達目標>

1. 発達心理学の基本知識について説明することができる。

2. 心の働きやその変化に关心を持ち、自分自身を観察することができる。

3. 発達過程で生じる問題について学び、得られた知識をどう生かすかを考えることができる。

<授業のキーワード>

生涯発達心理学、発達に影響する要因

<授業の進め方>

講義形式を基本とし、授業の中で出された課題に回答することを求める。副教材として動画などを使用する。

<履修するにあたって>

授業中に出された課題について自分で考え、気づいたこと、疑問に感じたことを自由に記述すること。記述した内容は授業中に講師が読み上げることがある。

<授業時間外に必要な学修>

事前に伝える講義テーマについて予習してから授業に臨むこと。授業後は授業の内容を復習し、次の授業に生かせるよう知識を整理しておく。（いずれも目安として1時間）

<提出課題など>

授業中に課題を出し回答シートへの記入を求める。記入時に質問や意見を記入してもよい。提出された課題や質問に対するフィードバックは授業の開始時に行う。

<成績評価方法・基準>

課題や小テストなど授業で課したものの中、2/3以上の提出をもって評価対象とする。課題や小テストの頻度・回数・内容に関しては、初回の授業時に説明する。提出物の内容等にもとづき総合的に評価を行う。

<テキスト>

内容に応じてレジュメを配布する。

<参考図書>

「発達心理学の基本を学ぶ - 人間発達の生物学的・文化的基盤 - 」ジョージ・バターワース/マーガレット・ハリス著 村井潤一監訳 ミネルヴァ書房

「よくわかる認知発達とその支援」子安増生編 ミネルヴァ書房

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

発達心理学の歴史の概観と授業の進め方の説明

第2回 発達の基礎：遺伝と環境1

環境からの影響を受けながら成長する胎児について学ぶ

第3回 発達の基礎：遺伝と環境2

発達における遺伝要因と環境要因の重要性を理解する

第4回 乳幼児の発達

乳幼児の発達について視聴覚教材を交え、具体的に学ぶ

第5回 感情の発達

情動の分化と社会的参照について学ぶ

第6回 認知の発達

ピアジェの発達段階説について具体的に学ぶ

第7回 親子関係と愛着理論

母子相互作用と愛着理論について学ぶ

第8回 母親の心理

育児のストレスや母親の心理について考える

第9回 児童虐待の現状

児童虐待の種類や実態を学び、その要因や支援について考える

第10回 社会性の発達

社会化の課程や仲間関係の発達について学ぶ

第11回 自我の発達

エリクソンの発達段階説について学び、自らの経験を振り返る

第12回 発達障害とその支援

発達障害の定義や種類・特徴について学び、その支援について考える

第13回 生涯発達の視点1

生涯発達についてのさまざまな理論を学ぶ

第14回 生涯発達の視点2

生涯発達についての最近の研究を学び、発達心理学の課題を考える

第15回 まとめ

講義全体の振り返りと理解度の確認

2021年度 前期～後期

4単位

福祉科教育法

小坂 享子

<授業の方法>

講義を中心に進める。

<授業の目的>

学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解したうえで、福祉科教員として必要な資質を確認すること、学習意欲を高める授業を創っていくために必要となるスキルを獲得することを目的とする。

<到達目標>

・学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造、さらには学習評価の考え方について理解している。

・日本における社会福祉の現状と課題を知り、教材研究に活用することができる。

・福祉に関わる課題追求型の授業を創ることができる。

<授業のキーワード>

学習指導案、課題解決型学習、模擬授業

<授業の進め方>

授業は講義が中心になる回と、受講生の発表、受講生同士のディスカッションが中心となる回がある。模擬授業では受講生一人ひとりが教壇に立ち、受講生が相互に批評する形式となる。

<履修するにあたって>

社会福祉に関わる科目を復習しておくこと。人々が抱える生活課題について把握し、その解決に向けた方策を考

える姿勢をもっていること。福祉実践やまちづくり活動の現場を経験していることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

新聞を読む。

授業の内容を必ず復習する。

<提出課題など>

レポートの提出を求めることがある。

模擬授業に際しては、学習指導案、評価票の提出を求める。

<成績評価方法・基準>

定期試験は実施しない。

授業への参加度(40%)、レポート(20%)、模擬授業(40%)

<テキスト>

高等学校学習指導要領解説 福祉編 文部科学省編 海文堂出版

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の目的、進め方、履修上の留意点を確認する。

第2回 福祉教育の歴史的展開

教育と福祉が結合した福祉教育が、時代の要請で現実化してきた歴史的展開を、その時代の社会的背景を理解しつつ学ぶ。

第3回 福祉教育の理念

福祉教育の理念を学び、福祉教育と高校における教科「福祉」の関わりを考察する。

第4回 教科「福祉」について

教科「福祉」創設の経緯について学ぶ。

第5回 教科「福祉」について

教科「福祉」の意義を考察する。

第6回 教科「福祉」について

教科「福祉」の構成について学ぶ。

第7回 教科「福祉」について

教科「福祉」の内容について学ぶ。

第8回 学習指導要領の概要

学習指導要領にみる教科「福祉」の全体構造を学び、各科目の内容を概観する。平成11年に教科「福祉」が学習指導要領に位置付けられてから10年を経て改訂がなされたが、この改訂の内容から新しい「福祉」のポイントを読み解く。

第9回 福祉教育とボランティア

福祉教育も教科「福祉」も、現実社会から生活課題を見出し、その解決を目指すところにその特徴がある。ここでは、教科「福祉」におけるボランティアの位置づけについて理解する。

第10回 教材研究

具体的な授業場面を想定した授業設計を行うために、地域社会における福祉問題について、今まで、知っていること、経験したこと、感じたこと、読んだこと、について話し合う。

第11回 課題追求型学習の意義

子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解したうえで、前回あげられた地域社会における福祉問題を解決するために、我々がなすべき具体的な方策を考える意義を確認する。

第12回 模擬授業演習

「社会福祉基礎」および「介護福祉基礎」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第13回 模擬授業演習

「社会福祉基礎」および「介護福祉基礎」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第14回 模擬授業演習

「社会福祉基礎」および「介護福祉基礎」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第15回 介護課程の意義

学習指導要領の改訂により、介護に関わる科目が新設された。教科「福祉」における介護課程の意義と位置づけについて学ぶ。

第16回 模擬授業演習

「コミュニケーション技術」および「こころとからだの理解」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第17回 模擬授業演習

「コミュニケーション技術」および「こころとからだの理解」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第18回 模擬授業演習

「コミュニケーション技術」および「こころとからだの理解」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第19回 模擬授業演習

「生活支援技術」・「介護過程」・「介護総合演習」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第20回 模擬授業演習

「生活支援技術」・「介護過程」・「介護総合演習」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第21回 模擬授業演習

「生活支援技術」・「介護過程」・「介護総合演習」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第22回 模擬授業演習

「福祉情報活用」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第23回 模擬授業演習

「福祉情報活用」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第24回 模擬授業演習

「福祉情報活用」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第25回 模擬授業演習

教育実習における生徒理解を試みることにより、自身が行った模擬授業の内容を総括する。

第26回 文献検討報告

受講生が読んだ福祉教育、あるいは教科「福祉」に関する論文等の内容報告を行う。

第27回 シンポジウム等報告

受講生が参加した福祉教育、あるいは教科「福祉」に関する研修会、学会大会、シンポジウムの報告を行う。

第28回 社会福祉を取り巻く 今日的状況

社会福祉士及び介護福祉士に関わる動向や、社会福祉を取り巻く今日的状況について理解し、そこからみえてくる課題を考える。

第29回 教科「福祉」の課題と展望

社会福祉を取り巻く今日的状況のなかでの教科「福祉」の意義について整理する。

第30回 総括

一年間の本講義の成果について総括する。

2021年度 前期～後期

4単位

倫理学概論/倫理学概論

能川 元一

<授業の方法>

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある（4回ほどを予定）。

資料は OneDrive を通じて配布する。

<授業の目的>

私たち人間が社会的存在であるかぎり、私たちが行うこととは不可避的に他者に影響を与え、また私たち自身も他

者の行動の影響を被ることになる。ここから、私たちの行動の原則についての学としての倫理学（ないしは道徳哲学）が要請されることになる。

この授業の前半では倫理や道徳についての古典的な議論について学び、どのような問題が見出され論じられてきたのかを理解することを目的とする。上述のような条件は古今東西を問わず人間の生の基本的な条件であり、先人たちの思索の努力は今日を生きる私たちにとっても指針となりうるからである。

他方で現代に固有の倫理的問題が生まれていることも指摘されている。この授業の後半ではそうした新たな倫理的課題について、それらが現れてきた背景と主な論点を理解し、前半で学んだ古典的な倫理学の可能性と限界について自ら考えることを目的とする。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、倫理学に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

＜到達目標＞

(1) 古典的な倫理思想、道徳哲学の主要な論点を理解すること、またそれを通じて、倫理的な判断を下す際に考慮を払うべき事柄としてどのようなものがあるかを学ぶこと。

(2) 現代社会において新たに登場した倫理的問題についてその論点と背景を理解すること。

(3) 現代を生きる私たちが自らの権利を守り、また他の権利を守るために必要な実践的な知識を身につけること。

＜授業のキーワード＞

道徳的ジレンマ、徳（アレーテ）、アパティア、応報主義、寛容、善意志、定言命法、最大多数の最大幸福、自由主義、パターナリズム、応用倫理学、世代間倫理、ケアの倫理／正義の倫理

＜授業の進め方＞

講義時に使用する資料等は OneDrive の「倫理学概論講義資料」フォルダ（URLは下記参照）にPDFファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえ、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料PDFファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「倫理学概論講義資料」フォルダへのリンク <https://>

＜履修するにあたって＞

第1回目の講義で「講義の進め方についての詳細なガイダンスを行う。第1回目を欠席した場合には初回出席時に申し出ること。

＜授業時間外に必要な学修＞

講義ホームページで配布するPDFファイルの資料を講義前に閲覧し、理解の困難な箇所をチェックしておくこと

（30分程度）。

講義後にも再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと（30分程度）。

＜提出課題など＞

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

＜成績評価方法・基準＞

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20%（全講義期間を通じて）である。

＜テキスト＞

なし。

＜参考図書＞

マーティン・コーエン、『倫理問題101問』、ちくま学芸文庫、2007年

E・トゥーゲントハット他、『ぼくたちの倫理学教室』、平凡社新書、2016年

徳永哲也、『プラクティカル 生命・環境倫理』、世界思想社、2015年

フィリッパ・フット、『人間にとって善とは何か：徳倫理学入門』、筑摩書房、2014年

ジョナサン・ハイト、『社会はなぜ左と右にわかれのか 対立を超えるための道徳心理学』、紀伊國屋書店、2014年

浅見昇吾・盛永審一郎、『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013年

＜授業計画＞

第1回 ガイダンスおよびイントロダクション

講義のテーマ、講義の進め方などについてのガイダンスを行うとともに、倫理学を学ぶことの意義について概説する。

第2回 道徳的ジレンマ（モラルジレンマ）はなぜ発生するのか？

道徳的ジレンマと呼ばれる状況の典型例をいくつか紹介し、そのような状況がなぜ生じるのかを考える。また、それを通じて、道徳的判断の原理を明らかにしようとする倫理学はなぜ必要なのかを考える。

第3回 ソクラテスはなぜ死刑を受け容れたか

古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、不当な告発により死刑判決を受けたが、友人たちによる脱獄の勧めを断り死刑を甘受する。このソクラテスの決断はなにを意味しているのかについて考える。

第4回 「徳」は教えることができるか？

ソクラテスの弟子プラトンの著書『メノン』に依りつつ「得」は教えることができるか否かという問題について考える。これは「得」の本性に関する問い合わせであり、現代

的な文脈においては道徳教育の可能性に関わる問い合わせもある。

第5回 「優れた性格」とはどのようなものか
アリストテレスの倫理学における「中庸」について解説する。

第6回 人間の本性とは？

ヘレニズム時代の哲学のうちキニク派とストア派の倫理思想について紹介する。

第7回 応報主義について

古代・中世の宗教思想から、「善行を積めば報われる」「悪行には罰が下る」という応報思想の倫理学的意味についての思索を紹介する。

第8回 「自由意志」は存在するか？

キリスト教神学の伝統における「自由意志」をめぐる施策について紹介するとともに、その現代的な意義について考える。

第9回 「寛容」について

異なる宗教間の「寛容」をめぐるD・ヒュームの思想について紹介する。

第10回 なにが「善」を構成するのか？（1）

現代倫理学における基本的な視座の一つ、功利主義について紹介する。

第11回 なにが「善」を構成するのか？（2）

現代倫理学における基本的な視座の一つ、義務論について紹介する。

第12回 「自由」とはなにか（1）

J・S・ミルの古典的な自由主義の定式化について紹介し、その可能性と限界について考える。

第13回 「自由」とはなにか（2）

「～からの自由」とは区別された「～への自由」としての自由論について紹介する。

第14回 応用倫理学の歴史的背景

20世紀の後半に新たに浮上してきた倫理的課題を扱う「応用倫理学」の諸問題について、その歴史的な背景を解説する。

第15回 応用倫理学の思想的背景

20世紀の後半に新たに浮上してきた倫理的課題を扱う「応用倫理学」の諸問題について、その思想的な背景を解説する。

第16回 環境倫理（1）

環境倫理学がとりあげてきた代表的な問題を紹介する。

第17回 環境倫理（2）

環境倫理学の問題提起のうち、世代間倫理について考える。

第18回 環境倫理（3）

生物多様性を保護することはなぜ重要なのかについて考える。

第19回 情報倫理

SNS時代の新しい問題、「忘れられる権利」について考える

第20回 医療倫理（1）

『安楽死』「尊厳死」についての古典的な事例を紹介する。

第21回 医療倫理（2）

「終末期鎮静」「胃ろう」などの事例について紹介し終末期の医療について考える。

第22回 医療倫理（3）

人体実験の歴史と臨床試験の倫理について紹介する。

第23回 生命倫理（1）

「リベラルな優生学」と呼ばれる事例について紹介する。

第24回 生命倫理（2）

「ハイテク義肢」など、人体改造の「いま」について紹介する。

第25回 生命倫理（3）

スポーツおよびそれ以外の分野における「ドーピング」の事例について紹介する。

第26回 生命倫理（4）

「生命への人為的な介入はどこまで許されるのか？」について考察する。

第27回 ロボット倫理

自律的なロボットの過失や「犯罪」の責任は誰が負うのか？ 自律的なロボットは道徳的な配慮の対象になるのか？ 人間に近づきつつあるロボットが提起する倫理的問題について考える。

第28回 ケアの倫理と正義の倫理（1）

倫理学に対するフェミニズムの問題提起について紹介する。

第29回 ケアの倫理と正義の倫理（2）

「普遍性の追究」がもつ意義と問題点について考察する。

第30回 まとめ

従前の講義について補足説明を行うとともに、受講生の関心の高いテーマについて討論する。

2021年度 前期～後期

4単位

倫理学概論/倫理学概論

平光 哲朗

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

前期主題 他者からはじまる倫理

目的

私たちはふだん、「自己」、「意識」、「主体性」、「理性」、そして「人間」といった概念を深く問い合わせなく用いています。しかしこれらの概念は、20世紀を通して根本的に問い直されてきました。「自己」に対して「他者」が、「意識」に対して「無意識」が、「主体的決定」に対して「構造的決定」が、「理性」に対して

て「欲望」が、それぞれ徹底的な仕方で対置されたのです。それによって私たちが近代以降前提にしてきた思考の形式が、「自我中心」、「自民族中心」、「人間中心」として批判されました。またそれとともに「人類の進歩」という言葉を、私たちはもはや素朴な仕方で信じることはできなくなりました。

この講義ではまず、第二次世界大戦後の実存主義という思想潮流が「自己」、「意識」、「主体性」、そして「人間」に強い信頼を保持していたことを確認します。そして、その次にあらわされた構造主義という思想潮流が、どのようにこれらの諸概念を批判し、「他者」、「無意識」、「構造」という概念に基づいて思考を展開したかを、ひとつずつ辿っていきます。

こうした講義の展開を通して、本講義では、現代に生きる人間の倫理を考えるための前提を受講者と共有します。そしてそのうえで、「他者」から出発する倫理の可能性を探求します。それは、ますます多様化し複雑化すると同時に、また断絶をも深める世界に生きる私たちが、「異なること」を受け入れて生きる仕方を模索する試みです。

後期主題 宗教の基礎的な理解を築く

目的

私たちは現在、多様な諸文化が複雑に絡みあう世界を、また同時に、異なる諸文化が相互に断絶した世界を生きています。これらの多様性、異質性が生じる根には宗教の違いがあります。

本講義の中心は、三つの一神教、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの解説です。それを通して受講者には、とりわけ一神教と多神教との違いについて、考察を促します。次いで仏教を取り上げます。そして大乗仏教における空の思想と唯識について理解を深めます。

本講義は、緩やかな仕方でベルクソンの宗教論を下敷きにしています。彼は呪術、精霊信仰、神話などから成る静的な宗教と動的な宗教を区別します。そして動的な宗教のなかでも特にキリスト教神秘主義において、人類が開かれた社会へ至る可能性を見出します。私たちは、講義全体を通して得た知見と考察から、最後にこの宗教論を批判的に検討します。

宗教は私たちが、私たちの生の全体の意味を、人間とは何かということを、根本的に問い合わせられる審級です。本講義は、受講者がこの問い合わせに触れることで、私たちの生について思索を深めるよう誘います。

本講義は、人文学科DP 1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

<到達目標>

前期到達目標

サルトルの実存主義について理解し、説明できる。

構造主義者たちの諸理論について理解し、説明できる。

レヴィナスの他者論について理解し、説明できる。

他者から出発する倫理を理解し、自らの見解を述べることができる。

後期到達目標

一神教と多神教の違いを理解し、説明できる。

ユダヤ教、キリスト教、イスラームの基本的な理解を持つ。

仏教の基本的な理解を持つ。

神秘主義の意義を理解し、説明できる。

静的な宗教と動的な宗教の区別を理解し、説明できる。

<授業の進め方>

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようになります。こうした双方向的に相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）。

<提出課題など>

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

<成績評価方法・基準>

講義内容の理解度と考察（60%）、

レポート課題（40%）。

<授業計画>

第1回 前期講義ガイダンス

前期講義の全体像を理解する。

第2回 実存主義

サルトルの実存主義

- ・「主体性から出発しなければならない
- ・神なき人間の在り方について」

第3回 構造主義

レヴィストロースの文化人類学

- ・『親族の基本構造』

・文化相対主義

第4回 構造主義の二つの源泉

フロイトによる無意識の発見

第5回 構造主義の二つの源泉

ソシュールの構造言語学

第6回 構造主義

ラカンの精神分析

- ・「無意識は言語によって構造化されている」
- ・主体を成立させる三つの次元

第7回 構造主義

フーコー、知の考古学

- ・『狂気の歴史』
- ・『言葉と物』、エピステーメー

第8回 ポスト構造主義

フーコー、権力批判

- ・『監獄の誕生』
- ・『性の歴史』

第9回 他者からはじまる倫理

サルトルにおける他者

- ・まなざしとしての他者

第10回 他者からはじまる倫理

レヴィナスにおける他者

- ・顔における他者

第11回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

- ・フッサール現象学とその批判

第12回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

- ・ハイデガーの存在論とその批判

第13回 他者からはじまる倫理

デリダ、脱構築としての正義

- ・デリダによるレヴィナス批判

第14回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの応答

- ・『存在するとは別の仕方で、あるいは存在の彼方へ』

第15回 前期講義総括

前期講義の全体を振り返る

第16回 後期講義ガイダンス

宗教とは何か

第17回 呪術、精霊信仰、トーテミズム

呪術、精霊信仰、トーテミズムについて

第18回 神々への信仰

神話について

第19回 多神教

多神教の諸形態について

第20回 ユダヤ教

モーセ、十戒、トーラーとタルムード

第21回 ユダヤ教

ユダヤ教神秘主義、カバラ

第22回 キリスト教

イエス、隣人愛、キリスト教の成立

第23回 キリスト教

キリスト教神秘主義

- ・マイスター・エックハルト
- ・ニコラウス・クザーヌス

第24回 イスラーム

ムハンマド、『クルアーン』

第25回 イスラーム

イスラーム神秘主義

- ・イブン＝アラビー

- ・スフラワルディー

第26回 仏教

輪廻と解脱、ブッダ、縁起の法と慈悲

第27回 仏教

大乗仏教

- ・空

第28回 仏教

大乗仏教

- ・唯識

第29回 静的宗教から動的宗教へ

ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の宗教論

第30回 静的宗教から動的宗教へ

ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の宗教論に対する批判的考察